

いそべとし記念男声合唱団ニュース

2013年 1月 第376号

発行代表者:戸丸悟(総務)〒135-0053 東京都江東区辰巳 1-8-45-302 ☎03-3521-6898 FAX 同
E-mail isobechorus@hotmail.com URL <http://www.geocities.jp/isodanchorus/>
編集:河合隆一(広報)〒272-0031 千葉県市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同

明けましておめでとうございます

宮城 稔

(沖縄声団長)

長田 茂

(いそべ男代表)

今年は、節目の四十周年記念演奏会の年です。

三十五周年をやった後、沖縄との九回目の合同演奏を那覇で、「遙かな友に」と「ふるさと」の還暦演奏を、道志川・江東区の合唱祭、東京都の男声合唱フェスティバルと連続で、歌ってきました。

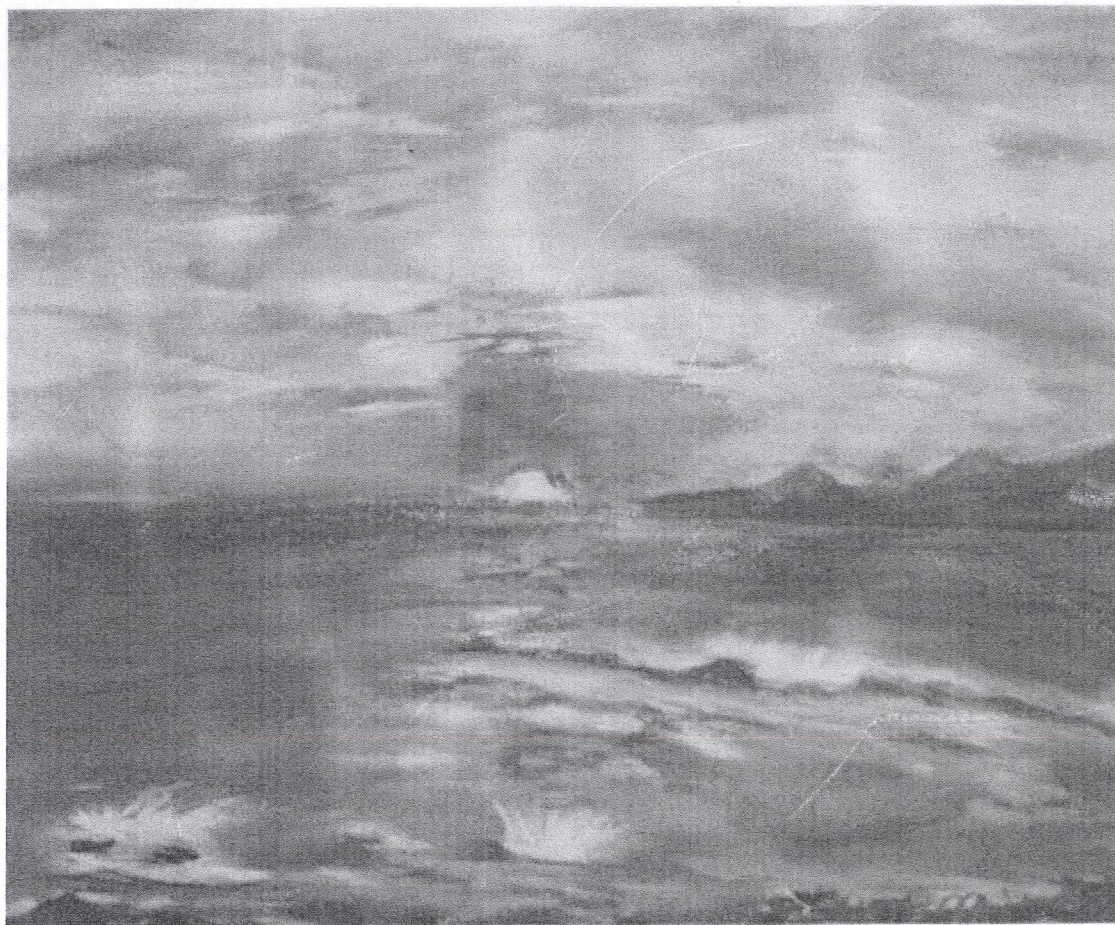
この「遙かな友に」「ふるさと」の連続演奏はニューイヤーマで続きました。

去年は、大阪メールの演奏会で、磯部さんの「こどもの世界」を歌い上げ、曲集「犀川」を大阪メールと合同で演奏しました。

そして、なんといっても、去年の仕上げは、十二月の会津での全日本男声合唱フェスティバル。レベルの高い、全国各地の合唱団の中で、磯部さんの抒情を聴いてもらう、心地よい緊張感、貴重な経験でした。

会津の美酒と食べ物を、ゆっくり堪能して帰ってこられれば、なお良かったのだけれども…。

それはそれとして、今年はまず、三月の浜松でのステージ、磯部さんと高田さんの、対照的な世界を歌い分け、その後で、磯部さんの子どもの世界と諧謔の心を楽しんでもらえれば、大成功。その勢いで、四十周年になだれ込みましょう。今現在のいそべ男声の能力を、余すことなく発揮するために。



忘年会は酒・唄・ドイツ料理

12月23日、12年最後の練習を終えて新橋2丁目のアルテ・リーベ・トーキョウ（澁谷さん経営関与）の席に着いたのは5時半。お客さん、家族もふくめて50名近くの盛況となった。

まず長田代表の挨拶は「2012年は藤沢での磯部倅・和先

生追悼の演奏会に参加、大阪メールクワイアー第6回演奏会に客演、そして会津での全日本男声合唱祭ふくしまに参加してレベルの高い演奏に接して随分刺激された。13年は3月浜松に行き、12月に40周年演奏会がある。全力で頑張りましょう」

須賀監督は「東京都の合唱祭のいそべ男声の演奏に感激してくれた人がいた。会津で磯部先生の曲を歌えたことは本当に良かった」

田中博憲さん（大阪メーブル）「いそべ男声が歌う『犀川』などの叙情的な曲の魅力にとりこになり、7月の大阪メーブル演奏会でいそべ男声とともに歌うつもりが、近親の不幸で欠場となったので会津と一緒に歌わせてもらいました。よろしくお願いします」

◇
元団員の石野裕一さんとピアノの由希子さん夫妻、そして休団中の鈴木賢一さん、小川将太



→須賀さんの指揮で最後に「遙かな友に」を歌う

いそべ男声の皆様

大好きないそべ男声の、それも新橋での忘年会に出席できなくてほんとうに残念です。

この一年、私は皆様のおかげで元気に過ごす事ができました。心から感謝しています。

母の葬儀で、大好きな須賀先生の指揮のもと、「遙かな友に」を歌っていただいた事、どんなにか母が喜んだ事でしょう。

いそべ男声のピアノストのお話を頂き、日曜日が練習日という事で迷っていた私の背中を強く押して「それは是非々々やらせて頂きたいよ。世界が広がるわよ！」と言ってくれた母です。あれからずっと皆様は私をあた

さんたちが久しぶりに元氣そうな顔を見せ、一言ずつ挨拶をして会は賑やかさを増して来る。この元氣さを引っ提げて復帰してくれることを願うのみ。

司会の戸丸さんが、演奏活動のため欠席となった永井博子先生から預かった手紙を代読。（右欄参照）拍手。この手紙を聞いてたりますますビールがすすんでしまうのは当然だ。

◇
「シュガーズ」が軽快にオープニング演奏して、番号札で決められた組み合わせによるアンサンブル大会。4組の競演が展開された。第1組は鈴木、小川の休団組も加わって「のぼら」、第2組は「夕やけこやけ」、第3

たかく見守り励まし、支えて下さいましたね。そして母の言葉通りおかげ様で私の新しい世界がグンと広がりました。大阪や会津への演奏旅行も本当に楽しかったです。

会津の抽選会で当たったペアのランチオンマツト、毎日使わせて頂いていますよ。

来年も浜松や40周年の記念の演奏会など、楽しみなイベントが盛り沢山！

私も皆様に負けない体力と酒力をつけたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

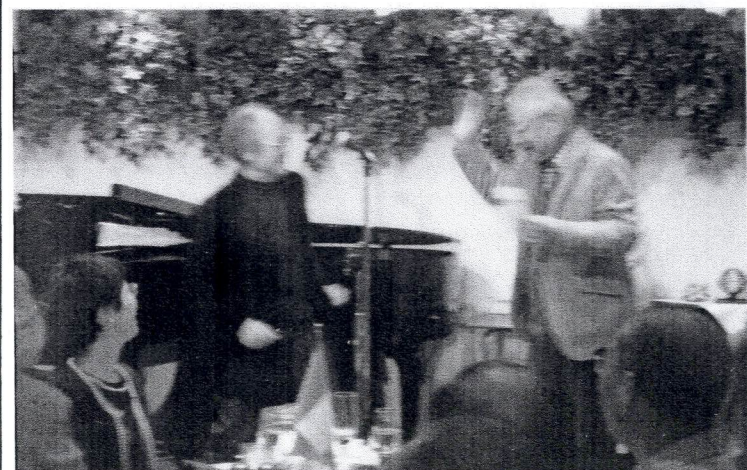
忘年会、楽しくお過ごしください。どうぞ良いお年をお迎え下さい。

日曜日の夕方五時になるとビールを飲みたくなる
永井博子より

組は「月の夜」、第4組には新婚はやほやの西川夫人久美子さんが入って「夕やけこやけ」。

終わると、須賀監督から「転調への配慮不足」「もっとサッサと歌えないのか」「アンサンブルが悪い」「酔っ払的に歌うな」「うまいのか下手なのかわからん」などの厳しくも可笑しい講評がくだされる。

しめは、田邊副代表の「来年は浜松、40周年と頑張りましょう。今日は澁谷さんお世話になりました」の挨拶でめでたく閉会となった。



→編曲の贈礼を長田代表から須賀監督へ

新年のCバーに銘酒あり

1月13日、須賀監督今年最初の練習を少し早めに切り上げ、まず樽酒で乾杯。一同ほのかな木の香りに新たな年の気分を味わうことができた。

この日の頂戴物は、まず吉岡久恵さんからの「花春」。亡き磯部先生ご夫妻が愛飲されていたという会津の銘酒。(訃告齋) 昨年12月に会津に行ったばかり

の団員たちは一際思いをこめて甘い香りを味わった。そして沖縄男声の新城安哲さんからの泡盛「忠孝」2本。豊見城の醸造元30度の芳しさを皆々堪能していた。「一生感謝」と書家による大きな添え書きが目をはひく。こうした頂戴物への感謝は、最高の演奏で表現するほかはないのではないか。(河合)

いそべ男声の皆様、お揃いで新たな年をお迎えの事と存じます。

今年は、いそべ男声40周年ですね。

須賀先生をはじめ、皆様の湧き上がるご意欲を感じ、素晴らしいハーモニーをお聴かせ頂ける日を楽しみに致しております。

昨年、会津若松に於いて、全日本男声合唱フェスティバルが開催され、「いそべ男声の演奏がとても素晴らしかった」と伺いました。

その会津地方の銘酒「花春」を、今年第一回目の練習後のCバーでご賞味頂きたく、総務の戸丸さんにお送り致しました。

この「花春」は、磯部倅・和両先生が大好物でした。美酒とお聞きしておりましたので、この銘酒を選びました。皆様お元気で、いつまでも歌い続けて下さいませ。

いそべとし記念男声合唱団 代表

長田 茂様

吉岡久恵

岬

ーグリーの同期 須賀 田口 新田

政経学部長の ゼミ仲間 門松とー

村岡昭一郎(子)

春先就職も決まった朋友数人と東京を夜行で発ちいつもの土讃線に選らず予讃線で足摺岬を巡って室戸岬に近い土佐の片田舎の我が家に向かった

四国をほぼ一周する旅だ

学生で懐は寒い 逡巡する在京連を 我が家に辿り着けばなんとかなる 学生時代の想い出の旅にしようと 慫慂して実現した

愛媛の宇和島で一泊することになった

宿代を値切ったら「うちは陛下のお泊まりになったところだ」と膠もなく断られ出端を挫かれて一人五百円も払った 足摺岬の二日目は 遍路の泊まる 木賃宿になった

足摺岬まで朝から日がな一日 砂利道の悪路に揺すられ 顕現する景勝 変幻する島嶼に さえもうたた寝に誘われた 道半ばの宿毛を過ぎた辺り

で粹な和服姿の鄙には稀な女性が目に残った 立っている乗客の子供を膝に乗せ 穏やかな面持ちだった 二人減り 一人減り 黄昏ころ 終点でその人とわれわれだけが降りた

その人は家並みとは反対の暗い樹林の中に消えた われわれは顔を見合わせ 宿に向かわず 後を追った

暫く続く 暗い 密集する 亜熱帯の樹林を 潜り抜けると 岬に出た

見渡す限りの 茫洋とした まさに 空と海だけの 太平洋が 視界一面に 拡がった 左手に 白壁の灯台のある 切り立った岬は 黒潮に 乗り出していた

岬の鼻を 亀呼びの場と 空海が 名付けたと あとで知った

その人は 岬の鼻に 佇んで 海を見ていた

海原は 茜に染まり 辺りに 夕闇が 漂いはじめていた

しゃがんで 袂から 煙草を 取り出した

仲間の一人が 歩み寄って 火を 差し出した

会釈をして 顔を傾げ 火を付けた 薄闇に 面が 瞬いて 消えた

戻って来て 「この夕焼けは いつ見ても うつくしい」と 言っていたと 告げた

われわれは なぜか ほっとして 宿に向かった

夕餉の 杯に 口を付けた

なにかを 伝える 声高が 聞こえた

みな 顔を見合わせ 一斉に 立ち上がった

もどかしく 履物を 突っかけ 闇の中を 岬へ 奔った

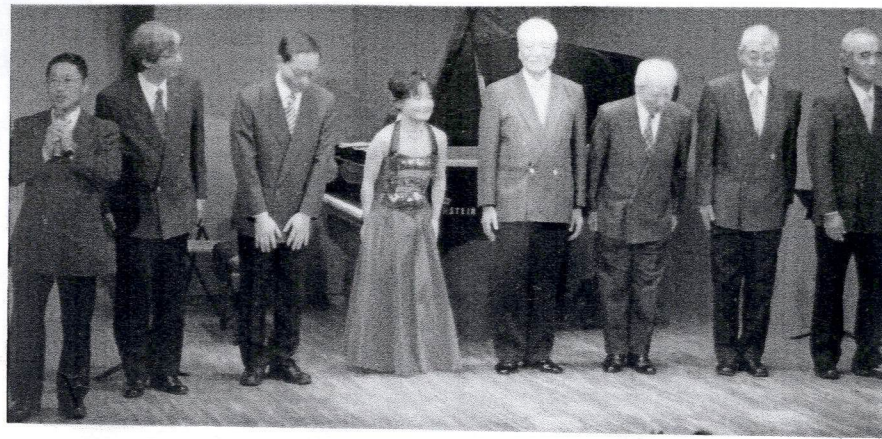
人影はなく 断崖の下 暗闇に 小舟の灯が 小さく 揺れていた

朝刊の「懐に写真を 中村の芸者 小春」の記事は 小さかった

シュガーズ クリスマス・コンサート

いそべ男声の「精鋭」からなる「シュガーズ」のコンサートが、昨年12月22日、ティアラこうとう小ホールで開かれた。誕生15年を迎えて、佐藤元昭、三上正秋、井上斉、戸丸悟、秋永基、長島義隆、坂巻信幸の皆さんに、今回は、特に永井博子

先生がピアノをつけて下さるという豪華版。単身赴任中の下山利行さんの参加はできなかったが、長島さんは脳梗塞も癒えて2ステ参加できたのはなによりだった。全4ステ、30曲演奏。全曲暗譜。いそべ団員は見習わねば。英国民謡、日本の唱歌、クリスマスの歌、そして黒人霊歌と、親しめる曲ばかり、盛り沢山のプロだ。随所にソロやデュエットを挿入して彩りを添える。黒人霊歌のリズム感もよく、前回に比べて、ハーモニの厚み、アンサンブルも緊密感を増してきたようだ。そして、何よりも歌う楽しさが伝わってきたのがよかった。



アンコールの拍手なしで、今回もドライ・ボーンズを2回聞かせて戴いた。これが完璧にできたときがシュガーズ完成なのかもしれない。第3回を頑張っ

(ふんくろく)

動きの鈍い、どっしりとしたカバの形容……。ずんぐりもつくり“でっかい”の繰り返しの歌詞と、低音で響くピアノ伴奏は、いかにもカバのイメージにぴったりだ。

カバは漢字では河馬。英語では hippopotamus で、hippo は鈍感の象徴と辞書にある。ドイツ語が Fische。川の馬の訳として河馬の字が当てられたのだろう。Nilefl, ナイル川の馬とも。ナイル川が川の代表格、

いそべ男声メロディー・歌の博物誌42

ずんぐり もつくり…

草だけたべて

「カバ」 柴野民三詩 磯部 俣曲

澤野 勉 (2)

とされたことによるものか。英語と同じように、フランス語、スペイン語、イタリア語でも、ラテン語の hippopotamus が元になっている。中国語では日本語と同じ河馬(ホマ)。

*

さて、「チュウちゃん」のこの歌詞。カバの容態の「ずんぐり むつくり」の他に、まさしくカバの生態を表す表現とな

るのが「よるだけ おきでて草だけたべて」。

現在では、カバは地上では象に次ぐ大きな生物。雄の体重は3〜4トンにもなる。この体重を支えるためには、ともかく大量の食料を採らなければならぬ。昼間、水中にいるのは肌が極端に乾燥しやすいからとのこと。太陽光線を避けて、夜に陸に上がり草をむさぼり食う。詩人の観察は、ずばり、カバの食の様態を言い当てている。

をこんなに食べる動物は、カバ以外にはいない。そこでカバがたくさん棲息すると、周辺の草が荒れてしまうという。(野蠻野食(きんぎん) 斎藤)

*

カバが「草だけたべる」というのはいいのだが、歌詞の中の「どこから首だか」というのはどうだろう。自然界の動物の姿はさまさま…。カバの首を気にするのは人間の勝手。江戸時代の思想家、三浦梅園の言葉が思



い浮かぶ。

「人は鰐(カレイ)の左右をもって上下となるを知り、而して己の上下をもって前後となるを知らず」

人はカレイやヒラメの姿を奇異と見るけれど、動物はすべて腹を下に向けている。人間だけが腹を前に向けた特異な姿なのだ…。カバの「どこから首か」は問題ではない?!のでは。

・カットも筆者

総務だより 12月23日運営委員会報告

◆忘年会について

・23日練習後、5時半からアル
テ・リーベ・トーキョウ(澁谷
さん+経営関与)にて開催。進
行案発表検討。大筋は例年通り
で実施する。

◆浜松S.P.C.ピアノ・ワー
クス・コンサート出演について

・期日/3月31日
・おおよその参加人数を23日に

把握して現地に連絡する。会
場、打ち上げの準備のため。
(23日現在25名。予想28~30
名)

・コンサートの進行台本、MC
は長田さんに依頼。

・ツアーは日帰り、新幹線往復
(沖縄ツアーリストに年明け依
頼)

◆40周年演奏会の詳細を詰めて

新田義邦さん(雷・鼓・鼈・臺)在

奥様逝去

先年来、療養を続けておられた新田夫人彌生様は
昨年11月25日、逝去されました。享年83歳。

謹啓

御尊家様には益々御清祥のこととお慶び申し上げます
さて先般亡妻彌生儀死去に際しましては御鄭重な
る御弔慰を賜り又格別の御厚志に預かり有り難く厚く御礼
申し上げます 御蔭を以ちましてこの程滞りなく

浄室 彌光 信女

満中陰法要を相済ませました

つきましては早速拝趨の上親しく御礼申し上げる筈でござ
います。が略儀ながら書中を以ちまして御挨拶申し上げます
敬具

新田義邦

新田さんは2月半ばには大阪稲門とゴル
フに復帰したいと付記しておられます。

いく

・12月1日(日)
・ティアラこうとう

・会場費支払い↓井上、戸丸
・曲目
1ステ「ミサ曲」
2ステ「チュウちゃん…」
3ステ「優しい愛の歌」
4ステ「磯部徹傑作選」とし
て選曲する

・チラシ、プログラム↓長田さ
んに依頼

・区内宣伝↓区民招待、親子招
待をしたい(戸丸)50組10
0名? マナー維持の問題に
疑問が出されたが実施。

・後援↓江東区、合唱連盟、J
AMCA

・「チュウちゃん…」のキャス
ティング↓年明けから早めに
決定する

・「チュウちゃん…」のキャス
ティング↓年明けから早めに
決定する

沖縄男声 パリへ

沖縄男声は昨年10月に40周年
記念演奏会を成功させました。
間宮芳生の「合唱のためのコン
ポジション第3番」を力演した
とのこと。

今年、3月に琉響演奏会に
出演して宮良長包先生の曲を演
奏する予定です。

そして4月末にパリで2回の
演奏会をもちます。曲目は、だ
んじゅ嘉利吉、海のチンボーラ、

・リハーサル↓

・開演時刻↓14時か14時30分

◆2014年沖縄男声との第10
回合同演奏会の日程
・年明けから調整し夏までには
決定したい

・会場/ティアラこうとうに協
力依頼

◆東京都合唱祭

・日程、曲目/未定
・指揮/横田先生

◆江東区民合唱祭
・日程/10月27日(日)(決定)
・会場/江東区文化センター
・曲目/未定

◆道志川合唱祭
・日程、曲目未定

・日程、曲目未定

来客

○古家大貴さん(昊クリ3年)

1月13日の練習の一部に参加、
グリーの活動計画の紹介、勧誘。

練習日記記録

●12月23日

発声/横田

練習曲/Sanctus、Agnus Dei、
「チュウちゃん…」全曲/須賀

P石野

出席/1、9、2、5、1、6、2、11
・甲斐さん(大阪メール2B)参加

●1月13日

発声/三上

練習曲/1年生くん、びわ、た
な、おさる、大ずもう、月夜、
ヤマアラシ、空とぶ手紙、さく

らのはなさん、風が(心の四季)、不
来方の、くちなし、Sanctus、

Agnus Dei/須賀・P永井

出席/1、6、2、7、1、7、2、8

谷茶前之浜、斎太郎節などの民
謡、さらにカリンカ、夜来香、
おおシャンゼリゼ、シェリトリ
ンドなど、多彩な曲を準備して
いるようです。

これにそなえて、週1回木曜
日の練習に加えて、第2日曜日
4時間の練習を増やして強化中
です。練習出席は平均40名。

(沖縄男声合唱団ニュースレタ
ー第6号より)

SCHEDULE

顔：須賀監督指導・指揮 欄：横田先生発声指導

豊洲：江東区豊洲文化センター
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

○運営委員会は原則として第4日曜日11:00練習場にて開催

2013(平成25)年

				Cバー
1月27日(日)	定例練習	13:00~17:00	古石場	1 B
2月10日(日)	定例練習	13:00~17:00	古石場	2 B
24日(日)	定例練習	13:00~17:00	古石場	1 T
3月10日(日)	定例練習	13:00~17:00	ティアラ第5練習場	Cバーなし
24日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	2 T
31日(日)	浜松 スプリング・ピアノ・コンサートにゲスト出演 (浜松 SPC ピアノ・ワークス主催)			
	会場/アクトシティ浜松 音楽工房ホール(浜松駅前)			
	曲目/時無草、林のなか、松の花/風が、不来方の、くちなし/一年生くん弟くん、びわ、たなをつくりましょう、おさるのやきゅう/月夜、やまあらし、 ねかり 、空とぶ手紙、 さくらの花さん			
4月 6日(土)	臨時練習	13:00~	古石場	
	お花見	16:30乗船		
14日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	1 B
28日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	2 B

☞10月27日(日) 江東区民合唱祭

会場/江東区文化センター(東陽町)

☞12月 1日(日) 40周年演奏会

会場/ティアラこうとう大ホール
曲目/①ミサ曲(ロパルツ)②組曲「優しい愛のうた」
③組曲「チュウちゃんが動物園へ行ったお話」
④磯部俣傑作品集(未定)

2014(平成26)年

沖縄男声との合同演奏会 (日程未定)

長直子 Naoko Cho
ヴァイオリンリサイタル

~ Program ~

2月3日(日) 18時開場
ル・テル市ケ谷センター
全席自由 3000円

ヴァイオリンリサイタル
プログラム
① ヴァイオリン協奏曲第1番 作曲 ヴァン・クライベール
② ヴァイオリン協奏曲第2番 作曲 ヴァン・クライベール
③ ヴァイオリン協奏曲第3番 作曲 ヴァン・クライベール
④ ヴァイオリン協奏曲第4番 作曲 ヴァン・クライベール
⑤ ヴァイオリン協奏曲第5番 作曲 ヴァン・クライベール
⑥ ヴァイオリン協奏曲第6番 作曲 ヴァン・クライベール
⑦ ヴァイオリン協奏曲第7番 作曲 ヴァン・クライベール
⑧ ヴァイオリン協奏曲第8番 作曲 ヴァン・クライベール
⑨ ヴァイオリン協奏曲第9番 作曲 ヴァン・クライベール
⑩ ヴァイオリン協奏曲第10番 作曲 ヴァン・クライベール

2013年2月3日(日)
ル・テル市ケ谷センター
開演 18:30 (開場 18:00)
全席自由 3000円

お問い合わせ (長) 043-934-7962
naokocho@nifty.com

▲人生とは出会いなりとつくづく思います▲「鶴瓶の家族に乾杯」という放送を見ていました。(よく見てます) 鶴瓶と綾瀬はるかが尋ねた学校は会津の県立養老高校、ちょうどコーラスの練習、なんと安積黎明高校との合同練習。全日本男声合唱フェスティバルで爽やかに歌ってくれた女子高校生たちの直前の練習でした。

「ため息の出るような」とステイジで見聞きた「恋のバカンス」が流れて、つい見てしまいました▲沖縄男声さんのニュースには悲しい出会い、奇跡的出会いの話があります▲金城秀則さんの姪ごさんが亡くなられたあとに聞いた「ゴンドラの唄」は「その歌を聴くといまだに涙を止めることができない」と書いておられます▲照屋忠敬さんは大で新城安哲さん、山川稔さんたちと出会い、混声の誘いには乗らず、男声の合唱団に山川さんを誘って入団、「男声合唱との出会い、44年前、奇跡的な出来事だった」と書いておられます▲皆さんも出会いの話を聞かせてください。(河合)

いそべとし記念男声合唱団ニュース

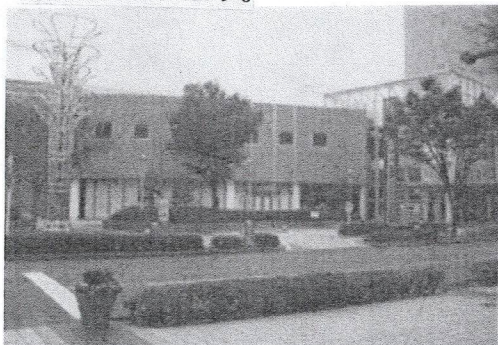
2013年 3月 第377号

発行代表者:戸丸悟(総務)〒135-0053 東京都江東区辰巳 1-8-45-302 ☎03-3521-6898 FAX 同
E-mail isobechorus@hotmail.com URL <http://www.geocities.jp/isodanchorus/>
編集:河合隆一(広報)〒272-0031 千葉県市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同

アクトシティー浜松

3月31日「春いちばんコンサート」会場

浜松駅前、アクトシティーは浜松市と民間との複合経営で、ホール、ホテル、展示場、博物館、研修交流施設が設置されています。今回「春いちばん」コンサートが開かれる音楽工房ホールは最東北のDゾーン研修交流センター2階です。因に中央のBゾーンの45階建のアクトタワーは音楽の町、浜松を表現したハーモニカのデザインとなっています。



研修交流センター・浜松市楽器博物館



アクトタワー

暗譜について

安部 建雄

(演奏・秘書団総括)

磯部先生いわく「アマチュアは絶対に暗譜で演奏すべし」

当団の初期は確かに全員暗譜で演奏に臨んでいた。

1986年、例外が生じた。

ドイツ・ミサ曲である。

「諸兄の努力は認めるが、歌詞で危ない処がかなりある。特別に認めるので譜面を持とう。ただしカジリツキはダメ。楽譜はど忘れ対策、ポイント確認のためだけということだ」

40周年演奏会を迎えるにあたり、この言葉を銘記したい。

また、昨今ラテン語の発音が問題になっているが、譜面にその指導事項、注意事項は漏れなく書いておられるだろうか。その上で正しく暗譜しなくては意味がない。

練習にはメモの用意は不可欠です。言われたこと、ボードに書かれたことを確実に譜面に書き込むこと。改めて見直してものにしよう。

磯部、須賀両先生が同じことを指示されたことを思い出す。

「髪を金髪にし、外人らしい顔で発音しなさい」

これにしても、両先生とも物まねがうまかったな、うまいな！

暗譜の快感

佐藤 元昭 (元)

「では、皆さん、楽譜をしまってください。これから紙を一枚お渡しします。『聖夜』、きよしこの夜の歌詞を全部書いてください」。淡々とした口調の中にもゆるぎない決意をこめて三上さんから通告があった。一同やや緊張気味に紙をとる。机の上をさらさらと鉛筆が走る心地よい音が流れる。

しかし、それも長くは続かなかった。「おおー」「ええーっ」と「んー」と「なんだったけ」。みんな書き出したはいが、ほどなく、おそろく、1番の歌詞はなんとか書き終わったあたりか、その後の2番が出てこない。紙の上の「きよしこの夜：」の後の断片的な単語が並ぶ。「空欄を埋めよ問題」の状態である。

シユガーズのファーストコンサートに向けて、日程、会場、曲目が決まり、練習を重ねている中でのある日の出来事であった。三上さんは語気こそ荒くはないものの、コンサートではないもの、コンサートである以上、「商品」にしなければならぬというのを折にふれてメンバーに語りかけていた。そ

のことをメンバーにしっかりと意識してもらうためのいろいろな指導の中の一つが「書いてみてください」だった。

しばし後、頃合いを見計らって「はい、では楽譜を見てください」。みんな、ばたばたと楽譜をひっくり返す。「ああ、ああ」「そうーだよな」「やっぱり」「うそっ」：騒々しく反省した。

やや間をおいて「では、もう一回楽譜を伏せて、書いてみてください」

第2ラウンドは調子が良い。「サラサラ音」が初回より長く続き、第3ラウンドにはかなり書いてくる。すると楽しさが出てきたのか、覚え方の工夫をみんなでああだこうだと意見を出し合う。

黒板にイラストも描いてみる。1番は「馬槽(まなご)の中に」だからと桶の中に赤ちゃんの笑っている姿を描いた。2番は「牧人達は：額づきぬ」ということでひれ伏す人々の姿を。3番は「御子の笑みに」を、赤ちゃんの満面の笑顔を描いた。イメージ戦略でチャレンジしてみた。繰り返すことでようやくみんなが覚える。そして、いよいよ、そし

して、いよいよそこから「商品作り」の開始であった。

誰しも小さいころから、記憶や記憶力をいやというほど駆使してきた人間である。その思い出は必ずしもバラ色とは限らない。苦難の道ではあっても、とにかくやってみよう、工夫してみよう、間違ってみようという、一種開き直りのような気持ちで全曲の暗譜に取り組んだ。

中でも「ドライ・ボーンズ」はいまだに課題はあるものの、あの骨の並びの順番を覚えるのに涙ぐましい苦労があった。イラストを描いたり、呼び方を語呂合わせにしたり、もう大変。

セカンド・コンサートの「ふるさとの四季」はさらに重労働だった。各季節の有名な曲でなじみはあるものの、歌詞の脈絡、助詞の違い。「うに」だったか「うを」だったか。

メロディーのパート以外は歌詞も音も覚えなければならぬから二倍大変。しかもこの組曲は全11曲を休みなしで歌うので、まあ、1曲と言えなくもないが、歌いだしたら次の曲へのつなぎのタイミングも覚えなければならぬ。ピアノ伴奏がついていないとはいえ、暗譜までには各自涙を流しながら取り組んだはず

内輪話であるが、三上さんが助け船を用意してくださった。「カラオケ」である。

三上さんのお身内の方にピアノ伴奏を録音していただいたCDである。これが助かった。通勤の行き帰りに毎日聴いて歩いた。はじめのうちは出だしのタイミングが合わず戸惑っていたが、1カ月くらい聞き続けていくと、突然、楽に歌が出てくる。あの若いゴルフアが宣伝している「聴くだけで英語が：」というわけではないけれど雰囲気

気が違ってきた。繰り返すこと、繰り返すこと。その回数と記憶の定着は私の場合比例しない。鍋の底の形に例えれば、中華鍋の底というよりフライパンの底のように急に身についてきた。

暗譜といっても、まず、歌詞と曲が入った程度。しかし、練習で大きな変化が出てきた。他のパートが聴き取りやすくなった。顔を合わせながら言葉がそろった。三上さんの要望に答えやすくなる。不思議にみんなの一体感が増す。うまい合唱団ではこのくらいのこととは基礎中の基礎。当たり前だといわれるかもしれない。でも、体験してみても実感してみても、その大切さをつかむこととは素晴らしいことだと思う。

もちろん、ここからがスタート。表現のために、どんな思いで歌うのか、そのための言葉の発音、発声はどうするのか。山ほどいろいろなことがある。しかし、それらの練習がとても楽しくなった。合唱だから、一緒に声を出している、歌っているということが楽しくなるということを知った。

それだけでもこれからの練習やステージが一味違ってくる様な気がした。

「暗譜」という言葉で、多くの人は敬遠したくなるかもしれない。年だからもう大変だよという気持ちも働くかもしれない。

シユガーズにはベテランの新人がいっぱいいる。セカンドステージ、全30曲。みんなそろって暗譜で臨んだ。楽譜をもたないという議論は別にして、聴いてくださる方々に一緒になって歌を伝えていこうという気持ちを共有できたことが、とても嬉しく、大きな自信になった。木の鉛筆と一枚の紙があればいつでもどこでも何回も取り組める。練習は大変でも、その先に楽しみがある。これは練習の後にCバーがあるというのに匹敵する喜びです。「暗譜の快感」を独り占めにはしたくない。

〈特別寄稿〉

おじさんは臭い 第1回

口 臭

あなたの口は臭っていますね。こう云われて不愉快に思わない人はいないでしょう。

日本人成人の90%以上の人は臭っています。隣りに来ただけでひどくにおいます。

口臭の原因としては、胃腸病によるものや、鼻の病気、食べ物によるもの、ムシ歯によるものなどがありますが、特にひどいのは、歯槽膿漏（歯周病）によるもので、悪臭の王様といえます。断トツにひどい臭いは口臭です。

歯肉の周りから黄色いウミが流れ出し、これが口の中の食物と、こね合わされ、細菌がどんどん繁殖され、腐敗した強烈なにおいをあたりにまきちらします。

歯槽膿漏という病気は、ちょうどヨレヨレになった洋服のポケットの中と同じで、ポケットの底には何百億というバイ菌がうごめいて、周りのアゴの骨を知らぬ間にどんどん腐らせ溶かしているのです。臭いだけなら周りの人が我慢すればよいので

田北 敏行

（日本歯学センター所長）

すが、最も悪いのは血液により体の中に入ったバイ菌が全身に感染させていることです。敗血症や細菌性心内膜炎、心筋梗塞や脳梗塞の原因にも関与することが多いのです。

一緒に歌えば、なお臭い。

一日も早く口の中の細菌を減らし、全身へのバイ菌の感染を防ぐことが、貴方の健康を守る最も大切なポイントです。

皆さんも歯の手入れをして、キレイな声で歌ってください。

*

・田北敏行先生略歴 1933年奈良生、大阪府立大学、南方リハビリテーション大学歯学部研修、73年日本歯学センター設立、南方大学国際交流部門アドバイザー、同大より功労賞授与、日本厚生振興会、国際A1財団評議員、オラルリハビリ主体の歯科診療、若手歯科医師の臨床指導などを実施。主な著書「そんな歯で大丈夫か」「歯をこれ以上悪くしない本」「きれいな歯のつくり方」

（秋永基三さんの紹介で田北先生オラルリハビリの記事を掲載することになりました。秋永さんは長年にわたる田北先生の患者です）（編集部）

←1頁より続く

浜松

スプリング・

ピアノ・コンサート

田中恵子先生のご指導により、小学生から社会人、ピアノ教師まで、最初はヤマハ浜松店で開かれ、アクトシティの開設からは中ホールや音楽工房ホールで開催を継続されて、今年は第44回目となるコンサートです。

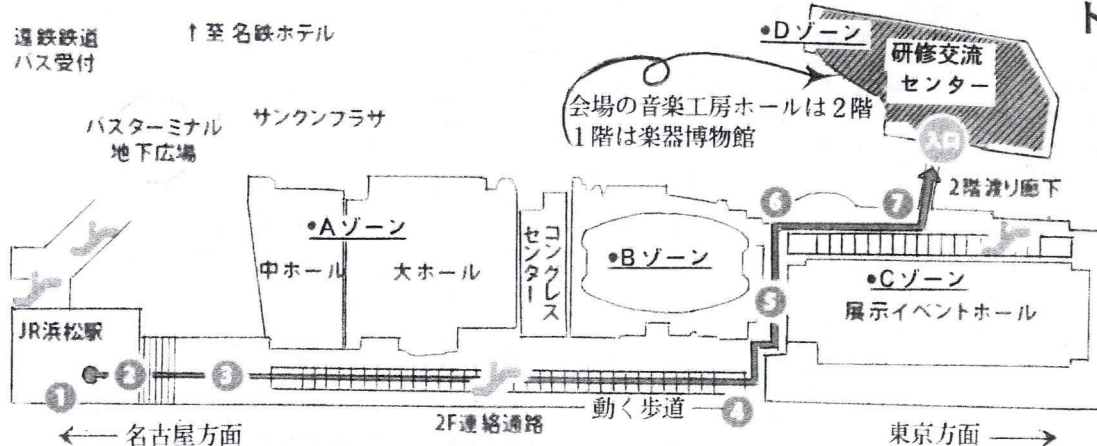
そして本ニュース375号で紹介した通りの一流の音楽家をゲスト講師に招いての開催は、単純なピアノ「勉強会」とは全くレベルの違うコンサートであることを知らされます。

このコンサートにゲスト出演できることを重く受け止め、同時に歌うことの楽しさを伝えたものです。

*

研修交流センターの1階にある浜松市楽器博物館は公立唯一の楽器博物館で東洋最大を誇っています。明治時代から日本の学校教育に使われた楽器をはじめとする、浜松の楽器産業の歴史、雅楽などに使われる和楽器、そしてもちろん多彩な世界の楽器がところ狭しと展示されているとのこと。時間があたらぜひ一見したいです。（河合）

△会場案内図



演奏曲の楽譜を

ファイルしよう

今回の浜松では小曲の演奏が続く。楽譜はコピーをとり、演奏順にファイルして本番にそなえよう。いざとなつて譜面をめぐって探すというような無様なことをおこないたために。暗譜ができれば最上。

曲目

① いそべとし抒情曲

時無草

林のなか

松の花

② 高田三郎作品

風が（窓）を（う）る

不来方の

くちなし

③ いそべとし おうま

〇唱歌 つき

こどもの世界

一年生くん弟くん

びわ

たなをつくりましょう

大ずもう

月夜

ヤマアラシ

空飛ぶ手紙

いちじく

いねかり

長直子さん リサイタル

2月3日、ルーテル市ヶ谷センターで、長直子さん（元当団指揮者だった故長昭男さんのお嬢さん）のヴァイオリン・リサイタルが開催されました。

2005年、ウィーンから帰国されたあとの阿佐ヶ谷でのリサイタルを始め、2008年、2010年のリサイタルを聴かせていただきましたが、素人耳にも音色の豊かさ、ヴァイオリンで訴える音楽性の成長は著しく響き、心地よく楽しませていただきました。

いそべ男声へのPRの時間が少なかったのですが、田邊さんご夫妻、大西さん、長島さん、

それに辻さん（学生時代の大学合唱団で長さんから指導を受けた）も名古屋から駆けつけてくれました。

あの無口な長さんのことですから、ご存命であってもそんなにPRはされなかったと思いますが、今回はもっと多くの方に聴いていただければと思います。

来る3月20日は、2007年に亡くなられた長さんの七回忌にあたりますが、今回のリサイタルの集客を含めての大成功は、何よりのご供養になったかと思いました。

（宮田）

西川さん
結婚式

2月10日、西川由明さん（主）と久美子さんの結婚式が出身地大阪で盛大にあげられました。当団からは祝電を発送。

24日の練習に二人そろって出席。Cバーで「いざ立て」をハモって二人の門出を祝いました。今は新婚旅行の予定はないとのことでした。お幸せに。

ろばの会の組曲「チュウちゃん動物園へ行ったお話」の四曲めの曲。短い詩だが、クジャクが羽を広げて「王さまらしくみえるかな」と得意な表情をしているさまを描いている。

ヒト（生物学の分野ではホモサピエンスの人類は、敢えてカタカナで表現）では、オスよりメスのほうが美しい（←オス社会の主観か？ ヒトのメスの自己表現の特異性によるもの）

いそべ男声メロディー・歌の博物誌43

ぴかぴかししゅうのおようふく
ぱつとひろげて……………

「クジャク」清水たみ子詩 大中 恩曲

澤野 勉（主）

？）というけれど、クジャクで美しい羽を広げるのはオス。

クジャクの仲間にはマクジャクとインドクジャクがいて、大きな翼を誇るのはマクジャク。緑色を帯びた美しい羽を広げた姿は、比較的地味な動物園の鳥類のコーナーでも、一際、人目を引きつける。

*

豪勢な扇子にも使われるクジャクの羽。独特の目玉模様が特

徴となっている。美しい色合いで異性の目を引こうとするのは、自然界に多く見られることだが、この絢爛たる紋様はどんな意味があるのだろうか。見事な蛇の目の紋様は、平均40個あるという。

イギリスの動物学者ペトリはクジャクのメスの生態を観察して、一九九一年、メスがこの模様の多いオスを選択するということを唱えた。羽を広げて「王

を選択するのには直接関係がないということがわかった。そして紋様以上の必須条件として、「ケオン」「カー」という鳴声が多いオスに対してメスは交尾していたという。

この鳴声を5音節以上、連続して鳴くオスには、男性ホルモン、テストステロン濃度が高かったとのこと。長谷川寿一東大教授は「飾り羽の紋様はミニマムの条件」ではあると。（今

さまらしくみえるかな」と誇示するのは、生物学のうえでは子孫を残そうとする懸命な示威行動なのだ。このように羽の紋様は、オスのセックスアップのシンボルとされたのだが：

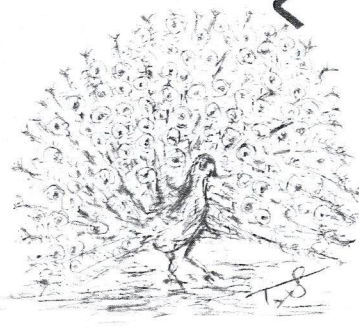
*

「だが「ー」（ヤマアラシの文句ではないけれど）ー日本の伊豆シャボテン公園で10年かけてクジャクの行動を観察した結果、羽の目玉紋様はメスがオス

壺翁・翁曰「動物園をまると幸しむ」(壺翁)

決定的なのはなんと発声！なのでした。さあ、がんばらなくっちゃー。（イマサラ…とは言わないことにして）

一月に取り上げたカバの中の三浦梅園の言葉にしろ、今回のクジャクの生態にしろ、自然界、動物と人との関係ではおもしろいテーマがたくさん。ともかくも、クジャクにならって、いい発声を心がけましょう。



松務だより

★1月27日運営委員会報告

■浜松スプリング・ピアノ・コンサート「春いちばん」

- ・期日／3月31日（日）
- ・利用交通／日帰り新幹線往復・費用／
- ①往復15280円（団体扱い、8名以上、乗車券のみ10%引き）
- ②ジパング倶楽部利用（個人手配）2、3割引、往復12920円（2割の場合）
- ③障害者割引（個人手配）
- ④その他（個人手配）

★①のみ団で手配する。②③④は各自手配する。

※団員への補助一人5000円

■40周年演奏会の詳細を詰めていく

期日／12月1日（日）確定

- ①「チュウちゃん動物園へ行ったお話」のナレーションは谷口恵さんに依頼済み
- ②会場費支払い
- ③曲目

- 1ステーミサ曲（ロパルツ）
- 2ステー「優しい愛の歌」
- 3ステー「チュウちゃんが動物園へ行ったお話」
- 4ステー磯部傑作集（犀川

林のなか、木せい、松の花
白南風の歌など：未決定）

④チラシ、パンフレットは長田さんに依頼

⑤江東区内へのPR↓区民招待、親子招待などを検討（50組100名？）

⑥「チュウちゃん」のキャスティング↓年明け早めに決定してゆく。

⑦ピアノ調律、リハーサル、開演時間、打ち上げなど↓開演は14時又は14時30分。

★ミサ曲は、ラテン語の発音、音程、音色、暗譜練習など、団員一丸となつていい演奏をするという厳しい気構えをもって練習を続け、本番にのぞむことを再確認する。

↓早速この日の練習で楽譜を離す練習法などを実行した。

↓演奏会のために強化練習を実施する。（合宿はせず）須賀監督の予定と調整する。

■2014沖縄男声合同の日程

↓年明けから調整し、夏前に決定したい。ティアラこうとうに協力依頼。

■東京都合唱祭

期日／未定

・指揮は横田先生。曲目未定

■江東区民合唱祭

期日／10月27日（日）曲目未定

■曲集「犀川」の混声版（須賀

敬一編曲）の作成が進んでいるいそべ男声の楽譜出版の一つとして繰り込むことにする。

★2月24日運営委員会報告

■浜松行き新幹線発着時刻決定

- ・往路／東京発10時03分ひ467
- ・復路／浜松発21時11分ひ482
- ・東京着22時40分
- ・人数（24日現在）団員33名、家族等5名

・団体扱い／往路15名、復路13名

個人手配ジパング等21名

※当日は個々に楽器博物館などを見学後、13時研修交流センターの練習場に集合、昼食後練習、16時30分頃本番予定。18時頃から打ち上げ参加。

■40周年演奏会詳細をつめる

・開演は14時決定。

・4ステ磯部傑作集の曲目を早めに決定する。

・ミサ曲のオルガンパートは永井博子先生に依頼する。

・「チュウちゃん」のキャスティング↓すべてナレーションでOKか？（結論未）

・チケット団員負担について入場料は2000円予定

35周年の時は一人15枚ノルマ

・会場費は3月10日に支払う

・区内宣伝↓区民招待、親子招待を検討（50組100名？）

↓区報に掲載依頼。

■沖縄男声との合同演奏会

須賀監督の予定に合わせて、ティアラこうとうの協力を得、夏前には決定したい。

夏前には決定したい。

■東京都合唱祭日程

以下の日程の中で指揮の横田先生とピアノの永井先生の予定とすりあわせて調整する。

- ・7月6日（土）、7日（日）
- 13日（土）、14日（日）
- 15日（月・祝）

・会場／新宿文化センター大ホール

★横田、永井先生との打ち合わせの結果、7月14日（日）13時〜17時の予定で連盟に希望することになった。

■屋形船お花見
4月6日の練習後、16時30分月島あらかわ丸に乗船。24日現在25名。3月末に人数決定。

・料金1名10000円

■強化練習について

40周年演奏会をひかえて強化練習の必要性を検討。

・夏前と演奏会直前（10月、11月頃）の2回、強化練習を行う。

（須賀監督の上京に合わせて土曜日を確保、土日2日間の日程で）

■市川総合病院ロビー・コン

病院の先生から誘いがあったことが河合から報告があった。結論は保留。

練習日記記録

●1月27日

発声／横田

練習曲／歌の仲間「優しい愛の歌」全曲／安部

ヤマアラシ／Benedictus／三上／P永井

出席／1、8、2、7、1、5、2、7

野々

●2月10日

発声／三上

練習曲／時無草、林の中、風が、一年生くん、たなをつくりましよう、大ずもう、月夜

ヤマアラシ、空とぶ手紙、いじく／須賀、P・永井

出席／1、7、2、8、1、7、2、10

●2月24日

発声／三上

練習曲／歌の仲間、時無草、林の中、松の花、風が、一年生くん

弟くん、たなをつくりましよう、大ずもう、月夜、ヤマアラシ、空とぶ手紙、いじく（以上

ポイント練習）、つき、おうま／安部

・P永井

Agnes Dei（聖）／三上・P永井

出席／1、8、2、7、1、5、2、7

野々

SCHEDULE

☞: 須賀監督指導・指揮 ☞: 横田先生発声指導

豊洲: 江東区豊洲文化センター
古石場: 江東区古石場文化センター
東大島: 江東区東大島文化センター
ティアラ: 江東区ティアラこうとう

○運営委員会は原則として第4日曜日11:00練習場にて開催

2013(平成25)年

Cバー

3月24日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	2 T
31日(日)	浜松 スプリング・ピアノ・コンサート vol. 44「春いちばん」に出演 (録13時、本番16時30分)			
	☞		会場/アクトシティ浜松 音楽工房ホール(浜松駅北口)	
			曲目/①いそべとし抒情曲—時無草、林のなか、松の花	
			②高田三郎作品—風が、不來方の、くちなし	
			・合間に唱歌のツキ(テデタツキガ・明43)とオウマ(オウマノ・ヤハ・明16)を歌う)	
			③いそべとしこどもの世界—一年生くん弟くん、びわ、	
			たなをつくりましょう、大ずもう、月夜、ヤマアラシ、空とぶ手紙	
			*アンコール—いちじく、いねかり、遙かな友に	
4月 6日(土)	臨時練習☞	13:00~	古石場	
	お花見	16:30乗船	月島あら川丸	
14日(日)	定例練習☞	13:00~17:00	豊洲	1 B
28日(日)	定例練習☞	13:00~17:00	豊洲	2 B
5月12日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	1 T
26日(日)	定例練習☞	13:00~17:00	古石場	2 T
7月 日(日)	東京都合唱祭 (未決定)			
☞10月27日(日)	江東区民合唱祭		会場/江東区文化センター(東陽町)	
☞12月 1日(日)	40周年演奏会		会場/ティアラこうとう大ホール	
			曲目/①ミサ曲(ロパルツ) ②組曲「優しい愛のうた」	
			③組曲「チュウちゃん動物園へ行ったお話」	
			④磯部倅傑作集(未定)	

2014(平成26)年

沖縄男声との合同演奏会 (日程未定)

楽譜の寄贈がありました

明治大学グリークラブOB会基金管理委員会から「男声合唱とピアノのための組曲“A'RBOR MUNDI (World Tree/世界樹) (作詞・作曲佐藤賢太郎)を1部寄贈いただきました。基金管理委員会は指揮者の故塩野静一氏の遺族からの寄付により設置され、曲の委嘱、曲集の発刊などにあてられています。
寄贈された「世界樹」は2012年、第7回東京六大学OB合唱連盟演奏会で初演されました。
楽譜は楽譜係で保管します。 (宮田)

垣根集木後記

▲暗譜 ▲ひたすら繰り返してあるのみに考えていました
▲あるとき、1番、2番、3番と微妙な歌詞の違いがある場合は歌詞を打ちこみ、手帳に挟み、持ち歩いたこともありました。佐藤さんの文章を読んで、俺もやっていたんだと思いました。ところがあまり見ませんでした。意味なしでした。工夫しても繰り返さなければ▲一方、繰り返しの回数と定着率はどんどん乖離しつつあります。暗譜したはいいいけれど指揮者の注意を忘れたら、記号を無視して、自分流になってしまっていることに気がついたり注意されたりして、はっとすることもあります ▲インターネットで「暗譜」を開くと出るわ出るわ。いかにみなさん暗譜に苦労しているかわかります。楽器の例が圧倒的に多いのですが、読んでみるといろいろ方法はあってもやっぱり詰まるところは繰り返しのようです ▲入浴中、ふと歌い始め、途中でつかえて「おい、ちょっと楽譜見てください」などと怒鳴ることがありますが、有効でしょうか。(河合)

いそべとし記念男声合唱団ニュース

2013年 4月 第378号

発行代表者:戸丸悟(総務)〒135-0053 東京都江東区辰巳 1-8-45-302 ☎03-3521-6898 FAX 同
E-mail isobechorus@hotmail.com URL <http://www.geocities.jp/isodanchorus/>
編集:河合隆一(広報)〒272-0031 千葉県市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同



スプリング・ピアノ・コンサート vol. 44 於・浜松

『春いちばん』にゲスト出演

3月31日、田中恵子先生ご指導、主宰の浜松ピアノ・ワークス主催のコンサートは、浜松駅前のアクトシティ浜松の音楽工房ホールで開催。当団はゲストとして最終ステージに出演。須賀監督の指揮、永井先生のピアノ、団員35名で、磯部徹作曲集、高田三郎曲集、磯部徹こどもの世界など18曲を演奏した。

浜松は小雨は降るものの、花冷えの東京よりも随分と暖かかった。浜松アクトシティの研修交流センターの31号リハーサル室に全員集合したのは12時。ホールで10分ほどの声だししたあと、演奏までの時間は余裕があるので、まず30分ほど浜松市楽器博物館見学へ。世界一を誇る収蔵量だそうで、いそべの仲間も30分じゃ足りないの音が続発したが、31号室に戻って食事、そしてリハーサル。

ピアノの町浜松だからこそ、リハ室の立派なグラランドピアノはさすがと納得しながら、発声、アンサンブルをこなした。

この間、田中恵子先生門下の小学生から社会人までのお弟子さんたちのピアノ演奏が続いていたが残念ながら拝聴できず、4時過ぎの出番を迎えた。

会場は3、4歳ぐらいのお子さんから、夫婦連れ、もちろんピアノの先生、そしてご老人らしき方もちらほら、200人。こんな年齢差のあるコンサートは初めてとつぶやいていた仲間もいた。しかも皆さんの共通項はピアノだ。われわれ男どもの合唱にどれだけ共感をもってもらえるか、不安もよぎる。

MCは長田代表。挨拶に続いて「このコンサートは、ピアノ以外の音楽の世界も紹介し、生徒さんたちの音楽の世界が広がるような活動されていることを承知しております。以前、田中先生が東京まで我々の合唱を聞きに来てくださったのが今日のご縁につながったと思います」と訪問のきっかけを話し、いそべ男声の紹介から、磯部先生の曲の紹介、そして後を託された



須賀先生の指揮と男声への編曲で磯部先生の曲を歌い続けていることを紹介して演奏にはいった。

○いそべとし

抒情曲集

時無草

林のなか

松の花

MC「須賀先生と一緒に歌っていた早大グリーの同期生5人、その上の先輩3人がこのいそべ男声で歌っております。昭和26年の合宿で磯部先生の代表作「遙かな友に」が生まれました。最初に歌い、いちばん長く歌い続けているのが私共ということです。

須賀先生は卒業して関西に就職、大阪で豊中混声合唱団を率いてコンクール金賞常連に育てました。その間に大きな影響を受けたのが高田三郎先生との出会いだったようです。壮絶な師弟関係だったよ

うですが、先生からは絶大な信頼を受けるようになり、作品の男声編曲まで任されるようになりました。今日はその中から3曲演奏します。全部須賀先生の編曲です」

○高田三郎作品集

風が(組曲「心」より)

不來方の(琴糸綴集より)

くちなし(歌集「ひさの詩」より)

MC「このへんで一息つかせてください。ご覧のように高齢者集団です。(笑い)

ここで、ご希望のあった唱歌を歌いましょう」

3、4歳の子、3人、ピアノの前へ呼んで、幼児3人と男声35人による文部省唱歌の演奏。あとで聞くとみんなピアノを習っている子とのこと。

○つき

おうま

MC「つきは明治43年、おうまは昭和16年に教科書にのりました。昭和16年は太平洋戦争突入で戦時体制となり、小学校が国民学校に変わり、教科書も内容が一変しました。でも唱歌は全部が軍歌調になったわけではなく、平和な歌がまだ残っていました」

MC「昭和20年に戦争が終わり、歌謡曲がはやり、童謡が盛んに歌われるようになりました。そんな時、良い歌を作りたいと、磯部先生、中田喜直さん、大中恩さんら5人が「ろばの会」という作曲家グループをつくり、言葉の乱れない、さわやかな詩に言葉に忠実な曲をつけようとの方針で「新しい子どもの歌」を発表しました。これからお送りするのは、こういう「新しい子どもの歌」運動のなかから生まれた磯部先生の子どもの歌です」

○磯部倅 こどもの世界

一年生くん弟くん

びわ

たなをつくりましょう

大ずもう

月夜

ヤマアラシ

空とぶ手紙

全ステージ1曲ごとに拍手を頂戴した。最後の、空とぶ手紙の歌声とともに全員がホールの右奥へ風船が飛ぶのを見送る演技をすると、大きな拍手が湧いた。後ろのディレクター席からも拍手がとんできた。

○アンコール

いちじく

いねかり
遙かな友に

○記念写真撮影

会場のホールにピアニストたちと男声合唱団員合計70名の記念撮影。1頁に掲載。

○打ち上げ

アクトプラザの5階にあるサゴー浪漫館に70名とゲスト、家族が加わっての大パーティー。ピアニスト・ジュニア達まで仲良く同席して、会場は柔らかな親しめる雰囲気になった。参加者のコメントから。(敬略)

田村滋治(養老学園理事長・S.C.顧問)

「浜松は楽器の町ですが素晴らしい合唱団は多くない。皆さんさぞやもてたでしょう。SPCピアノ・ワークスの歴史は立派です。子どもたちの成長はすごいものです。私も70歳になりましたがまだがんばります」

須賀敬一(早稲田大学名誉教授・いそべ男声)

「今日は皆さんのピアノを聞いてないので申し訳ないです。素晴らしいホールで、皆十分に歌えたようです。80歳前後の仲間が多いのですが、皆歌うことが嬉しい男ばかりなんです。12月に40周年演奏会をやりまします。ぜひ皆さんおいでください」

長田 茂 (いそぎ代表)

「今日はおめでとうございます。私はご縁があってここには何回も来ていますが、お母さんがピアノを習ってお子さんも習っている。親から子につながっているのを見て、これは田中先生の魅力ある指導のためだと思っています。(拍手) 歌の良いホルでした。ありがとうございます」

あたたかな春の一日でした

田中恵子

(森田ピアノ・ワークス・指導)

3月31日、スプリング・ピアノ・コンサートVOL44〈春いちばん〉にご出演下さいまして有難うございました。

つくづくに、今、想いますには、「言葉」というのは心底感謝したり、心底悲しむときは、どの言葉も私には見あたらないという気持ちです。

あの31日は、空も地上も雲も全てあたたかな光のそそぐ春の一日でした。

「幸せな」人間のいちばん大切な「幸せ」を須賀敬一先生、永井博子先生、長田茂様、そして団員全員の皆さま、私の生徒達、私、裏方をして下さった方達、そしてそして長田彰さんと、

した」

・「いざ立て…」の合唱

長田 彰 (デパート)

「コンサートで、毎晩のように田中先生やお弟子さんから連絡がありました。皆さん充実して続いております。音楽は人生を表すことができます。音楽は人生を表すといいますが実感しています。音楽から心の均衡を得ているの

みなさんが一つの輪になって心合わせている感じがいたします。感謝でいっぱいです。

隅田川のお誘いはチャーム(長男)のお話をお聞きしている間にイメージは湧き、行きたくてなりません。口惜しいですが辞めようと思いません。

お誘いいただけただけ、光栄に思っております。(中略) アリアムが雪の精のように白く咲いています。

気温の差が激しい春の日々です。どうぞご自愛くださいなすよう。

長田 茂様
かしこ

しょうか。父茂が喜々として練習に行くのも分かります。うわさの通りの酒量でしょうか。

(笑い) ありがとうございます

永井博子 (デパート)

「ピアノストと呼ばれているピアノストです。(笑い) 今日はいそべ男声よりも若い、ずっと年下の人達が沢山いらして若い

たいへんお世話になりました

長田 茂 (いそぎ代表)

第44回 スプリングコンサート
おめでとうございます。

今まで、何度も、このスプリングを聴かせていただきました。子どもたちの先生生徒でいらした方が、結婚し、生まれたお子さんと一緒に、まだ、ピアノの勉強を続けておられる。コンサートのような姿を拝見して、恵子先生の魅力は、いっただいどこから来るのだろうかと考えておりました。

今回は、演奏する立場としてステージ側から先生の後ろ姿を拝見することになりました。40人の男どもを接待しながら、生徒さんたちに気を配り、コンサートの進行にまで的確に指示なさっている、このバイタリティーが、どこからくるのか分かりました。

エネルギーをもらえました。(笑い) 皆さんのピアノが終わると舞台の出入り口で田中先生がそっとドアを開いて生徒さんを迎えていらっしやるのを見て、感動しました。SPCの心のつながりの中心でいらっしやる。いそべ男声は本番に強いのです。同時に今日はそれ以上に聞いてくださる方々が素敵でした」

要するに、先生は、音楽のすべてがお好きで、そして、生徒さんたちに、ピアノ以外の音楽の魅力を体感してもらって、皆さんの音楽の世界を広げようとなさっているんですね。

そのようなお考えのお手伝いが少しでもできたでしょうか。こんなアマチュアの男声合唱団をお呼びいただいて、あのようになら歓迎してくださってと、指揮者も感激しておりました。私どもも、心地よい空間で、会場の皆様と一体となったような感覚で演奏でき、幸せな時間を過ごさせていただきました。打ち上げて少々飲み過ぎ、調子に乗って歌い過ぎたのは、その余韻のせいだと、お許しください。お疲れがでませんように。本当にありがとうございます。

田中恵子 (SPCピアノ・ワークス)

「この浜松という町でピアノは守られてきました。ピアノはさまざまな音楽をひきだす楽器です。ピアノも声も同じ体として音楽を表現していくんです。その人の人生の表現になるのです。ううか。今日もそれを強く感じました。

今日はいそべ男声の皆さん、SPCの皆さんとよい春を迎えられて本当に良かったと思います。ありがとうございます」

(大拍手)

打ち上げの後半ではダイレクターの方が、歌っているいそべ男声の人たちの背中からオーラが出ているのを感じた、久しぶりのオーラだったというスピーチがあり、「つき」を歌った宮本結彩ちゃんのお父さんから、リハーサル室でのいそべ男声の練習を聞いて、皆さん本当に音楽を共有してるんだと実感したなどの話があった。打ちは盛り上がった。最後に、

＊

3歳から80歳までの厚く広い年齢層の、ピアノと合唱愛好者同席のパーティーが、すぐに打ち解け交歓できたのは驚きだった。これからも音楽の感動と共感をお与えください。(河合)

打ち上げ会花束を受ける田中恵子先生



SPCの皆様のご感想を紹介します。いそべ男声に直接感想としてお寄せくださったもの、そしてコンサートの感想、自分の演奏などについて田中先生に送られた文章から紹介します。なお勝手ですが紙面の都合上、合唱への感想を中心とするため、一部文章を割愛させて頂きましたことをお許しください。(警略)(編集部)

美しい日本語が心の中に

松田正子(倉)

暖かくなったかと思えばまた嵐のように荒れたり、今年の春は極端な気候に振り回されているように感じます。

3月31日のスプリング・ピアノコンサート。44「春いちば

ん」では、心に響く素晴らしい演奏を本当にありがとうございました。わたしは4歳から田中恵子先生に師事しております。

このたび、指揮者須賀敬一先生、ピアノスト永井博子先生、そしていそべとし記念男声合唱団の本当に沢山の団員の皆様にお出で頂き、スプリング「春いちばん」で歌って頂きましたことは私達にとりましてとても光栄なことでした。

私は当日、永井博子先生の譜めくりをさせて頂きました。須賀先生のお顔がよく見えて、背後からは立ち昇ってくるような美しい声のハーモニーをシャワのように浴び、贅沢すぎる時間を過ごさせて頂きました。

田中先生から突然、永井先生が譜めくりを、とおっしゃっているとかがい、「正子がさせて頂いたら？」と先生がおっ

しかった時、私の中ではうまくできるか不安と緊張でいっぱいでしたが、もう一言「とても幸せな時間になるわよ」おっしゃいました。本当にその通りになりました！

合唱団の皆様方の歌われる音楽の中で、美しい日本語が私の心の中に入りました。

須賀先生の振られる指揮で自在にうねり、聴かせていただいているこちら側の内側に届くと自然に心が震え、譜めくりをしなくてははいけないのに、何度も涙が出そうになりました。

そして、きつとどんな時もいつも仲間と共に歌ってこられたいそべ男声の皆様の姿勢は、いつも田中恵子先生が私たち生徒にその大切さを教え続けて下さっていることであり、ですから私も仲間も合唱団の皆様の音楽をなさる姿勢に感動を覚えたのだと思います。

終わりにになりましたが、今回私の娘真采の望んだ「おうま」を田中先生が取り上げて下さり長田茂さんに伝えて下さいました。そこまでは分かっていたのですが、まさか舞台で歌わせて頂けるとは思いませんでした。そして田中先生が宮本結彩ちゃん、鈴木美結ちゃんと3人を公平に並べてくださいました。3人は強く心に残ったこと

と思います。本当にありがとうございました。

あんなにも楽しそうに喜びを全身で表しながら歌っていらっしやる、歌うことが好きでたまらないという合唱団の皆様は学ぶ勢に、ピアノを学ぶ私達は学ぶことがとてもありました。

いつかまた美しい歌声を聴かせて頂くことができれば嬉しく思います。

春とはいえ、日々不安定な気候です。皆様お身体をお大切になさってくださいませ。

SPC一同

須賀監督宛のツイッターから

(当日の演奏を聞かれた浜松、焼津の合唱関係の方々からのツイッターです)

Ucoro Shiovo

Kakipy

田中先生のピアノの生徒さんもすごかったけれど、いそべ男声、とてもよかった。

ワセグリの流れがあるとしても本当にびっくりしました。「こどもの世界」の語り口はただただ脱帽。県内であの表現ができる団体はちょっと思いつかないですね。すごくいい刺激になりました。須賀先生、ありがとうございます。

ばくも、あれくらいの年齢まできつと歌い続けてやる！そう決心したひとときでした。なによりディミニユエンドがうまい。ホントに年齢を感じさせない。(学歴的にも)これまで第一線で活躍された方々が、合唱という切り口で結束するのがまたカッコイイ。同世代の女声には、同じことはできないだろうと言う人もいた。



→「き」おまを「一緒に歌う。年齢差は？」

鈴木那碧(小)

うたがうまくてびっくりしましたやまあらしの(うそだよ)がおもしろかったです

おすすめさんの
のはっけよ
いもおもしろ
かったです



鈴木風雅(小4)

ぼくがおもしろいなあと思った歌は、やまあらしの歌です。なぜかという、最後に「うそだよ」と言っておもしろかったからです。風船をとばしている



鈴木 慧(中)

今回のスプリングコンサートでは合唱が聞けてよかったです。

心を豊かにしてもらえました

安部さんからのご招待ありがとうございました。

家庭菜園を楽しみにしている出不精な私ですが、数えてみると45〜6年ぶりに聞きに行くことになりました。

華やかなピアノ演奏のあと、いよいよ男声合唱が始まりました。大ホールではないので、比較的近くに見えました。40人近い人たちの声がひとつになり、その声の波が寄せてくるように聞こえました。すてきな歌詞、低音のきいたハーモニーに感動し、リズムミカルな歌や、ファンタジックでコミカルな歌には思

まねをしているときの風船の色が赤色に見えました。風船をとばすまねの練習をすごくしたんだなあと思いました。知らない歌だったけどおもしろかったです。これからがんばってください。

おもしろい歌がたくさん聞けたので楽しかったです。なかでも「やまあらし」が印象的です。最後の「うそだよ」がおもしろかったです。また「空飛ぶ手紙」で風船をとばすふりがすく上手でした。本当に風船があるみたいでした。他の歌もすごく上手でした。見ている人のほとんどの人が楽しそうでした。



加藤紀子(琵琶)

のお年を伺ってビックリ！歌うことは元気を保つ秘訣なのですね。

野菜や花に触れ、毎日平穩無事に幸せと思っていましたが、歌がこれほど心を豊かにしてくれるものかと改めて感じました。これからもうか永く、素晴らしい歌声を聞かせて下さい。本当にありがとうございます。(追っかけになりそうです)

*加藤紀子さんは安部建雄さんの従姉妹、城須美子先生の姪、ご主人は安部さんの大親友でもあります。

ぼくもまたこの合唱を聞きたいと思いました。

氏原真唯(高)

(前略) 合唱が、すごく感動しました。聞いた瞬間、声のきれいとハーモニーとボリュウム……本当にびっくりしました！男の人だけなのに、どうしてあんなにやわらかいきれいな声ができるんだろう……！と思いました。歌っているときの顔が、本当に生き生きしていて楽しそう、見ている私まで楽しくなりました。

また会いたいし、もっともって歌を聞きたいと思いました。

*

氏原彩歌(高)

(前略) 合唱団は歌声、合唱を聞いた瞬間、感動して、本当に魂が伝わってきました。本番も打ち上げの時も、本当に歌に情熱がこもっていて、本当に歌が好きで……というのが伝わってきて、私には欠けている、足りないところだと思いました。私も人に感動を与えられるような演奏がしたいと思いました。ちゃんと伝わるように……本当に良いスプリングでした。

*

生崎美雪(筆・装入)

(前略) ゲストコーナーではいそべ男声合唱団の合唱を初めて聴かせていただきましたが、活き活きとした明るさと、優しさのあふれる素敵な合唱で感動しました。ふる里、日本の昔、自然の景色、叙情豊かな味わい深い子供の頃の純で素直な心に帰るような気持ちでした。シニアという年齢を感じさせることなく、合唱団の皆さんが本当に音楽、歌が好きで、心の底から声を出して言葉を伝える歌を歌っていたら、姿勢がとても素敵でした。ピアノと合唱という音楽が、人の心に強く深く響き、動かしてくれるという、不思議な、そして素敵な力をもっていることを感じました。(後略)

*

近藤英子(会費)

当日は前の方の席に座って、ゆっくり聴かせていただくことができました。事前に団員の方の人数は伺っていたものの、舞台ではもっとたくさんの方々がいらっしやるような迫力を感じ圧倒されていました。

私などとても相手にならないほどに人生の経験・体験をつまれた方々が歌、そしてこの合唱団を想う気持ちがあふれ出ているのだと思いました。

また、須賀先生、永井先生をはじめ皆さんが分け隔てなく一緒に合唱を楽しんでいらっしやるのが伝わってきました。特に打ち上げ会場での合唱は皆さんの歌いたくて仕方ない、収まらないといった気持ちに手にとるように伝わり、またこちらも一曲聴いては、まだ聴いていたいなど思っておりまして。役割通りに動くのではなく、皆さんが声をかけあって代わるがわる指揮をされたり、曲を決めたりされる様子は、本当に素晴らしいなと思います、私もSPCの中で、



→打ち上げ会はSPCの親子グループといそべ男声入り交って大盛況

そのように自然にできるようになれたら、と感じました。

お酒と食事、そして歓談の中、皆さんが部屋の四方に立たれて歌って下さり、丁度中央に座っていた私にはとてもせいたくなく時間となりました。

*

鈴木(前田)貴子(専務)

今年の「春いちばん」で歌っていたたいそべ男声の方々の合唱には、心から感動いたしました。合唱団の皆さんの放つ歌うことへの喜びやパワー、情

熱で、音楽工房ホールがいつもより明るさを増しているように感じました。

また、日本語の詩の持つ美しい響きや情感を大切にされた歌い方で、ひとことひとことが胸に入ってくるようでした。七十年代から八十年代の方が中心とうかがいましたが、皆さんの歌うときの目がきらきらしていてこんな風に歳を重ね、音楽と向き合っていたいと、

憧れのような気持ちを覚えまして。文部省唱歌「つき」「おうま」にはドルチェの結彩ちゃん、真采ちゃんとともに娘の美結も合唱団の皆さんと一緒に歌わせていただき、ありがとうございました。間近で美しいハーモニーを感じることができました。皆さんが一体となって音楽をつくりあげていることがとても心に残りました。

*

水島加寿代(フリーライター)

(前略)今回、いそべ男声の皆さんのステージも大変感激しました。35周年の演奏会も涙しましたが、その皆さんが浜松までいらして演奏してくださるなんて。どの曲もことが深く響いて、一曲一曲聴かせて頂くごとに細胞が喜びだしたことを実感しました。「かあさん」「とうさん」という一言だけで、また泣かせていただきました。それは合唱団のおひとりおひとりがそれぞれに立ち向かっていらした人生があって、尊敬し合い、須賀先生と永井先生との深い信頼があるからこそなのでしょう。

おかげでこれまで躊躇していた事に挑戦してみようという決意ができました。いつも先生がおっしゃる「40代なんてまだまだ若い」との言葉に背中を押して頂きました。

て頂きました。

*

水島恭子(園芸家)

(前略)あの年齢なのに一人お一人が凛としてらして、楽しそうに、言葉をとても大事に歌われている姿にまず感動しました。そして打ち上げの席で、分かったのですが、須賀先生を慕って各地から月2回集まって本気の練習をして(時には言い合い険悪なムードになることもあるそうですが)その後の飲み会で仲直りをし、しかも家族も認めるから思う存分打ち込めるのだそうです。私達SPCと同じだと思いました。須賀先生は100%でなく80%の音量で語るように歌えと言われるそうです。そのように歌うとお客さまの反応も良くなったという方がいました。田中先生が私達に言っている事と同じでした。そして永井先生が「田中先生って素敵だ先生ね。本当に素晴らしい先生ね」と何度も何度もおっしゃっていました。

*

村上直美(証書)

(前略)今回、いそべ男声の方々に歌っていただくお話を聞いた時は嬉しさとともに、たくさんの方々をお迎えすることが

本当にできるのかと、正直、戸惑いもありました。常にそうなのですが、田中先生の全力で全てを「可能」に変えていく努力を、今回も近くで感じました。合唱団の方々の歌を聴かせて頂き、気がつく涙が出ています。自分に気付きました。同じアマチュアの立場として私も聴いていただける方に感動したり、音楽っていいなと思っていただけのような、そんな演奏がしたいと思いました。今回のプログラムにあった田中先生の「音楽とは：その人の人生、その人の想いを表すことではないか」との言葉は、正にこれなんだ：と感じています。

*

山田まち子(園芸家)

(前略)ゲストのいそべ男声のみなさまの歌と人柄にふれることができたこと、とても幸せと思いました。つやつやとした歌声と、はつらつと自信にあふれているように感じました。コンサートだけでなく、打ち上げでもたくさん歌を聞くことができました。アルコールを飲んでくるのに、声がぜんぜんかなくて、よくのどをこわさないなと不思議でした。(後略)

*

横山仁美(名古屋市立務)

(前略) 歌声が身体に共鳴するような感じがしました。歌詞を大切に歌われていて心にまで響きました。「風が」は高校の時に合唱部(女声)で歌ったことがあり、懐かしく聴かせて戴きました。音域による厚みの違いがあります、やはり人生の経験の積み重ねによる深み、説得力のようなものを感じました。「風が」の歌詩に「ー私は 見えない時間に包まれている」とありますが、コンサート全体が見えないけれど、あたたかい時間に包まれていたように思いました。(後略)

*

岡本清子(ピアノ)

(前略) いそべ男声の素晴らしい歌声はゆっくり聴かせて頂き、とても心温まりました。皆さんが心から音楽を楽しまれている、その空気がホール中に広がり、自然に歌の世界に引き込まれ、あっという間の楽しい時間でした。打ち上げでは歌って乾杯！で一気に盛り上がり、今まで味わった事のない明るいつわな日本酒を頂いてしまいました。4時間の練習もあっという間だと、私の両親よりも年齢が上の方々がサラリとおっし

やり、しかも他のグループの練習も、ある時は朝9時〜5時まで練習されるとか、素晴らしいです。88歳の方は、毎回「これが最後のコンサート」とおっしゃるそうですが、とってもお元気で！ 昨年脳梗塞で入院された方も、歌って飲んで楽しまれているお姿はお元気で！ 私が

パワーをいただきました。またピアノの永井先生にとっても助けられていてと伺い、「ピアノストが！」と話される時のやさしい表情から、永井先生と皆さんの強い絆を感じました。楽しいときをご一緒にさせて頂き、自分自身を追いつめ、苦しく不安な音楽をしていた事を恥ずかしく思います。合唱とピアノでは練習もレッスンは違いますが、私達もSPCの仲間がいて、一緒に語り合える事はとても幸せです。(後略)

*

鈴木貴子(ピアノ)

すばらしい合唱団でした。歌も素敵だし、合唱団の方たちも明るくとても素敵な方ばかりでした。やわらかな歌声には、あっという間にひきこまれ、とても楽しい気持ちになっていました。帰りの車で子どもたちと「空飛ぶ手紙」の話になりました。

最後に飛んでいったのは、赤い風船か、青い風船か。」「青い風船じゃない？」。合唱を聴きながら、子どもたちには青い空と風船が見えていました。すごく驚きました。

そして打ち上げも楽しかったです。ステージ以上に歌と仲間が大好きということが伝わってきました。何度も合唱のシャワーをあびた感じです。私の近くにいた小さな女の子3人組も、いろいろな所から歌声が聞こえてくるので、目を丸くしてキョロキョロしていました。時には足でリズムをとってノリノリでした。みんな合唱の世界にひきこまれているようでした。子どもたちを見ていて特にそう思いました。音楽って素敵！ 改めて今回のコンサートで思いました。楽しく素敵に音楽の時間をありがとうございました。

(鈴木貴子さんは、風雅、那智の孝子のお母さんです)

*

松下里江子(ピアノ)

以前から田中先生より今度すばらしい男声合唱が聴けるのよと折りにお聞きしていましたので、合唱好きの私としてはとても楽しみにしていました。合唱団の皆さん、須賀先生、永

井先生が出て来られると明るいハッラツとした空気が流れてきました。そして歌うことの喜びが暖かい感情として会場を包んでいるように感じました。(中略)「時無草」。これは中学生のとき部活で歌いました。なつかしい。「くちなし」。初めて聴きましたがい曲ですね。心に響きました。どの曲も言葉がスツと直に心に入ってきました。隣で語りかけてくれるような親密さがあって、それが嬉しくて涙が出てしまいました。

打ち上げの時、工房ホールが歌いやすかったとおっしゃってくださったのは嬉しかったです。

*

長田玲子(中)

(前略) 合唱はとにかくきれいでした！ みんなが耳をすませてすぐ集中して歌っていることが分かりました。そして、とても気持ちがこもっていて、悲しそうだったり楽しそうだったり嬉しそうだたりというところが聴いていて分かりました。また歌うときとお酒を飲むときとのメリハリがすごくて、どんなときも歌うときはとても集中していました。本当にすごいと思いました。

*

長田楓子(中)

(前略) いそべ男声の歌の中で私が一番気に入った曲は「ヤマアラシ」です。「磯部徹こどもの世界」の7曲は、小さいころからよく聞いていて、どれも好きな曲でした。その中でも「ヤマアラシ」が何度聞いてもおもしろいです。どの曲も、パートごとの声の高低や、タイミングの違いがどうやっているのかわからないくらい、言葉では言い表せないくらい、とってもきれいに重なっていて、なんて言えがいいのかわからないんですけど、胸にぐっときました！！ 今まで何度か聞いていましたが、まだ小さかったということもあり、初めての感覚でした。永井先生のピアノは一瞬間いただけでも曲のイメージがわいてきて一つ一つの曲ののって聞くことができ、楽しかったです。私も今度、学校の合唱などで伴奏する機会があったら、永井先生のように、歌う人たちのことを思っていて、みんなが歌いやすいように曲をひっぱっていきたいと思いました。打ち上げのときの合唱もすごかったです。打ち上げであんなに楽しかったのは初めてです。合唱団の人たちの、のりのよさにびっくりしました。(笑)(後略)

浜松へ、いそべ男声に同行されたご家族の感想を紹介します。

皆様ありがとうございました

長田たつえ

冷たい朝、浜松にはたくさんの皆様が参加して下さい、ありがとうございました。

恵子先生は私共の長男一家を含め、音楽を通して、生徒さん達に公平な愛情と厳しさを以て人間教育をして下さっています。

今回のコンサートも先生の熱い思いとお心遣いが伝わるものになり、それに応えるいそべ男声の皆様が須賀先生、永井先生と共に素晴らしい音楽を奏でて下さいました。

涙を拭い乍ら聴いて下さったお客様もいました。もちろんわたしも「くちなし」を聴くたび

胸を熱くしているひとりです。

皆様、これからもお元気に、程々のお酒で、心に響く音楽と感動をたくさんの方々にプレゼントして下さい。

SPCの皆様は限られた時間の中で日々成長し、今年も個性豊かな音楽を聴かせてくださいました。来春も又、進化を続ける皆様にお目に掛かれますのを楽しみにしております。

恵子先生、生徒の皆様、コンサートを陰で支えてくださった方々に感謝申し上げます。ほんとうにありがとうございました。

楽しかった浜松のコンサート

安部佳子

いそべ男声は相変わらず素晴らしい演奏でした。

「松の花」 聞くと共に深みが増していきます。

「くちなし」 言葉がとてもし

れいで、まわりでは涙ぐむ方がいらっしやいました。

一転して子どもの歌は楽しくて、会場は笑顔で一杯になりました。

「ヤマアラシ」 思わず笑いましたよ。

風船も高く飛んで行きましたね。

浜松スプリング・ピアノ・コンサートをはじめ聞かせていただきました。私は全くの素人ですが、皆さんのレベルが高くそして楽しく観賞させていただきました。

特に、子供さんたちの本格的な演奏は素晴らしかったです。

長田さんのお孫さんはリズムが鮮明な、シッカリした演奏で印象に残りました。きつとオジイちゃんの血を引いているのですね。(ヨイシヨ)。

懇親会では、主人安部建雄の友人夫妻(5頁加藤さんの文章)や、長田家のお嫁さんとオシヤベリができ、大変楽しい思いをいたしました。

同行させていただきありがとうございました。そしてSPCの皆様には大変お世話になり、楽しい時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

目指す方向性を一つに

井上美奈子

浜松のいそべ男声のステージはプログラムが進むにつれ、ぐっと集中力が高まっていったように感じられました。

あの日の会場の雰囲気は(お客様との距離が近かったこともあり)お客様が聴き入ってくれたことが、歌い手の気持ちを高め、より気持ちを入れた演奏になって、さらにお客様が引き込まれるという相互作用によって生まれたものと思います。

日本語の美しさに心を配りながら表現しようとするいそべ男の演奏を聴いて、お客様は言葉の持つストレートな訴求力を感じられたのではないのでしょうか。

「空飛ぶ手紙」のエンディングは以前にも同じ演出を見ていますが、こんなに見事にキマッタのは初めてです。これまでは団員がそれぞれの風船を追っている感じだったため、お客様には風船がどこにあるのか、なんとなくしかわかりませんでした。ところが今回は違います。皆が同じ一つの風船を追いかけているので、お客様にも風船が見えた気がします。

思いや自分なりの目標・課題があると思いますが、全体として目指す方向性が一つにまとまると、大きく力強い「気」になるというのが、あの場面で視覚的に感じられました。



→ 打ち上げは会話、酒歌の3拍子そろって...

復習

——浜松の演奏にあたって——

村岡昭一郎 (子)

俚諺のように三寒四温の季を
累ねて 陽も射すようになった
「元気の秘訣は 歩いていから
と應えている映像に「歩いて
るから」元気なのではなく「元
気だから 歩ける」ではないか
といつも 惟う 医師に 奨め
られるまでもなく「歩くこと 声
をだすこと」はいいことだと
判っているそれを 享けつけない
のが 鬱である

大阪 会津 浜松を 兎に角 熟し
た
掛け替えのない 僑侶に先立たれ
た 槁木死灰の あのこと 廊下
の 棧に 家内の腰ひもを掛け 化
粧台の椅子を蹴れば 畢るとい
うことが 二度ほどあった 重篤
なころを 憐うと 宵壤の差であ
り 以て 瞑すべきである 惟う
に 合唱という 秘菓の賜物であ
る
中学のころ それを 哺ませてく
れたのは 同期の 敬友 その 効能
を いまにして 醒る
進学を 俱にした 男声合唱団へ
慫慂されて 付和した 団の 事
情があつて 選考もなく 入部が

叶った しかし 周りとの 格差
には 應えた それによく堪え
た 恩寵が 残生の 余命を 竊いで
いる 団の 同期の 朋友に 恵まれ
た ことに 竭きる
いそべには その 朋友が いる
入団 この かなた 鬱の さなかにも
いまも 燠かい
これは 大切に したい

逡巡していると 断行すればな
んとかなる 同病は いう 浜松
行きを 極めた
あの 瀟灑な ホールで 少しでも
聴衆の こころに 憩いを 漑げた
ら 幸せである
はじめての 曲は ない 難曲は ない
暗譜を 目差す
すべての 曲が パソコンに 入れ
てある すぐに プレイバック
して 練習できる
四〇周年の 小手試しに 日課に
懋める ことに した

まず 楽譜の 音符に 片仮名で
階名を 付ける 階名唱法でも
嬰や 変などの 臨時記号がある
と 部分転調させないと 音が 乗
れない 転調する 調子を 摸るの

に 手古摺る これかなとなる
と ソフトの 調号ツールで 確認
し 転調後の 階名を 付ける

それから 自分の パートだけの
音を 再生して 階名を 同化する
いくつかの 難所を 往來し 音
程を 攫むまで 再生速度を 落
とす
八分音符 一六部音符 とくに
三連音符になると 再生速度と
齟齬する
再生速度を 少しずつ 駛める
根が いる 歌詞をつけたくなる
つけな

所定の 速度で 音が 乗れると 歌
詞をつける 曲を 階名で 徹せ
る ようになると 歌詞の 搭りが
いいことを いまごろ 識った
これまで 階名も そこそこに
歌詞をつけていた
生乾き基礎の うえに 家を 建て
た ようなもので あつた

毎回 階名で 徹してから 歌詞
の 復習に入る
躓くとは じめから 遣り直す
はじめのころは 終止まで 辿り
着かない 日が多い

自分の パートと ピアノだけで
繰り返し 練習していると その
うち ピアノが 聆き 乗れる よう
になる 難渋していた 音も 乗れ

てくる 全パートと ピアノの
楽譜で 引き摺られずに 唄える
ようになると やっと みんなの
練習について いける ようになる

強弱記号や アーティキュレー
ションなどの 発想記号 そのほ
かの 演奏記号にも 気が 回る よう
になる 強弱の 程度を 自分な
りに 心得て おく 必要を あらた
めて 感じた
唄い 狎れていると 憶っている 曲
ほど 速度 律動 切文法などに
乱れが多い

冒頭に「揺れる ように、そつと」
とあり 唄い出す 直前に 再び
「揺れる ように」と 発想標語が
ある それを どれほど 意識し
て 唄い込んで いたかと 憶いを
あらたにした

「音符に 歌詞を 付ける」のでは ない
く「歌詞に 音符を 付ける」という
指揮者の 至言を 拳拳服膺し さ
らに 指揮者からの ほかの 指摘
も 繰り返される ことが ない よ
懋める

歌詞「あきの ひかりに みどり
ぐむ」 秋に みどりぐむ かな
「あきの ひかり」ではと「詩」
を 詠みな おし「演奏上の 注意」
を 確認する 余裕は 芽吹くが 表
現する 負荷に 慄く

暗譜とは これまでの 歌詞を 暗
記した 状態に近い ものとは 異な
る 密度の 高い もので なければ
ならないと 反省 しきりである
だが 暗譜は 基まりである 萎
びた 声帯 枯れた 感性を 甦生さ
せる など 多くの 難題が 待ち受
けている これは 再生器機の
範疇ではない 敬友の 教導を 渴
望する

そのためには アンサンブルは
欠かせない 暗譜すれば その
効果に 一層の 磨きがかかる
だが 一日も 復習しないともう
錆が きて いる 復習と アンサ
ンブルを 累ねる しかない
自認している 唄れた 老声は 団
の 持ち味を 損なわ ない よう 舞
台では 慎む

海外視察旅行の 宴席で たま
たま 左隣りの 人に 趣味を 訊か
れ ワインの 所為か つい 左手
を 差し出した その 人は 透か
さず 指先を 弄った この ときの
オプショナル ツアーで 偕に ポ
ルトガル スペインを 巡り グラ
ナダに 待望の アルハンブラ宮
殿を 眼福した
明大マンドリン倶楽部 OB 総
勢一〇名の オーケストラを
率いる アマチュア 楽団の 古賀
政男の 薫陶を うけた 指揮者だ
つ た 自宅の 地下に 練習場を 設け
楽器も 完備していた 住まいが

近かった 和音の足しになるかも知れないと招聘に応じた爾来楽団が活動を終えるまで年一回の中野のサンプラザでのチャリティーコンサートに一五年 毎年 欠かさず出演した 指揮者はプロダクションのオーナーで 多くの俳優が賛助出演した
司会は元TBSのアナウンサー

〈特別寄稿〉
おじさんは臭い 第2回

指先のウミ

田北 敏行

(日本専修学校)

もし、手足の指二〇本の指先からウミが流れ出していたら、指を口の中に入れて、細菌だらけのウミを飲み込む人はいないだろう。

歯も二〇数本歯周病の場合には、殆ど全ての歯の周囲から出て来るウミをいつも飲み込んでくる。

このウミが血流にのって全身に流れるため、心臓や関節で歯周病菌が見つかることがある。

鈴木治彦 主なゲストは五十嵐喜芳 大林宣彦 叶和貴子 デュークエイセス 久石譲 高木東六 山本文晴 常連のゲストクラリネット奏者 クレージー キャッツの 安田伸の献奏もした 三木元首相夫人なども毎回 枉駕した
日本盲導犬協会 阪神淡路大震災の義捐金などに対するチャ

は、徹底したブラッシングと食生活により、その進行を抑制することは可能である。
しかし、進行すると手術で炎症により吸収された病的な歯肉や歯槽骨(顎の骨)の除去を行い、病的な歯周ポケットの再発を防止する。
骨の吸収が著しい症例では歯の動揺を防止、固定する治療を行わねばならない。
また、内科医と連絡を行いながら血液検査によるチェックを行い、全身への病巣転移や感染防止に注意を行わねばならない。

リティーであった
演奏会は 楽屋での ハーモニックス・チューニングで 雰囲気盛り上がる
楽譜は 毎年二〇曲余の全演奏曲目をパソコンで作ったパート全員に配り重宝がられた 記譜が 合唱とは異なる経験をした 楽譜には コード・ネームとコード・ダイアグラムも編集して入れたソフトの威力を駆使した トニック(トニカ)サブドミナントドミナント(セブンス)といった 主要和音で進行する シンプルなケーデンス(カデンツ)は まずない
ルート・モーションを進行感の強いドミナントモーションとするための代理コード ツー・ファイブ裏コード 偽終止セカンダリー・ドミナント(セブンス)・コード イチ・ロク・ニー・ゴコード トーンのどれもがルートになりうる(パッシング・ディミニッシュ(セブンス)・コード サス・フォー オーグメント テンション アドナイン スクリシェ(ルート・モーションを滑らかに半音進行させる)分数コード(オンコード) きれいに響く オープン・ポイシングなどのコードを ハイコード 8フレット辺りまで 要求された
第1部のオープンニングは 毎年

「80日間世界一周」でリズムがスイング チャチャチャボレロタンゴメレンゲなど 八回も変わる 「音楽で綴る世界の旅」と銘打ったプログラムであった
第2部のバックイングでは 歌のメロディーとコード・ワークのトップ・ノートとが 半音でぶつかり合わないように 唄い出しやメロディーのポイントを抑えて ハーモナイズしてある ビートルズメドレーから 懐メロ 日本民謡まで 東西の 聴き慣れた曲を 網羅した

妻の望みでおなじ旅路を巡ってふたたび アルハンブラ宮殿を訪れた 二度訪れても 霊験で上達する訳もなく タレガが曲し セゴビアが奏した 名曲「アルハンブラの想い出」のトレモロで 頓挫し 挫折した しかしこの演奏会で いろいろと 悔えられた

わざわざ 荻窪まで 練習がどれほど進んでいるか 状況についても 階名から 原語の発音の注意するところまで こまやかに しかも 要所には 朱書きまでして 届けに来て 気を遣わないよう 顔貌を 顕わさず 黙して 還る 団員がいる
練習だけではなく そのほかの

催しなどにも こまめに 誘いがある ときには いっしょに 新譜が「これは無料です」と 黄色い付箋まで付けて 郵便受けに入っている
風の日もある 蒸す日もある ただひたすら 深謝し 復帰に 鞭打った

多くの好意に響くよう 浜松につづいて 終の周年演奏会になるやも 知れぬ 四〇周年に向け こころを あらたにして 復習に 燃めたい

※編集部註

- ・ 偽侶(ちやうよ)(借)
- ・ 槁木死灰(こうぼくしかい)
(肉は枯れ、心は死灰のよう)
- ・ 畢る(おわる)
- ・ 恁(う)ち(おち)
- ・ 宵壤(しょうじょう)(天地)
- ・ 羈(か)い(で)ない
- ・ 竭(く)きる(きる)
- ・ 燠(あ)かい(あたかい)
- ・ 懋(も)める(とめる)
- ・ 駛(し)やめる(はやめる)
- ・ 摸(も)める
- ・ 秉(も)れる(とれる)
- ・ 搭(た)り(の)
- ・ 聆(り)き(き)
- ・ 基(き)まり(はじまり)
- ・ 縮(ち)ぢ(ぢ)
- ・ 枉駕(おうが)
- ・ 誨(お)え

続・暗譜の快感

三上正秋 (2・ト・ト・ト)

前回 (377号) 掲載の佐藤さんの「暗譜の快感」の続編です

「では、皆さん、楽譜をしめてください。」と言った側の立場から、暗譜について思うところを書いてみます。

私が暗譜をしてほしいと思う理由はたったひとつ。

暗譜で練習がしたいのです。本番で楽譜を持つ、持たない

は、ほとんど興味がありません。練習時間の少ない社会人の合唱

団では、むしろ本番では突発事故を避けるために、楽譜は持った方がよいのではないかとさえ

思っています。

私事で恐縮ですが、私が学生時代をすごしたグリーククラブでは1週間の練習時間が公式の練習だけで18時間30分ありました。練習の内容がすべて音楽的だったかどうかという大変疑問ですが、このぐらい練習時間があると暗譜しようとしなくても自然に曲が体に入ってきますし、ほとんど楽譜からはなれてアンサンブルに集中するようになります。他のパートとのバランス

や音色の統一、cresc. dim. のタイミング、そして何よりも曲への思いを他のメンバーと共有・共感しながら練習を積み重ねていく楽しさは、何ものにも替えがたいものです。

しかしながら、社会人はそんなにヒマではありません。

何とか効率良く練習して、合唱を楽しみたい。そんな思いが暗譜で練習したいという思いにつながっています。

過去にステージにのせた曲であつても、目指す演奏は毎回異なるのが普通です。

たとえ指揮者の指示が全くいっしょでも、できあがってくる音楽は毎回、違うべきものだと

思っています。それは、アンサンブルの精度を高めて行く過程で、他のメンバーと表現について共感しあうという作業が必要

不可欠だからです。このcresc. はこのぐらいで、ここの和音はこんなバランスで、このフレー

ズに入るタイミングはこんな感じで等々、指揮者に導かれながらも、自分の主張と他のメンバーの主張を調整し、共感していくのがアンサンブルの魅力であり、それは、毎回、新しいものであると信じています。

それは高度なテクニクを持つてはじめて考えるべきことであると主張される方がいらつし

やるかもしれないが、私はそう思っています。高度なテクニクを持っているにこしたこ

とはありませんが、今あるテクニクで、まず、しっかり楽譜

を読み込んで、自らの曲に対する共感を育て、他のメンバーと

アンサンブルの精度をあげていくのが基本と考えるからです。

楽譜を読み込むレベルも様々かも知れませんが、今あるレベルで読み込んで、自らの曲に対する思いを育てることは、難かしいことだとは思いません。

暗譜で練習したいと思うのはこのようなことを効果的に実践できるからです。

私が言う暗譜というのは、全部見ないで歌うことではありません。

見てしまうと自分のパートの歌詞と音譜だけを追いかけてしまい、発声やアンサンブルのこ

とを全く考えなくなるからで、

そのようにならないければ良いのです。4小節単位でもかまいません。楽譜から離れてアンサンブルに集中できる態勢になればOKです。

ただし、フレーズの開始、終了、テンポの変わるところは必ず指揮者を見て下さい。これは暗譜とは関係ありません。合唱

として機能するための最も基本的な作業です。

時々、練習指揮をさせていた

だくことがあります。歌い出す直前で楽譜に目を落とす方が

何人もいて、実力がないのは悲しいことだとつくづく思うことがありますが……。

もうひとつ、暗譜について。「シユガーズ」の練習で時々

譜読みの暗譜というのをやっています。歌詞も音程も入った頃

に楽譜を見ないで譜読みをしてもらうのですが、結構効果があります。今、練習中のミサ曲だとBenedictusの部分や、Angus Deiの前半などは、もちろんフレーズを無視してはいけません。譜読みレベルでも完全に頭に入れておくと、もう少しフレーズが明瞭になると思います。

いろいろ書きましたが、せつ

かく合唱をやっているんだからアンサンブルをもっと楽しま

しょうよ、というのが本音です。楽譜から離れて、歌詞を紙に

書いてみる、自分のパートをドレミで歌ってみる等、単調な作

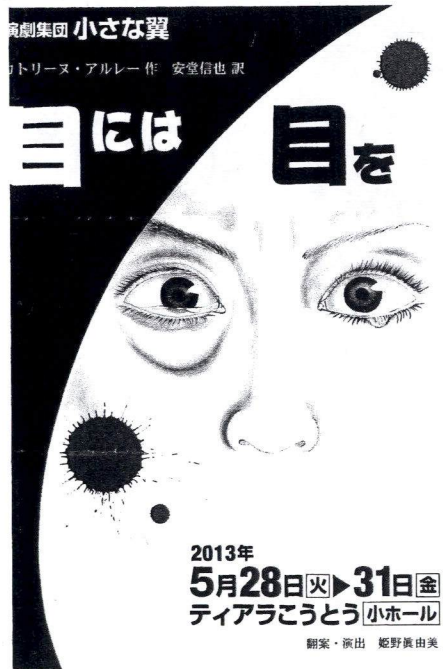
業ではありますが、暗譜に努力すること合唱の楽しさが更に

広がることは間違いありません。リサイタルの曲、早く覚えて

良い練習を積んでいきましょう。

演劇集団 小さな翼
トリニヌ・アルレー 作 安堂信也 訳

目には目を



2013年
5月28日(火)▶31日(金)
ティアラこうとう小ホール

脚本・演出 姫野真由美

演劇集団 小さな翼 公演
5月28日～31日
ティアラこうとう小ホール
『目には目を』(戸丸さん扱い)

総務だより

■強化練習日程

候補日をあげて検討の結果、

・夏前は 7月27日(土)

28日(日)

・直前は 11月9日(土)

10日(日)

に決定。

他に必要があれば定例練習以外に須賀監督と相談、追加する。

■総会の日程、磯部先生生誕祭の日程

この二つを同日に開催することを検討。未決。

■女声アンサンブル アトリエ北とびあ合唱フェスティバルに出演

須賀監督指揮の「アトリエ」が合唱フェストに出演する。

期日／6月7日(金)

18時30分開演

伊藤俊二先生

退任

湘南女声合唱団指揮者の伊藤先生は病氣療養のため指揮者を退任されました。同合唱団を30年以上指導、またいそべ男声の発声の指導をされました。先生の日も早いご回復をお祈り申し上げます。後任は蟻生栄子先生が就任されました。

会場／北とびあ さくらホール
趣旨／オープニング高田三郎生誕100年記念

出演予定／登戸混声、大久保混声、コール・コスモス、盛岡

コメットなど10団体

合同演奏／真昼の星／指揮須賀

敬一

入場料／2500円

・アトリエさんでは出演者一人

当たり3枚のノルマで、関東に

縁故のない団員が困っているよ

し。少しでもいそべで売れば……担当・大西さんで直ちに予約受付開始！

■3月31日浜松行き確認

参加者予定／団員35名、家族等

5名

交通／新幹線団体扱い11行き15

名、帰り13名、個人手配11ジ

パンク16名、他5名

当日スケジュール
到着後、楽器博物館見学、12

出石崎精一さん(退)

練習日復帰

4月14日の練習に復帰されました。昨年脳梗塞をおこしてから9カ月ぶりの復帰です。
復帰の第一声は、
「文字が読めない症状だったのが、リハビリによって平かな、片仮名、漢字という順で読めるようになってきた。現在6年生

時30分舞台集合、立ち位置等
確認、12時40分昼食、13時30分練習、16時頃本番。18時頃打ち上げ。

■大阪メロクワイアー演奏会

にお祝い贈呈

・3月24日の演奏会にお祝いを贈った。

■当団40周年演奏会のチラシを早くほしいとの希望がだされた(秋永)

■来年のニューイヤークンサート&パーティー日程調整を早め

に(会場抽選が7月になる)

■市川総合病院のロビーコンサートは進める方向で日程等相談

する。来年以降になる見込み。

(担当河合)

*継続議題

■40周年演奏会

・チケット料金2000円で個人負担枚数は？(35周年では3000円で一人15枚負担)未決

の段階。しかし不思議に音符は最初から読める。『チュウちゃん動物園へ行ったお話』を読んで最後の曲の「サル山」まで来た。回復には1年位はかかるだろうと言われている」とのことでした。

・4ステの曲目

いそべとし抒情曲集

犀川、林のなか、いねかり、月夜、松の花(白南

風のうた、いろいろ)

・演奏会のステージ構成

第2試案

① いそべとし抒情曲集

② ミサ曲

③ チュウちゃん

④ 優しい愛の歌

須賀監督より(三上、大西、1、2、3で読まな?)

① いそべとし抒情曲集

② ミサ曲

③ 優しい愛の歌

④ チュウちゃん

■2014沖縄男声合同の日程・夏前に決定する。須賀監督の日程確認。

出演者大記録

●3月31日

浜松スプリング・ピアノ・コンサート(指揮、ピアノ、曲目はトップ特集記事に収載)

出演／1T-石原、大西、河合、

渋谷、田島、長田、西川(由)、西

川(久美)、横田、若月／2T-

井上、河原、佐藤、澤野、坪井、

三上、宮田、村岡／1B-安部

川野辺、児玉、田邊、徳田、戸丸

山川／2B-秋永、板垣、大澤

坂巻、澤登、角、武田、長島、三

好、渡邊(計35名)

練習日記録

●3月10日

発声／三上

練習曲／浜松演奏曲全曲、KY

rie／須賀、P永井

出席／1T-6、2T-9、1B-5、2B-9

●3月24日

発声／三上

練習曲／くちなし、1年生くん

弟くん、たなをつくりましょ

う、大ずもう、月夜、ヤマア

ラシ、空飛ぶ手紙(三上)

クジャク、カバ、ツル、ゾウ

サル山(大西)、P永井

Agus Dei、Gloria(三上)

出席／1T-6、2T-8、1B-5、2B-7

●4月6日

発声／三上

練習曲／Kyrie、Gloria

出席／1T-6、2T-6、1B-5、2B-5

●4月14日

発声／横田

練習曲／子ジカ、クジャク、カバ

ツル、ゾウ、アナグマ(大西)

Agus Dei(23) Kyrie①②

Gloria⑨⑩(整字は横田)

出席／1T-6、2T-8、1B-5、2B-8

SCHEDULE

豊洲：江東区豊洲文化センター
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

☞：須賀監督指導・指揮 ☞：横田先生発声指導

○運営委員会は原則として第4日曜日11:00練習場にて開催

2013(平成25)年				Cバー
4月14日(日)	定例練習☞	13:00~17:00	豊洲	1 B
28日(日)	定例練習☞	13:00~17:00	豊洲	2 B
5月12日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	1 T
26日(日)	定例練習☞☞	13:00~17:00	古石場	2 T
6月 9日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	1 B
23日(日)	定例練習☞	13:00~17:00	豊洲	2 B
☞ 7月14日(日)	東京都合唱祭	13:00~	豊洲	曲目／おやすみなさい(「優しい愛の歌」より)、松の花
	☞			
20日(土)	強化練習		豊洲	
21日(日)	強化練習☞		豊洲	
28日(日)	定例練習☞		豊洲	
☞ 9月29日(日)	道志川合唱祭			
☞ 10月27日(日)	江東区民合唱祭		会場／江東区文化センター(東陽町)	
11月 9日(土)	強化練習			
10日(日)	強化練習			
☞ 12月 1日(日)	40周年演奏会		会場／ティアラこうとう大ホール	
			曲目／①磯部倅抒情曲集②ミサ曲(ロパルツ)③組曲「優しい愛のうた」④組曲「チュウちゃんが動物園へ行ったお話」(以上曲順は未定)	
2014(平成26)年				
	沖縄男声との合同演奏会(曜祝)			

来客

3月10日はティアラこうとうの第5練習室での練習で、ここではCバーは開催できないので、近くのホテルの一階にある中華料理店で、須賀監督ともども練習打ち上げとなった。例によってハモリ始めたところ、若い金髪の女性が一人で部屋に入ってきた。歌が終わったところで佐藤さん(☞)が話しかけたところ、イングラントから来た、父親が英国人、母が日本人で初めての来日とのこと、我々の歌声にひかれて来たとのこと、それならばもっと聴いてもらおうと、もう2、3曲ハモった。通訳は佐藤さんだったが、残念ながらお名前は聞かなかったとのこと。

編集後記

▲「老若男女」という言葉があります。浜松での打ち上げ会はまさにそうでした。古い言葉ですが、その古さを越えて新しい音楽の仲間の交流が始まったという感を深くしました▲いそべの男どもは何も事前打ち合わせをしないまま、会場のあちこちに分散着席。あとからご入場のSPCの皆さんはその間に着席となったので、自然とピアノスト達と合唱団員との会話が交わされました。4歳、5歳のピアノストにも問いかけている団員もいました。女子高校生と多少きこちなく話していた団員もいました。もちろん子どもさん同士の会話も活発、楽しそうでした▲いつものいそべ男声の殆ど「老・男」のみの会とはまるで違って、まさに花園で飲み、歌う気分となりました。いつもは一輪か二輪なのです▲ピアノとコーラス表現手段は異なっても、本当に音楽の好き者同志なら、すぐに共感し合えるものなのだと感じた1日でした。(河合)

いそべ男声ニュース

号 外 5月12日

団員諸兄

40年をテーマに自由に書いてください

例えば

「いそ男との40年」

「我が家の40年」

「思い出の曲」

「あの場所、あの瞬間」

「あの言葉」 etc.

12月1日に40周年コンサートをもちます。

われわれにとって、この40年とは何だったのか？

いそ男にフルに40年…或いは40年に満たなくても深い想い、お宝の思い出をお持ちの諸兄。いそべ男声と直接かかわりのない思い出でも結構です。ぜひ玉稿をお待ちします。コンサートを成功させるモチベーションの一つとなることを願っています。

〆 切 6月末日

文字量 400字程度

※万年筆書きからキーボード印字まで、どんな原稿形態

でも結構です。ただ、音源原稿はご勘弁を…。

もし特ダネ写真があったら大歓迎！

（40周年コンサート終了後には改めて
新鮮なコメントをお願いするつもりです）

いそべとし記念男声合唱団ニュース

2013年 6月 第379号

発行代表者:戸丸悟(総務)〒135 0053 東京都江東区辰巳 1-8 45 302 ☎03-3521-6898 FAX 同
E mail isobechorus@hotmail.com URL http://www.geocities.jp/isodanchorus/
編集:河合隆一(広報)〒272 0031 千葉県市川市平田 2 12 6 ☎047 322 1256 FAX 同

「40年をテーマに自由に書いてください」

こんな依頼を5月21日に団員諸兄に号外の形で発信しました。12月の40周年記念演奏会を踏まえての頼みでした。早速到着したコメントを紹介します。締め切りは6月末ですからまだまだ後続があるでしょう。順次掲載します。(到着順)

私の40年といそべ男声合唱団

山川 稔(一)

今から41年前の5月、沖縄が日本へ復帰する一週間前に大学生活を終えた私は、西ドイツへ旅立った。

その後のアメリカへの留学を含め、約12年の外国生活を送り、東京、三重の地を経て最終的に茨城に落ち着くことになった。そして今年3月末退職となり研究生活を終えた。

これまでの40年、厳しい競争の世界で生き延びてこられたのは男声合唱という心の支えがあったからだと思ふ。

今は亡き磯部先生に「あなたにとって男声合唱とは？」と尋ねられたことがある。「ストレスの多い研究生活における安らぎの源です」とお答えした記憶がある。

一人でいそべ男声の演奏会のCDを聴くのが好きである。技術的に完璧でなくても心に響く曲に出会うことがある。恐らく必死に練習して全員の心が一つになった時、聴く人に感動を与えるのであろう。すべてを忘れ無心になれる合唱は常日頃の練習の積み重ねの上に成り立つものであると信じている。4時間の練習とそのあとのCバーはいずれも重要である。音楽の才能のない自分にとっては練習の継続のみが経験豊かな皆さんの美しいハーモニーに入れる唯一の手段である。そういうことから、特別の事情のない限り練習は休んだことはない。練習は厳しいけれど、その向こうにある合唱の完成は

無上の喜びである。

また、Cバーでうまい酒を片手に、仲間との他愛ない話で盛り上がるひとは至福の時である。

磯部家の酒蔵

安部 建雄(一)

2階へ通じる階段の下にそれはあった。

「安部君、旨そうなものを選んでいいよ」

と言われて覗いてみると、ずらっと並んだ日本酒の♪ビンビンビン。

選ぶのに困ってしまった。知っている銘柄がない。

先生は二級酒がお好きであつたが、その頃には大手酒造の二級は無くなり、各地の地酒が並んでいたのです。

選びようがなく、ラベルが素朴な1本を、いそべサロンに運び、メンバーと御馳走になりました。

80歳を超えても先輩方の飽くなき音への追及と情熱は良き目標である。20年後の60周年記念コンサートに立つことを夢見て今日も努力したいと思う。

した。

先生は晩年、小さなお猪口に水を1個の、日本酒オンザロックを旨そうに味わっておられたが、何ともカッコよくて今でも時々真似をしている。

「先生には合唱のほかに酒の飲み方を教えてもらった」との声を随分聞きました。

GバーからCバーへと続く我が団の「文化」？は合唱に加えてなお和を醸し出す力なのでしょう。

あの酒蔵を思い出します。

ローマのコンサート大成功

須賀さん(「雷」の囀「水のいのち」の囀)と井上齊さん(「雷」の囀)からの臨場感あふれるお便りを紹介

○須賀さんから 4月22日

仙台・東京・横浜・静岡・岡谷・名古屋・京都・大阪・神戸・鳥取・広島・熊本・長崎から120人。二つの大きなミサ、5ステージの演奏会、最後の合同練習オワリ。現地集合5月3日。

○須賀さんから 4月25日

バチカン、ジュリア聖歌隊創団500年記念、枢機卿ミサと一緒に。それに参加する「平和の祈り合唱団」は、高田三郎の典礼聖歌を携え渡伊します。別途演奏会ではジュリア聖歌隊ポール神父に指揮を仰いでパレストリーナ。その他高田作品「ヨハネによる福音「水のいのち」」は全国から集まった140人。5月1日出発です。本日本阪勢は玉造教会に集結、池永大司教の司式で本格的なミサを挙行。全員が感動の裡に大司教の祝福を頂きました。行ってきまーす。

○井上さんから 5月3日

ローマ2日目。8時から18時

までよく歩きました。いよいよ明日から本番です。日本語ミサがかわきりです。

○井上さんから 5月4日

ローマ3日目終了。本日は午前中にサンタマリア・デリ・エンジェル教会で日本語ミサを行いました。午後は明日のリハール。明日はヴァッレ教会でコンサートです。午前中はお土産調製の予定です。

○井上さんから 5月5日

昨日はヴァッレ教会での演奏会でした。お客さんも沢山入り大成功でした。かなりいい反響のようです。今日はヴァチカンで法王ミサです。今、席に着きました。

○須賀さんから 5月9日

5月3日、サンタマリア・デリ・エンジェル教会。南山大学で合唱団の指導もされている西脇純神父の司式で、高田三郎の典礼聖歌で日本語歌唱ミサ。祈りに満ちた西脇神父の司式、奉

献唱。会堂をふた廻りも三廻りもする残響のなかで、140人の大聖歌隊。いままで西欧から与えられるだけだった教会音楽。今、日本人が日本語で作った日本の聖歌が、ミケランジェロ設計の大会堂を満たしました。

○須賀さんから 5月9日

5月4日、サンタンドレア・ヴァッレ教会。聖堂正面聖アン Dreア殉教の大壁画。3台の山台設置、140人の大合唱団です。最初は男声合唱による高田三郎典礼聖歌(指揮鈴木順)。難曲「ヨハネによる福音」は快演。昨日の歌唱ミサ第2朗読がそのまま続く内容だけに気合充分。第3ステージは再び男声合唱。ヴァチカン・ジュリア聖歌隊隊長ポール神父に指揮して頂いて、パレストリーナの名曲。後半は女声も加わって、パレストリーナと高田三郎、同じテキストのものを2曲、交互です。最後は「水のいのち」。熱狂的スタンディング・オヴエイション。アンコールの最後は会堂大オルガンを使い、女声が客席両サイドに廻って「行け地の果てまで」で終演しました。

「高田三郎生誕100年」コンサート

北とびあ合唱フェスティバル(梶浦喜幸)

6月7日王子北とびあさくらホールでの高田作品記念演奏が行われた。10団体出場。須賀さん指揮の女声アンサンブルアトリエは「心の四季」の3曲を好演。大きな拍手を受けた。3曲目の「愛を以て風」では須賀さんが「デキゴコロ」(Tubato)を發揮しだすと、アトリエさんの諸姉は見事に寄り添って、絶妙な愛の疾風を聞かせて頂けた。須賀さんは中間での高田音楽

を語り合うトークタイムにも参加。最後の合同演奏の1曲を指揮する予定だったが、急遽鈴木茂明さんと交替となった。終演後、協会幹事の方に聞いたところ、大事はない、回復傾向にあるけれど指揮を譲られたようだとのこと。ローマから帰国後、腸と泌尿器の異常で入院され、退院後の日数も少ない状態での演奏会だったが、ひとまず不安は払拭された。(河合)

Scasca 楽語迷解

発音の指導に地名が...

「いねかり ゆうやけ いなごがとんだ」

い。が、指導は的を射ていて心地よい。

「いねかり」の歌詞はほんの7小節と短い。それだけに一語一語の響きが大切。「いなごがとんだ」の「飛んだ」は、摂津富田(とんだ)のとんだじゃない

「母音が重なったときは、終わりの母音にアクセントがくることは絶対ない」と。

「……」と地名が出てくる。

「サンクトウスはダメ。芦屋(アシア)はない。湯布院(ユフイン)はいい……」

たしかにー。わかりやすいけれど、須賀さんの会話のテンポは知識がないとついていけない

旅をしたくなる、楽しい練習なのです。(楽語委員TS)

沖縄男声 フランス公演盛會

沖縄男声合唱団は5月はじめにフランスへわたり現地の合唱団とジョイントの演奏会をひらき、成功を収めました。同団のニュースに載った同行の方、現地の新聞の記事を紹介します。

嘉数昇康（同行者）

「今回、40周年にもなる伝統ある沖縄男声合唱団フランス公演旅行に、昔、団員の大湾先生にフランス語を習ったという縁で参加できることになり、大変嬉しく思いました。

ParisとMetzの2ヶ所で地元合唱団との教会での公演は、独特の雰囲気と音響効果で大変感動的でした。また、今回の旅行はVezinさん、Jeanneさん現地受け入れ側の手配段取りも素晴らしく、また、大湾先生の獅子奮迅の活躍で、家内ともども大変楽しくすごさせてもらいました。また、団員の皆さん、ご家族も和気あいあいと楽しく付き合わせて頂きました。役割分担もはつきりして、うまく統率のとれた合唱団だと思えました。合唱団のさらなる活躍を期待いたしております。」

フランス現地の新聞記事から

(Le Republicain Lorrain
Mardi 30 Avril 2013)

「日本人とトゥール市民が声を合わせて」

（露）メッスのヌーフ教会で来る5月1日17時から特別なコンサートが企画される。ストラスブルグ日本総領事の後援のもと、パリ日仏協会、メッス・ロレーヌ日本協会の協力により沖縄男声合唱団とトゥールのア・クールジョワ合唱団が、その歌声を合わせることにになりました。

メッスの音楽愛好家に、合同で日本の歌と世界の歌の広いレパートリー、またクワヴィと同時代の作曲家テオドール・デュボワによるミニサ曲も演奏されます。

昨日、この出会いの先がけに、30名ほどの沖縄男声合唱

団のメンバーと同行者達が公式に市役所で歓迎を受けました。自分たちの文化を外国に紹介したい、同時にヨーロッパ文化を肌身で感じたいと彼らは伝えました。その目的にも沿うように彼らはメッス市を解説付きで訪問、また、今日はナンシー市を訪れます。

演奏記録

パリ／サン・ランベール教会

（パリ15区内の教会）

メッス／ヌーフ教会

曲目／だんじゅ嘉利吉、海の子

ンボウラ、男の子の子守歌、

鳩間節、谷茶前之浜、Ride

the chariot、夜来香、おお

シャンゼリゼなど

合同曲目／Ave verum corpus、

Dead river、Ave Maria、さく

ら

◆シニアコーラス・フェスティ

バルin沖縄が那覇で開催、これ

に福岡合唱協会の男声有志が10

名参加、沖縄男声のバリ行きの

留守番メンバーとコラボレーシ

ョン。これは福岡の古森さんと

沖縄の塩浜さんとの思わぬ出会

いによるものだった。「実に美

声。立派なことです」との評

も受けた。そのいきさつは次に

続く古森さんの文章をどうぞ。

（「沖縄男声」ニュース「第3号」より）

沖縄男声・福岡人口合唱協会の 那覇市民会館で合同演奏

古森 英（俳句・蘭学）

4月21日に那覇市でシニアコーラスフェスティバルが開催され、私が現在歌っている福岡合唱協会（混声）の男声部と沖縄男声合唱団が一緒に合同で参加しました。

事の始まりは一年前にさかのぼります。昨年の4月22日に北九州市に於いてシニアコーラスフェスティバルが開催されそれに参加していました。前日の交流会に私他一名が参加し、適当にアルコールも入って少々酔いも回り、私の声も一段と大きくなって目立っていたのでしよう。後ろから「お久しぶりです」との声、振り向くと沖縄男声の塩浜氏が立っていました。思わず「何しに来たんですか」と問うと、来沖縄でシニアフェスティバルを開催するので、合唱連盟沖縄支部理事長としての視察で来ているとのこと。

「それなら私も来年は参加します」と無責任にも言葉を発してしまいました。塩浜氏の隣に立っていた沖縄事務局の女性の方が非常に喜んでいて、塩浜氏

はやはり大人ですね「いま古森氏は酔っぱらっているから当てにしない方がいい」とあまり当てにはされていませんでした。昨年の12月ごろから申し込み手続きを行いました。混声合唱団の福岡合唱協会の参加状況が、女声陣は家族の面倒など都合により参加できず、男声もやと二桁の10名を超す程度で、人数が不足気味でありました。そこで沖縄男声に合同の参加を呼びかけましたところ、9名の参加者を選んでくれて、20名を超えた男声合唱団が誕生しました。

今まで沖縄男声とは合同の演奏を行ったことはなく、共通の曲もない団体なので、沖縄男声のレパートリーで、「だんじゅ嘉利吉」「男の子の子守歌」「海のチンボーラ」の3曲を選びました。

福岡合唱協会では初めての曲でもあり皆さんイメージを掴むのに苦労したようです。なんとか歌えるようになりフェスティバル前日の合同練習に臨みまし

た。古森指揮の合同練習では沖縄男声のバックアップで十分練習ができました。練習後は福岡のメンバーは那覇市で夕食、その後、その足でカラオケに行つて喉を馴らして翌日に備えました。備え過ぎの人もいました。

当日、フェスティバルの会場は那覇市民会館。我々のステージは、かりゆしウエアに揃えて壇上に登場。一曲目から大拍手、三曲歌い終わると割れんばかりの大拍手。休憩に入る前に「いざ立て戦人よ」を舞台上から客席に参加を呼びかけて、ステージに上がりきれないくらい200名を超える人数で歌いました。この合同の指揮も古森がいたしました。(塩浜さん、このように仕組んでくれてありがとうございます。また、かりゆしウエアを揃えたことについて演奏会の感想で、中村透先生に「沖縄の経済に貢献している」とのお褒めの言葉をいただきました)

夜になれば、沖縄男声と福岡合唱協会男声部との交流会。照屋さんのお世話で、おいしい琉球料理をいただきながら次第に盛り上がり、どんどん声が大きくなり歌も出て、店の中は騒然となりました。皆がくたびれたところで終了、解散。

沖縄観光にも行きました。到

着したその日は那覇市小祿の旧海軍司令部壕公園で慰霊を行ない首里城の見学。コンサートの翌日は今帰仁城址ではるか昔をしのび、ちゅら水族館でジンベエ鯨や大きなマンタに各人目を見張らせていました。

沖縄男声合唱団の皆さん、本当にお世話になりました。おいしい食べ物もありがとうございました。

またいつか会えればと思っています。ありがとうございます。

いそべとし記念男声合唱団、沖縄男声合唱団の皆さん。九州においての折りは是非、最近私の温泉旅館(オーナーになったばかりです)「竜門 山溪館」(温泉県大分県九重町にあります。中古なので少々手を入れます。必要があり、準備期間が必要でありますので、来年夏に開館する予定です)でゆっくりお湯に浸かって体を休め、飲んで歌って楽しい時間をお過ごしください。合唱の合宿や日帰りの練習などができるようにグラントピアなどの設備は整えようと思っています。ここを拠点に九州内のコンサートグラントピアも素敵ですね。是非ともお越しください。お待ち申し上げます。

二月の「クジャク」に続いてろばの会の組曲「チュウちゃん」シリーズ。
「はらがへったら ぐってやる」「じゃまな やつらはふみつぶす」とトラは鼻息が荒い。ナレーションではチュウちゃんは、「ト、ト、トラが、こっちへやってくる」と怖がるのだ。トラはライオンのように恐れられていた。

トラとライオンとどちらが、いそべ男声メロディー・歌の博物誌44

ウオーウオー
ジャングルウオー
トラさまだ

「トラ」清水たみ子詩 宇賀神光利曲
澤野 勉(子)

強いのか? これは現実には対決は実現しない。動物学者の観察によると、大型の肉食獣が相対して争うことはあり得ないという。肉食獣の主食は草食獣で、アメリカの動物学者シャラーはインドでトラの食物の70%はシカだとしている。ただ、生態系の変化で、人が食われることもある。一九〇二年には、インドでは千人を超える人間がトラに食い殺されたという(『食べる生きる動物たち』木戸豊野・金

沢文庫)。
*
教師、先生に当たる中国語が老師(ラオシ)。若くても老の字がつく。
トラ(虎)は中国語で老の字がつく。これは虎に対する畏敬の思いがあったことによるのだらう。中国語は漢字の音(お)がひとつなので、音のフーだけでは同じ音がいくつも出てきて判別しにくい。そこで、フーの音の

それだけにトラの字のつく諺のたぐいは多い。「虎の威を借りる狐」は有力者の権勢をかさに着ていばること。「虎に翼」は「鬼に金棒」と同じ、力の強いものが更に勢いを添えること。要はトラの強い者、力あるものを表している。中国では、身近にトラがいたこともあるのだらう。日本でいう「飼い犬に手をかまれる」は「養虎被虎傷」と犬が虎になる。



家(内輪)で威張っているが、外では力のないことをいう「内弁慶の外地蔵(まな外蔵)」にあたるのが「在家是老虎、出門是豆腐」と、なんと強い者の形容にはトラが、その対極に豆腐が置かれている。

酔っ払いをいう「トラ」は始末におえない者をいうことから呼称だ。

西アジアの大河チグリス川は、ラテン語のトラ・ティグリスから名付けられた。トルコ語ではデュクレ。これも氾濫が続き、トラのように手におえなかったことによるのだらう。

(カットも筆者)

総務だより

※4月28日委員会報告

●東京都合唱祭

日程／7月14日(日)予定

・7月14日の14時～16時30分のPブロックで申し込み。5月18日に最終決定予定。

*希望通り決定。詳細はスケジュール頁参照。(宮田)

指揮／横田先生

曲目／おやすみなさい、松の花

服装／ポロシャツ、チノパン

●強化練習スケジュール

夏と演奏会直前(11月)の2回の強化練習を実施決定。

・夏／7月20日(土)13時～19時

(練習後Cバーなし)

7月21日(日)13時～17時

(練習後Cバーあり)

・直前／11月9日(土)

11月10日(日)

●磯部徹先生生誕祭

・7月28日の定例練習後17時に

実施する方向で検討。ケータリング方式で。

●総会

期日／8月25日(日)(定例練習日)16時～17時

《継続議題》

●40周年記念演奏会のチラシ作成を早めに

●4ステの曲目決定を早めに

・案:「いそべとし叙情歌集」

犀川、林の中、いねかり、月夜、松の花、白南風の歌、いろいろ(以上安部さんより)

●ステージ構成

①いそべ叙情②ミサ③優しい

愛の歌④チュウちゃん

・以上、須賀さんから、こう行きたいが、1、2、3で飽きるかなとのコメントあり。

●来年のニューイヤールの日程調整を早めに(会場の抽選が7月にある)

●市川総合病院お座敷は進める方向で

(未申し込みだが実施は来年に

なる見込み:河合)

●女声アンサンブルアトリエ第14回北とぴあ合唱フェストに出

演(高田三郎生誕100年記念)(須賀先生指揮)入場料2500円

円↓大西さん扱い

●沖縄男声との合同演奏会

・2014年の夏前に決定する須賀先生の日程確認。

※5月26日運営委員会

●東京都合唱祭細目決定

・日時／7月14日(日)14時～16時30分のブロックで決定

・会場／新宿文化センター大ホール

・13時30分現地集合

・曲目／おやすみなさい、松の花

・服装／ポロシャツ、チノパン

*7月14日の豊洲文化センターはキャンセルする

・打ち上げは4000円程度の飲み放題で設定するか

●忘年会日程

12月22日は昨年度会場のアル

テリーベ・トウキョウ(渋谷さん紹介)は塞がっている。他の場所か日時を変えるか ↓継続検討

★決定事項

・強化練習スケジュール

7月20日(土)13時～19時

7月21日(日)13時～17時

11月9日(土)

11月10日(日)

・磯部先生生誕祭は7月28日の定例練習後実施。17時よりケータリング、3000円程度のメニューで

・総会／8月25日16時～17時

・永井先生欠席の対応

6月9日石野さん依頼済み

7月28日はピアノなし

10月13日石野さん依頼済み

★継続議題

・40周年演奏会チラシを早めに作成(4ステ曲目早めに決定)

・来年のニューイヤールの日程調整を早めに(7月抽選) ↓須賀監督の日程を6月中に確認。

・市川総合病院のロビーコンサートを進める(10月10日の希望が病院側からあったが、検討の結果スケジュールに無理がある)

・高田三郎生誕100年記念演奏会にアンサンブル・アトリエが出演する。6月7日北とぴあ

さくらホール(大久保混声、コール・コスモス、盛岡コメント等出演)入場料2500円

・沖縄男声との合同演奏会日程を夏前に決定する。須賀監督日程確認。

●4月28日

発声／横田

曲目／Sanctus、Benedictus(三上)

上)／サル山、カバ、クジャク、アナグマ(大西)／「優しい愛のうた」全曲(安部)、おやすみなさい、松の花(横田)

●5月12日

発声／三上

曲目／「優しい愛のうた」さかな、片耳の大鹿よ(安部)／「チュウちゃん」クジャク、カバ、サル山(三上)／Kyrie、Gloria、ミサ曲全曲通し(二上)

●5月26日

発声／横田

曲目／Sanctus、Gloria(三上)、片耳の大鹿(安部)、子ジカ、ラクダ、ヤマアラシ、クジャク、松の花、おやすみ(横田)

●6月9日

発声／三上

曲目／いろいろ、白南風(安部)、ゾウ、ペンギン、アナグマ、キリン、サル山(大西)、Sanctus、Gloria(三上)、おやすみ、松の花(安部)

●新田義邦さん(留置、豪帝在)

5月26日のCバーに来訪。

●決定事項

・強化練習スケジュール

7月20日(土)13時～19時

7月21日(日)13時～17時

11月9日(土)

11月10日(日)

練習日記録

●4月28日

発声／横田

曲目／Sanctus、Benedictus(三上)

上)／サル山、カバ、クジャク、アナグマ(大西)／「優しい愛のうた」全曲(安部)、おやすみなさい、松の花(横田)

●5月12日

発声／三上

曲目／「優しい愛のうた」さかな、片耳の大鹿よ(安部)／「チュウちゃん」クジャク、カバ、サル山(三上)／Kyrie、Gloria、ミサ曲全曲通し(二上)

●5月26日

発声／横田

曲目／Sanctus、Gloria(三上)、片耳の大鹿(安部)、子ジカ、ラクダ、ヤマアラシ、クジャク、松の花、おやすみ(横田)

●6月9日

発声／三上

曲目／いろいろ、白南風(安部)、ゾウ、ペンギン、アナグマ、キリン、サル山(大西)、Sanctus、Gloria(三上)、おやすみ、松の花(安部)

●新田義邦さん(留置、豪帝在)

5月26日のCバーに来訪。

●決定事項

・強化練習スケジュール

7月20日(土)13時～19時

7月21日(日)13時～17時

11月9日(土)

11月10日(日)

●決定事項

・強化練習スケジュール

7月20日(土)13時～19時

7月21日(日)13時～17時

11月9日(土)

11月10日(日)

●決定事項

・強化練習スケジュール

7月20日(土)13時～19時

7月21日(日)13時～17時

11月9日(土)

11月10日(日)

SCHEDULE

豊洲：江東区豊洲文化センター
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

顔：須賀監督指導・指揮 欄：横田先生発声指導

○運営委員会は原則として第4日曜日11:00練習場にて開催

2013(平成25)年

Cバー

2 B

6月23日(日) 定例練習欄 13:00~17:00 豊洲
☞ 7月14日(日) 東京都合唱祭 ☞ 13:30集合 新宿文化センター
欄指 13:40~13:55リハーサル
16:00~16:07本番・曲目／おやすみなさい(「優しい愛の歌」より)、松の花
(終了は16:17) 服装／ポロシャツ、チノパン
(出演はPブロック12団体中の11番目)

20日(土) 強化練習 13:00~19:00 豊洲

なし

21日(日) 強化練習欄 13:00~17:00 豊洲

1 T

28日(日) 定例練習欄 13:00~17:00 豊洲

2 T

磯部倅先生生誕祭 17:00~

(会費3000円)

8月11日(日) 定例練習 13:00~16:00 豊洲

1 B

25日(日) 定例練習欄 13:00~16:00 豊洲

総会 16:00~17:00 //

0バー(2B)

☞ 9月29日(日) 道志川合唱祭

☞ 10月27日(日) 江東区民合唱祭

会場／江東区文化センター(東陽町)

11月 9日(土) 強化練習

10日(日) 強化練習

☞ 12月 1日(日) 40周年演奏会

会場／ティアラこうとう大ホール

曲目／①磯部倅叙情歌集②ミサ曲③組曲「チュウちゃんが
動物園へ行ったお話」④組曲「優しい愛のうた」
(以上曲順は未決定)

? 忘年会

2014(平成26)年

沖縄男声との合同演奏会(日程未定)

編集後記

▲Cバーのこと、井上さん、ローマの土産話を聞いていたら、「スリに遭っちゃってねえ」というのです。▲女の子が突然ダンボールを胸に押し付けてくるのでハッとしたら胸のポケットからカード等が入っている物入れを抜きとった。すかさず追いかけたら、それをポイッと投げて逃げていったそうです。井上さんは金持ちに見えたのだ▲外国旅行でよく聞く話です。小生の女房の仲間同士のローマ旅行でリーダーが狙われた話を聞いていました。その時は現地の人(つまりイタリアの人)が追いかけてくれたそうです。空港のロビーでの荷物の置き引きも多いようです▲井上さんは機敏に行動できたので、旅が不愉快になるのを防げたのですが、おおよそ日本ではあまり聞かないことです。井上さんのローマ・レポートのオマケです■「40年」の原稿待ってます。40周年コンサートへの気持ちがいっぱい高まることを願っています。

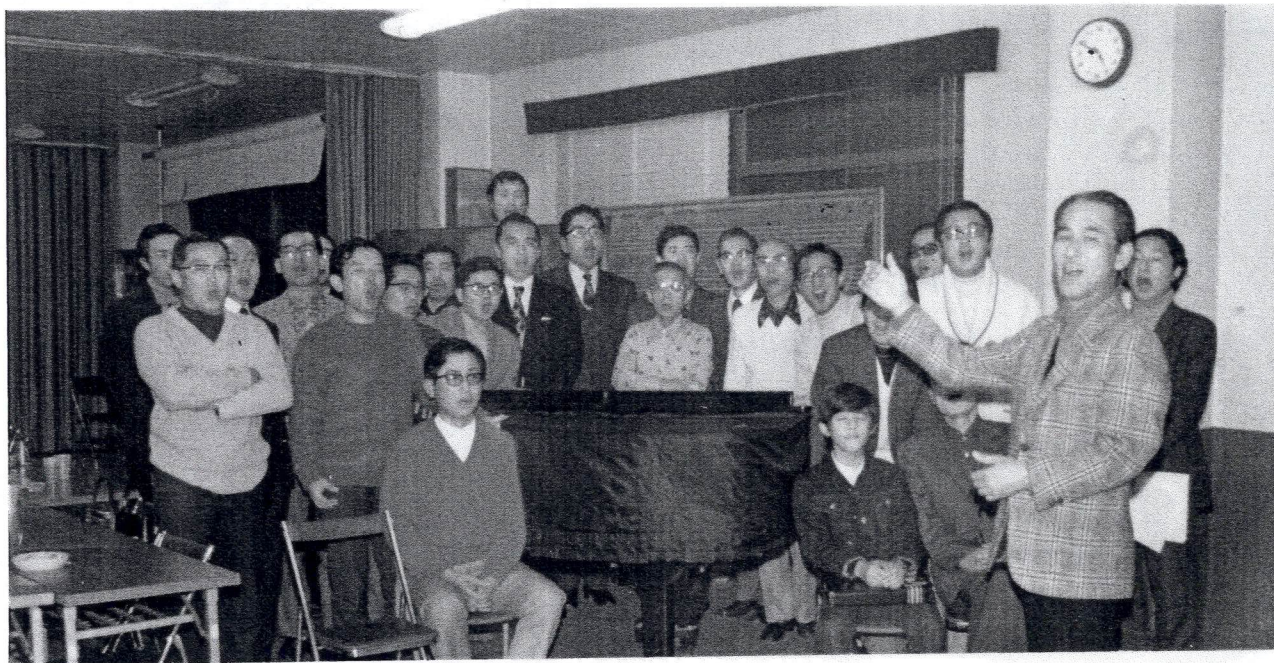
(河合)

いそべとし記念男声合唱団ニュース

2013年 7月 第380号

発行代表者:戸丸悟(総務)〒135-0053 東京都江東区辰巳 1-8-45-302 ☎03-3521-6898 FAX 同
E-mail isobechorus@hotmail.com URL <http://www.geocities.jp/isodanchorus/>
編集:河合隆一(広報)〒272-0031 千葉県市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同

→1976年、Gバーが始まったこのフレール館での練習風景(提供:澤野、撮影:長田)



「40年をテーマに自由にご書いてください」続

続々原稿到着。嬉しい悲鳴です。到着順に掲載します。
切は過ぎましたが書きたい方はどうぞ。次号も続けます。

発声について学んだこと

大澤 寛之(2B)

いそべ男声に40年在籍して最大の収穫は発声学を理論として学び、自分なりに理解出来たことです。過去にもいろいろなトレーナーに習いましたが、殆ど歌手としての経験から覚えたもので、その人個人には有益ですが、万人向きとは言えないものがあつたと思います。発声学にも手順があります。偶然なのか誰かの意志が働いたのか判りませんが、これがいそべ男声の場合は理想的でした。

最初に、伊藤さんから声を出す前の心と身体の整備方法を学び、次に捻金さんからブレスの仕方を学びました。基本的には

Cバー(旧Gバー)の効用

川野辺直雄(1B)

Gバーの開設は、団が産声をあげた一九七四年七月七日から

一〇ヶ月経った、翌年五月である。第四号のニュースには、磯

これで声が出るようになり、発声学は終了と言えるそうです。その後、出る声を実際の歌でどう上手く使うかを早瀬さんに時間をかけて徹底的に訓練していただき、最後に最終目標である合唱の中に如何に取り込むかを横田さんに学んでいます。
声は声帯から出るもので、声帯は生来のもので人により違います。当然理論は共通であつても実行するときは自分に合ったものでないと効果は出ません。この意味で、自分個人の発声の確立を目指して今後とも勉強して行きたいと思っています。

部さんの提案による「フレイベ
ルの練習場に『ポトルコーナー』
を設ける」という記事がある。

ハモったあと持ち寄った酒とつ
まみでのどをうるおしつつ、ゴ
ルフの自慢話でも商売の話でも
何でもいい、ダベってから帰ろ
うという趣旨であった。

当時、磯部さん手書きの楽譜
を自動販売機システム（その頃
は珍しかった）でお金を集めた
が、バーも同様にシングル一杯
一〇〇円をお皿にいれ、それを
次の回の資金にしていた。その

うち面倒になって一回五〇〇円
になったのだと思う。

飲み助ばかりの談論風発の中
から「練習が月一回では足りな
い。二回にしよう」とか、沖縄
やカナダへの遠征などが固まっ
ていくいきさつがニュース記事
からうかがえる。

特に興味深いのは、オリジナ
ル組曲「なんなんななつの」は
Gバーでの雑談の中で誰かが先
生に出した「譜面が易しく聴く
人にすばらしいと感じてもらえ
る曲を！」との注文を先生が聞

心の支えになつた言葉

永井 博子（ピアニスト）

「この人に伴奏をしてもらうと
僕は安心なんだ。だから僕の新
曲はみんなこの人をお願いして
いるんだよ」

17、18年前、いそべサロンに
てレッスンに見えたソプラノ歌
手に私のことを紹介して下さっ
た磯部先生。

「博子ちゃんが来てくれて、い
そべ男声は息を吹き返しました。
本当にありがとう」

いそべ男声と沖縄男声の東京
での合同演奏会の打ち上げで、
私の夫に言って下さった須賀先
生。
「僕たちは、もう博子ちゃんの

ピアノでしか歌えなくなつて
るね」

先日の浜松での演奏会の打
ち上げ後に語りかけて下さっ
たベースの長島さん。

Cバーを途中で失礼して、
夜空を仰ぎ見るとき、自然に
「倅先生、和先生、こんなス
テキな方達に出会わせて下さ
ってありがとう」という思い
が込み上げてきます。

40周年演奏会では、今まで
私を支えて下さった皆様への
感謝の気持ちにあふれたピア
ノを弾きたい。

き届けてくれて誕生したことだ。
（詳しくはニュース41号と磯部
倅著『遙かな友に』138頁）

譜面は簡単でも先生の求める
音楽表現はむずかしく、このあ
とかなりシゴかれたとのことだ
が、昭和五四年の創立五周年の
コンサートでこの曲を初演、続
いて第一回沖縄合同でもいいハ
ーモニをきかせてくれた。

この時沖縄側だった私は、暗
譜でのこの演奏に感動した。
私が沖縄から戻ってすぐの昭
和五五年一二月からはGがCに
変わった。

Gバー時代は、五年余りと短
かった。練習会場が江東文化セ
ンターに移り、Cバーは別に場
所を移して開かれたので、時に

偶然のえにし

村岡昭一郎（2才）

「胡馬北風に依り、越島南枝に
巢くう」 父が町長として発行
した町史の父の序に誨えられ
た 駿禽さえも 故里を慕う
盤寿を越えて「故きを温ねて」
いる

古里は 高知県安芸郡田野町
この町は 四国で いちばん 小
さな町である 字 浜田は 裏庭
から 浜へ 土佐湾へ 沖は 黒

は隣の部屋の集りが「断酒会」
だったらしい思い出がなつかし
い。

指揮者がおいしい酒にこだわ
る須賀さんになってから、ポト
ルコーナーには各国、各地方の
銘酒が林立してCバーは繁盛を
極め、時々副指揮者たちが須賀
さんから棒ふりワンポイントレ
ッスンを受けるなど、バーの効
用は拡がっていく感がある。

時折訪れるゲスト達もCバー
を楽しんで帰るが、口々に驚い
た！ と言うのは、40年の伝統
とも言える参加者全員によるバ
ーの設営から素早い後片付けに
至る手際のよさだという。誇り
にしてもよいことだと思う。

潮の奔流する 太平洋である
先史は海底だった 大地震で隆
起し 海岸段丘となった ドイ
ツの地質学者による

「古事記」に「イザナキノミコト
伊邪那岐命とイザナミノミコ
ト伊邪那美命の第一子がアハ
ジホノサワケの島 淡路島 第
二子がイヨノフタナの島 四国
である」「この島は、身体が一

つて顔は四つあった。伊予の国
をエヒメ、讃岐の国をイイヨリ
ヒコ、阿波の国をオオゲツヒメ、
土佐の国をタケヨリワケと名づ
けた。」とある

※僻販（ききう・片倉）

その土佐は 紀貫之が約千百
年前 京に向け 五十五日 辛苦
難渋した 僻販である 承平四
（九三四）年十二月二十一日午
後八時 帰国の途につく 二十
日ほど掛けて 一月十日 隣の
奈半利に到っている 今では
我が 国最後の私鉄 土佐くろし
お鉄道で 一時間ほどである
母方の 草創の地である
土左日記には「それのとしのし
はすのはつかあまりひとひのひ
のいぬのときにかどです」
「十日けふはこのなはのときま
りにとまりぬ」とある

土左日記の この「なはのときま
り」を「那波の泊」とする 記述
がある 太古 先住が 沖縄の
那覇から 黒潮に浪され 偶然漂
着した 望郷の名残ではないかと
惟った 奈半も 那覇も 漁場
（なば）を表すとする説がある
まわりは 海である 古来 漁場
は 枚挙に暇ない しかし「な
は」の地名は 浅学にして ほか
を 識らない

鎌倉時代の初期 京都から 朝

廷の最高機関の一門という公卿が配流となって、田野の北方高田山に来て城を構え高田法橋(高僧の尊称)と名乗った京都の公卿大野豊前守が応仁の乱のころ来住し大野山に城を構えた。高田領と大野領の疆を標す石がある。高田と大野で田野になったという娘の嫁入り先が偶然大野という。

高田法橋の開基になるお寺に知る人ぞ知る幕末殉国草莽の志士仁人二十三烈士や第二十七代浜口雄幸内閣総理大臣の奥墓がある。

先祖から父母まで田野だが神奈川県高座郡藤沢町鵜沼で生まれた戸籍謄本に拠る生誕の地鵜沼を訪うてみようと思つて地図を当った。

村岡という字が目にとまったあまり聴かない名前だ。まして地名などお目にかかったことがない。慥に村岡という地名である。村岡東一丁目から四丁目まである。弥勒寺と町名は渝わるがそこに村岡という中学校小学校幼稚園保育園公民館がある。闊い村岡という地名を東と西に岐け西を寺の名前をとって地名とした弥勒寺も一丁目から四丁目ま

である。村岡という処はもと随分闊かったのだと愕いた。愕くなかれ村岡城址公園まであった。

「村岡城址と伝わる場所が藤沢市村岡東にある。現在は村岡城址公園となっている。(中略)城址碑が建っている。碑文は額元帥伯爵東郷平八郎書」

「村岡城の地位は古来武相の要衝に在り、往昔從五位下村岡五郎平良文公(中略)の居城なり、蓋し其の築城は今を距ること約一千年に属す。平良文は(中略)多くの莊園を有し威を関東に振るいたり。(中略)後裔に秩父平氏の一族渋谷庄司重国あり、其の孫實重は薩州東郷の祖なり。昭和六年村岡城址を史蹟として縣廳より指定せらるる。(中略)城址に碑を建てて以後昆に傳ふ村岡城址の碑と云爾。』昭和七年十月三日海軍中將東郷吉太郎撰書」

村岡郷土史研究会の『村岡の歴史』という小冊子による。なお村岡五郎は桓武天皇の玄孫である。昭和六年は偶然吾生誕の年である。

「夕やけこやけでひがくれて……」たそがれるころ子供たちの通った小学校から刻を告げるチャイムがながれる。湯ぶねに浸りながらときに郷愁を覚え

運(こぞ)

た。移り住んで四十年に余る逕ひとつ挿んで草川信(作曲)の洋館がある。偶然いそべで唄わせてもらった。終の演奏会になるかも知れぬ。四十周年で冥土の土産に唄えたらとふと不遜なことを夢みた。

極めつきは中学から大学の同期土佐寮同室の須賀が磯部さんのあとに関西から顕れたときは怪訝ですらあった。「はる友」の道志川の「といた」でお世話になった先輩がいまなおいそべの先輩である。すべて偶然の為業であらうか。

津田左右吉著「必然偶然自由」角川新書によると「客観的な事実として見れば、自然界にも人の生活にも、偶然といふことは無く、どんなこともみな必然的なのである。いはゞ偶然に起こったことが必然的にさうなつたのである。」とあった。

おわりにいそべのみなさんに折りいっておねがいがある。四十周年を駕ぎ斫れたらあらためておねがいしたい。「蓋の願」をおききとどけただければ幸甚である。

再出発したいそべ男声 初の大冒険——伊丹

長田 茂(ふし)

須賀さんが磯部さんから託されたいそべ男声、その最初の大冒険は、やはり、二〇〇一年二月の、伊丹での「須賀敬一とその仲間たちのジョイントコンサート」だったでしょう。

磯部さんの手のひらの上でぬくぬくと歌ってきたいそべ男声、初めて経験する、格の違う相手との「他流試合」という感じでした。実力も実績もある錚々たる合唱団の間に入って、自分たちが恥をかくのは仕方がないとしても、須賀さんに恥をかかせるわけにはいかないと、真剣に練習し、悲壮な覚悟で臨んだ演奏会でした。

私の40年

戸丸 悟(ご)

40年前、今年還暦の私は二十歳でした。大した目的もなく憧れていた東京に出てきて、それでも興味のあった演劇をやろうと、ある学校の演劇科で勉強していました。それを曲がりなり

二十二年前、合唱でもやってみようかと思ひ、江東混声に入り、勧められるままにいそべ男声にも加わりました。楽譜の読めなかった私は、新曲は、その日は歌えずにカセットテープに録音して、次の練習までに覚え

注・この時の演奏曹(松の花、梨車、學すの唄)

てくる。そんな年月を重ね、最近はどうやら楽譜も少し読めるようになりました。

須賀先生がいまして合唱に対する情熱を教わり、三上さんがシユガーズに来てハモリの楽しさを味わい、ようやく合唱の楽しさが分かった気がします。

40年続けてきた演劇では、今年上演した作品を作っていく過程で、「これがあれば他には何もいらない」というような、こ

宝 物

昭和28年4月、早稲田大学に入った私は、同じ出身高校でしたが全く見も知らぬ先輩（福井忠雄さん）の新人部員勧誘に誘われて、それまで経験したことのない合唱の世界に入り込みました。

卒業後、いそべ男声に入ってから、不器用な私には、複数の合唱団に同時に所属することは出来ませんでした。いそべ男声の活動の広がりの中で、多くの素晴らしい方々と知り合うことが出来ました。

そしてやはり、いそべ男声のメンバーの方々とお付き合いは、格別です。本当に尊敬できる先輩、同僚各位、歴代の素晴

れまでになく充実感、満足感を味わいました。

ハモった時、作品が表現できた時、表現しようとした時、またそれに向かっていくとき、やはり同じような充実感があります。

他の何物にも代えられないそんなものを味わえる合唱を、これから前のめりに続けてゆきたいと思います。

宮 田 茂 (子)

らしいピアニスト、ボイストレーナーの皆様は、私の最高の宝物です。

いそべ男声は、Cバーをのぞいては語れません。それぞれ皆個人的な悩みを抱えておられるのでしようが、いまだかつて、Cバーでそれを聞いたことはありません。いろんな酒の席がありますが、私にはCバーでのお酒が一番です。

須賀先生ほかコーチ陣の方々のお陰で、自分の音もっているいそべ男声は、まさに世界にたった一つの合唱団だと思い、「この幸せが、いつまでも」願っています。

四十周年五首

澤野 勉 (子)

いつの日も歌う仲間の集い来て
星霜数えここに四十よそとせ年

四十年を歩み来りし友どちと

Cバーでハモル 安きひととき

出戻りの弁

大西 紹夫 (子)

わたしが「いそべ」に入団したのは、40年前とはいきませんが、36年前の1977年でした。しばらく前に大阪から東京に転勤し、合唱団を探していました。たが、豊中混声と一緒に歌っていた新田さんが、いそ男にいられることを知り、お願いして入れていただきました。

丁度、藤ヶ岡コーラスの定演や、鎌倉パブリックでの第四回いそべとし・マスターズ、できたての「おおば」での合宿（その頃の「ニュース」の写真にチラッとわたしが！）などに参加したことを思い出します。

その頃のいそ男は「なんんななつ」を磯部さん自筆楽譜で練習を始め、五周年記念演奏会を大隈会館でやることの計画

カナダ・ドイツ 思いはめぐる歌の旅
四十年を経て また懐かしく

いそべ節といわれる響き心地よし
面影偲ぶピアノを聞きて

亡き友も雲の彼方で偲ぶらむ

歌・酒愛でしこの歳月を

たため、しばらくいそ男を離れていましたが、2001年に再びお仲間に入れていただいたという次第です。

これまでの「ニュース」を見ますと、その充実した内容に感服するとともに、担当された先輩方のご努力に、あらためて敬意を禁じえません。

一本の電話

田島 哲朗 (子)

わが団が発足した四〇年前の1974年といえば、私は入行7年目の若手行員だった。

その4年前に石油化学企業向けの融資班に配属され、融資業務の手ほどきをしてくれた課長が村岡さん(子)だった。

22年経過。1996年のある日、職場の電話が鳴った。村岡さんからの男声合唱へのお誘い

だった。村岡さんは職場で所属していた混声合唱団の先輩だったし、もう一度、部長・部長代理の関係でお仕えたことのある因縁浅からぬ間柄。一も二もなくお誘いに乗った。

12月に入団。江東区文化センターの視聴覚室（階段室）で、磯部先生の指揮による「新しい友」の洗礼を受け、もはや抜け

られない身となった。
最初に練習した曲が今また歌っている「白南風のうた」。
忘年会や翌年の新年会でも磯部先生の指揮でこの曲を歌ったから、よほど印象が深くなった

のか、磯部先生というこの曲を思い出す。
いそべの団員となつてはや16年。あの1本の電話に感謝しつつ、このかけがえのない合唱団で歌い続けたいと思う。

総務部だより

●6月23日委員会報告

①新春ファミリーコンサート＆パーティーの日程

・7月2日に抽選予定

・長田代表に抽選参加依頼

・須賀監督の日程（1月12日、1月19日）確認

・会場第1候補は江東区文化センター

（7月2日の抽選の結果は12日、19日両日とも外れで改めて日程を組み直すことに）

②江東区民合唱祭

・日程／10月27日（日）

・会場／江東区文化センター

・出演時間帯は〈第3部16時30分～19時〉

・服装／団ブレザー、ネクタイ

・当日の練習は16時ころまで

（練習場：古石場）

・曲目／おやすみなさい、松の花

③江東区文化コミュニティ財団

施設利用者登録申請

・9月から江東区の施設の使用申し込み方法がインターネット方式となるための登録申し込み。（提出済み）

④東京都合唱祭詳細

・期日／7月14日（日）

14時～16時30分 Pプロック、集合：13時30分

会場／新宿文化センター

・曲目／おやすみなさい、松の花

・服装／ポロシャツ、チノパン

・打ちあげ／16時30分ころより4000円飲み放題

⑤忘年会会場決定

・日程／12月22日（日）18時より

・会場／サンミ高松銀座本店

・会費6000円（予定）

★決定事項

⑥強化練習スケジュールについて（夏前と直前の2回実施）

・7月20日（土）13時～19時

21日（日）13時～17時

11月9日（土）

11月10日（日）

⑦磯部先生生誕祭

・7月28日（日）の定例練習の後17時から実施。ケータリングで。会費4000円

⑧総会

・8月25日（日）16時～17時

★継続議題

⑨40周年演奏会チラシを早めに作成する

⑩来年の沖縄男声との合同演奏会の日程→夏前に決定する。

・須賀監督に夏前には日程を確認する。

●40周年演奏会ステージ構成

・①いそべとし叙情歌集②ミサ

曲③チュウちゃん④優しい愛の歌

・いそべとし叙情歌集候補曲

犀川、林のなか、いねかり、

月夜、松の花、白南風のうた、

いろいろ（演奏順未定）

・後援とりつけはJAMCA、

東京都合唱連盟、江東区（50

組招待も絡めて）

●6月23日

発声／横田

曲目／いろいろ、白南風のうた（安

部）、子ジカ、ラクダ、ヤマ

アラシ（大西）、Kyrie（三

上）、松の花、おやすみなさ

い（横田）、P永井

出席／1、6、2、7、1、5、2、7

合唱団「柴刈」演奏会

8月4日（日）14時

文京シビック大ホール

第9回 合唱団「柴刈」演奏会

◆プログラム

- 1 混声合唱曲「島よ」
- 2 愛 唱歌 「くちなし、いねかり、花は咲く、他」
- 3 ゲスト 浮羽工業高等学校吹奏楽部「アンサンブル」
- 4 合同演奏 男声合唱 男声合唱組曲「月光とピエロ」「ふるさと」
混声合唱 ホームソングメロデー2から
早春賦・赤とんぼ・種子の笑

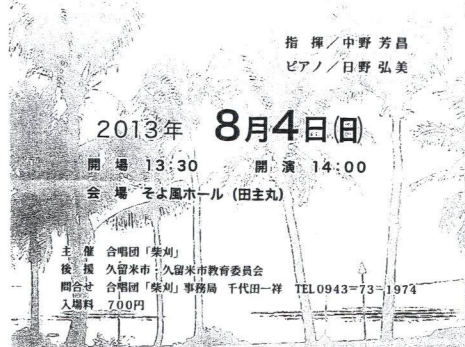
指揮／中野 芳昌
ピアノ／日野 弘美

2013年 8月4日（日）

開場 13:30 開演 14:00

会場 文京シビック大ホール（田主丸）

主催 合唱団「柴刈」
後援 久留米市・久留米市教育委員会
問合せ 合唱団「柴刈」事務局 千代田一洋 TEL0943-73-1974
入場料 700円



合唱団お江戸コラリアーズ 第12回演奏会

第一ステージ
Mare Pacificum
くもり太平洋ひとめぐり
everyone Sing (山下雅)
Ha Manu (An Stephen Karfodi)
Imman Salih (An August Panantun)
Kutaburra II (Stephen Leek)
のほか

第二ステージ
Lieder op.75
Felix Mendelssohn Bartholdy

第三ステージ
男声合唱とピアノのためのFragments
特設贈答者の手記による一（6長良島）

第四ステージ
男声合唱組曲 水のいのち
飯田三郎

会場：文京シビックホール 大ホール
東京メトロ丸ノ内線・南北線 湯島駅（都営地下鉄三田線・大江戸線 春日駅）

2013年8月4日（日）
開場：13時15分 開演：14時00分

チケット一般2000円、学生1000円、中学生以下無料 ePlusでも販売中
問い合わせ 043-282-3079 (受付) ticket@oekora.net
http://oekora.net/ https://twitter.com/oekora https://www.facebook.com/oekora

指揮 須賀俊一（客演）、山崎卓也、村田雅之
ピアノ 須賀俊一、村田雅之、濱田 高橋千洋子、演奏 合唱団お江戸コラリアーズ
後援 JTA 日本合唱連盟 東京合唱連盟

合唱団お江戸コラリアーズ
第12回演奏会
8月4日（日）14時
文京シビック大ホール

曲目／ぐもり太平洋ひとめぐり
4つの歌（メンデルゾーン）
水のいのち ほか

客演指揮・須賀俊一
指揮・山崎卓也、村田雅之

合唱団「柴刈」演奏会
8月4日（日）14時
そよ風ホール（田主丸）
曲目／組曲「島よ」
くちなし、いねかり、花は咲く
月光とピエロ、ふるさと、など

●中野芳昌さん（指揮）から
「ご無沙汰しています。今年も田舎でコンサートが出来ることに感謝です。7月18日は須賀先生のレッスンです。楽しみにしています」

SCHEDULE

豊洲：江東区豊洲文化センター
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

須賀監督指導・指揮 横田先生発声指導

○運営委員会は原則として第4日曜日11:00練習場にて開催

2013(平成25)年		練習場・会場	Cバー
7月20日(土)	強化練習	13:00~19:00 豊洲	なし
21日(日)	強化練習須賀	13:00~17:00 豊洲	1 T
28日(日)	定例練習須賀	13:00~17:00 豊洲	2 T
	磯部俣先生生誕祭	17:00~ "	(会費4000円)
8月11日(日)	定例練習	13:00~16:00 豊洲	1 B
25日(日)	定例練習須賀	13:00~16:00 豊洲	
	総会	16:00~17:00 "	0バー(2B)
9月29日(日)	道志川合唱祭		
☞ 10月27日(日)	江東区民合唱祭	13:00~練習(古石場)	
		会場/江東区文化センター(東陽町)	
		(出演は第3部16:30~19:00)	
		曲目/おやすみなさい、松の花	
		服装/団ブレザー、ネクタイ、黒ズボン	
11月 9日(土)	強化練習		
10日(日)	強化練習		
12月 1日(日)	40周年演奏会	会場/ティアラこうとう大ホール	
		曲目/①磯部俣叙情歌集②ミサ曲③組曲「チュウちゃんが動物園へ行ったお話」④組曲「優しい愛のうた」	
		(①は犀川、林のなか、いねかり、月夜、松の花、白南風のうた、いろいろなどが候補。曲順未定)	
☞ 22日(日)	忘年会	18:00~ 会場/サンミ高松 銀座本店7F 会費6000円	

2014(平成26)年

沖縄男声との合同演奏会 (曜未定)

編集後記

▲「40年」の原稿、次々と到着。今号はここまででまとめました。やっぱり皆さん、思うこと感じたこと、たくさんあるんですね。6月/切りでしたがそれは無しにします。思い立ったとき、書けたときに送ってください。「40年」続行します▲「40」という数字は人生の上では折り返し地点のような位置づけがあるようです。四十の賀、四十にして感わずなど、人生への自信をつける、自信を促す意味で言われているようです▲ところが、四十腕、肩、四十退目(の意)とあり、はては四十路にかたぶくなど、人生の下り坂の始まりを暗示する言葉も沢山あります。四十振り袖などと年齢不相応のおしゃれを揶揄する言葉もあります▲英語の辞典で、フォーティ・ウィンクスとは、40歳の流し目の意味かと思ったりうたた寝のことだと思いました。ハッとしました▲人生の40年とは、厳しさと、おかしさが同居する数字だったのです。(河合)

いそべとし記念男声合唱団ニュース

2013年 8月 第381号

発行代表者:戸丸悟(総務)〒135-0053 東京都江東区辰巳 1-8-45-302 ☎03-3521-6898 FAX 同

E-mail isobechorus@hotmail.com URL http://www.geocities.jp/isodanchorus/

編集:河合隆一(広報)〒272-0031 千葉県市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同

東京都合唱祭に出場・新宿文化センター

7月14日(日)のPブロックに出場。横田清文先生の指揮、永井博子先生のピアノで「おやすみなさい」(優しき愛歌より)「松の花」を演奏した。出場者は31名。講評の先生方のコメントの全文と、Pブロック9団体からのコメントを抜粋して紹介する。

なお、Pブロック全団体演奏が終わって講評者の挨拶があり、リトアニアの聖歌の演奏への感謝を話した先生のあと、いそべ男声の演奏が強く印象に残ったとコメントした先生がおられたことを付記したい。ここでの個々の団体への評言は珍しい。

講評者から(抜粋)

安藤由布樹

すばらしい!!! これぞ、人生を歌う合唱団である、賛美したいほどです。多人数ですが、しかし、お一人お一人が確かな音楽の深さを心得ていて、豊かなハーマニーは、この上なく音楽そのものの至福に満ちあふれたものでした。感激です。ブラボ!!!

岩田正彦

さすが歴史と伝統を感じさせます。男声合唱を良く知っておられると感じました。優しく、暖かく、決して気負わず、押しつけず、穏やかな美しい豊かな情感に満ちて、素直に自然に音楽が流れて来ます。こんな合唱を聴いていると本当に嬉しくなります。ありがとうございます! これからも楽しみにしております。

粕谷宏美

「おやすみなさい」。やさしさと温かさが伝わってくる、素敵な男声合唱でした。何と云っても丁寧な言葉捌きやフレーズの処理が、とても音楽的です。ダイナミックスの活用も大変効果的です。(2曲ともに)

川妻千邦

声は相変わらず「若い」ですね。イソベサウンドはやっぱりすごいですね。2曲目大変良かったです。大変深みのある表現、発声でした。おひとりおひとりの顔を拝見し、お世話になったことが思い出され、あつくまりました。12月1日、頑張ってください。

河原畑祐二

丸い丸い 情緒に包まれた男声合唱の親密な面を感じさせるアンサンブル 常にメランコリーを歌い続けている雄々しくあ

っても悲しい 明るく楽しくあっても底にあるメランコリー こうしたものの内に居る幸福

林 擴子

力まない やわらかい発声で歌詞もはっきりした演奏、良く歌い込まれていて、聴く者の心がいやされました。すみずみまで行き届いた ていねいな 音楽づくり、素敵な男声合唱のひびきでした。

Pブロック出場団体から

トゥインクル・コア(斎名)

・温かい音色で「おやすみなさい」と言われ、心地よく眠れるなあと思いました。ステキなハーマニー。「松の花」は学生時代に勉強した曲でなつかしく思いました。皆さんの「松の花」は奥深い感情が伝わってきました。ステキな演奏をありがとうございました。

・おだやかで優しく、柔らかなハーマニーが素敵でした! 音の重なり(ハモニー)も安定して見て見習わねば、と思います! 40周年がんばって下さい!

・ザ・男声合唱! ダイナミックで、時々せんさいなところもあって、素敵な合唱でした。

・渋い男声の声にゾクッときました! この年代にしか出せない哀愁のようなものを感じました。感動!!! 中高年の星として歌い続けて下さい。

東京嚶鳴女声合唱団(13名)

・健康は歌にありとの合言葉通り、若々しくて美しい歌声でした。力の入らない柔らかな発声ですばらしかったです。

・声が若い! やわらかい! ステキでした。言葉もきれいな響きと、素晴らしいハーマニーに心がスーッとすいよせられていきました。豊かな表現、ききごたえがありました。

・ハーマニーがまとまって響きもあるが、歌のフレーズが途切れてブツブツ切れてしまっている感がありもったいない気がしました。曲調の変化に応じて音色も変えたらもっと曲の内容を表現できるような気もしました。でも「松の花」ののびのびした大らかな感じがよく出ていて好

*「40年...」は6頁からです。後ろの方になって済みません。

演だと思いました。

パロロ混声合唱団 (35名)

・素晴らしいハーモニーでした。各パートのバランスが良いですね。声は年を取りませんね。若い指揮者に負けないくらい若い歌声でした。

・とても若々しい声に感銘しました。年齢は合唱の若さには関係ないのでですね。2曲目きれいでしたね。我々のお手本にさせて頂きます。フォルテとピアノの差をもう少し付けられては如何でしょうか。ハーモニーはとてもきれいでした。

・暗譜は我が合唱団も見習いたいものです。厚みのあるきれいなコーラスをありがとうございます。

・「おやすみなさい」は優しい詞とメロディーをとて良く表現されハーモニーもきれいでした。2曲目も男声合唱らしいハモリがきれいでした。言葉もよくしゃべっていてKの子音等きちんと立って立派な演奏でした。

植竹こども合唱団 (薈18名)

・全員男の人なので、おやすみなさいという曲にぴったりだと思えました。(ほとんど低い声の人だから) おやすみなさいと松の花はゆっくりしたテンポ

の曲だったのでとてもきやすかったです。とても低くてきれいでした。

・とても力強さがでていていいと思えました。全員やわらかい声をもっていていいですね!! ハーモニーがとてもきれいです。

・男声の特徴を生かして、ゆたかで、ゆっくりな印象をもらいました。歌い方など参考になりました。

・とても優しい歌声で心が洗われるようでした。なめらかな歌声がきれいですね。大人数の合唱団の歌声に聞き惚れてしまいました。

・男声合唱団シンサーンズ (30名) あたたくく深味のある声の合唱団ですね。すばらしいサウンドです。団の名前にこだわりがあるように、歌詞の一つ一つ、そしてメロディーを大切にしてみなさんが歌っている気持ち伝わってきました。

・男声はいいですね。おたがい身体に気をつけていつまでも続けたいものです。平均年齢なんてことは無しにしましょう。

・大学グリーがそのまま年齢を重ねたような男声のソフトなハーモニーが快い。お見受けした所私共のよき好敵手となりそう。よろしく願います。

女声合唱団 さくら (24名)

・やさしい声でハーモニーが美しく。おやすみなさいと何度も言ってほしいと思えました。40周年演奏会楽しみにしております。

・大人の深いハーモニーで、とても落ち着いて聴けました。細かいところまで気の入った充実感があり、歴史を感じました。正統派ですね。

・40周年おめでとうございます! ことば(詩)を良く理解された歌唱で、とてもいいです。無理のない自然な発声で耳に心地良く響きます。

・本当に「中高年の星」!! 男のロマンを感じます。お顔に似合わず(?) お声が若くて感じました。きっと皆さんお若い頃から歌っていらしたのでしょ。いつまでもこの若々しいお声で歌い続けて下さい。

・やわらかいハーモニー、特にテナーいいですね。好きです♥言葉がしみじみと伝わって来ます。表情もいいし男声合唱の厚みを楽しませていただきました。いつまでも歌って下さい。

・男声合唱団 東海 (8名) ・男声合唱は良いですね。人数が多いと更に良いですね!

・男声合唱のひびきが気持ちいいです。

・ハミングが素晴らしい。コーラスに取り組む意気込みが強く伝わってきます。年齢を感じさせない素晴らしいコーラスでした。

・さすがに人数が多いだけの重み、厚みがあり、うらやましく思います。Bassが良く鳴っています。細かい動きの歌い口も揃っていてこちよく聴かせていただきました。

東京東音会合唱団 (薈24名)

・みなさん暗譜で歌っているのはすばらしい。見習います。表情も中高年?とは言えないくらい若々しいです。もちろん男声合唱の美しさを十分に発揮していたと思います。演奏会楽しかったですね。

・美しい声、正統派のグルーブですね。各パートがそれぞれ美しく、バランスも良く、男声合唱のお手本のような団体ですね。内声に和音が抜がるところのハーモニーがとても美しかったです。バリトン・パートのところの声も素敵でした。

・男声合唱って悪魔に魅入られたように止められないもの。不思議な魅力に満ちたコーラスです。いそべとしの優しいハーモニーを楽しませていただきました。

・素晴らしく重厚な男声合唱を

タンノウさせて頂きました。さすがに大人の落ち着きをもったハモリ方ですね。来年も楽しみにしています。

エオリアン・コール (薈10名)

・年齢のことは皆書くでしょうから言いません。アンサンブルの美しい男声合唱を聴かせていただきました。さすがです。お一人だけしな模様のシャツ、何とかならなかったでしょうか。

・ベテラン揃いの団ですが、若々しい声ですね。男声の良さを味わわせていただきました。

・正統的なグリーの香りがあって、かつて大学グリーに居たものとして、大変なつかしくうれしかったです。

・年輪を感じさせる? 深い豊かな響きにまずは魅了されます。言葉を大切に、しなやかにフレーズを歌うことについては、ほんと見本にさせて頂きたいと思えます。

・落ち着いた演奏で、気持ち良くなりました。

無記名

・熟練した男声合唱団がもつ、柔らかく深いハーモニーが大変気持ち良く聞こえました。

享月

日

楽斤

須賀監督 大阪府合唱祭 連続50回

50回目

合唱祭弾む指先

最高顧問 須賀さん連続出演

第50回府合唱祭（府合唱連盟、朝日新聞社主催）の3日目が22日、池田市民文化会館アゼリアホール（池田市天神1丁目）で開かれた。この日は49団体、約1300人が参加。関西合唱連盟最高顧問の須賀敬一さん（81）は、50回連続の出演を果たした。



指揮する須賀敬一さん（22日、池田市民文化会館アゼリアホール）

6月23日付朝日新聞大阪河内版

「歌うことご飯と同じこと」

合唱祭は8、9日がSAYAKAホール（大阪狭山市）であり、22、23日はアゼリアホールで開催されている。4日間で約5千人が参加する予定だ。

須賀さんは1960年代から90年代にかけて豊中混声合唱団を指揮。府合唱連盟理事長も務めた。64年にあった第1回には同合唱団の指揮者として出演した。

印象深いのは1993年、枚方市の松下電器体育館（現パナソニックアリーナ）であった第30回という。出演した合唱団を私鉄沿線別にわけ、沿線ごとに合唱し、最後には千人を超える人数での大合唱。そのときの指揮者をつとめた。合唱祭の魅力について須賀さんは、「コンクールと違ってみんなが出演でき、大阪府の合唱団みんなが集まることができる」と語る。

この日、須賀さんは2ステージに出演。「大阪メールクワイアー」では指揮者として、「四ツ橋筋中年合唱隊」ではバスを担当した。「歌うことはご飯を食べることと同じ」と話す須賀さん。これからも歌い続けていく。

（江口英佑）

この時の須賀さんの演奏
指揮／「啄木短歌集」高田三郎
バス／「ゴールデンゲイト」から

都合唱祭の

いそべ男声を聴いて

黒澤幸男（黒澤幸男）

東京都合唱祭でのいそべとし記念男声合唱団を聴きました。

「いそ男」の出演は7月14日（日）午後のPプロック。

まず、なにより声の練り上げが抜群で安定しており、合唱で大切なのは声だということを実感しました。

指揮は須賀さんではなく、横田清文さん。団内指揮者の一人かと思ったら須賀さんのお弟子さんとか。演奏した2曲はメンバーにとっては自家薬籠中のレパートリーなので危ないのは当然ですが、横田さんの指揮も須賀さんのルーティンをなぞるだけでなく、特に「松の花」は後半からの盛り上げが見事でした。

「指揮者と団員は適度な距離があった方がいい」というのが私の持論で、あまり近いとお互いに甘えが出て緊張感を欠き、演奏に好結果をもたらさないケースが多い。横田さんと「いそ男」との関係はどの程度のものか知りませんが、今回の演奏では適度の緊張感があってよい結果を生んでいたように思います。

それにしても「いそ男」の人たちの飲みっぷりは驚異的で、飲み放題などには無縁になった私には脅威というべきで、さすがCバーで鍛えられた人たちの集まりを実感しました。

(第三種郵便物認可)

山梨新報 平成27年6月21日



"同期の桜"や往年の歌手も

シニアコーラスの祭典



県内からは5団体

29日都留うぐいすホール

澤登典夫さん指揮「コール77」
都留市の合唱祭に出場

平均年齢85歳、海軍兵学校の同期で結成した合唱団や、歌謡曲「月がとつても青いから」で知られる歌手菅原都々子さん(85)も参加。日午前10時から都留市の都の杜うぐいすホールで開かれる。県内からは大月シルバークーラス銀の鈴(大月)、男声合唱団コールベア(都留)、笛の風・コーラスさん(山梨)などの5団体が出演する。

海軍兵学校77期生でつったコール77男声合唱団

海軍兵学校最

の風・コーラス

さん(山梨)

などの5団体が

出演する。

後の77期生27人で構成する「コール77(なな)男声合唱団」(東京)は1996年3月設立された。リーダーの沢登典夫さん(84)らが「定年退職後、歌で同期と親睦を図りたい」と同期生名簿から「趣味音楽」として仲間を声をかけた。各種コンクールへの参加や、話題性から各地のイベントにも出演。2005年にはついにCDデビューも果たしている。29日の祭典ではベートーベン作曲「自然における神の栄光」や沖縄民謡「芭蕉布」、ロシア民謡「鶴」を披露する。

(中略)

企画委員長の天野行さん

(80・都留)は「私を含むシニア合唱団のメンバーは仲間と共に歌うことが心の支えで、元気の源になっている。都留から合唱が持つ可能性を世界に発信したい」と意気込んでいる。

伊藤俊三先生逝去

伊藤俊三先生が逝去されました。7月7日、悪性リンパ腫。葬儀が7月11日に国分寺市の東福寺武蔵野斎場で行われました。伊藤先生はこの春に病氣療養のために、長年指導してこられた湘南女声合唱団の指揮者を退任されました。(378号)

磯部周平先生とは湘南高校の同級、武蔵野音大、東京芸大で声楽を学びオペラ歌手として活躍されました。

伊藤先生には、いそべ男声が発足して7年めの1981年にヴォイストレーナーに就任、91年に上浪明子先生と交替するまで若きトレーナーとして指導頂きました。

合宿に参加、ダブルカルテットによる発声指導など団員の実力向上に努力を重ねられました。持論は発声の基本は呼吸法であるということで、現在につながる指導を受けたいそべ男声として、先生への感謝とご冥福をお祈りしたいと思います。

毎日暑い日が続いております。

いそべ男声の皆様には各種のステージをめざし御活躍のことと存じます。

このたびは思いがけぬ伊藤俊三先生の御逝去に際し、御丁寧なお言葉と私共へのお励ましをいただきましてありがとうございます。

まだまだ沢山の夢を残し乍ら人生の幕を引かれた先生が、どんなにかくやくしく無念でしたしょうと、心が痛みます。私共も一日もおろそかにせず、歌える有り難さを胸に、合唱に励んでまいりたいと思います。

いそべ男声の皆様の御活躍を心よりお祈り申し上げます。

七月十四日

湘南女声合唱団 阿久津篤美

磯部先生生誕祭 7月28日午後5時より

ご存命なら今年で96歳。30余名の出席でにぎわった。

ケータリングの準備も済んで団員が待機していると、例によって「練習」が始まり、ビールをそっと飲む団員が続出。急いで次の樽を取りにいく騒ぎとなつてようやく開会。

長田茂「ダーメンコールがこの会を続けてきましたが解散となり、平成23年からいそべ男声の主催となりました。3回目です。にぎやかに楽しんで下さい。

磯部周平「父の作った子どもの歌を、私がまたアレンジしました。歌って頂きたいです。そして『草の葉の祈り』の直筆の楽譜原稿が見つかりました。ご覧下さい。父が22歳の時の作曲です。私たち夫婦ともどもいそべ男声ファンです。よろしく」

須賀敬一「今まで私が男声に編曲した磯部先生の曲集の『犀川』を今度混声にアレンジしました。

金子剛史

浜中肯志郎

「磯部先生生誕祭おめでとうございませう。お江戸コラリアーズは8月4日の演奏会で、須賀先生に「水のいのち」を振ってもらう予定です。よろしくお願いします。

お祝い贈呈

坪井俊策さんに米寿のお祝いを贈呈した。

長田代表よりお祝状と目録が渡された。これは田邊翠香先生(田邊夫人)の筆によるもの。(下段)添付する「目録」には筑後田主丸千代田一祥氏(富田製菓)生産の「お米・夢つくし」を今秋収穫後に贈呈するとある。

坪井俊策「後に続くを信ずるのみです。その時は私はいないでしょう」

坪井賀子「わがままで身勝手な人だと思いますが、こんなにして頂き感謝あるのみです」

懇談

歌の時間

「クラブソング歌の仲間」

安部建男指揮

「いざ起て戦人よ」

坪井俊策指揮

「シュテンチェン」

澤登典夫指揮

「夕やけこやけ」

須賀敬一指揮

「ふるさと」

磯部周平指揮

「遙かな友に」

須賀敬一指揮

田邊喜三郎「いそべニ

ユースに40年の思いを書いた文がたくさんあります。お読み下さい。

磯部先生は歌とお酒とそして友人たちを私たちに伝えてくれました。これを宝として持ち続けたいです。一時はC

バーの目的が疑問視されましたが本来の目的に戻りました。気持ちのハーモニーに感動しています。練習が一番の気持ちを忘れずにい

きましょう。そして須賀さんには体に気をつけてください」

須賀敬一「うん。でも酒はやめないよ」(大笑い。拍手)

「別れのとき」

須賀敬一指揮

(閉会)

出席者(敬略)

磯部周平ご夫妻

須賀敬一

竹村洋美

早瀬多恵子

金子剛史

浜中肯志郎

三雲孝夫

鈴木賢一

団員家族5名

(河合記)

祝米寿

坪井俊策殿

このたび米寿を迎えられることを心からお慶び申し上げます。当代表 相後役として長きにわたり指導され、その理の通った指摘、時には辛辣な指摘をいただきその影響は計りしれません

これよりも当団の大先輩として活躍され、この日を祈つてやうせん

なお米寿にちなんでお祝いとして

別紙目録のとおり「お米」とお贈りいたします。どうかお納めください

平成三十五年七月吉日

いそべ男声合唱団



「40年」をテーマに 自由に書いてください

(続々)
到着順

50年前の磯部先生との接点

辻 純一郎 (2)

人 磯部 倅 (講師者)

辻 (合同曲など指揮)

いつ 昭和37年6月の日曜日

所 新宿区柏木 東京薬科大学
講堂 (合同練習場)

人 磯部 倅 長 昭男

辻 純一郎 80人の団員

何を 新しいこどもの歌「びわ」

などを磯部、長の指揮で練習

コメント「長君と僕のテンポは

違うけど、それでいいです」

・その月の杉並公会堂での薬科

大学定期演奏会のプロの写真入

りのコメントで磯部先生は、

「深い詩情と高い音楽性とを大

切にし、こどものうたであって

も、同時におとなたち、そして

専門の音楽家たちにも広く愛さ

れるものを作りたいと私たちは

考えています。長君の繊細な神

経の行き届いた演奏を大いに期

待しています」と書いておられ

ます。

・2回目

いつ 昭和38年1月

所 東京駅八重洲口近く日本

相互銀行本店ホール

告すると「磯部さんは外の人
は皆褒めるよ」と)

それから40年後の2001年

(平成13年)伊丹ホールで須賀

敬一指揮生活50年「須賀敬一

とその仲間たちのジョイント」

で、須賀先生指揮のいそべ男声

の「星くずやの唄」「松の花」

「乳母車」に出会い、「神のみ

わががこの人に」の混声初演

に出会うのです。この曲が長さ

んを偲ぶ会の会場で録音(横浜

稲門と埼玉第九合唱団)が流れ

るとは…。

いそべメロディーが 好きなんだ

三好 任 (2)

ニ一での歌い易さにあると思う。

又、ピアノ伴奏と歌との調和

が実に巧みで、料理に例えると

肉とソースのような関係で、真

に引き立て効果を出しており、

それが磯部さんの曲の魅力と言

えると思う。これに須賀さんが

名シェフとして一味加えて仕上

げるといふ関係だろうか。

いつも何気ないときにも、磯

部さんの曲の一節を口ずさむこ

とがよくあるが、結局、私は磯

部さんの曲が好きなんだと思っ

ている。

いそべ男声との40年

澤登典夫 (2)

私が昭和27年に早稲田大学を

卒業した年に、純粋種の稲門グ

リークラブが発足し、昭和23年

から活動していた早稲田以外の

人も居る「東京グリークラブ」

が解散させられた。東グリーに

た早稲田出身者の大部分が稲

グリーに移って、東グリーが成り立

たなくなったからである。

磯部さんが創立した東グリーは

稲グリー出身者だけでは不十分な

ので、稲グリーメンバーが知己を

集めて活動していた男声合唱団

で、磯部さんが活躍の場を探し

て呉れて結構な活動を続けて居

たので、突然の解散で困った人

が多かった様であった。

昭和49年に磯部さんは稲グリー

「新しい友」に迎えられて

河原季佳 (2)

♪新しい友 今日またここに

入団の初日、全く思いも掛け

ず江東文化センターの階段教室

で、故磯部倅師の指揮により、

団員諸兄からコーラスでの歓迎

を受け、感動した時の情景が、

に参加していないOBにもいそ

べ男声の立ち上げへの参加の呼

びかけをされ、いそべとし男声

合唱団が発足した。

練習場は磯部さんの友人の渡

邊さんが社長をされているフレ

ーベル館を使わせて貰い、練習

後のGバーも磯部さんの着想で

始まった。

故人の米川の努力で、磯部さ

んが江東区の合唱教室の先生と

なられ、いそべ男声が混声合唱

の男声パートを担当した実績か

ら、いそべ男声の練習場所とし

て江東区の施設を借用できるこ

ととなり、それが今日まで続い

ている。有り難い事である。

22年を経た今日でも新鮮、かつ

鮮烈に小生の脳裏に浮かんでく

る。

顧みれば、当時定年を半年後

に控え、中学高校時代に親しん

だ合唱活動の再開を思い立ち、

恰好の合唱団を物色中の処、偶

々同センターでの当団のコンサートを聴き、甚く感動し、迷わずこれだと心に決めた。そして晴れて入団手続きの日、出迎えて呉れたのが何と高校時代に後輩の故米川君だったのには大変驚くと同時にこの上なく嬉しかった。

総務だより

7月28日運営委員会

●来年の新春ファミリコンサート&パーティーの日程

・1月中の日程は長田さんに抽選に行ってもらったがすべて外れた。2月9日、2月16日の抽選を宮田さんに依頼。江東区文化センターレクホールをとりたい(抽選日8月1日)。外れたら曜日を変えるなどして再度考慮する。

●磯部徹先生生誕祭

7月28日17時より、ケータリング(出前)方式で開催。定例練習は16時まで。38名出席予定。会費4000円(無事終了)

●来年の沖縄男声との合同演奏会の日程

・10月19日、11月9日、11月16日を候補として、須賀監督の日程を確認してティアラこうとうに協力要請をする。

●40周年演奏会のチラシ

・プランの提示がおこなわれて

った。

冒頭に書いた新人歓迎の曲から受けた強い感銘は、亡師の時宜を得た恰好の曲が、小生の合唱前歴や入団前後の経緯と相俟って増幅し心に刻まれたと考え、懐かしい思い出となっている。

いる。江東区の後援が決定次第ティアラこうとうの秋本さんに校正確認、印刷に移る。400枚。まず800枚発券か。団員負担は約600枚か。(一人15枚)

・江東区後援申請済み、50組百名の招待の打ち合わせは終了。

●全日本男声合唱連盟岡山大会

・日程確定。2014年11月29日、30日(当団出場は未定)

●総会予定

・8月25日練習後16時より

・会計井上さんより作成中の会計報告が提示され検討。

●11月練習場確保

・11月9日、10日、24日

・次回からコンピュータ抽選になる。

●ピアニスト予定

・7月28日は永井先生欠席のためピアノなしで練習。10月13日は石野さんに依頼。

●40周年演奏会ステージ構成案

・オープニングに団歌、ふるさと、アンコールにくちなし、遙かな友に。ツルのソロは名前は出たが未定。(須賀監督同席)

山演記録

・7月14日 東京都合唱祭

曲目/おやすみなさい

松の花

指揮/横田清文/P永井博子

団員/1T大西、石原、河合、

澁谷、田島、長田、若月、2T

1井上、岩本、河原、澤野、坪井

宮田、三上、村岡、1B安部

川野辺、児玉、田邊、戸丸、山川

2B秋永、板垣、岩崎、大澤、

坂巻、澤登、角、武田、長島、三

好、渡邊

練習日記記録

・7月20日強化練習

発声/三上

曲目/ミサ全曲(三上)、チュウちゃん12曲(大西)、いろいろ、

白南風のうた(安部) 町永井

・7月21日強化練習

発声/三上

曲目/ミサ全曲(須賀)、チュウちゃん12曲、ペンギン、ア

ナグマ、キリン、サル山、子ジカ(須賀) 町永井

出席/1T6、2T8、1B5、2B8

・7月28日

発声/三上

曲目/kyrie、Gloria(三上)

犀川、いろいろ、白南風(安部)

↑須賀監督指導

出席/1T6、2T8、1B5、2B12

コバ
が振る
稲門グリークラブ演奏会

指揮 小林研一郎
曲目 レクイエム(三木稔)
水のいのち(高田三郎)

4000円 3000円 2000円 1000円

9月22日(日)14時サントリーホール

指揮 小林研一郎
曲目 レクイエム(三木稔)
水のいのち(高田三郎)

4000円 3000円 2000円 1000円

サントリーホール 大ホール
平成25年 9月22日(日)
開演13:30 開演14:00

チケット(全席指定) ※7月迄の申込まで
S席=4000円 A席=3000円
B席=2000円 C席=1000円
連絡先 mizota283@gmail.com(8日)
主催 早稲田大学グリークラブ08会

藍の会 演奏会2013
女声合唱団
10月13日(日)13:30開演 14:00開演
藤沢市民会館大ホール

指揮 浅野深雪
ピアノ 永井博子
オルガン 大竹くみ
賛助出演 プアケア百合子

曲目 花の詩
花束をあなたに

1000円

来 賓

7月21日

・金子剛史さん(お音ミリアーズ)

8月4日の演奏会の勧誘に来団。須賀監督の「水のいのち」客演指導に参加。

7月28日

・金子剛史さん、浜中肯志郎さん(お音ミリアーズ)練習最後と生誕祭に参加。

揮がある。さし入れに佐賀の銘酒「東鶴」を頂戴した。

SCHEDULE

豊洲：江東区豊洲文化センター
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

須賀監督指導・指揮 横田先生発声指導

○運営委員会は原則として第4日曜日11:00練習場にて開催

2013(平成25)年			練習場・会場	Cバー
8月11日(日)	定例練習	13:00~16:00	豊洲	1B
25日(日)	定例練習	13:00~16:00	豊洲	
	総会	16:00~17:00	〃	0バー
9月8日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	2B
22日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	1T
29日(日)	道志川合唱祭			
10月13日(日)	定例練習	13:00~17:00	古石場	2T
27日(日)	定例練習	13:00~	古石場	
	江東区民合唱祭	会場/江東区文化センター(東陽町) (出演は第3部16:30~19:00) 曲目/おやすみなさい、松の花 服装/団ブレザー、ネクタイ、黒ズボン		
11月9日(土)	強化練習	13:00~17:00	豊洲	
10日(日)	強化練習	13:00~	〃	
24日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	
12月1日(日)	40周年演奏会	会場/ティアラこうとう大ホール 曲目/団歌、ふるさと/①磯部俣叙情歌集 ②ミサ曲 ③組曲「優しい愛のうた」④組曲「チュウちゃんが 動物園へ行ったお話」/くちなし、遙かな友に (①は犀川、林のなか、いねかり、月夜、松の花、白 白南風のうた、いろいろ。曲順は未定)		
8日(日)				
☞ 22日(日)	忘年会	18:00~	会場/サンミ高松 銀座本店7F 会費6000円 イタリア料理	

2014(平成26)年

11月16日 沖縄男声との合同演奏会

編集集後記

▲酒はやめないと宣言する人がいます▲一方では皆の飲みっぷりは脅威だと言う人がいます▲この両者の関係は袂を別つ関係と解釈するか否か。如何でしょうか▲ある時、「酒道」というものがあつたらどうだと家の者に聞きました。すると即座に、そんなものはないでもない。酒に権威づけなんかいらない、みんな勝手に飲めばいい、茶道や華道みたいに家元に金が吸い上げられるようになったらどうするの、そんな余裕はありません。酒の宗匠になりたい人は酒樽に落ちる、と言われました。酔っ払いへの反発も多少あつての激しさにたじたじでした▲予想以上の反応でした。勿論、酒道なんてないほうがいいとは思っていません。無駄な話だったんですね▲冒頭の「脅威に思う」ことは「共感」と同義語と解釈できませんか。お互いの心の潤滑油なのでしょうか。当方の酒量はめっきり減りました。

(河合)

いそべとし記念男声合唱団ニュース

2013年 9月 第382号

発行代表者:戸丸悟(総務)〒135-0053 東京都江東区辰巳 1-8-45-302 ☎03-3521-6898 FAX 同
E-mail isobechorus@hotmail.com URL http://www.geocities.jp/isodanchorus/
編集:河合隆一(広報)〒272-0031 千葉県市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同

年度総会開催

8月25日定例練習後16時より総会が開催された。



開会宣言 戸丸総務
成立要件確認

団則第7条第4項により3分の2の出席をもって成立。(団員数37名。3分の2は25名)

当日の出席は25名。

委任状提出9名(石原、児玉、河原、澤登、安部、武田、村岡、大澤、板垣)よって総会は成立した。

議長指名

団則第7条第3則により長田代表が議長に選任される。

議事

①1年の活動報告 戸丸総務

2012・7・1

2013・6・30の活動

2012年

7・22 東京都合唱祭(新宿文化センター)

8・12 磯部先生生誕祭

8・26 年度総会

9・8 西川由明さん(1才)久美子さん結婚

9・23 第21回道志川合唱祭(雨のため中止)

10・28 第50回江東区民合唱祭(ティアラこうとう)

11・28 磯部徹先生・和先生墓参

12・1、2 第2回全日本男声

合唱フェスティバルinふくしまに参加(会津風雅堂)
12・23 忘年会(ALT E L I E B E T O K Y O U)

2013年

新春ファミリー(会場取得できず中止)

3・31 浜松スプリング・ピアノ・コンサートに出演(アクトシティ浜松)

4・6 屋形船花見(天候不順で船着場に係留のまま)

②決算報告 井上会計(略)

③監査報告 田島監事
相違ないことを認める

④団員の動向
団員の増減はなし

⑤在籍団員数

・2013・7・1現在37名

1T8名 2T9名

1B8名 2B12名

・休団 小川将太 高橋生久

⑥練習参加状況(2012・7・2013・6)

・定例練習23回

・団員平均出席人数28・7

3人(昨年度28・73人、一昨年度27・16人、3年前29人、4年前29・3人)

・先生方参加日数
須賀監督12回(昨年15回)

永井先生20回(昨年25回)

横田先生11回(昨年11回)

石野先生1回

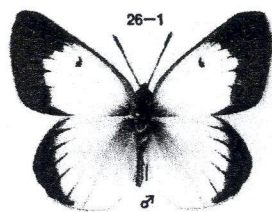
サンデー毎日の密かな楽しみ

山川 稔(一)

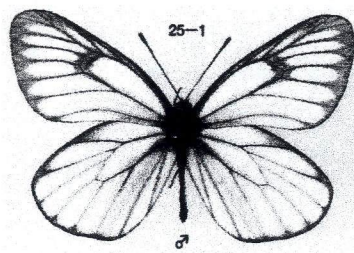
三月末に退職し、はや4か月を過ぎました。友人からは退職後は「サンデー毎日」の有効活用が大事と言われ、週刊誌ではなく毎日が日曜と理解するのに多少時間を要しましたが、しまだその実感はありません。

この4か月、職場から運び込まれた大量の書類、本類の片付けや科学研究費で進めた5年間の研究報告書作成などの残務整理が続きました。さらに現在、月7〜8回東京へ出かける用事があり、早く「サンデー毎日」にならないかと心待ちしている状態です。

幼い頃、典型的な昆虫少年だった私は、いつも捕虫網をもつて



浅間山
ミヤマモンキチョウ
Colias palaeno



山梨県南アルプス市
ミヤマシロチョウ
Aporia hippia

てチョウを追いかけていました。成長するとともに昆虫は磨り潰すための実験材料でしかなくなりしました。山野を駆け巡り美しいチョウを胸をときめかせて夢中で追いかけたあの頃がともなつかしくなり、10年前から再び捕虫網をもつようになりました。友人達からは「夜のチョウが目的ではないの?」と冷やかしの受けながらも暇をみては山歩きを続けています。

幸いに沖縄育ちの私にとって関東甲信越のチョウは故郷では見られないものが多く、新鮮でとても魅力的です。目的のチョウを图鉴で調べ、さらに食草、生息地、発生時期などインター

ネット上で詳しい情報を得ています。昆虫マニアや専門の人達に直接尋ねることは極力避けています。「まだ見ぬ恋人」に会うためには、密やかに準備を進め幾度の失敗を重ねた後にこそ出会える無上の喜びがあるからです。

特に興味を引き立てられるのは1000〜2000メートル付近の山岳地帯に生息するチョウで、最近浅間山のある軽井沢近郊へでかけることが多くなっています。しかし近年この辺りもクマの出没が頻発し一人での行動は安全に十分に注意する必要が生じています。出掛ける際にはクマ除け用の鈴とラジオは必須アイテムです。万が一のために女房からは「携帯電話を忘れずに!」と言われていますが山中は圏外が多くほとんど役立ちません。

先日、長野県と群馬県の県境にある湯ノ丸山と角間山に出かけました。いつものように朝5時に車で出発し9時には登山を開始しました。2000メートルを超す山に登るのは体力的にかなりきついのですが、これらの山岳にはミヤマシロチョウ、ミヤマモンキチョウ、ベニヒカゲといった天然記念物の美しいチョウが生息しています。これらのチョウがイワカガミ、ウス

ユキソウ、マツムシソウ、ツリガネニンジン、オヤマリンドウ、ヤマハハコ、ノハラアザミ、ウメバチソウ等が咲き乱れるお花畑を飛び交う様はまるで夢のような風景でした。

勿論天然記念物ですから採集はできませんが、見る事が出来ただけでも幸運でした。

日本のごく限られた地域の高山にしか生息できないこれらのチョウ達は残念ながら数を減らしており、厳しい現実です。

一番の原因はこれらのチョウ達の生息場所にはスキー場が数多く作られ環境の変化が大きいことだと思われます。

数年前に中国雲南省の4000〜5000メートルの山岳地帯へ出かけた際に紙吹雪のように舞い来るすごい数のミヤマシロチョウに圧倒された経験があります。チベット族はじめ少数民族が住むこの地帯は豊かな大自然が残されています。いつまでもこれらのチョウが絶えることなく生き続けて欲しいと願わずにはいられません。

いつまでこのような山登りができるかわかりませんが、まだ見ぬ美しいチョウ達に出会いたいと思えます。密やかな出会いを期待して、今日も体力づくりを励むことにしましょう。

常磐
ひたちメンネルコール
ニュースから

ひたちメンネルさんは日立市で活発な活動が続けておられる団体です。昨年は第2ステージに「おかあさんのばか」を演奏しました。(大澤さんが聞きにきました)

今年は9月28日に神奈川県立音楽堂で洋光台男声合唱団との合同演奏会をもつ予定で、「ふるさと」を演奏の予定です。もちろん清水脩、中田喜直などの曲も演奏します。また来年の2月の単独演奏会では磯部ステージを一つ設け「遠いわらべ歌」「子どもの世界」(9曲)を演奏する予定です。

「こどもの世界」の楽譜は当団に特に注文があったもので、続いて長田さんが「こどもの世界II」を作って提供しています。こうしていそべメロディーを愛してくださることは嬉しい限りです。(ひたちメンネル第3号)

ニュースを見ると当団と同じ月2回の練習、技術委員長からの練習の注意があり、予定表もガッチリ組んであり、堅実さを伺わせます。

最晩年の、磯部先生の葉書から

長田 茂 (十)

上浪明子先生あての磯部先生の葉書が手許にあります。藤沢局の97.4.9.の消印が押してあります。早瀬先生の遺品の中にあったものを、奥様から頂いたものです。

1997年4月といえば、磯部先生が亡くなる一年半前です。その前年、磯部先生は、しばらく休養ということ、8月の練習を最後に9月末に入院されました。10月の室内オペラ「夕立」

の京都公演の指揮を須賀さんに頼んだ磯部先生は、いそべ男声の指導を須賀さんに託すことを決め、翌1997年から須賀先生の練習が始まりました。

磯部先生のその後の回復が思うようにならず、翌1998年からは、須賀先生に、常任指揮者としていそべ男声の面倒をみていただくことになりました。

そのような時期、磯部先生は最後まで会長としての責任を全うできなかった。新・波の会のことを、病床で気にかけていらしたようです。

「ゴキブリの唄と星くずやの唄は、全音楽譜出版社新

・波の会編の、新しい日本歌曲1に出ています。タマネギの歌と日本のユーレイは、詩と音楽の会のために作ったもので、音楽之友社から出版されたものです。」

と、紹介した文の後に、次のように書いておられます。

「新・波の会の詩部門を強化して、ヴァラエティーに富んだ詩が集まるようになると良いと思っています。何といても、詩部門の強化が、今後の課題かと、私は考えます。理事会でご検討下さい。新理事会に、大いに期待します！
磯部 倅」

「ゴキブリの唄」と「星くずやの唄」は、波の会の定期演奏会で発表された歌曲で、『新しい日本の歌曲1』波の会編(1974 全音楽譜出版社)に収録されたもの。「玉ねぎの歌」は『新しい日本の歌 15周年記念作品集—歌曲編—(1982年刊)』『日本のユーレイ』は『新しい日本の歌5』(1970年刊)、

どちらも詩と音楽の会編、音楽之友社刊に収録された歌曲です。いずれも男声歌手によって歌

われることが多い曲なので、上浪先生に歌ってほしくて、ということではなく、「ヴァラエティーに富んだ詩」の例として挙げたのかもしれない。

早瀬先生の奥様から頂いた磯部先生の資料の中に、詩人の詩に、磯部先生が手を加えた跡がはつきり残っている、貴重な手書きの楽譜がありますので、ご紹介しましょう。

塚本貞子作詞の「雨の桜並木」という曲で、新・波の会 昭和61年度定期演奏会(1986年11月朝日生命ホール)で、佐伯トシ子(ピアノ 鷹取淑子)が初演した歌曲です。

下のような詩です。

手書きの楽譜のコピーで、最後のページに、手書きの歌詞があります。磯部先生の筆跡ではないので、塚本貞子さんの自筆ではないかと思えます。

傍線のところを、↓の下のように手をいれています。書き込みは磯部先生の字です。

『新・波の会歌曲集3』(1990年、全音)は手元にないで分かりませんが、後の『磯部倅歌曲集』(1994年、全音)では手を入れた下段の歌詞になっています。

「雨の桜並木」

塚本貞子作詞 磯部 倅作曲

雨が降る
桜並木に

晴れの日は

ウェディングドレスの花嫁が似合う

桜並木

雨の日には

文金島田の花嫁が美しい

桜並木

遠い霧の中にかかる
橋の上に

いま見たものは
いにしえの日日

想い想われて散っていった
まぼろしの花びらたち

満開の桜は
舗道の水たまりに
震えつつ ほほえむ

雨が降る

桜並木に

ああ

満開の桜並木は

雨が降るから

空よりも明るく

しつとりと

美しい

↓雨が降るとき

磯部先生のファンとの出会い

宮田 茂(子)

8月中頃でしたか、狛江市の女声合唱団所属の72歳の女性から『磯部先生作曲・立原道造作詞の「ひとり林に」の楽譜がほしいのですが』との電話がありました。私の電話番号は、東京都合唱祭のプログラムで知ったのでしよう。

唱委嘱作品集1」も買って、当団の「犀川」(鎌倉芸術館での演奏)も聴き、楽器屋を通じて「磯部倭女声合唱曲集」を注文されたとのことでした。折り返し、磯部先生の女声合唱曲集は私の知っているだけでも3冊あることをお知らせして3冊の目次をコピーして送りました。

「林のなか」の勘違いかなと思いましたが、そうでもなく、磯部先生の本などで調べたのですが、見当たらず、パソコンで検索したところ大中恩先生作品に同名のものがあり、その旨お知らせして納得してもらいました。

都の合唱祭の当団の自己紹介で40周年記念演奏会のあることを知り、是非聴きに行きたいとのこと、お会いできるかもしれません。

お話をしてみますと、特に磯部先生との接点はなかったようですが、先生の曲が大好きで、JAMCAで制作した「男声合

また女声合唱版の「犀川」があるのと購入を勧めましたが、いまの合唱団では取り上げてもうえないからということで、不成功に終わりました。

団員転居届

○若月 稔(子)

日時 9月15日

・新居住所 〒274-0814

船橋市新高根3-27-2

センチュリーテラス船橋301

・TEL 047-461-6350(新)

・携帯 080-5054-7913(前と同じ)

こういう磯部ファンがおられることが分かっただけでも嬉しく、浜松のCDを送ったところ、11年間所属している合唱団の25周年コンサートで「心の四季」

全曲を歌ったと喜んで、都の合唱祭での所属合唱団の演奏CDを送って下さいました。これも磯部先生のご遺徳でしょうか。

総務部だより 8月25日運営委員会

○40周年コンサート関係

・チラシが完成したので配布を開始する。

・チケット発売は9月10日。テ

ィアラでの発売は9月3日。

・チケットの団員分配の担当者決定↓佐藤さん(子)(団員ノル

マ一人15枚。計約600枚。

・江東区の後援申請が承認され

た。江東区民50組招待、ティ

アラの会50組招待。計200名

*「チュウちゃん」のナレー

ション(谷口恵さん)と合わせる

日程を、須賀監督と相談して決

定する。10月27日と11月10日

*記録

DVDは浅妻さんに(秋永)、写真はスタッフテスに依頼する。

*打ち上げは戸丸さん担当。

○総会の議事内容

総会次第、議事内容について検討。(本号1、2頁の通り)

○練習場確保

9月受付分から会場確保はすべてコンピュータ自動抽選となる。今までは河原さんなどが会場へ行つての抽籤だった。12月8日、22日をコンピュータで申し込んでいる。

○2014年沖縄男声との合同演奏会

・ティアラこうとうの協力要請が受諾された。11月16日決定。

・須賀監督指揮の合同は「水のいのち」。当団単独曲目を早めに決定する。

○2014年新春ファミリィコンサート&パーティー日程決定

・2月9日

・江東区文化センター・レク・ホール

純練習日記記録

8月11日

発声/三上

曲目/Kirie, Gloria, Sanctus (三上)、子ジカ、ラクダ、ヤマアラシ、クジャク(大西)

犀川、白南風(安部) 団石野

出席/1、5、2、7、1、4、2、8

8月25日

発声/三上

曲目/Sanctus, Agnus Dei (須賀) 団石野

出席/1、6、2、7、1、4、2、8

来客

○金子剛史さん(お声コロアス)

8月4日の同団の演奏会の当団の協力への感謝を述べにこられた。

SCHEDULE

豊洲：江東区豊洲文化センター
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

須賀監督指導・指揮 横田先生発声指導

○運営委員会は原則として第4日曜日11:00練習場にて開催

2013(平成25)年			練習場・会場	Cバー
9月 8日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	2 B
22日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	1 T
29日(日)	道志川合唱祭		曲目／おやすみなさい、松の花	
10月13日(日)	定例練習	13:00~17:00	古石場	2 T
27日(日)	定例練習	13:00~	古石場	
	江東区民合唱祭		会場／江東区文化センター(東陽町) (出演は第3部16:30~19:00) 曲目／おやすみなさい、松の花 服装／団ブレザー、ネクタイ、黒ズボン	
11月 9日(土)	強化練習	13:00~17:00	豊洲	
10日(日)	強化練習	13:00~17:00	豊洲	
24日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	
12月 1日(日)	40周年演奏会		会場／ティアラこうとう大ホール 曲目／歌の仲間(クラフツ)、ふるさと／①磯部倭抒情 曲集 ②ミサ曲(ロバツ) ③組曲「優しい愛のうた」 ④組曲「チュウちゃんが動物園へ行ったお話」 ／くちなし、遙かな友に (①は犀川、林のなか、いねかり、月夜、松の花、 白南風のうた、いろり。曲順は未定)	
8日(日)				
☞22日(日)	忘年会	18:00~	会場／サンミ高松 銀座本店7F 会費6000円 イタリア料理	
2014(平成26)年				
☞2月 9日(日)	新春ファミリーコンサート&パーティー		会場／江東区文化センター・レクホール	
☞11月16日(日)	沖縄男声との合同演奏会		会場／ティアラこうとう大ホール	

編集後記

▲編集が終わってから書くのが編集後記です▲ところが私の場合、編集作業が終わり切らないうちに、そうだな、こんなこと書いてやろうと思い立って書いてしまふことがあります。看板に偽りあります▲その号の主たるテーマに全く関係ないことを書いたこともありま▲ところが逆に、さて何を書こうか、何もネタはないじゃないか。編集後記なんてないほうがいいのに、としたりすることもあります▲今回は後者でした。合唱祭、40周年、総会、磯部先生のエピソード、近況報告などたくさんさんの記事に、感謝と、嬉しい悲鳴をあげながらの編集が一段落して、さて、頭が空っぽなのに気がきました。そして、さらに気がつきました。こんなときの編集後記は蛇足なのだ▲でもやっぱりダソクになってしまっ

(河合)

いそべとし記念男声合唱団ニュース

2013年10月 第383号

発行代表者:戸丸悟(総務)〒135-0053 東京都江東区辰巳 1-8-45-302 ☎03-3521-6898 FAX 同
E-mail isobechorus@hotmail.com URL http://www.geocities.jp/isodanchorus/
編集:河合隆一(広報)〒272-0031 千葉県市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同

→いそべ男声は「おやすみなさい」と「松の花」を歌った



第22回 磯部 倅 記念

遙かな友に 道志川合唱祭

この夏の天や地の異常さをいっぺんに吹き飛ばしたかのような好天に恵まれた青根地区。去年の台風での中止の分を取り戻すかのように参加各団の力演で盛り上がった。磯部先生が亡くなって15年、和先生が亡くなって3年になるが、教え子たち、その環境を守ろうと努力を続ける人達の気持ちにより強く結集した一日となった。

9月29日(日)午前10時30分開会
野外ステージのバック壁面には、地元生徒さんたち手製の新しい掲示板が光っている。

まず、関戸正文実行委員長は「昨年の口惜しさをふきとばす一日になりそうです。長く使えるようなステージの設置を市にねがっています。ぜひいっばいに盛り上げて下さい」と挨拶。さらに「6年前から実行委員長だった高木鶴吉さんが勇退されました。花束を贈呈します」と言って高木さんに花束を渡すと会場一杯に拍手が。

合唱祭生みの親の一人、天野望元町長からの挨拶があり、続いて山口和夫相模原市副市長が「この合唱祭が22回も続いたのはみなさん努力の積み重ねですね。ばこそです。今年は早大グリー、ポニー・ジャックスを迎えてますます聞きごたえある会となり

ます。相模原の文化の発展に期待しましょう」と挨拶。

最後に相模原市名誉観光親善大使の片山右京氏が「音楽を聞くと勇気が出ます。今日はみなさん一杯に勇気と元気を盛り上げてください」と挨拶してしめくくった。

そして青根地区でちょうど満開となったコスモスの花束を各氏に贈呈、《ミウル》ちゃんもステージに上がって開会式を終了した。(因にミウルちゃんは相模原市緑区のイメージキャラクターで「緑の潤いをみんなに」の標語からつけられたとのことだ)

*

合唱の午前の部はまず「道志川合唱祭の歌」をいそべ男声がステージに上がって安部さんの指揮で全員合唱。

そして、地元はやまびこ合唱

団の「遠い世界」「青い山脈」の歌声から開始。コーラス喜楽楽の「風」(端麿と続き、つくいムジーク・フェラインが混声の小人数だったが磯部先生作曲の「子どもと笛」を演奏、久しぶりのいそべメロディーが流れ、COSMOSの「心の瞳」(三未たし)がしっとりと歌われたあとに、和歌山からの堤敦子先生率いるコールダイヒ・アシンメトリⅡの6人が「チキチキバンバン」と「なめこの歌」を歌い踊ると客席は大喜び。

相模原市からのフレンドCALAは「ここに幸あり」(笹巫)を歌って、あの大津美子を思い起こさせてくれた。



蟻生栄子先生指揮のフラウエンコールいそべはいつものメンバーで磯部先生の子どもの世界を。特に「王様のひげ」(幸よ子作)詞は珍しかった。遠路、埼玉宮代町からの宮代コールフロア女声合唱団は「恋のバカンス」と「ハンカチ」という、ザ・ピーナッツといそべ節の面白い組み合わせ。午前の部の最後は湘南女声合唱団が蟻生先生の指揮で「おはあさんのタンゴ」(聖云曲)を表情豊かに、磯部先生の「江ノ島旅情」など4曲を演奏、そして昼食、休憩に入った。



← フラウエンコールいそべは歌詞のなかの動物の絵を持って

* 午後の部の冒頭は特別ゲスト
 早稲田大学グリーククラブの登場、
 20余名の若者が一杯に声を響か
 せて客席は大興奮。「Ride the
 Charriot」「宇宙戦艦ヤマト」
 「酒頌」「斎太郎節」のあとにア
 ンコールはアップテンポの「最
 上川舟唄」で締めた。

午後の部の合唱は、まず、黄色い衣装に身を包んだ、男女40名の菜の花コーラスによる「川の流れのように」がゆったりと歌われ、次の、元気のである歌声は女声22名で「小さな空」(武蔵曲)



などを真摯に歌った。

地元青根中学校は生徒7人。先生たちや父兄を加えて25人で「大切なもの」と「道」を真剣に真っすぐに歌ってくれた。小学校は9人。自分たちの背丈と同じ高さの自作の時計を立てて「大きな古時計」を、「小さな世界」を全員の手話つきで歌ってくれた。

つくい合唱連盟は「母に贈る
うた」と「あ・い・う・え・おにぎり



←青根中学校・やまなみ7名は応援メンバーとともに

を。後者はつくい少年少女合唱団との合同で。そしてつくい少年少女は「花は咲く」を、歌い継いで行く独唱をいれてしっかりと聞かせてくれた。

横浜フオーティーズは横浜国立大学グリークラブ昭和40年代卒メンバー11名。昭和20年後期の早稲田グリーは横浜国大にコンクールで勝てず苦い記憶がある「Steel Away」Memor(y) Cats」を手堅く演奏。

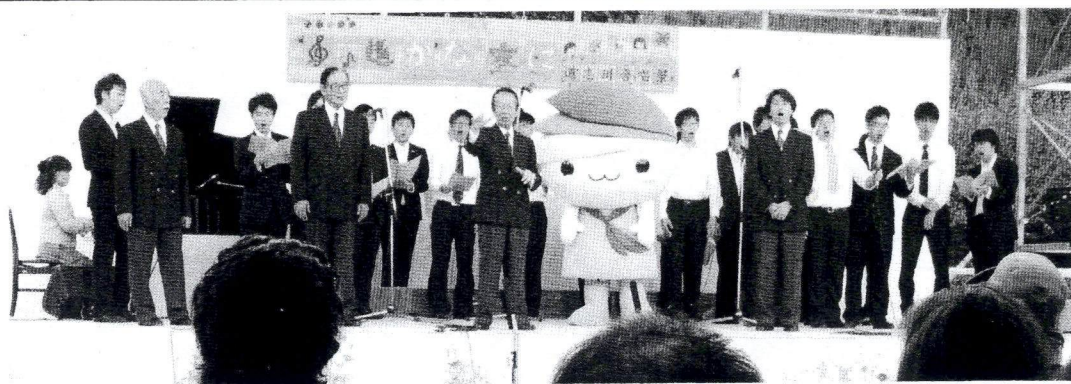
蟻生栄子先生指揮のクルオルタンシアは磯部子ども世界から3曲、そして「メンソーレ沖縄」をのびのびと演奏。



→ コールドアイヒ・アシンメトリーは「なめこの歌」

→ アップテンポで早稲田グリーン

→青根小学校は9名で手話入りコースを



*

*

テレビで「遥かな友に」が――

岩崎 精二 (2B)

*

*

高木鶴吉実行委員長勇退

宮田 茂
(2)

いましたが、昭和61年（1986年）磯部先生の「遙かな友に歌碑」が建てられる2、3年前に、磯部先生、榎木さん、西脇さんとともに歌碑予定地を視察された時、その日は大雪となり、車が立ち往生してトラックに「レッカーされました」と懐かしそうに話されました。

高木さんは、現在89歳6カ月で、右足がちゅっと不自由と言われませんが、お顔の色もよく、まだまだお元気です。「元氣なうちに世代交代をしなくては」と言われました。いつまでもお元氣で合唱祭を見つめていてください。

もうひとつの「犀川」

長田 茂(ト)

私たちが愛唱している「犀川」は、室生犀星が29歳の時に自費出版した『抒情小曲集』という詩集に載っている「犀川」です。ところが「犀川」にはもうひとつの詩文があるようです。

晩年に犀星自らが編集した、『室生犀星全詩集』（昭和37年刊行、筑摩書房）には、次のような「犀川」が載っているようです。ようですと断っているのは、直接当たって確かめたわけではないからです。

うつくしき川は流れたり
そのほとりに我はうまれぬ

春は春 なつはなつの橋
花つける堤に坐りて
読み本のなさを展く

ここで注目したのは「本のな
さけ」です。

私たちの歌っている「こまや
けき本のなさけと愛とを知りぬ
の「本のなさけと愛」とは何な
のか？

漢字で「本」と書いてあるの
だから「ブック」と素直に解す

ればいいのに、曲のメロディーとアクセントに引つ張られてかどうしても「ブック」ではないような気がしていたのです。でも、この、もうひとつの「犀川」では、明らかに本「ブック」ですよ。

犀星は犀川の堤に座って読んでいた本で、濃やかな人の情けや愛に、初めて触れたのでしょ

うね。
それが地方裁判所の給仕として就職した少年犀星を、文学の道へ向かわせた、きっかけだったのかもしれない。

注・我が歌っている詩は、大正7年出版の『抒情小曲集』によるもので、愛読されていた。昭和37年に犀星の生前に作者自身の編集で出版された『全詩集』では、掲げたような詩になって収められた。「いまもその川ながれ」以下は削除されている。他の多くの詩も改作、削除されている。その意図は犀星は何も語っていない。そして昭和53年に出版された『室生・全詩集』には最初の形にもとまらずに収められている。

(R)

この12月、ステージに載せるろばの会の音楽ものがたり『チユウちゃん動物園に行ったお話』の10曲め。動物園の人気のペンギンを歌ったこの詩は、10行の短い詩。ペンギンの歩くさまをユーモラスに表現している。"よちよち"は人間の世界での表現。ペンギンにとってはごく自然の動きなのだが。

ペンギンは鳥類の分類でいうと人鳥類。これも人間本位の命名だが、人間のような振舞をするペンギンは、分類上の名称も身量肩といってもいいような呼称がつけられている。多くの動物園にいる大型のペンギンはコウテイペンギン。最大種は1.2m、30kgにもなるという。次いで大きいのがオウ

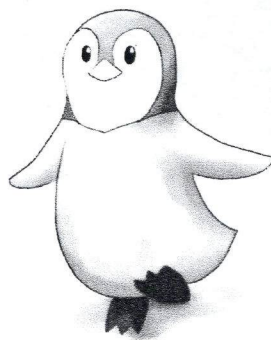
るといえるか。
中国語ではペンギンは企鵝(チンギョ)。鵝はガチョウ。ハクチョウは天鵝(テンギョウ)という。ここでおもしろいのが"企"の字。企業、企画などと、日本語でもよく使われる文字だ。企の字には、本来、つま先で立つ、先立つ、つま立って待ち望む、というような意味がある。ここから企画、生産や営利の目的で組織をつくる企業という言葉が生まれた。

いそべ男声メロディー・歌の博物誌46

ぼくはペンギン よちよーち ひよっこひよこ

柴野民三作詞 磯部 徹作曲

澤野 勉(ニ)



サマペンギン。マカロニペンギンはスペイン語の macarena、人の意。その亜種はロイヤルペンギンと呼ばれる。これも"王室"の意味で、誇らかな名称だ。たとえば植物では、イヌフグリ(犬陰囊)、ヘクソカズラ(屁屎葛)、ママコノシリヌグイ(継子の尻拭い)のような、なんとも可哀想な名を付けられたものがあるのだが、その点、ペンギンの仲間の呼称は、動植物の中でトップクラスの扱いを受け

歩幅で不安定に歩くさま」とある。人間の世界、ともかくも自分本位に事物を見るのが常であり、何年か前にはレッサーパンダが人間のように二本足で立ったというのが話題になった。それともいいのだろう。動物園の役割は、人間と動物とがどう違うか、どう似ているか、そのあたりを感じることでできるところにあるのではないだろうか。

組曲13曲のうちの唯一の輪唱。輪唱はペンギンの動きにふさわ

こういうのがあった。
「トボトボ歩きからハツラツ歩きへ」ー。年をとると先の広辞苑の定義のように歩幅が小さくなる。そこで、ペンギンを反面教師として、歩き方を見直してみませんかーということ。歩幅を日常の歩幅よりも5cm大きくしてみましよう。

とくにステージに出る時、意識して歩幅を大きく、そして胸をはって、ペンギン歩きにならないよう、カッコよく歩こう。

★カットは筆者のお孫さんの鈴木はるかさん。

続「磯部先生のファンとの出会い」

「ひとり林に」の楽譜があった

宮田 茂(子)

先月ニュース382号の5頁に、磯部先生のファンが、立原道造作詩の「ひとり林に」の楽譜を探していることを書きました。ところが、なんとその直後、辻純一郎さん(子)から、多分それと思われる楽譜を持っているとのメールが入ったのです。

昭和30年ごろですか合唱コンクールの課題曲になった曲だったのです。

早速、辻さんから送られた楽譜を、それを探していた狛江市の女声合唱団の女性に送ったところ、大喜びで、その合唱団の先生のピアノで念願かなって歌うことが出来たそうです。

いそ男ニュースの情報から思わぬ人助けとなりました。

立原道造の「ひとり林に」の詩は大中恩(男声)、木下牧子(混声)の曲でも歌われているようです。

〈参考〉

「ひとり林に……」

立原道造

だれも 見てゐないのに／咲いてゐる 花と花
だれも きいてゐないのに／啼いてゐる 鳥と鳥 (早稲・全編)

「詩集 優しき歌Ⅰ」より

総務だより

9月22日運営委員会

●40周年コンサート関係

- ・本番前日練習
- ・11月30日(土)江東区文化センターハーサル室(東陽町)
- ・「チュウちゃん」のナレー

シヨン(谷口恵さん)の合わせ日決定

- ・10月27日13時30分～14時30分
- ・11月10日15時30分～17時
- ・「ツル」のソロは谷口さんに

打診する。(快諾の回答)

- ・ステマネは土屋信吾さん依頼(受諾)
- ・受付係等当日の役割分担

- ①ティアラこうとうのレセプション係(プロ)5人ほどに依頼。
- ②受付係の責任者は下山さんに依頼検討。
- ③会場係などのアルバイトは江東区の合唱団数人に依頼する。

↓宮田さん担当

- ・ビデオ映像記録は取りやめ、記録はCDと写真のみとする。
- ・写真はスタッフテスに依頼、受諾。
- ・打ち上げはホール下の会場で開催。食事注文済み。

- ・招待席を設置するか否かを検討。招待状は出すが招待券は出さない。特に招待席は設けなくてもよいのでは意見が多い。

●休団員の扱い

総会の折りに問題提起された休団員の休団費未納の件は井上会計がご本人と連絡をとって対応済み。

●道志川合唱祭

- ・10時受付 10時30分開会
- ・当日、当団はピアノ周りを担当する。
- ・服装／ポロシャツ、チノパン

■前回決定事項確認

- ①東京都合唱連盟「合唱ニュース」に40周年コン広告掲載
- ・4分の1頁5000円

↓長田さん、河合さん

- ②2014年新春ファミリコンサート&パーティー
- ・2月9日(日)江東区文化センターレクホール決定。

- ・各団体に早めに案内を出す。(発送済み↓宮田さん)
- 年末に詳細を案内する。
- ③2014年沖縄男声合唱団との合同演奏会

- ・11月16日(日)(ティアラこうとうに協力要請、承認)
- ・曲目を早めに決定する。
- ・須賀監督指揮の合同は「水のいのち」

- ・当団単独は組曲「岬のうた」(西岡光秋詩、磯部倣曲)が候補としてあげられた。
- ④永井先生練習欠席への対応
- 石野さんに依頼済み。
- ⑤強化練習

- 11月9日(土)、11月10日(日)
- ⑥忘年会

- 12月22日(日)定例練習後サンミ高松銀座本店7F 会費6000円 イタリア料理
- ◎対馬宜さん死去

磯部和先生の令妹對馬宜さんが逝去され、9月20日の通夜に長田代表が出席した。

来賓

9月8日

○菊池 靖さん

当団のインターネットを見て練習の見学に来団。

○古家大貴(早大1年)さん

○白石貴啓(早大1年)さん

練習日記記録

●9月8日

発声／三上

曲目／Sactus、Gloria、Agnus Dei、チュウちゃん(須賀)

松の花(安部) 田永井

●9月22日

発声／三上

曲目／ミサ曲全曲(三上)

優しい愛の歌全曲、おやすみなさい、松の花(安部)

●9月29日

道志川合唱祭

「おやすみなさい」「松の花」指揮／安部 田永井

出演団員／25名(踊り手参加)

SCHEDULE

豊洲：江東区豊洲文化センター
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

須：須賀監督指導・指揮 横：横田先生発声指導

○運営委員会は原則として第4日曜日11:00練習場にて開催

2013(平成25)年	練習場・会場	Cバー
10月13日(日) 定例練習 13:00~17:00	古石場	2 T
☞ 27日(日) 定例練習須横 13:00~	古石場	
☞ *谷口恵さんナレーション合わせ(13:00~14:30)		
江東区民合唱祭 会場/江東区文化センター(東陽町)		
(出演は第3部16:30~19:00)		
曲目/おやすみなさい、松の花		
服装/団ブレザー、ネクタイ、黒ズボン		
11月 9日(土) 強化練習 13:00~17:00	豊洲	
10日(日) 強化練習須横 13:00~17:00	豊洲	
☞ *谷口恵さんナレーション合わせ(16:00~17:00)		
24日(日) 定例練習 横 13:00~17:00	豊洲	
☞ 30日(土) 臨時練習須横 13:00~17:00	江東区文化センター・リハーサル室(東陽町)	
12月 1日(日) 40周年記念演奏会 14:00開演	会場/ティアラこうとう大ホール	
曲目○歌の仲間(クラブソング)、ふるさと		
①三声ミサ(ロバツ)		
②いそべとし抒情歌集		
(犀川、月夜、白南風のうた、林のなか、いねかり、		
いろり、松の花←曲順決定)		
③組曲「優しい愛のうた」		
④「チュウちゃんが動物園へ行ったお話」		
○くちなし、遥かな友に		
8日(日) 定例練習 13:00~17:00	豊洲	
22日(日) 定例練習須 13:00~17:00	豊洲	
☞ 忘年会 18:00~	会場/サンミ高松 銀座本店7F 会費6000円 イタリア料理	
■ 2014(平成26)年		
☞ 2月 9日(日) 新春ファミリーコンサート&パーティー	会場/江東区文化センター・レクホール	
☞ 11月16日(日) 沖縄男声との合同演奏会	会場/ティアラこうとう大ホール	

編集後記

▲栗をナイフでむきながら後記を考えています。道志川合唱祭で買って来た栗です。皮の艶もよくいい栗です。渋皮まで丁寧むいて栗のスッピン姿をよく眺めてから口にいきます。うまい▲今年の道志川はまさに全員晴れ女、晴れ男の実力発揮でした。そういえば磯部先生は晴れ男だったですね。先生の行くところ必ず晴れる。半ば伝説的にもなっていたようです▲昨年はだれが雨男だったのでしょうか。でもその口惜しさをテコに、関係の方々の意気込みが伝わってくる開会の皆さんのコメント、そして進行でした。ニュース係として実行委員の方に会の内容についていろいろ質問すると、実に気持ちの良い明快な返事を戴きました。有難うございました。お世話になりました▲野外での歌いにくさは多少はあっても、深い緑の中の合唱祭、屋台のある合唱祭、コスモスの花束いっぱい合唱祭なんて、ほかにはないでしょうね。

(河合)

いそべとし記念男声合唱団ニュース

2013年 11月 第384号

発行代表者:戸丸悟(総務)〒135-0053 東京都江東区辰巳 1-8-45-302 ☎03-3521-6898 FAX 同
E-mail isobechorus@hotmail.com URL <http://www.geocities.jp/isodanchorus/>
編集:河合隆一(広報)〒272-0031 千葉県市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同



第51回

江東区民合唱祭に参加

10月27日、古石場の練習場で「チュウちゃん動物園へ行ったお話」の練習を、表現力豊かなナレーター谷口恵さんを迎えて全曲練習、「優しい愛の歌」もひととおり練習して江東区文化センターに向かった。出番は第3部のラスト。須賀敬一監督の指揮、永井博子先生のピアノで「おやすみなさい」「松の花」を歌った。そのあと、会場全員で「あかとんぼ」を須賀監督の指揮で歌って終了。

練習から本番まで参加してくださった井澤常和さん(大ターラグラー)にお聞きすると「皆さんの柔らかい声といっしょに歌えて気持ちよかったです。」「松の花」は好きな曲で、つい最近、独唱したばかりでした。でも今日はバリトンパートなので楽譜が離せませんでした。」と言われた。あとで団員に聞くと、正確に幅のある声と表現で歌っておられたと言っていた。ありがとうございます。

打ち上げ会場は近くの海鮮居酒屋はなの舞。

乾杯のあとに挨拶されたのは山内純治さん(常務)。当団の演奏を聞かれたというので感想をうかがった。

「いそべ男声がステージに上がりはじめると、会場の空気が変わったのを感じました。更にや

わらかい音がながれて、会場の空気がまた微妙にゆったりしてきたのを感じました。みなさんの自然な呼吸で歌う音楽が会場に滲みこんでいました。歌詞の内容がじっくりと伝わってくるのがわかりました。もう少し意識して言葉の位置をもっと前にくるようにすると、もっと思いが伝えられるでしょう。品格の高い演奏でした。」
恐縮あるのみのご感想、有り難うございました。

合唱祭参加合唱団数 全48団体
いそべ男声出演者

1Tー西、河合、蓉、島、長、横、着
2Tー井上、岩本、河原、佐藤、澤井、三、富、村
1Bー斎、(井澤)、川野辺、里、戸丸、出
2Bー秋、岩崎、板垣、大澤、澤登、角、渡邊

(河合)

「草の葉の祈」の不思議

長田 茂 (ト)

今年の、磯部先生の生誕祭の席で、周平さんから「こんなものが出てきました」と渡されたのが「草の葉の祈」の自筆楽譜です。A3より一回り大きい、二つ折りにした五線紙に、丁寧に清書した楽譜です。

1ページ目はタイトル「草の葉の祈」と三木露風作詩、磯部倅作曲、その下に、歌詞が黒いインクの万年筆で、丁寧に縦書きされています。歌詞の最後には、「幻の田園」より」と、この詩の掲載された詩集が記されています。《謎の1》はその下に書かれた、日付らしき数字「15.3.21」です。

2ページ目からは楽譜です。磯部倅作曲の下に、謎の日付「15.3.21」がここにも書き込まれています。この日付については、後で検証します。

◎4分の2拍子に

Es-moorに

まず目につくのは、タイトル「草の葉の祈」の下にある（男声合唱を伴ふ合唱曲）です。昭和32年に音楽之友社から出され

た『合唱アルバム9』には「草の葉の祈」とあるだけで、傍題のようなものはありません。この音楽之友社の楽譜の元となった、昭和27年の東京グリーク

ラブのガリ版刷りの楽譜では、「アルト独唱と男声合唱」という傍題が付いています。「独唱を伴う合唱曲」という扱いです。今回見つかった楽譜では、明らかに「男声合唱付きの独唱曲」です。

この東京グリーククラブの楽譜は、昭和27年4月に行われた「第1回 磯部倅作品発表会」で使われた楽譜です。四家文子のアルトソロで、東京グリーククラブが歌っています。後の、32年の音楽之友社の楽譜は、発想記号や速度記号が加わったり、スラーを書き加えたりしているだけで、27年の東京グリークの楽譜と音は変わっていません。

ですが、この従来の、ガリ版刷りの東京グリークの楽譜や音楽之友社の出版楽譜が「8分の6拍子」なのに対して、今回見つかった楽譜は「4分の2拍子」になっています。調も、従来の

楽譜が4つの「F-moor」なのに対して、今回の楽譜は6つの「Es-moor」です。1音下がっています。

そして《謎の2》が、今回の楽譜の左肩に書いてあった「原調F-moor」なのですが、これは、昭和27年の楽譜が「F-moor」であることを見れば、こちらが「原調」と考えるのが素直だろうと思います。

つまり、昭和27年の「F-moor」「8分の6拍子」の「独唱付きの合唱曲」を、「Es-moor」「4分の2拍子」の「男声合唱を伴う独唱曲」に書き直したものが、今回見つかった楽譜、ということなのでしょう。

こう解釈すれば、丁寧に清書してあるのもうなずける気がします。

ガリ版担当者に渡す原稿や楽譜出版社に渡す原稿なら、これほどきれいに清書する必要もないでしょう。どなたかに差し上げるつもりで楽譜が、何かの事情で磯部家に、そのまま残っていたのかもしれない。コピーをとって、オリジナルは手元に置いておいたという時代ではありません。

◎謎の日付？

そこで《謎の1》、「15.3.21」が、大きな謎として残って

しまいます。

誰々作曲、の下にこのような数字があれば、作曲した日付と考えるのが普通です。西暦も平成も考えられないので、「昭和15年」でしょう。昭和15年という、磯部先生が大学学部2年の時です。3月だと、まだ1年でしょう。私どもが把握している範囲では、女声合唱の「木せい」が処女作品で、作曲されたのが昭和15年、出版されたのが翌16年です。昭和16年には、創作合唱曲の公募に応募して、「笛ふき」（混声合唱曲）、「草の上」（女声合唱曲）の2曲が入選しています。昭和16年12月に早稲田を繰り上げ卒業、入選作品の発表会を聞くことなしに、翌年1月には、召集・入隊だったそうです。

いそべ男声が制作して、磯部先生の古希と音楽生活40年をお祝いする会で出席者への引き出物とした『遙かな友にー磯部倅音楽生活40年の足跡ー』にも、音楽之友社から出版された磯部先生の著書『遙かな友にーわが音楽人生ー』にも、この時代に「草の葉の祈」が作曲されたと思われる記述は出てきません。

昭和27年の「第1回 磯部倅作品発表会」のプログラムに、四家文子さんが書いている文章に、このようにあります。

「私、三月初旬に、『松の花』をビクターに吹込みました。七八年来の友情が開花したとも云える、涙ぐましい感激の一時でした」

四家さんとの交流が始まったのは、戦後でしょうから、昭和15年に四家さんのことを念頭に置いて「草の葉の祈」を作曲したとは、ちょっと考えられません。「第1回 磯部倅作品発表会」の後、四家さんのために、キーを下げて、4分の2拍子の、男声合唱を伴った独唱曲に書き直したことは、考えられます。それなら、「15.3.21」の日付は？

磯部先生も、昔のことを全部覚えておられるわけではないし、勘違いされていることもあると思います。前記の二冊の本に記述がないからといって、ちゃんと記述して残っている「15.3.21」が、作曲した日付である可能性はないとは断言できません。

今回発見された楽譜に「原調F-moor」（実際にはF-moorと書いてあるのではなくて、トが4つ書いてあります）と書いてあることと、昭和27年の「第1回 磯部倅作品発表会」で、東京グリーが使った「草の葉の祈」の楽譜が、F-moorであることから、今回見つかった

楽譜がこの時の楽譜より後の姿であることは確かだし、「15. 3. 21」が、今回の楽譜に書き直された日付ではないことも確かでしょう。

この日付の説明のつく資料が見つかるか、あるいは、納得のいく説明を思いつけば、いいのですが……。

磯部先生の思い出

菅野 哲男

このたびは貴合唱団の40周年記念演奏会にお招きいただきありがとうございます。チラシを拝見しながら在りし日の磯部さんをなつかしく思い出しております。

私が先生と最初にお付き合いがあったのは、1968年に東京リーダー・フェルが最初のドイツ演奏旅行の時にはじまります。先生は合唱連盟を代表して同行してくださったので、2週間、ドイツで一緒に過ごさせていただきました。

私は1976年に鎌倉から鶴沼に転居しましたが、先生は松が岡二丁目、わが家は三丁目でご近所でした。先生と奥様が散歩する道筋に当たっていたらしく、いろいろな演奏会の招待状などを郵便受けに入れてくださることがしばしばありました。

なかでも思い出すのは、1995年12月に郵便受けに入っていた、バーバー・ショップの95年度チャンピオン Marguis 神戸シヨ一の招待状でした。これがきっかけで、Marguis を呼び、先生に招待状を送った兵庫県合唱連盟の洲協理事長（詩）と懇意になり、私が2000年に90年度チャンピオン ACOSETIX を招聘した時には、伊丹でのシヨ一を洲協さんが開催してくれることになりました。これも先生のおかげでした。ハワイのバーバー・ショップが来日した時に水戸で開催したゲイナー・シヨ一に先生ご夫妻をお招きして、翌日まで楽しいひと時を過ごしたことも忘れられません。

いろいろな思い出があり、このたびは是非、貴演奏会に伺いたく存じますのでよろしく願います。
10月吉日

今号も引き続き「チュウちゃん」シリーズ。

動物園には「客寄せパンダ」の言葉も生まれたほどの大スタ一のパンダをはじめ、ライオン、トラ、ゾウ、キリン、ラクダといった人を引きつけるキャラクターのある人気の動物がいるが、一方であまり人目を引かない、檻の前を素通りしてしまうような動物もいる。

「チュウちゃん」に登場す

いそべ男声メロディー・歌の博物誌47

アナグマなにをさがしてる めがねをかけてきよろきよろ

柴野民三作詞 大中 恩作曲

澤野 勉 (2)

る13種類の動物のうち、マイナーなのが、ヤマアラシと、このアナグマ。

けれど、組曲のストーリーをつくっていくチュウちゃんの科白を見ると、このような地味な動物がいることで、曲の内容を豊かにしていることがわかる。チュウちゃんは「あのタヌキみたいなの、なあに？」と問いかける。

歌詞は、アナグマの挙動に対

する問いかけと、アナグマがつぶやく科白とからなっている。冒頭の言葉に対して、アナグマはこう答える。（歌ううえでもこの配慮が必要か！）

「山にさいてる 木の花さ
もといた おうちのほらあ
なき」

ここで、アナグマの履歴書の

*



アナグマは北海道を除く各地に棲息している。毛皮は腰皮として、毛は毛筆に利用される。アナグマをムジナと呼ぶ地方もある。タヌキをムジナと呼ぶ地方もあり、アナグマはクマというよりタヌキに近い。徹底した夜行性の動物で、この歌のような長閑な会話は実際にはできないだろう。鋭い爪があり、これで住む家となる穴を掘る。歌に出てくる

紹介を……。アナグマは名前にクマとつくけれど、じつはクマではない。イタチ科の動物。前号のペンギンでも触れたように、人間に勝手につけられた名称だ。穴に住むクマと思われるが、クマ科とは関係ない。イタチ科にはスリムな形態のものが多く、対して、歌詞の2番にあるように、アナグマは「ころころ」とクマに似た姿態なので、この名がついたのだろう。

*

辞書でムジナ（貉・貉）を引くと「①アナグマの異称②タヌキ」とある。

ここから、人を誑（たぶらかす）イメージのある輩が同じ仲間であることを示す、こんな言葉が生まれた。

*

★カットは筆者のお孫さんの鈴木はるかさん。

40周年記念演奏会 当日スケジュール

12月1日(日) 14時開演 ティアラこうとう大ホール

9:00 集合、楽屋入り
 9:00~10:00 受付準備。山台、反響板設営。舞台進行打ち合わせ。ピアノ調律
 9:30 受付、案内打ち合わせ
 10:00~10:40 体操、発声
 10:40~12:10 リハーサル
 12:10~12:40 昼食
 12:40~13:20 ステージ出入り、並び位置確認
 13:20~13:50 着替え、休憩
 13:55 1ベル団員舞台袖集合、整列

		曲目	ピアノ	出入り・照明
13:30	開場			客席地明 舞台DN
13:55	1ベル			
13:59	2ベル			
14:00	オープニング	クラブソング ふるさと	センター (蓋閉め)	団員登壇(Tは下手、Bは上手) →(Tは1T、2T、Bは1B、2B。以下同) ・照明は整列後舞台UP客席DN 指揮者下手入場、《演奏》、下手退場 団員板付き
(25分)	挨拶			
	第1ステージ	ミサ曲	センター (蓋開け)	・照明は舞台UP客席DN 指揮者、ピアニスト入場 《演奏》 指揮者、ピアニスト下手退場 団員退場(Tは下手、Bは上手へ)
14:25				
5分間	休憩			・舞台照明50%DN 団員登壇(Tは下手、Bは上手から)
14:30		いそべとし 抒情歌集7曲	(蓋開け)	・照明は舞台UP 指揮者、ピアニスト入場 《演奏》 指揮者、ピアニスト下手退場 団員退場(Tは下手、Bは上手へ)
(20分)	第2ステージ			
14:30				
15分間	休憩			・照明客席UP 舞台DN
15:04	ベル			団員登壇(Tは下手、Bは上手から)
15:05		優しい愛の歌 5曲		・照明は舞台UP 客席DN 指揮者、ピアニスト入場 《演奏》 指揮者、ピアニスト下手退場 団員退場(Tは下手、Bは上手へ)
(20分)	第3ステージ			
15:25				
5分間	休憩		センター	・舞台照明50%DN 団員登壇(Tは下手、Bは上手から)
15:30		チュウちゃんが 動物園へ行った お話		・照明は舞台UP 客席DN 指揮者、ピアニスト、ナレーター 入場 《演奏》 指揮者、ピアニスト、ナレーター 下手退場 団員板付き
(30分)	第4ステージ			
16:00				
	エンディング アンコール	くちなし 遥かな友に		・照明ママ 指揮者、ピアニスト入場 《演奏》 指揮者、ピアニスト下手退場 ・照明客席UP 団員退場
16:10	終演			

総務だより

10月27日運営委員会報告

●40周年コンサート関係
以下の担当、詳細を決定

①舞台進行、演出

土屋信吾さん依頼済み

②衣装

1、2ステ：黒タキシード、

シルバー蝶タイ、シルバ

ーチーフ

3、4ステ：白タキシード、

黒蝶タイ、臍脂チーフ

③当日日本番スケジュール

(詳細4頁参照)

④楽屋準備、お弁当、飲み物

佐藤さん、山川さん

⑤舞台準備

安部さん、戸丸さん

・合唱団の台平場+3段

・ピアノ調律

・ナレーションマイク準備

・MCマイク準備

⑥受付準備

宮田さん、下山さん、田岡さん

*

A 舞台打ち合わせは11月4日

に行う。障害者駐車場、親子

室利用等。

B 受付係等当日の役割分担は

ティアラこうとうのレセプシ

ョン係(プロ)5人ほどに依

頼

C 谷口恵さん(ナレーター)

・プロフィールと写真を

D 川辺成美先生関連の方々の

ご招待について佐藤さんから

提案あり、川辺先生関係の先

生方や児童にも声をかけてい

ただき招待する。(了承)

(招待状の受付での処理につ

いては、招待受付でチケット

と交換して入場していただく

ことにする)

●40周年関係既決定事項

・ステマネは土屋信吾さん依頼

済み

・会場係のアルバイトは江東区

の合唱団に依頼↓宮田さん

・写真はスタッフフレスに依頼、

OK

・打ち上げは注文済み↓戸丸さ

ん

・当日の舞台、受付係を下山さ

ん、田岡さんに依頼中

・招待席は特に設けないという

意見が多く出る

●磯部倅・和先生お墓参り

・11月25日11時大庭台墓園集合

須賀さん来参予定

準備・宮田さん、板垣さん

●決定事項確認

①2014年新春ファミリコ

ンサート&パーティー

・2月9日(日)江東区文化セ

ンター・レクホール(東陽町)

・各団体に案内状を発送した

↓宮田さん

・年末に詳細な案内を送る予定

②2014年沖縄男声との合同

演奏会

・11月16日(日)に決定。ティ

アラこうとうに協力を要請、承

認済み

・曲目を早めに決定したい

※須賀監督指揮の合同曲は

「水のいのち」

※いそべ単独曲は「岬のうた」

(磯部倅曲)でほぼ決定(加

藤崇子先生がピアノパートの

編曲を進めておられるとのこと

(須賀監督)

③強化練習

11月9日(土) 13時、豊洲

11月10日(日) 13時、豊洲

④忘年会

12月22日(日)練習終了後18時

にサンミ高松銀座本店7Fにて

会費6000円



桜友女声合唱団

(共立女子大学合唱団OG)

創立35周年記念第17回演奏会

指揮 大谷研二(Ⅳ)／野本立人(Ⅰ・Ⅱ)／竹村洋美(Ⅲ)

ピアノ 高木美来 ホルン 友田雅美・安田健太

賛助出演：共立女子大学合唱団

I G. オルバーン ミサ第6番

II J. プラムス 四つの女声合唱曲

III 桜友女声合唱団愛唱歌

浜辺の歌・コンドラの唄・ああ、雪の森の静寂 他

IV 西村 朗 女声合唱とピアノのための組曲「花紅」

(2010年愛唱歌) 与謝野晶子短歌みだれ髪より

2014年1月7日(火)19時開演(18時30分開場)

東京文化会館小ホール(全席自由、2000円)

東京文化会館チケットサービス(上野駅公園口前)

03-5685-0650

後援 一般社団法人 共立女子大学・共立女子短期大学桜友会

東京都会合唱連盟

お問い合わせ 八木昌子 TEL: FAX 0422-22-3888

e-mail myagi@parkcity.ne.jp

桜友女声合唱団

創立35周年記念第17回演奏会

2014年1月7日(火)

東京文化会館小ホール 2000円

指揮 大谷研二・野本立人・竹村洋美

曲目 ミサ曲(オルバーン)

4つの女声合唱曲、愛唱歌集

組曲「花紅」西村朗曲

来客

井澤常和さん(大阪メロクワイアB)

10月27日練習と、江東区民合

唱祭のいそべ男声の演奏に1

Bとして参加された。

山内純治さん(豊澤合唱団B)

27日の合唱祭の当団の演奏を

聞き、打ち上げに出席された。

練習日記記録

■10月13日

発声/三上

曲目/犀川、月の夜(大西)、白

南風のうた、林のなか(安部)、

いねかり、いろり(三上)

「優しい愛の歌」より どう

ぶつえん、片耳の大鹿よ(安部)

■10月27日

発声/横田

曲目/「チュウちゃん」全曲

「優しい愛の歌」全曲/須賀

ナレーション/谷口恵

■10月27日

出席/1・1・8、1・1・9、1・1・5、2・1・7

出席/1・1・8、1・1・9、1・1・5、2・1・7

江東区民合唱祭

■10月27日出場

(詳細はトップ頁参照)

SCHEDULE

豊洲：江東区豊洲文化センター
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

顔：須賀監督指導・指揮 横：横田先生発声指導

○運営委員会は原則として第4日曜日11:00練習場にて開催

2013(平成25)年	練習場・会場	Cバー
11月 9日(土) 強化練習 13:00~17:00	豊洲	
10日(日) 強化練習 顔横 13:00~17:00	豊洲	
☞ 16:00~17:00 谷口恵さんナレーション合わせ		
24日(日) 定例練習 顔横 13:00~17:00	豊洲	
☞ 30日(土) 臨時練習 顔横 13:00~17:00	江東区文化センター・リハーサル室(東陽町)	
12月 1日(日) 40周年記念演奏会	会場/ティアラこうとう大ホール	
9:00 会場に集合・準備・リハーサル(詳細は4頁「当日スケジュール」を参照)		
13:30 開場		
14:00 開演	曲目○歌の仲間(クラブソング)、ふるさと	
	①三声ミサ(ロバツ)	
	②いそべとし抒情歌集	
	犀川、月夜、白南風のうた、林のなか、いねかり、	
	いろり、松の花	
	③組曲「優しい愛のうた」	
	④「チュウちゃんが動物園へ行ったお話」	
	○くちなし、遥かな友に	
	終演後ティアラこうとう地階で打ち上げ会	
	衣装/①②…黒タキ、シルバー蝶タイ、シルバーチーフ	
	③④…白タキ、黒蝶タイ、えんじチーフ	
8日(日) 定例練習 13:00~17:00	豊洲	
22日(日) 定例練習 顔横 13:00~17:00	豊洲	
☞ 忘年会 18:00~	会場/サンミ高松 銀座本店 7F 会費6000円 イタリア料理	
2014(平成26)年		
☞ 2月 9日(日) 新春ファミリーコンサート&パーティー	会場/江東区文化センター・レクホール(決定)	
☞ 11月16日(日) 沖縄男声との合同演奏会	会場/ティアラこうとう大ホール(決定)	

編集後記

▲想いは思わぬところから伝わるものだということを実感しました▲葛飾区のシンフォニーヒルズでのウィーン音楽の夕べに行ったときのこと、プログラムを見て7月の東京都合唱祭に講評を書いてくれたA先生の名前があるのに気が付きました。作曲者、編曲者、ピアノリストとして演奏会をまともにしておられます▲A先生の講評は、当団を「これぞ、人生を歌う合唱団である、賛美したいほどの表現でとてつくさいまでの表現でした▲これより以前、このコンサート開催に関係している小生の友人には40周年演奏会のチラシは送ってありませんでした▲そこで思い切って、終演後ロビーでいそべ男声への講評のお礼を言うことにし、果たすことができました▲すると、その直後、友人からチケットを欲しいとの連絡があり、A先生からは是非聞きなさいと言われました、仲間を連れていくからということでした▲まさに驚きの連続でした。そして出会いの大切さを感じみじみと味わい、学ばせてもらいました。(河合)

印に注意。予定は変更、追加される場合があります。常に最新の号を見てください。

SCHEDULE

顔:須賀監督指導・指揮 欄:横田先生発声指導

豊洲:江東区豊洲文化センター
古石場:江東区古石場文化センター
東大島:江東区東大島文化センター
ティアラ:江東区ティアラこうとう

○運営委員会は原則として第4日曜日11:00練習場にて開催

2014(平成26)年

- 1月12日(日) 定例練習 13:00~17:00 江東区文化センター・リハーサル室
19日(日) **ぴあハウス・コンサートVol.3** 会場/川崎市多摩区総合庁舎 多摩市民館(下段案内図参照)
17:30集合 曲目/クラブソング、白南風のうた、林のなか、
18:30開演 びわ、いちじく、一年生くん弟くん、
おさるの野球、野ばら (未決定)
服装/
26日(日) 定例練習 13:00~17:00 古石場
2月9日(日) **新春ファミリーコンサート&パーティー** 会場/江東区文化センター・レクホール(決定)
23日(日) 定例練習 13:00~17:00 豊洲
3月9日(日) 定例練習 13:00~17:00 豊洲
23日(日) 定例練習 13:00~17:00 豊洲
4月6日(日) 臨時練習 13:00~16:00
屋形船お花見
11月16日(日) **沖縄男声と合同演奏会** 会場/ティアラこうとう大ホール(決定)

★ぴあハウス・コンサート Vol.3 1月19日(日)

(東日本震災支援チャリティ)

主催 ぴあハウス津野 (代表津野田京子)

会場 多摩市民館 3階大会議室

川崎市多摩区登戸1785 (多摩区役所総合庁舎内)

☎044-935-3333

内容 男声合唱・フルート演奏・ハーモニカ演奏など

岩手県大槌町の現地の方の話

JR南武線登戸駅下車徒歩10分 又は小田急線向ヶ丘遊園駅北口下車徒歩5分



いそべとし記念男声合唱団ニュース

2014年 1月 第385号

発行代表者:戸丸悟(総務)〒135-0053 東京都江東区辰巳 1-8-45-302 ☎03-3521-6898 FAX 同
E-mail isobechorus@hotmail.com URL <http://www.geocities.jp/isodanchorus/>
編集:河合隆一(広報)〒272-0031 千葉県市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同

*昨年12月は休みました。



40周年記念演奏会 盛会

いそべとし記念男声合唱団発足40周年を記念しての演奏会は、2013年12月1日ティアラこうとう大ホールに沢山のお客さんを迎えて開催、須賀敏一監督の指揮、永井博子先生のピアノで40年の積み重ねを歌い切った。磯部先生が亡くなられてから15年、80歳以上の団員が半数近くとなって、さまざまな奇跡や伝説を生みながらの40年。これを通過点として、更なる歩みを続けていく。

・指揮 須賀敏一 (第2部の指揮者は別掲)

・ピアノ 永井博子

・ナレーション 谷口 恵(第4部)(ソプラノ・シモ)

演奏曲目

オープニング クラブソング歌の仲間

第1部 ロパルツ三声ミサ 聖アンナの栄光に

第2部 いそべとし抒情歌集

①犀川②月夜③白南風のうた④林のなか

⑤いねかり⑥いろいろ⑦松の花

(指揮/①②大西紹夫 ③④安部建雄

⑤⑥三上正秋 ⑦横田清文)

第3部 男声合唱組曲『優しい愛のうた』磯部徹作曲

おやすみなさい、おにちゃんの成績、さ

かな、どうぶつえん、「片耳の大鹿」よ

第4部 音楽ものがたり

『チュウちゃんが動物園へ行ったお話』

ろばの会作曲(磯部・宇賀神光利・中恩・中田・中喜)

アンコール くちなし、ふるさと、遙かな友に

・出演団員

1T/石原祥弘・大西紹夫・河合隆一・磯部徹・田島哲朗・長田茂・西川由・横田清文・青松

2T/井上青・岩本裕之・河原佳・佐藤元昭・澤勉・坪井俊策・三上正秋・富田茂・村岡昭一郎

1B/安部建雄・川野辺直雄・児玉久・田邊喜一郎・徳田浩・戸丸悟・山川松

2B/秋永基・板垣滋・岩崎精一・大澤寛之・坂巻信幸・澤登典夫・角祐一・武田元次郎・辻純一郎・

長島義隆・三好任・渡邊清

・ステマネ/土屋信喜・舞台/下山利行・受付/いそべ関係/鈴木賢一・田岡典高

*外部の方の感想は2頁から、団員の感想は10頁から

声がまっすぐ前にのびて

清水 智世（江東区第5町小3年）

日曜日、お母さんと妹と友達と私で聞きに行きました。

はじまる前は、わくわくしていました。男の人だけが歌うのはどんな感じのかなー、と思いました。

歌を聞いてみたらとってもきれいなやさしい声だったので、びっくりしました。見ていたらみんなしそいがよくて大

な口をあけて歌っていて声がま

っすぐ前にのびているような感じがしました。一階のうしろの方のせきだったけどとてもよく聞こえてきました。

とってもきれいな声だったけど、知らない歌ばかりだったので、知っている歌を歌ってもらえたらもっと楽しく聞けたなーと思いました。

「チュウちゃんがおもしろかった

とこしま えりか（江東区第5町小3年）

わたしは、だんせいがつしゅうだんを見て、おもしろい歌がありました。チュウちゃんとのチュウちゃんのおねえさんが動物園の行った歌で、とくにおもしろかったのはライオンの赤ちゃんをからかっていたチュウちゃんライオンのお父さんに

ほえられてにげる所と、チュウちゃんがぐじゃくに見とれている所です。

聞いていてびっくりしたことがあります。それは、だんせいがつしゅうだんの歌がすごくうまいからです。びっくりしました。

とてもいい合しようだんだとおもしろい

中島 拓泰（第1区小3年）

ぼくはコンサートをきいてい

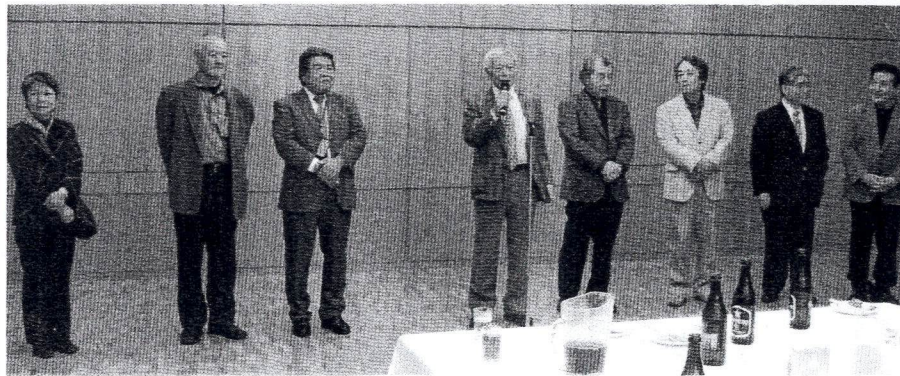
チュウちゃんはどうぶつえんへ行ったおはなしの中で、ライオン

打ち上げは

大にぎわい

沖縄男声合唱団
宮城 稔（翼）

10数名で来ましたが先に帰ったものがいて今は9名です。団の平均年齢は60歳です。来年いそべさんとの合同があるので是非聞かなくてはと参りました。



素晴らしい演奏でした。10年後いそべさんを見習いたいです。

（沖縄の歌を歌ってくれとの声）が飛んだ。これにこえてG4が歌い始める

・山寺の和尚さんーG4（指揮者の宮城敏さんなどによるカルテット）

名演に大拍手



中野芳昌（富田第1区）

いそべさんとの付き合いは4年前にジョイントを田主丸で開いて以来です。須賀先生には毎年のように指導にきてもらっています。田舎のコーラスですが毎年の演奏会には磯部先生の曲を必ず歌います。今日はおめでとうございました。

古森 英（第1区第1中）

久しぶりにいそべ男声の音を聞きました。最後の「チュウ

打ち上げは6時からホールの地下の大会議室で約80人の、遠くは沖縄からのお客さんたちで、酒、歌、スピーチにと、大いににぎわった。

ちゃん」の曲は子どもが喜んでしよう、ひ孫まで聞かせるつもりで歌い続けてください。九州に準備中の民宿は来年になります。またお知らせします。



堤 敦子（コルティ）

和歌山から来ました。40年おめでとうございます。いそべ男声はすごいです。わたしもいそべさんと共に歩んできたと言ってもらいましょう。本当は若いんです。（笑い）11月の沖縄との合同、聞きたいです。

田中恵子（松戸第1区）

40年おめでとうございます。いそべ男声には、春、浜松へ来ていただき、生徒や父母たちにすばらしい演奏、いい歌を聞かせていただきました。私は来々74歳になります。こんなに歳上の方々がこれだけ歌えることに感動しています。ありがとうございます。

のところ。理由はよくのおとうさんはついんだぞということであらわしていたからです。かんだうしたところは片耳の大鹿のときです。理由はよくいりもよいかんそう文になっていて、とてもわかりやすかったからです。

たのしかったのはチュウちゃんはどうぶつえんにいったおは

あんなすごい感じの歌声で

歌いたい

倉門 夏海 (江東第五小学校)

わたしは、日曜日、ティアラ江東に、男声合唱団の合唱を見に行きました。

わたしは、その合唱を見て、心に残ったのは、歌う人の人数は少なかつたけれど、大ホールのはじっこまでひびいていたのが、すごいなあと思いました。

そのつぎに心に残ったことは歌っている人が、ピアノのメロディーに合わせて、強弱をつけ

きもちのいい音色を聞いた

吉成 翔音 (江東第五小学校)

わたしは、12月1日に、男声合唱団の合唱を聞きに行きました。聞く前は、(そんなにすごいかな?) というようなこ

な全部です。理由は全部ほんとうにいたりあつたりしたみたいだからです。また合しうのときもすごいきれいな声を出してとてもいい合しうだんだとおもいました。こんどこういう合しうがあつたらみにいきたいです。

(拓摩ヒロキ君は川野 忍くんのお孫さん)



加藤 崇子 (大阪・ピニスト)

大阪の「ピアニスト」です。

(笑) 永井さんのピアノはほんとに素晴らしいです。そして80歳とはとても思えない方々の歌に感動しました。私は今日演奏して下さった「ふるさと」のピ



アノパートを作らせていただきました。今は「岬のうた」のピアノパートを作っています。どうぞ演奏して下さい。



川辺 成美 (江東第五小学校)

おめでとうございます。今日は子どもたちにぜひ聞かせたいと思って40人の子どもたちと一緒に聞きました。素晴らしいかったです。子どもたちは一生懸命に聞いてくれました。近ごろ教えること以外の問題に悩むことが多いのですが、今日、皆さんの歌声を聞いて少しすっきりしてきました。ありがとうございます。



永井 博子 (ピニスト)

東京の「ピアニスト」です。(大笑い) 今日はおめでとうございます。前の35周年から今年まで、私には大変なことが次々と起こりました。でも、人生の先輩であるいそべ男声の方々が

支えてくださって、そしてそこにいる私の夫や「お父さん」のような人の支えもあって本当に幸せに思っています。



谷口 恵 (簪)

チュウちゃんです。(大拍手) 今回、「敬一おじさん」は私の舞台を見たこともないのに突然これを持ってきてきたんです。相当カケに出られたと思います。でも、いそべのやさしい皆さんに囲まれて、思い切ってチュウちゃんを演ることができました。ありがとうございます。

浅妻 勲 (齋グリーシア)

エネルギーギッシュな表現と繊細な表現とよく歌えていました。稲門グリーシアより年齢は高いけれど立派でした。40年おめでとうございます。

・ここで坪井さんの指揮で、会場内の多くのグリー仲間も集合、ウボイを歌う。
・続いて澤登さんの指揮でシュテンチェンをハモる。
・さらに村岡さんのソロが入って夕焼けこやけ。須賀さんの指揮で。

← 剪り音を

きれいな声で、まるで、おしろで流れている、音楽のように聞こえました。終わったあと、キレイすぎだろーと思いつながら、はく手をしました。

そのキレイな声で歌った中で一番思い出に残ったのは、チュウちゃんの動物園です。

お姉ちゃんが、クジャクに見とれていたなら、チュウちゃん

“幸い”の時を感謝

須崎由紀子（日本指揮者協会）

“おめでとうございます”
“ありがとうございます”
と、万感の想いを込めて、御出演の皆様、おひとりおひとりに申し上げたいと思います。

創立メンバーを始め、総勢37名のお仲間が脈々と繋げる40年のメンネルコアハーモニーに包まれた、この“幸い”の時を感謝せずにはいられません。

しばし忘れかけていた、声を合わせ、音楽を共にする素晴らしさ、尊さをあらためて教えて頂きました。

ROPARTZ「MESSE BREVE」男声の演奏は初めてですが、このミサ曲はパリ市内の教会で聴きました。音楽の源流としての教会音楽は魅力があり、学んでいます。透明感と

おこってしまったって、ライオンの子どもにそう言う。で、そこから不運が…というような話です。わたしは、男声合唱団の合唱を聞きに行つて、よかったです。きもちのいい音色を聞いたからです。また、行けたら絶対に行きたいです。

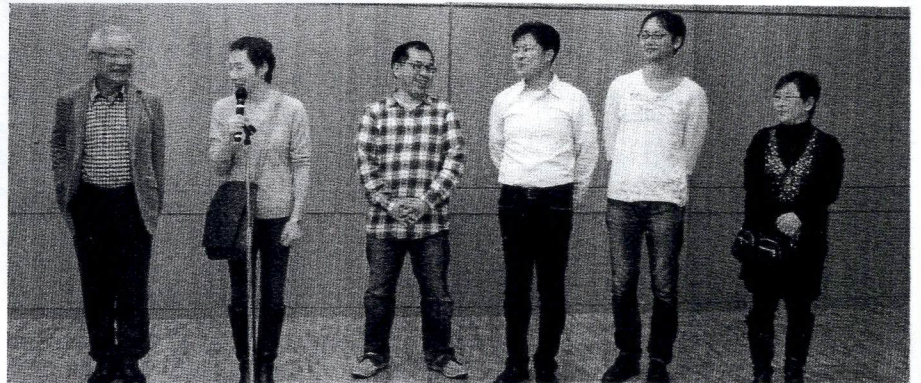
（第55期小の子どもたちは、川辺成美先生の紹介です。ありがとうございます）

息の流れのしなやかな発声による大人の男声合唱として、期待が膨らみます。

いそべとし抒情歌集と男声合唱組曲のステージでは、いそべワールドに浸りました。特に「松の花」は心に染みました。磯部先生の作品はその底に、哀愁が漂い、潮流のように押し寄せる音のひろがり、（自分の音楽表現では力不足を感じていました）が、やはり男声の表現の大きき、深さが磯部作品の真髄なのではないか。

「チュウちゃん」では中田喜直作品も懐かしかったです。少しだけ、合唱演奏が遠慮気味？と感じました。中田先生の作品は20年近く所属した日本女声合唱団で歌いました。中田先生

← 剪り音から続



大阪メールクワイアー

（指揮者の須賀さんとピアノの加藤さんも加わって）

福井弘美（大阪メール内務課）

男声合唱に魅かれて大阪メールで歌っています。指揮をする

こともあります。昨年5月には

大阪メールの演奏会にいそべ男声さんがゲスト出演されて大変

ありがとうございました。

横田清文（大阪メール指導・いそべ男声）

大阪メールといそべ男声の横

田です。VT、ヴォイストレーナーの立場で言いますと、いそべ男声はいい声の時とダメ声の時とがあるのが現状だと思います。80歳以上が半分ですが、基礎を鍛えればまだまだ歌えます。50回記念、60回記念をやりましょう。それから沖繩の方々、大阪へもぜひお出でください。うまいものもたくさんあります。

西川由明（いそべ男声）

大阪大学で混声をやっています。就職が東京になったのでどこか歌えるところはないかと思つていたらいそべを紹介されて入団しました。皆さん酒好きでよかったです。

（ここで須賀さんから「土曜日に酒の飲み過ぎでいそべ男声の練習に来られないこともあったよな」と野次られて皆大笑い）

*

・時無草を須賀さんの指揮で。但しヨッパライバージョンなので指揮者からは「ドンクサイ」と怒鳴られるし、須賀さん自身もトチる。トチらなかつたのは「ピアノリスト」「ヒロコちゃん」だけ。

・遙かな友に

全員で手をつなぎ、肩を組んでハモる。もちろん指揮は須賀監督、ピアノは永井先生。

*

料理も食べつくし、飲むかしやべるかしなくなつた会場の一角で、団員たちのこんな会話が聞こえてきた。
「昨日の臨時練習、今日の早朝から夜まで、何事もなくコンサートは終了した。その意味も含めて40周年演奏会大成功と言つていいだろうな」「まったくだ」「ほんと。乾杯だ」



は磯部先生について、「ろぼの会」の「発案に賛同し参画したが、磯部さんはアイデア溢れている人」とおっしゃっていらっしやいました。私にとつての磯部先生は、まだ私が娘時代！に童謡を歌わないか？とお誘いを頂いたことを始め、新・波の会、日本歌曲コンクール室内オペラ「夕立」(磯部傑作曲)東京初演にキヌ役で出演(1983.4.26)。また日本合唱指揮者協会へご推薦頂

15歳年上のいそべ男声を目指す

宮城 稔(稲葉合唱団長)

40周年おめでとうございます。私たち沖縄男声はいそべ男声よりも一年先に発足しましたが30数年のおつき合ひの中で、いそべ男声は平均年齢が10歳年上の団体とっていました。ところが80歳以上の団員がほぼ半数もいると聞いて、びっくりしました。15歳は年上だと思ひます。そのことが私に希望を与えてくれました。15年後の私たちの団も、あのようにならなく、元気(?)にステージに立てると思うとたまりませんでした。そしてほぼ全曲を楽譜を見ずに歌っている方が何名かおりました。私もあと5年もすると80代。そうになると楽譜も見ずに歌えるかと

いたこと、など先生のご恩で溢れていますと同時に、いそべ男声の変わらぬ高誼に心から感謝申し上げます。私たちは日本の作曲家両巨頭から教えを受けることが出来た良き時代に歌い学びました。それを後世に伝える大切な使命のある記念演奏会であると思ひました。男声合唱の一ファンとして次回を楽しみにしております。

(日本演奏家連新・波の会、東京歌劇場)

思うと、早く年をとりたくなりました。

演奏は第一部の歌を聴いて、柔らかい声、美しいハーモニーは健在でした。磯部傑先生の曲はどれも歌いこまれていたと思ひました。そして、柔らかい歌声が続くと単調になりがちですが今年は四部の「チュウちゃん」でステージが面白くなりました。ナレーションの谷口さんの演技で、物語が生きてきたとてきました。この曲は合唱版の「ピーターとおおかみ」になるんではないでしょうか。2014年は合同演奏会があります。とても楽しみにしています。

楽しい演奏会でした

柳田 國男

(江東合唱連新・波の会)

さすが40年のキャリアは見事でした。プログラムの構成も素晴らしい。第4部は、40周年の目玉というべき企画でした。合唱の楽しさを改めて楽しませてくれました。第2、第3部も良い演奏でした。

ロパルツの三声のミサは初めて聞きました。珍しいミサ曲を取り上げて頂いてありがとうございます。第4部は、40周年の目玉というべき企画でした。合唱の楽しさを改めて楽しませてくれました。第2、第3部も良い演奏でした。

いそべ男声のハーモニーはともやわらかくて素敵でハーモニーです。いつ聞いても、心が和むハーモニーでとても好きです。

3年前、「おかあさんのばか」のCDの提供のお願いに始まった縁で貴団の演奏を聴かせていただけたことを感謝します。長田代表の重ねてのご要請があり、つたない感想を述べさせていただきます。

「来て良かった！」これが一番の感想で、一緒に行った八十島

来て良かった！

上田 武

(常盤たけしネーデル合唱団)

高齡化はこの合唱団も抱えている問題です。ただ、高齡になると個人個人の能力のバラツキは大きくなります。高齡でも立派な演奏ができる団員さんは沢山いらっしゃると思います。健康に気を付けて、これからも素晴らしい演奏を聴かせて下さい。

も同じでした。聴く人を幸せな気持ちにする演奏、この様な演奏会は初めてであり驚きでした。お客様に迎合する演出もなく、誇りを持ってひたむきに歌う姿に、プログラムに八十歳を越える方も多いとある中での皆様の努力に頭が下がりました。

祝電 電杆杆又

女声アンサンブルアトリエ

私たちより少しお兄様でいらっしゃる皆様の日頃の練習の様子を須賀先生から伺うにつけ年齢を言い訳にしがちな私たちももっとがんばらなければと反省しながら練習に励んでいます。演奏会では柔らかなく素敵な歌声で聴衆の皆様を魅了なさってください。ご盛会をお祈り申し上げます

豊中混声合唱団

第40回記念演奏会のご盛会を心からお慶び申し上げます。皆様方のますますのご活躍を祈念いたします。

新居浜混声合唱団

四十周年記念演奏会、誠にありがとうございます。

ご盛会と貴団のますますのご活躍をお祈りいたします。

磯部傑記念「遥かな友に」道志川合唱祭実行委員会

40周年記念演奏会の開催おめでとうございます。今日の日を迎えられましたのもひとえに皆様のご努力の成果と心よりお祝い申し上げます。貴合唱団のご発展と皆様方のご健勝をお祈りいたします。

合唱の家おおば

演奏会おめでとうございます。素晴らしい歌声を会場いっぱいに響かせてください。

先ず感じたのは、やわらかい声で、和音の余韻が絶えず創り出されていることでした。指揮者、ボイストレーナーの優れた指導があるにしても各パートの音色が統一されていることをうらやましく思いました。

団内の四人の指揮者も立派な演奏でした。ちょっと遠慮している方もおられました。私にしてみれば貴団の実力を思い知らされるステージでした。

ピアノ伴奏の永井先生、団の中で大切にされている様子は、大澤様を通じて頂いているいそべ男声ニュースの中で感じていました。が納得しました。「遙かな友に」で繰り返しの度に弾き方を変えることだけでも永井先生様様です。

ナレーター谷口さんは、ネズミの姉弟の音色の使い分けに感心していたら、何と歌って踊って最後のステージを飽きさせることなく進行するタレントでした。

長田代表のご挨拶に「始めの

響きのある温かいハーモニー

五味 文誠

(調音・音楽監督)

響きのある、温かいハーモニー、合唱部分もさることながらユニゾンもとてもきれいでした。

20年は磯部先生に育てられ、後半の20年は須賀先生に鍛えられた」とありましたが、これからますますのご活躍をいただきたいと願っています。

◎常磐ひたちメンネルさんは昨年演奏会に「おあさんのばか」を演奏したので音源が欲しいと言われ、CDをお送りして以来のお付き合いです。2014年には「磯部倅」こどもの世界」を演奏するについての質問なども応対してきました。更に3冊ある磯部先生の子どもの曲集から「こどもの世界II」を編集、作成して提供しました。16年の定演で演奏の予定というところで、磯部さんの子どもの歌に興味をお持ちなら、今回の演奏会にお誘いしたわけです。

(長田)

が、クラブソング(合唱団歌)でした。ハーモニーが素晴らしい心地よい演奏をきかせていただきました。

ロパルツのミサは響きがとてもきれいでした。

第2部、いそべとし抒情歌集の「犀川」「林のなか」「松の花」は当団の演奏会でも須賀先生の指揮で演奏いたしましたので、興味深く聴かせていただきました。歌詞がはっきりしていました。

最終の第4部「チュウちゃん動物園へ行ったお話」は女性ナレーターとのコラボレーションもぴったり、楽しく聞かせていただきました。

アンコール3曲、素晴らしい演奏、「くちなし」のトップテナーがきれいでした。

演奏会を通してノーアナウンサー、気が付くのも遅いくらい違和感もなく、これも感心した次第です。大変勉強になりました。

私の隣には東海メールの片山さんでしたので、おかげさまでいろいろお話しすることも出来ました。

合唱団員の3分の1の方が80歳台とお聞きし、これもびっくり。ご健康には充分ご留意され益々のご発展を祈念いたしております。

アンケートから

代男性)

○10年くらいで久しぶりに聞かせて頂き変わらぬハーモニーの美しさ、衰えぬ音量、団員の方々の年輪を重ねた歌への思いが私達にも伝わり感動しました。

代男性)

○ピアノも素晴らしいです。音一つ一つ響き、心をこめて弾かれていたのには感銘を受けました。合唱をよりひきたてていました。

代以上女性)

○心地よいハーモニーでした。合唱の楽しさを教えて頂いた、そんな気がします。2時間のステージお疲れ様でした。(名川咲子/10代佐倉市)

代女性)

○ハーモニーが良かったです。ミサはきれいだっただが「つかみ」のためにはよりインパクトのある曲の方がよいと感じた。(50代女性)

代女性)

○発声がきまっています、特にピアノシモがきれいです。「ふるさと」にはぐっときました。(80代女性)

代女性)

○声がソフトで心地よかったです。トップの高音が余裕をもって響いていた。低音も良いです。(70代女性)

代女性)

○ピアノが素晴らしい。合唱と

の連携が35周年より一段とアップした。合唱の特徴をしっかりとつかんでいる。(80代女性)

○詩が聞こえてきた。(80代女性)

代女性)

○やさしさ、クレッシェンドがよい。ピアノが素敵。皆輝いていたがバスの発声でつやがちょっと足りないのが残念。(70代女性)

代女性)

テレフォン・アンケートから

(不明)

の連携が35周年より一段とアップした。合唱の特徴をしっかりとつかんでいる。(80代女性)

代女性)

○詩が聞こえてきた。(80代女性)

代女性)

○やさしさ、クレッシェンドがよい。ピアノが素敵。皆輝いていたがバスの発声でつやがちょっと足りないのが残念。(70代女性)

代女性)

○ピアノが素晴らしい。合唱と

代女性)

温かい気持ちに

新城 宏治(アタ)

長年、ご一緒にお仕事をさせていただいている長田さんの合唱を聞きに、住吉にうかがいました。

何でも40周年記念とのこと。それだけでも本当に素晴らしいことだと思います。

心にしみる会でした。とても温かい気持ちにさせていただきました。

（仕事で何十年も話になっている言葉の出版の方。初めて読みました。ピアノレッスンも受けました。長田）

若々しい声に魅了

秦 政美(コールきんか代表)

40周年記念演奏会にご案内賜り真にありがとうございます。

期待通りの素晴らしい豊かな響きに感動させられました。

小生と同年配の中老の方々が、多い団体とはいえないが、若々しいお声に魅了させられました。楽しいひとときでした。

「チュウちゃん」が動物園へ行ったお話」はソプラノ谷口さんのナレーションが軽妙に展開す

ピッチのあったハーモニー

峯岸よしえ(「歌のたのしみ」)

フランスの香り立つロパルツのミサ曲から、趣向を凝らした

愉快で可愛らしい音楽ものがたり「チュウちゃん」まで、

バラエティに富んだ大変楽しいプログラムでした。

歌詞もはっきり聞こえてよく伝わってきましたし、無理のない発声で一つに溶け合った各パートの声は、バランスのとれた美しいハーモニーを紡ぎ出して、その中に浸りながら心地よいひとときを過ごさせていただきました。

現役大学生グリーのパワフルな演奏も感動的でステキですが、若々しいお声でありながら人生経験を経て熟成された、まろやかな、そしてピッチもピッタリあったハーモニーは、心に優しく届きました。

私自身も合唱の経験がありますが、このようにピッチのあったハーモニーで歌うことは本当

期待通りの「響き」が

脇田 知子(「歌のたのしみ」)

今年もソフトな真綿でつつんだ様な、優しい美しい音色に会えるのかと、楽しみに合唱が始まるのを待っていました。

期待通り「その響き」が耳に入ってきました。

団員の三分の一の方が80歳を越えられたとプログラムで知り、また驚きました。明るく楽しそうに歌われている

に難しいと感じております。特に日本ではピッチのあてない演奏をよく耳にし、残念に思うことが多いのですが、「いそべ」とし記念男声合唱団」は繊細で本当に美しいハーモニーを奏でていました。

アンコールで歌われた「遥かな友に」は私が入っていた大学の混声合唱団でも愛唱歌の一つで、ア・カペラで歌っていましたが、いそべ男声のおしゃれなピアノ伴奏バージョン、しみじみ心に沁みる名演で、とても感動いたしました。

楽しいやすらかな時間をありがとうございました。

（「歌のたのしみ」刊野々上が関係している「歌のたのしみ」です）

るのにも感動しました。

選曲も「優しい愛の歌」や、音楽ものがたり「チュウちゃん」が動物園へ行ったお話」で、若い元気なナレーションや、パフォーマンスが加わって、一層合唱も引き立って見えました。又、次回が楽しみです。



・午前中のステージリハーサルから

声若い、継続は力を実感

山本 健二

(美クリOB・声楽)

入場直後、ロビーで澤登典夫先輩にバッタリ。元氣のかたまり。ワセグリすれ違いの先輩だから、4〜5歳上のはず。

ステージは懐かしい面影を残したヒトがいるいる。

これを見ただけでも、来て良かったと思う。

声若い、一般の人を集めて歌わせたなら、その差は歴然とするだろう。継続は力を実感。

『100歳になっても脳を元気に動かす習慣術』(多胡輝)に、

「音楽は右脳、言語は左脳で受け止める、従って、歌は右と左の脳を同時に働かせるので『認知予備力』を高める」と書いてあった。

いそべ男声は100歳まで元氣な脳を持続するのだなあとと思

った。

吉田秀和は「演奏家は詩・曲をいかに演奏家自身のものとして表現するかであり、音符をなぞるような演奏は、その音楽の半分も表現していない」と言う。

40周年記念は磯部節を須賀節がまろやかに包み込んで、会場に潤いを与えていった。

日本語の歌唱法ですが、一つの提案として、いそべとし記念男声合唱団日本語歌唱研究会を立ち上げ、具体的な表現を研究として勉強してみても如何でしょうか？

なにはともあれ、40周年おめでとうございます。

50周年まっています。

ピアノつきの「ふるさと」

黒澤 幸男(早クリOB)

出色はアンコール。この2曲は早稲グリ出身者には「心のふるさと」とでもいう曲ですが今回はピアノ伴奏付き。

「ふるさと」の伴奏付きを聞くのは今回が初めてですが、浪速のカリスマピアニスト「オタカさん」が書いたピアノパートが秀逸で、まるでオリジナルのよう自然さで聞けました。

特に「ひとり都のゆふぐれに」からのフレーズの美しさは格別で、歌詞のように「涙ぐ」んでしまうほど感激いたしました。

ほめるのはアンコールだけかと、思われると困るのですが、「チュウちゃん動物園へ行ったお話」は懐かしい作品で、キングレコードの名物ディレクター長田暁二さんが手掛けて芸術祭賞を受賞したレコードの男声合唱版。

磯部徹さん、中田喜直さんたち「ろばの会」の存在を世に示した記念碑的企画でした。もと

もと男声合唱曲ではありませんから、今回歌った皆さんには、

歌い足りない不完全燃焼的な感じをお持ちの人々もいるとは思いますが、50年以上も前の名企画に改めて光を当てたという点で意義があったと思います。

注・「チュウちゃんが動物園へ行ったお話」は昭和30年に新しい子どもの歌をつくらと結成したろばの会(磯部徹、宇賀神光利、大中原、中田次、中田喜直)が作曲した組曲(昭和33年に芸術祭賞を受賞)。多くの歌い手が参加しているがデビューしたばかりの若きボニージャックスも参加してカバを歌っている。

大人のハーモニー

白井 猛

(福クリクラブ・シニア会)

先ずは40周年記念演奏会のご成功おめでとうございます。

円熟した柔らかいハーモニーを隅々まで行き届かせた男声合唱を心行くまで聞かせていただきました。

特に第一部のロパルツ三声ミサは須賀さんの絶妙な指揮と永井さんの巧みなピアノ伴奏にのせられて、素晴らしい演奏に仕上がっていたと感動させられました。

そして、第二部の「いそべとし抒情歌集」は歌い慣れた合唱曲に指揮者を次々替えて、合唱団の層の厚さを見せつけられました。

一人の作曲家が起こしてその名を冠にした合唱団がその後継者に引き継がれて、主要なメンバーがほとんど去ることなく40年続いているというのは稀有のことではないかと思う。そのことだけで、この会は意味のある敬服すべき演奏会であった。

実は、はじめに40周年記念演奏会というタイトルを見たとき、その40年のエピソードや昔の思い出話やらこれからの抱負のようなものが演奏会の中で多く語られるのではないか、それはそれで興味深いものであろうと期待したのだったが、期待に反し、演奏会は極めてオーソドックスな余計な語りのない、音楽

聴衆を引き付ける大人のハーモニーを、私も稲門グリー・シニア会も見習いたいものと思わせる演奏会でありました。

快い感動を

加藤 治信(横濱グリー)

快い感動を

→ 打ち上げ「時無草」を歌ういそべ男声



会であった。
40年の積み重ねは音楽で聴き取りなさいということなのである。このことは聴き手にほど良い緊張感を与えて考えさせる

という効果が間違いなくある。主催者がそのことを意図して、プログラムからさえ40年にまつわる逸話を排除したのであるとするならば、その意図は成功したものと思う。しかしその聴き取ったことを書かされる身にとつては大変重いものがある。

演奏会はロパルツのミサから始まった。不勉強な私が知る由もない曲で、なぜこの曲が40周年記念演奏会に歌われるのかもわからない。初めてなのでひたすら聴くしかない。聴いているうちに、この曲がいそべの演奏会に違和感なくはまりこむ魅力的な曲であることがわかってきた。古典的な様式でシンプルではあるが、洒落た響きが随所に聞こえてきて叙情的な味わいも心地よく感じる事ができた。

他の合唱団の演奏会で一番嬉しいことは、将来自分も演奏してみたい曲に遭遇することである。この日はこの喜びも味わった。もし演奏するとすればア・カペラでトライしてみても良いのではないかと思っている。

第2部のいそべとし抒情歌集で思ったことは、磯部さんの音楽の豊かさである。実は我が横浜稲門グリークラブも13年に磯部さんのステージを組んだので

あるが、お互いに打ち合わせもしないで選んだのに、いずれも代表曲といっても良い名曲が一つもかぶること無くプログラムされているのである。いずれも自分たちが長年歌い込んできた自分たちの歌という演奏は自信にあふれていた。また余録として指揮者コンクールのような楽しさも味わうことができ、本番近くになった時の練習時間調整が大変だったろうと余計な想像までさせていたのだ。

演奏会の音楽的ピークは第3部にあったと思う。第2部で少し緩んだアンサンブルもきちんと引き締まり、須賀さんの流れるような指揮に乗って、この名曲の良さ、磯部さんの曲の源になっていく優しさといったものを我々に伝えてくれた。

そしてこの日の売りとなっていった「チュウちゃん」である。このステージはもちろんとても楽しいものになり、お客さんもおおいに喜んでと思うが、谷口さんの独演会になってしまったことは否めない。人前で演じるところはこういふこととプロが示したくれたように思う。彼女には作品の良さをどのように聴衆に伝えるかという意志が全身に溢れていた。我々合唱をやる人

種はとかく音程、リズム、和音といった要素、はたまた楽譜を持つ持たないといった形の議論はよくするが、お客様が本当に楽しめたかということを考えても、そのための訓練をもっとしても良いのではないかと改めて考えさせられた。

アンコールも緊張を緩めることなく、「くちなし」はこの会において最高のクオリティを示したと思う。

さて、この演奏会で私が認識したことは改めて書くまでもなく、この団体はその名のとおりに磯部作品を歌い続けることを軸として成熟してきた合唱団であり、この日の目的はその成果を披露することであり、その意図は見事に達成されたということ

エネルギーに脱帽

野原 操

四十周年記念コンサートが盛會に終わり、もう来年のコンサートに向けて練習開始とか。すごいエネルギーに脱帽です。

厳かな曲、優しい曲、そして楽しい曲と、どんな楽曲もこなしてしまうなんて、皆様の年齢

である。その大きな長年の成果を音楽で表現するには限られた時間を思い出話などに割くことができなかったということも理解できる。この会の他の合唱団には真似のできない大成功に、同様の活動をしているものとして多少の羨望の気持ちとともに心からのお祝いを申し上げたいと思う。

なお、数年前初めて演奏を聴いた時に感じた発声の粗さが相対に軽減されて柔らかい響きになっており、安定した永井さんのピアノによっても演奏全体の質の向上が図られていると感じたことも付け加えておきたい。最後に改めて会のご成功を祝い、快い感動を与えて頂いたことを感謝して感想文を書くという僭越な役割を果たしたことにします。

を忘れさせてしまう力強いハーモニーのいそ男に、兄亡きあと迄、お付き合いさせて頂いた大変光栄に思っております。皆様の益々の御活躍をお祈りいたしております。

(野原は元合唱団の故・米川寛一の妹さん)

団員から…… 40年の思い・記念コンサート感想と反省

(到着順に掲載しました)

ドイツ演奏旅行の思い出

岩崎 精二 (2B)

「いそべとし男声合唱団」が発足した40年前、磯部さんが「いそべみんなドイツへ行こう」と言っていたが、それが実現した。昭和48年(1983年)4月

なり臨時テント内で唱ったが雨音が激しかった。シェラトンホテル泊。

5月2日(月)06時30分起床。

ロマンチック街道のディンケルスビュールとローテンブルクを

通ってハイデルベルクに着いた。夕方は自由行動で、米映画「学生王子」の舞台で有名なレスト

ラン・ロータスオクセンで食事

後、同行した数名で唱ったら食

事中のNATOの将校達の大拍

手を得た。パークホテル泊。

5月3日(火)07時00分起床。

ハイデルベルク観光後再びフ

ランクフルトを経由して、この旅

行の最大目的地ガンパツハ(村)

に着いた。この村の人口は約3

千人とのこと、その小村に約1

00人の混声合唱団トラウシェ

ルがある。合同夕食後、同合唱

団員宅での民宿となった。

5月4日(水)村に隣接するギ

ーセン市観光。午後8時開演で

合同演奏会を行った。終演後は

勿論ビアパーティーであった。

民宿。

5月5日(木)05時00分起床。

ガンパツハに別れを告げてライ

ン河クルーズへ。09時05分ヴィ

スバーデンで乗船した。ローレ

ライを通過する時、船長の許可

を得て唱ったが他の乗客は無関

心だった。13時30分コブレンツ

で下船。ケルンでは大聖堂を見

学した。17時00分デュッセルド

ルフ着。ホリデイイン泊。

5月6日(金)05時15分起床。

08時10分発のルフトハンザ機

(LH130)でデュッセルドル

フ発09時20分フランス・パリに

着いた。昼食後自由行動となっ

たので数人で地下鉄に乗り、ノ

ートルダム寺院へ行き女性用の

土産として有名だと言う同寺院

のペンダントを買った後シャン

ゼリゼ大通り等を散策した。夕

食のため飛び込みで入ったビス

トロでは、妙齢のウェイトレス

がワインの瓶を股にはさんで栓

を抜いたのには驚いた。料理は

旨かった。アンバサダーホテル

泊。

5月7日(土)07時00分起床。

11時30分発のイギリス航空機

(BA×××)でパリを出発、11

時30分イギリス・ロンドンに着

いた。同空港では駐機していた

超音速ジェット機コンコルドが

見えた。沢山の思い出を積んだ

日航機(JL422)は16時10分

ロンドンを出発、カナダ・アン

カレッジで給油して翌5月8日

(日)17時00分成田空港に着陸し

た。

この旅行に参加した団員25人

のうち今でも唱っているのは10

人しか残っていない。

40周年記念のステージ 四首

澤野 勉 (2F)

四十年の歩み辿りて思い深し

ステージに立つ喜びここに

八十路越えて今日ここに立つ嬉しさよ

拍手に応え背筋を伸ばす

いくつもの出会いのありし四十年

合唱人生想い溢れて

亡き友に今日の歌声届けよと

心に歌う「遥かな友に」

初舞台の40周年記念演奏会

角 祐一 (2B)

初めてステージに立った時、

音響もよく客席のスロープも絶

妙で歌いやすいホールであるこ

とを感じた。通常の合唱団では

楽譜を持たないステージが最低

一つはあるものだが、全くお構

いなしということだったので、

私なりに「持っても見ない」で

歌うことを自分のテーマとして

臨むことにした。だが全く持た

5月1日(日)07時15分起床。
ミュンヘン市内観光後、国際ガ
ーデニング・フェア(IGA)で
屋外演奏の予定が突然の大雨と

「いそべとし男声合唱団」が発
足した40年前、磯部さんが「い
ずれみんなドイツへ行こう」
と言っていたが、それが実現し
た。昭和48年(1983年)4月
29日(金)いそべ男声旅行団総勢
46人と内外航空の添乗員2名を
乗せた日航機(JL447)は
成田空港を12時10分に出発し、
途中ソ連・モスクワで給油して
19時40分(現地時間。以下同じ)
西ドイツ・フランクフルト空港
に着陸した。遂にドイツの土を
踏んだのだ。アラベラホテル泊。
4月30日(土)06時30分起床。
朝食後09時40分発のルフトハン
ザ機(LH961)でミュンヘン
へ移動。10時35分着後ノイシュ
バンシュタイン城を見学。城内
ドームで唱ったら響きすぎてビ
ックリ。夜は有名なビヤホール
・ホフブローハウスで夕食。シ
ェラトンホテル泊。

ない人もいて、まだまだ暗譜の努力が足りないことを反省したものだ。

オープニングが気持ちよく歌えて、始まったと思ったらあっという間に終わったかのように、とても時間の流れが早く感じられた。

アンコールの「ふるさと」ではグッとくるものを覚えたが、なんとか最後まで歌いきること

好意的な反応が続々

大西 紹夫(ト)

演奏会の当夜から、わたしが招んだ仲間から続々と感想がよせられました。仲間のことでずから割り引いて読むべきですが、殆どが好意的な反応ですので、一部を紹介します。

初めに同じ大学の男声合唱団で歌っていた同い年の仲間Nさんは「男声合唱にもいろんな声の出し方があるものだと思いました。他には得がたいハーモニーです」

さらに同い年の女性Mさんから「ものすごく素晴らしかったですよ。若い人には出せないしっとりした雰囲気で皆さまの声もまるく、人を大らかに抱きこむような魅力に満ちていました。あの年齢だから出せる雰囲気

ができた。予想外の花束が囁き女声の人から来ていたのには恐縮した。

35周年は客席で聞いて「こんな合唱団で歌えたら幸せだろうな」と思ってた入団させていたのだが、素晴らしい指揮者須賀先生、そして人間味溢れる多くの先輩諸兄と共にこのいそべ男声で歌える幸せを今しみじみと感じている。

さんからは「男声合唱の楽しさを堪能させていただきました。最初とアンコールの最後がしつとりとして味わい深く、女声では出せない味がうらやましいです」

奇跡が起こった演奏会

山川 稔(ト)

40周年演奏会に備え万全の体調で臨もうと、11月初めインフルエンザの予防注射を受けました。さらに耳管開放症対策のため、夏頃から早足散歩を実行し

体力をつける努力を重ねました。耳管開放症は疲労がピークに達したとき耳閉感や自分の声が異常に大きく聞こえる自声強聴が特徴で、音程のずれにつながることから、私の演奏会における長年の悩みであります。

11月も半ばを過ぎたころまでは体調はすこぶる良く、演奏会に向けた練習にも一段と熱が入りエンジン全開といった感じでした。ところがいつもの早足散歩の途中坂道ですべて転び腰を強打してしまいました。さらに追い打ちをかけるように数日に喉の痛みを感じるようになり風邪の症状が現れました。

「泣きつ面に蜂」で精神的にかなり落ち込みました。間近に迫った演奏会に間に合わせるべく

「いつもは手厳しいYさんから『くちなし』がよかった。涙が出ました」などなど。嬉しいですね。

できることはすべてやりました。その結果、演奏会の前日練習でようやく声が出せるようになり滑り込みセーフでした。

演奏会当日の午前中のステージ練習後半に、心配の種の耳管開放症の症状が左耳に現れました。こうなるとできるだけ無理をせず体力の回復を待つ以外に打つ手はありません。幸いに、今回右耳に症状は出ませんでしたので、何とかなると自分に言い聞かせ、時々頭を下にして血流を頭部に集める努力をしました。

舞台に「立て」なかつた話

田島 哲朗(ト)

昼食をできるだけ早くすませ、すぐに着替えを行い、後はひたすら体力回復に努めました。演奏会開始のベルが鳴る頃に奇跡的に左耳が回復したのには嬉しさを隠せませんでした。2時間の演奏会を通して何とか耳管開放症の症状を抑えることができたほっとしました。

今回参加したメンバーの約半数が80歳以上という、この合唱団の須賀先生はじめ先輩方の合唱に対する凄まじい熱意、体力、集中力のすごさを実感した演奏会となりました。

果たして、私が80歳になった時、ステージに立てるかどうかわかりませんが、今回耳管開放症をうまく抑え込めたことはかなり自信になりました。先輩諸兄に見習って、体力、気力を維持し、いつまでも柔らかなハーモニーの喜びの中にいられるように努力したいと思っています。

四〇周年記念演奏会の感動的なファイナーレ。ピアニッシモの「おやすみ美しく今宵もまた」を歌いながら、声が震え、脚が震える。

演奏会の第一曲目はクラブソング。まだ脚に余裕があるので、みんなといっしょに立って歌う。しかしミサ曲以降はアンコールの「ふるさと」までは座って歌

わざるをえなかった。初めての体験だ。これでは「舞台に立つた」とは言えない!

大先輩の坪井さんが立って歌われたというのに、七十になっただけの若造が座って歌うとはちょっと恥ずかしい。せめて最後は立って歌いたい。

「終わりに立てばすべて良し」。終演後プログラムの「いそべ男声40年の歩み」を見ながら、

感想と反省

一所懸命練習に励んだ演奏会も成功裡に終了し好評を得られて結構でした。

しかし演奏した側から見ると気になるところがあるので記します。

1、ミサ曲(ロパルツ)

須賀指揮者が最も力を入れ、長時間を割いて指揮をして貰えた曲目でしたが、最も落胆された曲目と推察されます。

これはキリスト教に対する素養の不足とラテン語の無理解に起因するものと思います。

指揮者が口伝で熱心に繰り返して指導、指示して呉れているにも拘わらず、中々期待された表現とならない箇所が多くありま

五年前の脊髄炎発症以後、年々強くなる後遺症と付き合ひながら歌ってきた舞台を思い返す。

ここ二年ほどは杖が必要になった。今度の40周年では椅子に座った。来年は歩いて出入りができるだろうか。

ふと車椅子で歌っておられた本郷さんの姿を思い出す。そう、まだ車椅子で「舞台にのれる」ではないか!

澤登典夫(己)

した。

歌は演奏者の意図が表現され、聴く人の胸に届いて完成となります。此のミサ曲の場合、ミサの雰囲気や会場を充たす要求が有ると思いますが、荘厳さに少し及ばなかった様で、残念でした。

若し次の機会が与えられたら努力し良い演奏をしたいものです。

歌の表現としては、アンコールの3曲は完璧で、客席との一体感が感じられました。このような演奏をしたいものです。

2、「チュウちゃん」

谷口恵さんのナレーションの好熱演とコーラスとの意識の落

差が感じられ残念でした。もう少しナレーションの様に動物に

「最期だなんて言うな」と言われて

村岡昭一郎(己)

なりきたらと思います。以上、感じたまま。

打ち上げて歌わせて頂きほんとうにありがとうございました。感謝の印に四国で一番小さな古里の町の酒を持ってきた。そこでちょっと須賀と私の話をさせてください。

須賀と私は郷里は同じで学校も中学から大学まで同期です。郷里は土佐高知県安芸郡彼の処は大都会安芸市

私は室戸台風でよく知られている室戸岬に近い四国で一番小さな町で中学校はありませんでした。町長の親父が創り出した安芸まで往復三十二キロ砂利道を自転車通いました。地元では三粒降ると時化

嵐と言われ傘など挿せたものではない。それです。帰るのがめんどになると彼のところに留めてもらっていました。高温多湿の安芸郡の基幹産業は林業。須賀木材は地元の総元締めでオーバーに言えば朝雨戸を開け始めて開け終わると閉め始めるほど屋敷が広い。その広い座敷に留めてくれる。しかし彼は布団を一枚しか

敷かない。一枚の布団に二人で寝ました。中学が学制改革で新制高校に私は初代生徒会長くらいでしたが須賀は秀才でした。東大か京大に行くとは。びっくり思っていたら早稲田に入った。名門グリークラブがあるからだと思います。

高知県土佐育英協会東京学生寮が井之頭公園に近い松林のなかにできた。須賀と私は第一期生で長州の陸軍大将の千坪くらいのお屋敷で乃木將軍が設計した門の前を太宰治の飛び込んだ玉川が流れていました。そこでも彼と同じ部屋でした。

或る日「わしについてこい」という。昼間から飲むわけはない。思っただけで行く。法学部のクモの巣の張ったような薄汚い地下室の机の上にノートがあつて彼はそこに名前をかいて「おまんも書け」といわれ署名した。「わしが一番で。おまんは二番じゃ」といわれた。それがグリークラブでした。いつもその年はオーディションがあつて

経験のない私などとても入れない。事情があつて希望者はみんな入れた。例外の年でした。しかしみんななにがしかの合唱経験者です。新人の最も未熟な部員となり先輩の集中砲火を浴び、コールユーブンゲンに悩まされ劣等感を今も引き摺っています。合唱もいまだに好きになり切れません。止めようということばかり考えていました。それが今、ここにいる。人生とは不思議なものです。神様はもっと上手でした。社会人になって彼は関西に私は東京。退職してやることもない。同期に誘われたが合唱に未練はない。ただ仲の良かった同期が数人いた。一緒に飲めると云う。釣り釣られ、性懲りもなく入りました。磯部さんが亡くなった。体調も合唱もいまいち。そろそろ潮時かなと思つた。後任の指揮者が須賀だ。という。不思議な気がしました。「あの須賀がその都度関西から来てくれる」。これで止められなくなりました。五年後は無理だから。この周年演奏会が最期になると案内したら四九人。ご来場頂きました。お互いに久々であつて演奏会のあと付き合えという。どのグループにも出たい。そこで「お別れ会」の心算だからと

「打ち上げに」お誘いしたら
声を賭けたほぼ全員三〇人ほど
の方が出てくれました。偏にグ
リーに入れてくれた須賀打ち
上げの夕やけこやけで死に水
をとってくれた須賀またとな
い同期先輩いそべのみなさん
のお陰です。耳も眼も駄目に
なり潮時ですが打ち上げて
長田から「最期だなんて言うな」
と釘を刺されました。翌日二
日須賀から「中学からの仲間
でおまえが最後の一人になっ
た時々豊洲へ顔を出せ」メー

練習に出よう

40周年記念演奏会が終わりま
した。この間、磯部先生ご夫妻、
早瀬先生をはじめ、吉岡さん、
榎木さん、米川さん、長さん、
本郷さんなどを失いました。さ
らに退団後に亡くなった方々も
相当数おられます。40年の重さ
です。悲しさです。
今回の演奏会に対しては、甘
辛いろんな評価をいただくでし
ょうが、反省点として、須賀先
生の指揮に頼りすぎないこと、
暗譜力が弱まっていることなど
多くの問題が明らかになりました。
来年は80歳以上が過半数に
なるでしょうが、演奏の質に対

ルが来た
そんな訳で時々「声でなく
顔を出します」のでよろしく
お願いします。有難うございま
した
酒の銘柄は「美丈夫」一升瓶
はこちらで売ってないので四
合瓶2本 T P I本 B P I本
須賀は 酒は 村岡から教えて
もらうたと言っているが頭の
良い彼は今では足元にも及ば
ない 酒通 その彼の推薦を聞
かないが 同期の酒通が美味い
と云うので持参しました

宮田 茂(三)

しては高齢化は理由にならない
ことは皆さんご存知です。
45周年演奏会は、どうなるか
わかりませんが、やりたいよう
な、やれないような複雑な思い
です。
これからは、団に対して、皆
が何ができるかが問われるでし
ょう。その第一は練習に出るこ
とだと思えます。
いろんな理由で練習に出たく
ても、出られない方々を思うと
練習に出られるだけでも幸せな
のです。練習に出てCバーに出
て、あと何年？
大いに楽しみましょう。

「負けんぞ」の気概が

古森 英 (音・節・譜)

須賀さん、永井さん、谷口さ
ん、いそべの皆さん、お疲れさ
までした。40周年記念、本当に
素敵な演奏会でした。満員に近
い二〇〇席を超えるティアラ
こうとう大ホールに堂々たる声
が響きわたりました。
ロパルツの三声ミサ。どうし
ても、演奏会の始まりは会場の
空気が冷えていてなかなか馴染
まないものですが、それでも少
しずつ調子を取り戻しだんだん
と熱を帯びてきました。
自分は歌ったことがなく始め
て聞く曲ですが、三声というの
は非常に難しく、いつも四声の
安定感に浸っている中で一声部
少ないということはこんな感じ
になるのだということが分かり
ました。
Kyrie, Gloria, Sanctus...と
進むにつれホールに馴染んだか
のように安定した声となって聞
こえてきました。手堅くまとめ
られた須賀さんの腕前と皆さん
の声、素晴らしかったです。
いそべとし抒情歌集。自分も
昭和56年(1981年)入団以降、皆
と一緒に歌った曲でなんだか懐
かしく一挙に20年、30年前の情

景が思い出されました。懐かし
い曲の数々、その時代にさかの
ぼった如く若々しい声に戻り、
笑顔を含めての演奏、まだまだ
「だれにも負けんぞ」といった
気概が聞こえてきます。いそべ
さんの曲の素晴らしさ、十八番
の歌として、まさに堂に入って
いました。
「優しい愛の歌」。自分はこの
うち2曲ぐらいいしか歌っていな
かったのが残念でなりません、
このように全曲を通して歌うと
ボリューム感がありますね。
最後の曲は重量感とともに演
奏密度も高かったと思います。
子供の目や、詩人の目、一つの
物事を詩という媒体を通して細
かく見つめ、それを磯部徹が作
曲した合唱曲を歌う。歌うまで
が一つの作品で、注意深く、首
尾良く演奏されていたと思いま
す。
「チュウちゃん動物園へ行っ
たお話」。俳優さん付きの演奏
で非常に楽しかった。
谷口恵さんの、姉さんネズミ
と弟ネズミの二役、演技を交え
ての熱演。合唱の方もそれを支
えようとの名演奏。いろいろな

シーンが次から次へと舞台上に
現れ、あっという間の27シーン
でした。

アンコールでの「ふるさと」
はピアノ伴奏つきは初めて聞き
ましたが、これはこれとして良
かったと思いました。無伴奏で
したら、音が少々下がることも
あるかもしれないので、相当深
刻になってしまいうのですが、ピ
アノがあることにより深刻過ぎ
ず、明るすぎずで、ひょっとし
たら磯部徹の声のイメージはこ
のようなものであったかもと、
思っていました。

そして定番の「はる友」を聞
き終えて、打ち上げパーティー
へと時間が進んで行きました。
自分も一緒に歌ったこともあ
る曲を聞きながら、おかげで充
実した長い時間を思い出し、沖
縄男声合唱団のメンバーにも会
えて、豊かな響きを持った歌声
の中で馥郁たる時を過ごさせて
いただきました。
本当にありがとうございます。
また次も聞かせてください。



チュウちゃんがもぐりこんだ 動物園は、楽しかったか

長田 茂(一)

はつらつとした「ナレーショ

ン」から「コーラス」に移った
途端、その都度、空気がガラッ
と変わってしまった、こんな感
想を打ち上げの会場で聞かされ
た。「あれが残念だった」と言
ってくれたので、好意的な感想
だと思う。「何を歌っているの
か、よくわからなかった」など
という、手厳しい意見を述べた
人もいた。

要するに、コーラスの表現が
平坦で、気持ち、情景が伝わ
ってこなかった、ということだ
と思う。胸に手を当てて考えな
くても、「そうだったかもしれ
ない」と思う。

チュウちゃんの気持ちになっ
て、ラクダに話しかけていたか
？ クジャクになりきって、羽
根を自慢していたか？ チュウ
ちゃんの目線で、カバのつか
さに、圧倒されていたか？ 譜
面にかじりついて、音符を追っ
ていたら、そんな歌にならない
ことは当然。

譜面にかじりついて、譜面ど
おりに歌えばいいだろう、では、
コーラスに、いや、歌にならな

い。

メロディーはテナーの領分、
バスの受け持ちはハーモニー、
などと割り切らずに、一緒にな
ってメロディーを歌う、くらい
の気持ちになって、「歌詞」の
「こころ」を、「情景」を全員
で歌うようにしようよ。

音符の下に書いてあるひらが
なの「文字」を「読んで」いた
のでは、音楽にならない。言葉
の「語尾」をはっきり歌いすぎ
るのも、「助詞」を強調して歌
いすぎるのも、「言葉」でなく
「文字」を歌っているからなの
ではないだろうか。

ここは「スピートピアノ」と
言われたら、「音を小さくする」
のではなくて、「ひっそりと」
話す、あるいは「恥ずかしそう
に」に歌う、などなど、だと、
自分で考えようよ。ここは二分
音符でなく「付点四分音符と八
分音符」と言われたら、「休
止符を入れることではなく、「そ
こで言葉をはっきり切る」こと
だと、分かるうよ。

須賀先生に「そんなこと、め
いめいで、ちゃんとやってくれ」

と言われるようなことは、「音
を不用意に伸ばしすぎない」こ
ような気がする。

スケジュール混雑の中で

児玉 昌久(一)

12月1日のティアラこうとう
での演奏会は、大変充実した今
年の私のコーラス生活の掉尾を
飾るはずのものだった。春のい
そべ男声による浜松演奏会に続
き、5月には岡村喬生先輩の独
唱を含む日本ラトヴィア音楽協
会の「ラトヴィア音楽祭」で40
人規模の混声で来日したアイラ
・ヴィルジーニャ女史の指揮を
経験し、6月には東西4大学O
B連合演奏会で、コバケン指揮
する140人の稲門グリーに参
加して「水のいのち」を歌い、
7月には5年に一度開催される
ラトヴィア「歌と踊りの祭典」
に参加して2万人の大会唱に加
わり、9月には150人でコバ
ケン指揮の稲門グリー演奏会に
参加した。そのほかに参加して
いる稲門グリー・シニア会や高
校同窓会の混声合唱団などは演
奏会が行わなかったが、合計6
団体の合唱スケジュール混雑振
りは並大抵のものではなく、練
習日のバッティングは日常的に
起り、私はやむなく本番に近
いものを優先し、その結果12月

とだけでなく、いくらでもある
ような気がする。

のいそべ男声の練習が最も後回
しになってしまった。
ラテン語で歌うロパルツのミ
サ曲など不慣れな曲もあり、10
月、11月の練習に懸けていたが、
11月始めに引いた風邪がいつま

40年演奏会雑感

渡邊 清(二)

いそべ男声入団後、単独演奏
による初めてのビッグイヴェン
トが40周年演奏会である。それ
までも、大阪、福島、浜松と経
験させてもらったが、今回は40
年の歴史がずっしりプレッシャ
ーとなっておりました。

40周年の本番までの練習と、
本番で感じたことを申し述べま
す。

4部構成の内、2部は入団後
の2年間で歌う機会が多かった
曲なので指揮者を見て歌うこと
が出来たとおもう。3部の「優
しい愛のうた」は取り掛かりの
時、バリトンを歌うよう依頼さ
れ、不慣れなパートを歌うこと

でも治らず、練習場でも十分に
歌うことができないまま本番を
迎えねばならなかった。歌って
いても自信が持てず、最後まで
緊張の続いたステージで、残念
ながら楽しむゆとりがないまま
終わってしまった。

準備に十分なエネルギーを注
がなかった報いとして、感動も
それに見合う程度になってしま
ったが、当日聴きに來た私の友
人たちの演奏についての評価は
極めて高い。

になった。難しい内声部に苦し
みながらバリトンの音、声を聴
きながら練習したが、本番では
迷惑を掛けたのではないかと心
配しています。

4部「チュウちゃん」は、
ナレーター谷口さんの熱演が素
晴らしいと感じたが、音楽物語
としては如何だったのか？ 動
物園の楽しさが会場に伝わった
か疑問に思った。ナレーション
の最中、合唱団員が楽譜を見て
下を向いており、音楽物語の構
築が不完全であった。偏に谷口
さんのナレーションのお蔭でス
テージの恰好がついたと思う。
小生にとって一番苦労したの

忘年会は大騒ぎ

は、第一部「三声ミサ」であった。ラテン語の発音と意味がネックで、言葉はカタカナ読みを頻繁に注意され、対訳を楽譜に記載して見るようにした。また、曲の途中での歌い出しでは他のパートを聴きながら楽譜を縦に見ることが求められた。初めの頃は指揮を見て歌えず楽譜にかじりつき、曲の速度変化について行けず、出だしも揃わないことが随所にあつて、未熟な自分を情けなく思ったが、先生方の指導のお蔭でなんとか本番を歌うことができた。

出来れば45周年を楽しみに、これからも練習して行きたいと思ひながら余韻に浸っています。

昨年の忘年会は12月22日の2013年最後の定例練習を終えて、数寄屋橋近くのサンミ高松で開催された。

須賀監督、永井先生、石野先生、団員家族も加わって総勢40人。40周年記念演奏会もまずまずの成果で終えることができ、その裏話や反省点などが活発に交わされ、13年の締めとなった。

まず、長田代表から冒頭の挨拶があり、「40周年記念演奏会はお疲れさまでした。大成功といたいが、山本健二さんの文章に、日本語歌唱法研究会を立て

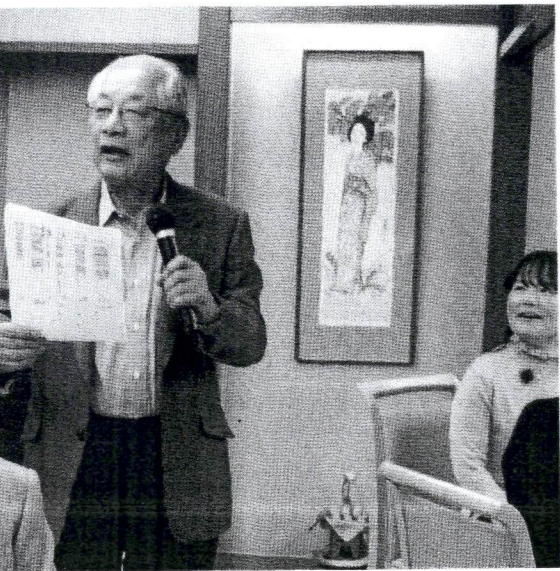
ち上げたらどうかという提案があったけれど、我々はまだまだ日本語の歌が下手だ。今日の練習でも須賀さんからさんざん絞られた。もっとみんな気をつけて歌おう」との厳しい発言。

須賀監督から「42%が80歳以上で仕方ないかもしれないが、もう少し頑張ろう。日本語を歌うとき、まずディクショングが大事。その上で歌はレガートに、フレーズを大事にすることを守ってほしい」とのスピーチに皆の気持ち引き締まったところで、乾杯となった。

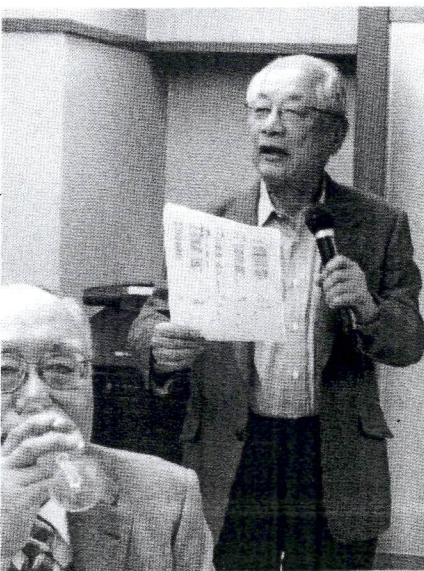
しばらく歓談のあとは永井先生からスピーチ。「腱鞘炎で具合が悪かったりして、皆さんからご心配をいただきありがとうございます。ご自分の医療経験や手術経験などをたくさん寄せただいて感謝しています。初詣のときは私の回復を祈ってくださいね(大笑)。拍手」

恒例のダブルカルテット大会は抽選で定められた組分けで、まず1組が「いねかり」、2組が「おやすみ」、3組が「いざ起て」、4組が「クラブソング」とそれぞれ歌ってから、須賀さ

んの皮肉たっぶり、合唱祭の講評などでは絶対あり得ない「講評」コメントを皆で大笑いしながら拝聴し、結局4組が1位となった。



←須賀監督のダブルカルテット講評は笑いが止まらない



次に今年度、感謝を表したい方々への謝礼を贈呈した。

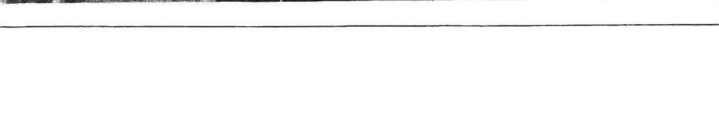
まず、河原さんへは練習場の取得に巧妙な策を使って確保してくださったことにお礼を贈呈した。

長田さんには当団の楽譜をすべて作成し演奏の基礎に貢献されたことへの感謝を。

須賀さんには「チュウちゃん」などの編曲により当団のレパートリーをさらに広げていただいたことへの感謝を込めて。それぞれの贈呈に全員から大きな拍手がおくられた。

最後はこれも恒例のビンゴゲーム。始まってなかなかリーチが出ない。

こんなことは珍しいと皆がつぶやいているうちに、ビンゴ第1号に安部さんが名乗り出た。



焼酎の「百年の孤独」を手にして御満悦。このあと田邊夫人、井上夫人など奥様方のビンゴが続いて20個あまりあった賞品は見る間になくなっていくった。

歌い足りないのはいつものこと、澤登さんの「シユテンチェン」、角さんの「希望の島」、そして三上さんの「遙かな友に」をそれぞれ指揮で歌い収めた。

最後に田邊副代表が「40年の演奏会はこれで良かったと思います。でも厳しい意見もありました。もっと楽譜を読み込んで来年も頑張りましょう」との閉会の言葉で忘年会はめでたく終了した。

(河合)



→忘年会最後の全員「はる友」

命日の墓参を

11月最後の定例練習の翌日、磯部先生の命日の25日、例年どおり、湘南台墓園のお墓参りに集まったのは、一寸少なめの10人。この日は雨の予報だったがさすがに晴れ男の磯部先生、なんとか曇り空で食い止めていただいた。人数の少なかった分、霊前にお供えたお酒のあまりもたつぷりで、40周年記念演奏会の成功を約束して、「はる友」を献歌した。その後は例年どおり湘南台の居酒屋でお清め。



総務だより

11月24日運営委員会

■40周年コンサート関連

①チラシの挟み込み

↓9時より有志で行う（リーダ千秋永）

・舞台係：安部、シユガー、下山、岩本、角、

・楽屋：佐藤、山川

・受付：宮田、田岡

当日の詳細を詰める。当日売り枚数予測（現在約800枚）、招待のチケット交換、備品など。

受付に録音用MD、CD

↓井上

②ナレーション謝礼承認

③ピアノの譜めくりは、永井先生がコピー作成の結果、必要なくなり石野さんにその旨を伝え、招待はさしあげる。

④40周年チケット配布状況

団員ノルマ540枚

団体等

宮代コールフロア15枚／本

郷千恵子5枚／桜友女声5

枚／木せい会5枚／虹12枚

／浜松（稲）15枚／柴刈（稲）

2枚／湘南女声5枚／豊洲

小学校（稲）4枚／

計127枚

団員追加分

136枚

ティアラ、区報招待

43枚

川辺先生関係

44枚

南砂小学校辻先生 10枚

野原操 枚

※現在900枚プリント

300枚追加見込み

⑤打ち上げ用パーティー券作成

150枚（戸丸）

*決定事項

①進行、演出／オープニング

のあと長田代表の挨拶、続いて第1ステージに入る。

②衣装／

1ステ、2ステ黒タキ、

シルバー蝶タイ、シルバ

ーチーフ

3ステ、4ステ白タキ、

黒蝶タイ、えんじチーフ

③本番当日スケジュール

団員9時会場入り、舞台

楽屋、受付準備

10時体操、発声、リハー

サル（詳細は前号4頁）

④楽屋（佐藤、山川）お弁当

飲み物手配、楽屋張り紙

（人名、進行表等）張り

出し（印刷済み）

⑤舞台（安部、戸丸、下山）

台→平場3段、マイク、

ナレーション、MC、影

アナも、譜面台

⑥ティアラ舞台打ち合わせ

11月4日終了

⑦障害者駐車場OK、親子室

利用OK、

⑧ティアラのレセプション係

（プロ）6人依頼。影アナ

依頼、OK

⑨ステマネは土屋さんOK

⑩会場係アルバイトは江東区

合唱団に依頼（宮田）

⑪打ち上げ注文済み（戸丸）

⑫招待席は特に設けない

■磯部先生お墓参り

11月25日（月）11時大庭台霊園

事務所集合

■2014年新春ファミリー&

パーティー

・2月9日（日）江東区文化セン

ターレクホール

・各団体に案内発送済み。（宮

田）

■沖縄男声との合同演奏会

・2014年11月16日

・須賀監督指揮合同曲は「水の

いのち」、いそべ単独曲は「岬

のうた」

■忘年会

・12月22日練習後、サンミ高松

銀座本店7F 18時

・ビンゴ景品アイデア募集

▲40周年関連提案事項（結

論のみ記載）

・家族の扱いは、35年では会場

内から入場できたが今回は特別

扱いはしない。

・関係者の席は特に設けない。

・打ち上げ招待者は先生方、ゲ

スト、舞台係依頼者、受付依頼

者（6名）までとする。

・受付に鈴木賢一さんに助力依

頼済み。

・花束はなし。

・ステージ整列は4列。ステー

ジごとに並び替えなし。

・椅子の用意→希望を聞く。

・マイク

長田代表挨拶／スタンド

ナレーター／谷口さんはな

しでと言われるが、一応ピ

ンマイクを準備する。リハ

によって決定する。

・譜面台 指揮者用

・楽譜 指揮用、ピアノ用（三

上、大西）

・打ち上げ担当

受付、集金／岩本、井上

進行／安部、佐藤、戸丸

●ニュースについて

40周年演奏会記念号の内容に

ついて、多くの来会者に感想を

書いてもらいたかったので、依頼

など編集部に協力してほしいとの

要請があり意見が交わされた。

（河合）

総務だより

12月22日運営委員会報告

うようにする。(まとめ宮田)

1月15日締めきりとした。
予定/2月9日13時より
会場/江東区文化センターレク
ホール

来客

11月10日

・田中時光さん(常務理事)

練習とCバーに参加された。

・田中恵子先生(松江ワックス)

・水島恭子さん(松江ワックス)

・村上直美さん(同)

・長田聡子さん(同)

練習後半の見学とCバーに
参加された。

・坪井賀子さん(坪井)

7月に坪井さんの米寿のお
祝いとして収穫後に贈呈予
定だった田主丸のお米が到
着し、それを夫人が40個の
おにぎりにしてCバーにお
持ちくださった。

・このうち②がいいのではの
意見あり。未決定。

◎決定事項

①2014年沖縄男声との合同
演奏会の曲目

・須賀監督指揮は「水のいのち」

・いそべ単独は「岬のうた」

↓沖縄男声宮城先生指揮の合同
曲未決定。コンサートの全体像
を早めに掌握する必要あり。

②須賀監督の沖縄訪問日程も早
めに調整する。

③忘年会

12月22日 サンミ高松 銀座本
店 (無事終了)

★谷口恵さんの苗字がかわりま
した

谷口さんは入交(いりまじ) 恵さ
んに変わったという連絡を頂きま
した。(12月26日)

▲知立女声合唱団演奏会祝電

・12月8日に友好合唱団の知立
女声合唱団の演奏会があり、祝
電を贈った。

▲新春ファミリコンコンサート&
パーティーの案内

案内状発送済み。出欠返事は

12月22日

練習羽目日記記録

■11月9日(強化練習)

発声(三上)

曲目/ミサ曲(三上)、犀川、月夜

(大西)、白南風、林のなか(安部)
いねかり、いろり(三上)、「チュ
ウちゃん」(大西) ㊦(永井)

■11月10日(強化練習)

発声(三上)

曲目/ミサ曲、「チュウちゃん」

(須賀)、ナレーション(谷口)

㊦(永井)

出席/1-6、2-8、1-6、2-13

■11月24日

発声(横田)

曲目/クラブソング、ふるさと

/ミサ曲/おにいちゃんの成
績、さかな、片耳の大鹿よ(須
賀)、松の花(横田) ㊦(永井)

出席/1-8、2-8、1-7、2-12

■11月30日 臨時練習

曲目/ミサ曲、「チュウちゃん」

(須賀)ナ(谷口) ㊦(永井)

●12月1日 40周年記念演奏会

■12月8日

発声(三上)

曲目/岬のうたーひとり旅、あの
日のこだま(安部)、水のいの

ちー雨、水たまり、川、海(大西)

出席/1-6、2-6、1-5、2-12

■12月22日

発声(三上)

曲目/岬のうたーひとり旅、あ
の日のこだま/水のいのちー

雨、水たまり(須賀) ㊦石野

出席/1-7、2-8、1-5、2-11

▲40周年記念演奏会まとめ

①入場者数 791名

内訳 当日

ティアラ招待 17名

招待者 57名

他 58名

参考 受付もぎり

一般 680名

ご招待 53名

ご招待はがき46名

合計 779名

参考

35周年 759名

2008年沖縄合同

624名

②スタッフ

・ステマネ 土屋信吾さん

・舞台 下山利行さん

・受付(株)ザ・アール 6名

合唱団Snowflakes 6名

いそべ関係

鈴木賢一さん

田岡典尚さん

③出演者 37名

(内訳は1頁参照)

④反省点など

・受付と楽屋との連絡が不十分

だったため差し入れなどの取

り次ぎができなかった点があ

った。

↓反省点を皆から出してもら

SCHEDULE

豊洲：江東区豊洲文化センター
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

顔：須賀監督指導・指揮 横：横田先生発声指導

○運営委員会は原則として第4日曜日11:00練習場にて開催

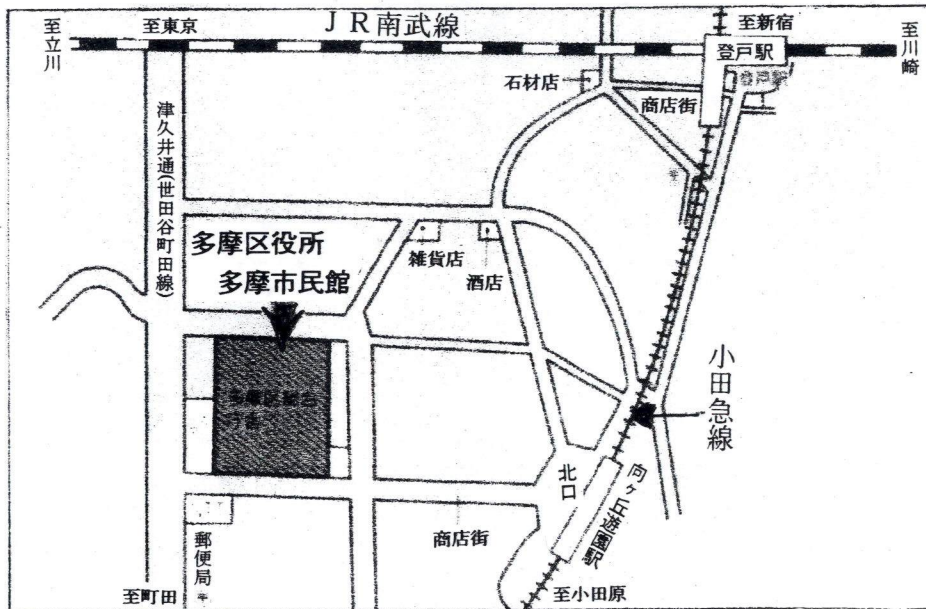
2014(平成26)年

- 1月12日(日) 定例練習 13:00~17:00 江東区文化センター・リハーサル室
★永井先生が腱鞘炎手術のため、急遽、井出久美子・名倉扶季 両先生にお願いしました。井出先生で19日の ぴあハウスの練習を、名倉先生で2月9日の新春ファミリーの練習をやりまます。井出先生には、3月いっぱい、練習日のピアノをお願いしてあります。
- 1月19日(日) **ぴあハウス・コンサートVol.3** 会場/川崎市多摩区総合庁舎 多摩市民館(下段案内図参照)
17:00集合(多摩市民館) 曲目/クラブソング、野ばら、夕焼けこやけ、びわ、大ずもう、一年生くん弟くん、遥かな友に
18:30開演 服装/団ブレザー
- 2月26日(日) 定例練習 13:00~17:00 古石場
- 2月9日(日) **新春ファミリーコンサート&パーティー** 会場/江東区文化センター・レクホール(決定)
- 2月23日(日) 定例練習 13:00~17:00 豊洲
- 3月9日(日) 定例練習 13:00~17:00 豊洲
- 3月23日(日) 定例練習 13:00~17:00 豊洲
- 4月6日(日) 臨時練習 13:00~16:00
- 11月16日(日) **屋形船お花見 沖縄男声との合同演奏会** 会場/ティアラこうとう大ホール(決定)

★ぴあハウス・コンサート Vol.3 1月19日(日) (東日本震災支援チャリティ)

主催 ぴあハウス津野 (代表津野田京子)

会場 多摩市民館 3階大会議室(集合は17時、多摩市民館1Fロビー) (控室は4F第1会議)



多摩区役所総合庁舎内(川崎市多摩区登戸1785)
044-935-3333

内容 男声合唱・フルート演奏・ハーモニカ演奏など
*岩手県大槌町の現地の方の話

- ・JR線南武線登戸下車 徒歩10分
- ・小田急線向ヶ丘遊園下車北口 徒歩5分

編集後記

▲40周年記念演奏会に先立って、委員会が協力を呼びかけ、練習時に団の皆さんに呼びかけをして、質量ともに胸を張れる40周年記念のニュースになればと願っていました▲それがご覧のとおり、予想を遥かに上回る原稿が飛び込んできました。「嬉しい悲鳴ですね」と言ってくれた仲間もいましたが、悲鳴を発する余裕もなくキーをたたく羽目に陥ったわけでした▲原稿を読むほど味うほどに、外部の方々がいかに真剣に聞いてくださったか、そして団の仲間の努力と厳しい反省、これらが響きあって不思議な感動につき動かされました。少しは次号に回したらと言ってくれた仲間もいましたが、原稿を一拳に載せて、いそべ男声の共鳴力、起動力になればと思っただけです▲原稿をお寄せくださったご来場の皆様、ありがとうございます。団員の諸兄、ありがとうございました。(河合)

いそべとし記念男声合唱団ニュース

2014年 2月

第386号

発行代表者: 戸丸悟(総務) 〒135-0053 東京都江東区辰巳 1-8-45-302 ☎03-3521-6898 FAX 同
E-mail isobechorus@hotmail.com URL http://www.geocities.jp/isodanchorus/
編集: 河合隆一(広報) 〒272-0031 千葉県市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同

→ 須賀さんの音頭で乾杯



2014年 新春ファミリーコンサート & パーティー

2月9日(日)、30年振りの大雪も夜明けには上がったが、まだまだ雪が深く残るなかを江東区文化センターレクホールに集まったコーラス仲間約170名。昨年は会場取得ができず流れた分を取り戻すかのように、皆よく飲み、食い、歌って盛り上がった1日となった。

1時30分、長田代表の開会の挨拶のあと、いそべ男声がいソベ男声プロジェクトを歌って須賀監督の音頭で乾杯。稲門仲間も多くいてひとときわ高く響いた乾杯となった。

歓談に入ってからややあって磯部周平先生が登場。前の晩に名古屋でコンサートがあった雪のため7時間かかって帰宅、今朝は愛犬が脱走して大騒ぎになって遅れましたとの遅刻の弁があった。歓談再開。珍しい手造り料理を採りつつテーブルを回り話を広げる人、バーコーナーに早速立ち寄る人、久しぶりの再会に懇談止まらぬ人、などなど思い思いの楽しみ方が広がっていた。

第1部

①今回初登場の「コール77男声合唱団」(14名)がトップ。

指揮登典夫 田名倉扶季
風の四季、鶴(シテ長)

(傍線は磯部作曲・早岡)

※コール77(注)は海軍兵学校最後の77期同期生による合唱団。全員85歳。発足15年になる。

② कोरोこせやま (6名)

田関根美和子

山百合の花(別名「純潔のひと」)
(山百合は神奈川県川崎市の県花)

③ クールオルタンシア (9名)

田嶋生栄子 田嶋直美

マリア・マーテル・グラチエ、明日

④ 稲門グリークラブ・シニア会 (19名)

田嶋耕納邦雄 田嶋永江加奈子
美しく青きドナウ

⑤ 宮代コールフロー女声合唱団 (22名)

田嶋山室登美子 田嶋越川祐希子
カモメ下さい(鶴島幹夫詩、新美徳典曲)、
こな雪に寄せるノスタルジア

(傍線は磯部作曲)

⑥フラウエンコールいそべ (14名)

指磯部周平 田大島史子

「子供の四季」より、さくらの
はなさん、うみはよんでる、
七五三、やきいものうた(以上磯
部平曲)、春は鎌倉

⑦いそべとし記念男声合唱団 (27名)

指須賀敬一 田名倉扶季

ナレーション入交恵

「チュウちゃん動物園へ行
ったお話」より、クジャク、
ペンギン、キリン、サル山

— 歓談 —

第2部

⑧独唱

須崎由紀子 田内田洋子

艶やかなる歌(阪寛美・中喜曲)

⑨横浜稲門グリーククラブ (16名)

指吉村道朗 田関根美和子

さざんかの手紙

指加藤治信 田関根美和子

「学生王子」からセレナーデ

⑩女声合唱団横浜木せい会 (14名)

指磯部周平 田九里依子

さびしき野辺(喜壽・磯部曲)、
パパは先生、春の紙風船

⑪湘南女声合唱団 (6名)

指蟻生栄子 田境田直美

おかあさんの手、サンパギタ、
アヴェマリア(スカーニ)

⑫女声合唱団 虹 (14名)

指須賀敬一 田赤星裕子

「この地上」(童謡)より虎、鱒

⑬独唱

田中豊輝 田赤星裕子

小さな空(喜壽・曲)、
オ・ソレ・ミオ(アンコール)

⑭桜友女声合唱団 (3名)

※今回のために練習したが雪
のため人数が揃わず、八木代
表の挨拶のみ。

第3部

○コール77男声合唱団

指澤登典夫 田名倉扶季

親娘(おき)だよ(喜壽・喜曲)

※飛び入り再登場で娘への思
いの歌を歌う。

⑮男声合同 (約55名)

指須賀敬一 田名倉扶季

ふるさと

⑯全員合唱

指磯部周平 田名倉扶季

遥かな友に

○全プログラム終了し、田邊副
代表の挨拶で閉会となった。
「泣くな」の野次がとぶ挨拶も
珍しい。

珍しい。

初参加

コール77(なな)の方からのメッセージ

田淵哲男

「新春ファミリーコンサート&
パーティー、雪の後、長靴を履
いて出席した値打ちは充分あり
ました。ご馳走にあずかり名倉
さんの素晴らしい伴奏、みなさ
まに心から御礼を申し上げます。
男声合同の「ふるさと」を歌
っていて自分の声がああ美しい
ハーモニのなかに自然に吸収
されていく感じで感動を覚えま
した。全員合唱「遥かな友に」
で少し若いご婦人に両脇を支え
られてさらに盛り上がり、また

出演したくなりました。

稲門グリーの年輩の方から、

最初の頃は兵学校だけあって元
気な声を張り上げていたが、皆
さん上手になられて感心した、
自分だけ佳い声を聞かせようと
頑張っている人がいなくなった、
85歳の皆さんの姿勢の良さには
敬服した、皆さんの長年の努力
と、澤登さんの忍耐強さです…
というご感想をいただきました。
3月の中野0ホールの演奏会、
頑張らないで響かせましょう。」

片倉徹郎

「最後に男声全部で歌った「ふ
るさと」は感激しながら歌いま
した。というのは、私は最前列
にいて、後ろからの素晴らしい
声に合わせて思い切り歌うのは
気持ちがいいものですね。特に
高い音域は、我々だけでは出せ
ない声も、つられて出せるよう
になった気がしました。
みな素晴らしい合唱でしたね。
飲んだり、食べたり、歌ったり
初めて経験した楽しいひととき
でした。ありがとう。」二次会は70名ほどが飲み直し、
そして歌い直し。いそべのクラ
ブソングを皮切りに、シユガー
ズがImmagine Upと朧月夜
を、ザドリーマーズが懐かしの
ヴァージニアを、田中さんのソ
ロ入り夕焼けこやけ、くちなし、
ウ・ボーイ、いざ起て、シユテン
チェンと、愛唱歌、男声定番の
曲が次々とホールに響きわたっ
て、最後は周平先生の指揮で遥
かな友にをハモってお開きに。
今回も皆さまから沢山の御祝
儀、お祝いの飲み物などを頂戴
致しました。深く御礼申し上げ
ます。
(河合)

→最後の全員合唱。周平先生の指揮で「はる友」

ぴあハウスコンサートに 出演



1月19日(日)ぴあハウスコンサート(第3回、於・川崎市多摩市民館大会議室)に出演した。

このコンサートは「ぴあハウス津野」という、震災の被災地への支援などを行っている団体によるチャリティーコンサートで、既に2回実施し義援金を大槌町などにおくっている。

5時過ぎ、控室で紹介者の松本茂子さんの紹介の後、主催者の津野田京子さんの挨拶があり会の趣旨の説明を頂く。

ステージリハーサルの後、6時30分の本番。司会の方からいきなり「アマチュアで1、2を争う男声合唱団」と紹介されたので団員一同エエッと驚きの声をあげた。

この紹介に劣るような出来になってはとみんな思ったかどうか、ちょっと反響の弱い大会議室だったが力一杯歌った。

指揮は三上正秋さん、ピアノは久しぶりに井出久美子さんにおつきあいいただいた。

歌の仲間、野ばら、夕やけこやけ、あとは磯部メロディーでびわ、大ずもう、一年生くん弟くん、遥かな友にと愛唱歌を揃えて歌い降壇した。

このコンサートはその後、大槌町の被災者などが出演して被災後の話をされ、続いて第2部にブルース、ハーモカ、フルー

新春ファミコン 年一度開店のバーから

毎度お引き立ていただきありがとうございます。バーコーナーとしての紹介はあったものの紙上では初のお目見えとなります。

新春ファミリコンコンサート&パーティーが始まったのは何年前か? とにかくこの十何年来パーティーの片隅で年一度、無料でオープンしてきました。

今年は澤野、澁谷、岩本の3人が担当しました。

過日、40周年コンサートの折、娘が隣のお客様に「団員の澤野の娘です」と言ったら

ト演奏などがある予定だったが当団は遠方の団員も多いということで演奏後に会場を失礼し、向ヶ丘遊園駅近くの「串焼きおんば」で打ち上げた。うまい鳥料理にご案内頂いた松本さん、ありがとうございます。

参加団員

1T/西、河合、峯、畠、川

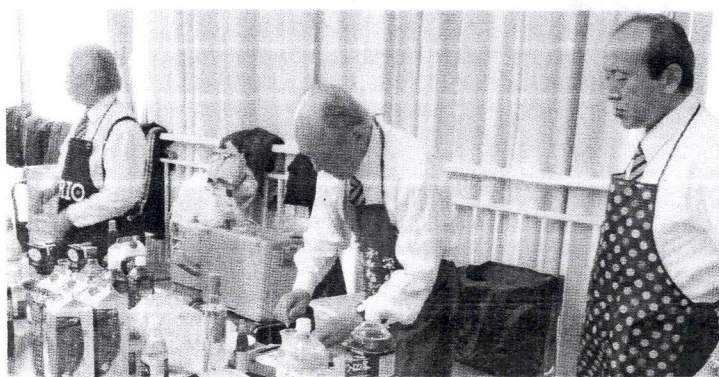
2T/井上、峯、河原、佐藤、澤野、富

1B/部、川野辺、星、田邊、戸丸、出

2B/秋、坂、垣、大澤、坂巻、澤登、島、三好

(河合)

「パーティーのバーテンの方です」と言われたと。続けて来られたことは嬉しい事です。女性のお客様に人気のパンチはクラレットパンチを我流にアレンジしたもの。店頭に並ぶカッペも毎年工夫しています。いつもお酒をご持参くださる方々に、改めてお礼申し上げます。来年もどうぞ、お越しをー!。(バーテン・澤野勉(三好))



『マンスフィールドの伝記』を 翻訳出版

翻訳出版

田島哲朗さんが『マンスフィールドの伝記』（原著はキャスリン・ジョウズという現代英国の詩人・伝記作家。花書房文芸出版）という書を翻訳された。680頁にもなる大冊だ。翻訳は4人の方々による共訳。田島さんは序章と全24章のうち7章を担当、その上全体の校正、索引作成、解釈の調整などのまとめ役まで果たされている。

田島さんに聞いてみた。マ研究に取り組んだ経緯は？

「近所のマ協会の会長さんからニュージールランドへの旅に誘われたのがきっかけです。乏しい英語力でも短編ならと勧められるまま入会して読み始めました」

マンスフィールドのどこに惚れたんですか？「佳人薄命・音楽がキーワードでした。この美貌の作家は結核のため若くして亡くなりました。音楽にも天賦の才があり、チェロ奏者を目指したものの父親に反対され文学に転向しました」

彼女は一九二三年、34歳の若さでフランスで死んだ。死後日本でも沢山の研究書が出され、文庫本の短編集も出版されている。今度出版された『マンスフィールドの伝記』は2010年

*田島さんは『マンスフィールド論』『小説マンスフィールド』（共訳）なども上梓されている。

一家総出、子どもも手伝っての稲刈の、夕暮れ時の情景をうたった短い詩。すでに12年10月の第3号で取りあげているのだが、今回はパートⅡ。もうひとつ、別の目でのこの詩の話題をー。

まど・みちおの詩の英訳本が二冊、昨年、文藝春秋から刊行された。『にじ』と『けしむ』。訳者は美智子皇后。その中に「いねかり」の訳が載っている。

いそべ男声メロディー・歌の博物誌48

いねかり ゆうやけ
いなごが とんだ

「いねかり」まど・みちお作詞 磯部倅作曲

澤野 勉 (27)



Reapingrice, the sunsetsky

When another one jumps
Can we home, Mummy?

*

もとより詩の世界の短い表現だから、微妙な感覚がどこまで伝わるかは、元の日本語であっても難しいところだろう。辞書でsunsetを引くと、日没、夕焼け、入り日とある。夕日の美しさには、誰でも感動することから、日が沈む時の情景は、ある

意味で、共通の感覚で表現できる。ただ、地域による気象条件の違いで、それぞれに表現される言葉のニュアンスは一樣ではないだろう。

夕焼け空(色)は evening glow
とも、夕焼け雲は sunset clouds
という言葉もある。日本語には夕映えという言葉もあり、これは空の色、雲の色とも違う。夕日に照り映える状況を示すこの言葉、なかなか外国語に訳すの

時間が、じつはこの一行に凝縮されている。Ahという感嘆詞がそれを表しているのだろうが、このあたりが訳詩の限界だろうか。

*

詩の翻訳といえば、同じ漢字国として(漢詩の訳はあるが)日本語の詩を中国語に訳すというところでは、こんな例がある。谷川俊太郎の『ことばあそびうた』(福音館書店1973年)の中の「かっぱ」という詩。

「かっぱ かっぱらった
かっぱらった かっぱ
らった
とってちったた」
(後略)

この中国語訳(訳は田原(ティエン ユン)はー

「河童乗陳連行窃
偷走河童的喇叭
吹着喇叭滴答答」

元の詩の音(オシ)の響きが二つ入っている。ラッパ、チッテタ(滴答答)の音とリズムが、ここには引き継がれている。

詩の中の心情表現がどこまで通じるものなのかは難しい。これは、合唱の分野でもいえることだ。

*イラストは鈴木はるかさん(澤野さんのお孫さん)

40周年コン.
コメント拾遺

神永康広

(素リギターフェル)

綺麗なハーモニーですがパンチが今ひとつなかったように思います。歌える方とそうでない方の差がありました。我々も同じですが「感動」を届けるいう事が足りないと感じました。

私のいう感動とは、一緒に音楽をしている事を第三者が感じ取る事。上手、下手での物差しではありません。どんな事でも良いので何かを伝える事があれば良かったように思います。少々自分達だけで楽しんでるように思われて感動が弱かったように思います。

横浜稲門グリーククラブ
代表幹事に

北村勝昭さんが就任されました。

(1993年2月)

総務部だより

1月26日運営委員会報告

■新春ファミリーコンサート
期日/2月9日
設営/

- ・舞台(ピアノ、音響準備、看板、司会台等)↓安部、佐藤、戸丸
- ・会場(料理テーブル、椅子設置)↓リーダー井上、三上、坂巻

- ・グラス名札作成↓坂巻
 - ・取り皿、箸、ナプキン等準備
 - ↓バーコーナー担当 澤野、渋谷、岩本
 - ・ごみ袋設置(可燃物4、不燃物1は袋センターで購入。それ以外はゴミ持ち帰り)
 - ・買い物(料理用取り皿等)↓戸丸、2月8日購入予定
 - ・酒屋注文済、寿司注文済
- 進行
プログラム作成↓安部
団員の参加費
例年は4000円のところ今

回は団からの補助を出して2000円とすることに決定。

■東京都合唱祭日程

合唱祭全日程は7月12日(土)13日(日)19日(土)20日(日)21日(日・休)となっている。当団は7月13日(日)で調整する。

■40周年演奏会の反省点

- ①受付の役割分担の徹底、入場料(学割)の徹底、ステージマネージャーの分担。
- ②プログラムの編集・校正は次回からもっと早めに作成し、委員会等で確認する。
- ③ステージの配置について、不自然、不規則な点が目立った。

(秋永さん提起) 今後は練習時に調整する。須賀監督、横田先生、練習部門で検討する。

④磯部作品をオリジナル以外の形で演奏の場合、プログラムにその旨明記すべき。40周年演奏会でアンコールの演奏をした「ふるさと」はピアノつきだった。(加藤崇子先生編曲) 須賀監督はフェイスブック、ツイッター等でその経緯、編曲者名をコメントしておられる。いそべ

男声としても演奏する以上、プログラム等に特記しないとそれだけがオリジナルと受け取られる恐れがある。監督は磯部先生、加藤先生に失礼と考えられてのことかと思われる。このような気遣いをされることがないようになんらかの方法で聴衆に伝えるようにするべきだ。(岩本さん提案)

■沖縄男声との合同演奏曲目

- ・宮城敏先生指揮
- 思い出のリュウデスハイム、ゴキブリの唄、カリンカ(ロシア語)、夜来香(中国語)、シェリト・リンド(スペイン語)

- ・全体のステージ構成(案)
 - 1 いそべ男声ー岬のうた
 - 2 沖縄男声ー沖縄民謡
 - 3 合同(宮城指揮)(右記)
 - 4 合同(須賀指揮)ー水のいのち
- ステージ順は未決定。早めに調整決定する。

■須賀監督沖縄訪問の日程

早めに調整決定する。

練習日記記録

■1月12日
発声(三上)

曲目/ぴあハウスコン向け曲目7曲(三上)、新春ファミリーコン向け4曲(須賀)、雨、水たまり(須賀)(井出、名倉)
出席/十、二、七、一、四、二、九

●1月19日ぴあハウスコンサート出演(3頁記事参照)

■1月26日
発声(三上)

曲目/「岬のうた」岬はいつも、あの日のこだま、叫ぶ灯台(三上)、「水のいのち」海よ、川(大西)、「チュウちゃん」クジャク、キリン、ペンギン、サル山(三上)

出席/十、六、二、七、一、四、二、九

●2月9日新春ファミリーコンサート&パーティー
(1、2頁記事参照)

SCHEDULE

豊洲：江東区豊洲文化センター
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

☞須賀監督指導・指揮 ☞横田先生発声指導

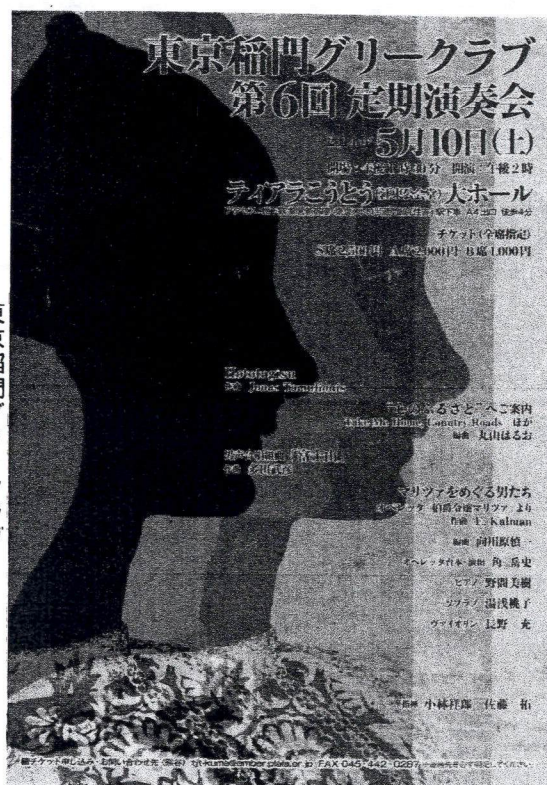
○運営委員会は原則として第4日曜日11:00練習場にて開催

2014(平成26)年

3月 9日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	1 T
23日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	2 T
4月 6日(日)	臨時練習	13:00~16:00	豊洲	
	屋形船お花見 (練習後)			
13日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	1 B
27日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	2 B
5月11日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	1 T
25日(日)	定例練習	13:00~17:00	古石場	2 T

7月 日(未定)東京都合唱祭
10月 日(未定)江東区民合唱祭

☞11月16日(日) 沖縄男声・いそべ男声ジョイントコンサート 会場/ティアラこうとう大ホール(決定)



東京稲門グリークラブ
第6回定期演奏会
5月10日(土) 14時開演
ティアラこうとう大ホール
・ Hototogisu
作曲 J. T. Maunula
・ 組曲「富士山」
作曲 多田武彦
・ オペレッタ「伯爵令嬢マリツア」より
作曲 カールマン
全席指定 S席2500円 B席1000円
A席2000円

編集後記

▲9日朝、子供たちの声で目が醒めました。夜来の雪はとうに止んで、見ると子供らは雪合戦の真っ最中。こうしちゃらんないと身を固めスコップを持って外へ▲出ると、隣のご主人が前の道路を大きな雪掻きでせつせと作業中でした。挨拶もそこそこにこちらは土掘り用の丸スコップでザクザクと。丁度車の通った轍のあとを掻くと一人通れるルートが確保できます。終わって胸は波打ち、汗いっぱいなので、脱いでホットタオルで拭いてもらうと実に爽快でした▲遅めの朝食をとって、余裕をもって新春コンの会場に向かいました。お隣の玄関前には大きな雪だるまが立っていました▲車中、久しぶりに味わったこの爽快感は何だったのか、子供達からもらった元気、沢山汗をかけた疲労感。みんな雪がくれた元気だったのだろうかと思いが、悪い足場を踏み締める会場に向かいました▲悪条件に悩まされた方には申し訳ないですが。(河合)

いそべとし記念男声合唱団ニュース

2014年 3月 第387号

発行代表者:戸丸悟(総務)〒135-0053 東京都江東区辰巳 1-8-45-302 ☎03-3521-6898 FAX 同
E-mail isobechorus@hotmail.com URL http://www.geocities.jp/isodanchorus/
編集:河合隆一(広報)〒272-0031 千葉県市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同

吉野弘さん死去

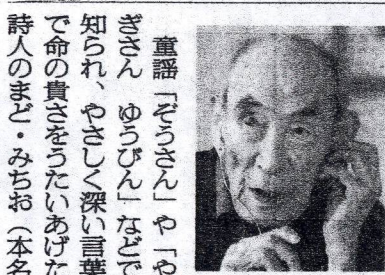
詩人、「祝婚歌」「夕焼け」



2014.1.20 朝日(9)

婚式のスピーチで読まれる「祝婚歌」は有名。石油会社に勤め、労働組合運動に従事した経験もあった。国語の教科書に掲載された作品も多い。

分かりやすい言葉を使って人間の温かみを描いた叙情詩で知られる詩人の吉野弘(よしの・ひろし)さんが15日午後9時48分、肺炎のため静岡県富士市の自宅で死去した。87歳だった。葬儀は近親者で行われ、後日、本葬を開く予定。山形県酒田市出身。散文詩「I was born」で注目を集め、1953年、同人誌「権(かい)」に参加。71年の詩集「感傷旅行」で読売文学賞、90年に詩集「自然滞」で詩歌文学館賞を受ける。94年に「吉野弘全詩集」を刊行した。



2014.2.28

詩人「ぞうさん」「やぎさん ゆうびん」 まど・みちおさん死去

104 歳

童謡「ぞうさん」や「やぎさん ゆうびん」などで知られ、やさしく深い言葉で命の貴さをうたいあげた詩人のまど・みちお(本名 石田道雄)が、28日午前9時9分、老衰で亡くなった。104歳だった。葬儀は未定。喪主は長男石田京(たかし)さん。

▼19面愛された詩・童謡
1909年、山口県周南市生まれ。19年から日本統治下の台湾で暮らし、29年に台北工業学校を卒業して台湾総督府に勤めた。34年、雑誌「ゴドモノクニ」に投稿した詩が北原白秋の選で特選に入り、以後、詩や童謡の創作に打ちこむ。43年には応召。46年復員。49年から雑誌「チャイルドブック」の編集に携わり、59年から創作に専念。68年、詩集「てんぶらびり」で野間児童文学賞。76年、「植物のう

吉野さんの合唱のための作品は我々が歌った組曲「心の四季」(童謡作曲)のほか組曲「風光」(童謡作曲)、組曲「樹木抒情」(平澤 作曲・鶴岡 1982年編)、合唱曲「走る海」(広瀬 作曲)などがあり、校歌、社歌なども多くある。詩集は11冊。詩論、随想、若者向けの作詩のガイドブックなど幅広い執筆活動を続けた。

まどさんの詩につけられた曲は多数あるが、なかでも磯部先生と組んでつくられた曲は60曲以上はある。小さい子向けに雑誌のために合作を続けた結果で

もあるが、「いねかり」もその一つ。そして「びわ」「たなをつくりましよう」「ヤマアラシ」「さくらのなさん」などなどまど十いそべ「こどもの世界」は、いそべ男声の大切なレパートリーのひとつだ。

た」で日本児童文学者協会賞、81年、巖谷小波文芸賞。

「一ねんせいになったらふしぎなポケット」などユーモアあふれる童謡詩は歌い継がれ、子どもたちに愛されてきた。

92年に「まど・みちお全詩集」を出したとき、戦時中の戦争詩2編を収め、自己批判した。この本で芸術選奨文部大臣賞と路傍の石文学賞特別賞。同年に皇后さまが英訳した詩集「THE ANIMALS」(どうぶつたち)で海外にも知られ、94年には児童文学のノーベル賞といわれる国際アンデルセン賞作家賞を日本人で初めて受けた。99年、朝日賞。2003年、日本芸術院賞。08年末から入院生活を送りながらも創作をつづけた。104歳の誕生日を迎えた昨年11月ごろから体調を崩し、横になっていることが多くなったという。

西
岡
光
秋

[illegible]

西岡光秋詩
磯部俣曲

ホームページから

昭和63年10月に第26回江東区

組曲の全曲演奏は昭和64年の
いそべ男声1989演奏会が最
初。指揮磯部俣。

★いそべ男声ニュース記事から

(平成10年)

控室で声出しをした時は、今日はしっかり歌おうと思っていた。ステージで歌ってみて、心

ハッパをかけた須賀さんも、平常心ではいらなかったようだ。

新・波の会の前会長の主宰する合唱団ということもあって、トリを務めることになったのであろういそべ男声は、歌い終わった時、そのままステージに残った。そして上村京子会長がマイクを握ってステージに上がった。

このいそべ男声の会長である磯部先生が、つい先日亡くなり、昨日、密葬がすんだばかりだということ、その磯部先生が、四家先生亡き後、新・波の会の会長として会を引っ張り、発展させてくださったこと、などを述べられた。

そして、予定外だったが、われわれがそこで『遙かな友に』を歌って、会場の全員とともに磯部さんのご冥福を祈った。（以下略）（長田）」



い	空	い	岬	海	海	鳥	鳥	広	限	い	岬	若	岬	岬		
つ	に	つ	は	の	の	は	は	い	り	な	の	者	は	は		
も		も		の	の	は	は	空	な	く	上	の	は	は		
祈	海	祈		月	月	麦	歌	め	く		に	果	祈	燃		
り	に	っ		を	を	を	う	ひ				て	る	る		
っ		っ						ろ				し				
づ		き						か				な				
け		た						る				い				
っ												明				
た												日				

祈
3

3

2頁、3頁に掲

載した詩稿は、長田さんが所蔵する「岬のうた」の作者自筆の原稿(三)。

よく見ると所々に修正のあとがある。

これは磯部先生の書き込みで、文言の削除や言い換え

を、なかにはメロディーまで書き添えてあるものもある。

こういうメロディーにしたいから「燃える」を「祈り」にしてほしいという意志表示かと長田さんは言っている。

また、全面的に書き直したと思える原稿もあるようだ。

作詞者と作曲家との表現上のやりとりが伺えて興味はつきない。

(河合)

西岡光秋(にしおかひさあき)

1934(昭和9)年大阪生まれ。本名光明。詩集9冊、歌集1冊、句集2冊。詩集「鶴匠」で日本詩人クラブ賞受賞。エッセイ、実用書なども多く執筆。

日本ペンクラブ、日本文芸家協会会員等。新・波の会理事。磯部先生作曲の詩に

「雨の物語」「江戸絵の姉様」(以詩語曲)「あじさいの雨」(三重曲・女声合唱)がある。

「まど・みちお/いそべ」としての「世界」の10曲中の1曲。一番は、りんごが「はなのようにきれいだから」、「二番は「あかちゃんに」にているから」、「そして三番は「さみしそうに」にているから」とー。それぞれに「めをつぶって／みたくなる」、「ほったたを／くっつけたくなくてくる」、「だれかと／はんぶんわけしたくなる」とりんごの魅力に寄り添って、

ころがるわけではない。とするところ、これはりんごと隣り合った詩人の心が表現されているとみることができているのではないだろうか。

*

さて、りんごの二つの詩。ここには対照的な視座がみられる。いそべメロディーの「りんご」は、りんごと一体化した親近感、もうひとつの「リンゴ」は、ある意味ではりんごをつき放して、大袈裟にいえば、そこに小さな宇宙を見据えるという自然観が表現されている。

いそべ男声メロディー・歌の博物誌49

りんごはころんころんとあかいあかくてはなのようにきれいだから

「りんご」まど・みちお作詞 磯部倅作曲

澤野 勉 (こ)

りんごへの心底からの愛着を綴っている。

りんごをひとつここに おくと

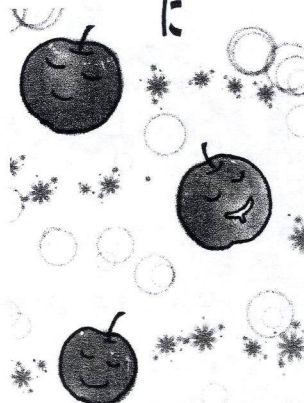
これは、りんごに密着した感性といえるだろう。一九四五年暮から翌年にかけてヒットした「リンゴの歌」(サト・ハチロー詞・森是作曲)の、赤いリンゴに唇よせて／だまって見ている青い空

リンゴのこの大きさはこのリンゴだけでいっぱいだ

この英訳はー。

の感覚に共通している。いわばりんごとの一体感ともいえる思いがそこにはある。

Here on this spot
I place an apple
See, the size



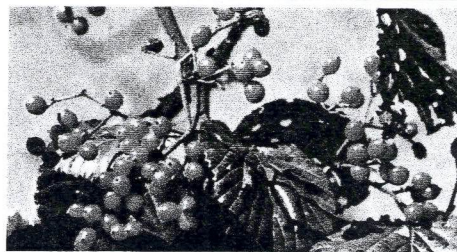
ごをタイトルにした歌は多い。

*

日本にりんごが入ったのは幕末の一八五七年(安政四年)、アメリカ領事のハリスが持ってきたのが最初とされている。その後、何回か持ち込まれて、青森を中心に栽培。青森ではりんごは県木となっている。

*イラストは鈴木はるかさん(澤野さんのお孫さん)

カリнка



真っ赤な
ガマズミの実

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

「カリнка」(ロシア語: Калинка)は、ロシアの愛唱歌である。題名の「カリнка」とは、樹木のガマズミやその近縁種を意味するロシア語「カリナ」(калина)の指小形であり、いわば「ガマズミさん」「ガマズミちゃん」といった含意である。

長い間ロシア民謡と考えられてきたが、実際には、作曲家・作家・民謡研究者のイワン・ペトロヴィチ・ラリオーノフが1860年に作詞・作曲した作品である。この歌の初演は、ラリオーノフが音楽を書いたサラトフのアマチュア劇団の芝居で、舞台上で歌われたものである。

初演からまもなくして、ラリオーノフの友人で自ら設立した合唱団も擁していた、歌手のドミートリー・アレクサンドロヴィチ・アグレネフ=スラヴァンスキー(Агреньев-Славянский, Дмитрий Александрович)の依頼に応じ、スラヴァンスキーのレパートリーにこの歌を加えることを許諾した。スラヴァンスキーの合唱団のレパートリーとなってから、「カリнка」は人気を集め始めた。

日本では楽団カチューシャの訳詞によるものが広く知られている。

ロシア語の歌詞

ロシア語詞

Калинка, калинка, калинка моя!
В саду ягода малинка, малинка моя!

Ах, под сосною, под зеленою,
Спать положите вы меня!
Ай-люли, люли, ай-люли, люли,
Спать положите вы меня.

Калинка, калинка, калинка моя!
В саду ягода малинка, малинка моя!

Ах, сосёнушка ты зелёная,
Не шуми же надо мной!
Ай-люли, люли, ай-люли, люли,
Не шуми же надо мной!

Калинка, калинка, калинка моя!
В саду ягода малинка, малинка моя!

Ах, красавица, душа-девица,
Полюби же ты меня!
Ай-люли, люли, ай-люли, люли,
Полюби же ты меня!

Калинка, калинка, калинка моя!
В саду ягода малинка, малинка моя!

日本語訳

ガマズミよ、ガマズミよ、私のガマズミよ！
庭には私のエゾイチゴが、エゾイチゴの実があるよ

ああ！マツの根方に、緑色をしたその下に
私を横たわらせ眠らせておくれ
アイ・リユーリ、リユーリ、アイ・リユーリ、リユーリ
私を横たわらせ眠らせておくれ

ガマズミよ、ガマズミよ、私のガマズミよ！
庭には私のエゾイチゴが、エゾイチゴの実があるよ

ああ！緑なす若いマツの木よ
私の上でざわめかないでおくれ
アイ・リユーリ、リユーリ、アイ・リユーリ、リユーリ
私の上でざわめかないでおくれ

ガマズミよ、ガマズミよ、私のガマズミよ！
庭には私のエゾイチゴが、エゾイチゴの実があるよ

ああ！美しい娘さんよ、若い娘心よ
どうか私を好きになっておくれ！
アイ・リユーリ、リユーリ、アイ・リユーリ、リユーリ
どうか私を好きになっておくれ！

ガマズミよ、ガマズミよ、私のガマズミよ！
庭には私のエゾイチゴが、エゾイチゴの実があるよ

総務部だより

2月23日運営委員会報告

■新春ファミリーコンサート＆
パーティーの反省点

・受付担当を決定しなかったために出席者の確認、祝い物の確認が不十分になってしまった。
↓次回は落ちなく担当を決定、実施をする。団員受付とお客様受付の2カ所は必ず設定すること。

■いそべHP 500000アクセス到達（秋永さん）
プレゼント品選定。

↓次回のCバー等で会計（団）からお酒を贈呈する。

■40周年記念演奏会反省点

ステージの並びについて、各パートで並びのプランをまとめ演奏部門で検討する。（秋永）
練習時から早めに並び方に留意、調整する。それらを須賀監督、横田先生、練習部門で検討する。

↓各パートリーダーからパート毎の提案を持ちより、調整した上で須賀監督の指示を受ける。

■沖縄男声との合同演奏会

・11月16日（日）

①宮城敏生指揮の合同曲決定
思いでのリュウデスハイム、ゴキブリの唄、カリンカ、夜来香、シェリト・リンド（楽譜配布済み）
②須賀監督の沖縄訪問日程も早めに調整する
↓9月6、7日に決定

③宮城先生の東京での練習日程は、なお調整が必要。

■第五砂町小学校授業コンサートについて

川辺成美先生勤務の小学校から当団出演の要請があった。

・6月30日（月）13時30分～14時15分

・須賀監督OK

・曲目／磯部徹子さんの歌、チュウちゃん動物園へ行ったお話でプログラミングする。

・チュウちゃんのナレーションは川辺先生と学校の子どもたちにお願います。（了承済み）
○前日6月29日（日）に臨時練習をする。

■屋形船お花見

・4月6日練習後16時30分乗船
月島あら川丸 10000円
募集開始。

■東京都合唱祭日程

・7月13日（日）で希望を出す。
・7月12日（土）特別練習実施。
・曲目／岬のうたより2、3曲

■強化練習

8月から9月の間に強化練習を2、3回実施する。（定例練習の前日土曜日に）

・須賀監督の日程を勘案して、8月9日（土）、9月13日（土）、

10月11日（土）の3日を候補とする。

■磯部先生生誕祭の準備

・7月27日（日）18時
・5月頃にケータリング業者選定開始。

■2015年新春ファミリー日程調整

6月下旬には調整して6月20日よりコンピュータ予約、7月1日抽選というスケジュール。

練習日記記録

●2月23日

発声／三上

曲目／シェリトリンド、カリンカ、夜来香（三上）、岬のうた（全曲）（安部）、水のいのち（海）（大西）**田井出**

出席／1、6、2、5、1、4、2、9

●3月9日

発声／横田

曲目／岬のうた（ひとり旅、岬はいつも、あの日のこだま）水のいのち（水たまり、海、川、雨）**須賀 田井出**

出席／1、7、2、6、1、6、2、9

Fresh Concert CMDJ 2014
～より豊かな音楽の未来をめざして～
2014年4月10日（木）18:30開演（18:00開場）
すみだトリフォニー・小ホール

千景一喜 (Sop.Sax.) / 石田 慎 (Alt.Sax.) / 岡田 聖典 (Ten.Sax.) / 吉岡 寿子 (Bar.Sax.)
マスカット (Mountain Roads) - Saxophone quartet

池田 史花 (ソプラノ) / モー・アール / W.A. Mozart / グロー / C. Gounod
ピアノ：伊藤 真花子
歌唱：ジョン・ジョヴァンニより「もうお分かりですわね、誰かを愛する」
「Don Giovanni」 「Or ai di Vienna」
歌唱：ロミオ・ジュリエットより「私は夢に生きたい」
「Romeo et Juliette」 「Je Veux Vivre」

落合 真悟 (チェロ) / アレグロ・アパッシオナート / 片山 井出 久美子
C. Saint-Saens / Allegro appassionato Op. 43

宮城 康 (バリトン) / ゴッティ / G. Verdi / 歌劇「オテロ」より「私は愛の神に誓う」
「Il Barbiere di Siviglia」 「Tutto si fa col tempo dalle dita」

磯部 有智 (ピアノ) / 全曲演奏 / 第1、第2、第3、第4、第5、第6、第7、第8、第9、第10、第11、第12、第13、第14、第15、第16、第17、第18、第19、第20、第21、第22、第23、第24、第25、第26、第27、第28、第29、第30、第31、第32、第33、第34、第35、第36、第37、第38、第39、第40、第41、第42、第43、第44、第45、第46、第47、第48、第49、第50、第51、第52、第53、第54、第55、第56、第57、第58、第59、第60、第61、第62、第63、第64、第65、第66、第67、第68、第69、第70、第71、第72、第73、第74、第75、第76、第77、第78、第79、第80、第81、第82、第83、第84、第85、第86、第87、第88、第89、第90、第91、第92、第93、第94、第95、第96、第97、第98、第99、第100、第101、第102、第103、第104、第105、第106、第107、第108、第109、第110、第111、第112、第113、第114、第115、第116、第117、第118、第119、第120、第121、第122、第123、第124、第125、第126、第127、第128、第129、第130、第131、第132、第133、第134、第135、第136、第137、第138、第139、第140、第141、第142、第143、第144、第145、第146、第147、第148、第149、第150、第151、第152、第153、第154、第155、第156、第157、第158、第159、第160、第161、第162、第163、第164、第165、第166、第167、第168、第169、第170、第171、第172、第173、第174、第175、第176、第177、第178、第179、第180、第181、第182、第183、第184、第185、第186、第187、第188、第189、第190、第191、第192、第193、第194、第195、第196、第197、第198、第199、第200、第201、第202、第203、第204、第205、第206、第207、第208、第209、第210、第211、第212、第213、第214、第215、第216、第217、第218、第219、第220、第221、第222、第223、第224、第225、第226、第227、第228、第229、第230、第231、第232、第233、第234、第235、第236、第237、第238、第239、第240、第241、第242、第243、第244、第245、第246、第247、第248、第249、第250、第251、第252、第253、第254、第255、第256、第257、第258、第259、第260、第261、第262、第263、第264、第265、第266、第267、第268、第269、第270、第271、第272、第273、第274、第275、第276、第277、第278、第279、第280、第281、第282、第283、第284、第285、第286、第287、第288、第289、第290、第291、第292、第293、第294、第295、第296、第297、第298、第299、第300、第301、第302、第303、第304、第305、第306、第307、第308、第309、第310、第311、第312、第313、第314、第315、第316、第317、第318、第319、第320、第321、第322、第323、第324、第325、第326、第327、第328、第329、第330、第331、第332、第333、第334、第335、第336、第337、第338、第339、第340、第341、第342、第343、第344、第345、第346、第347、第348、第349、第350、第351、第352、第353、第354、第355、第356、第357、第358、第359、第360、第361、第362、第363、第364、第365、第366、第367、第368、第369、第370、第371、第372、第373、第374、第375、第376、第377、第378、第379、第380、第381、第382、第383、第384、第385、第386、第387、第388、第389、第390、第391、第392、第393、第394、第395、第396、第397、第398、第399、第400、第401、第402、第403、第404、第405、第406、第407、第408、第409、第410、第411、第412、第413、第414、第415、第416、第417、第418、第419、第420、第421、第422、第423、第424、第425、第426、第427、第428、第429、第430、第431、第432、第433、第434、第435、第436、第437、第438、第439、第440、第441、第442、第443、第444、第445、第446、第447、第448、第449、第450、第451、第452、第453、第454、第455、第456、第457、第458、第459、第460、第461、第462、第463、第464、第465、第466、第467、第468、第469、第470、第471、第472、第473、第474、第475、第476、第477、第478、第479、第480、第481、第482、第483、第484、第485、第486、第487、第488、第489、第490、第491、第492、第493、第494、第495、第496、第497、第498、第499、第500、第501、第502、第503、第504、第505、第506、第507、第508、第509、第510、第511、第512、第513、第514、第515、第516、第517、第518、第519、第520、第521、第522、第523、第524、第525、第526、第527、第528、第529、第530、第531、第532、第533、第534、第535、第536、第537、第538、第539、第540、第541、第542、第543、第544、第545、第546、第547、第548、第549、第550、第551、第552、第553、第554、第555、第556、第557、第558、第559、第560、第561、第562、第563、第564、第565、第566、第567、第568、第569、第570、第571、第572、第573、第574、第575、第576、第577、第578、第579、第580、第581、第582、第583、第584、第585、第586、第587、第588、第589、第590、第591、第592、第593、第594、第595、第596、第597、第598、第599、第600、第601、第602、第603、第604、第605、第606、第607、第608、第609、第610、第611、第612、第613、第614、第615、第616、第617、第618、第619、第620、第621、第622、第623、第624、第625、第626、第627、第628、第629、第630、第631、第632、第633、第634、第635、第636、第637、第638、第639、第640、第641、第642、第643、第644、第645、第646、第647、第648、第649、第650、第651、第652、第653、第654、第655、第656、第657、第658、第659、第660、第661、第662、第663、第664、第665、第666、第667、第668、第669、第670、第671、第672、第673、第674、第675、第676、第677、第678、第679、第680、第681、第682、第683、第684、第685、第686、第687、第688、第689、第690、第691、第692、第693、第694、第695、第696、第697、第698、第699、第700、第701、第702、第703、第704、第705、第706、第707、第708、第709、第710、第711、第712、第713、第714、第715、第716、第717、第718、第719、第720、第721、第722、第723、第724、第725、第726、第727、第728、第729、第730、第731、第732、第733、第734、第735、第736、第737、第738、第739、第740、第741、第742、第743、第744、第745、第746、第747、第748、第749、第750、第751、第752、第753、第754、第755、第756、第757、第758、第759、第760、第761、第762、第763、第764、第765、第766、第767、第768、第769、第770、第771、第772、第773、第774、第775、第776、第777、第778、第779、第780、第781、第782、第783、第784、第785、第786、第787、第788、第789、第790、第791、第792、第793、第794、第795、第796、第797、第798、第799、第800、第801、第802、第803、第804、第805、第806、第807、第808、第809、第810、第811、第812、第813、第814、第815、第816、第817、第818、第819、第820、第821、第822、第823、第824、第825、第826、第827、第828、第829、第830、第831、第832、第833、第834、第835、第836、第837、第838、第839、第840、第841、第842、第843、第844、第845、第846、第847、第848、第849、第850、第851、第852、第853、第854、第855、第856、第857、第858、第859、第860、第861、第862、第863、第864、第865、第866、第867、第868、第869、第870、第871、第872、第873、第874、第875、第876、第877、第878、第879、第880、第881、第882、第883、第884、第885、第886、第887、第888、第889、第890、第891、第892、第893、第894、第895、第896、第897、第898、第899、第900、第901、第902、第903、第904、第905、第906、第907、第908、第909、第910、第911、第912、第913、第914、第915、第916、第917、第918、第919、第920、第921、第922、第923、第924、第925、第926、第927、第928、第929、第930、第931、第932、第933、第934、第935、第936、第937、第938、第939、第940、第941、第942、第943、第944、第945、第946、第947、第948、第949、第950、第951、第952、第953、第954、第955、第956、第957、第958、第959、第960、第961、第962、第963、第964、第965、第966、第967、第968、第969、第970、第971、第972、第973、第974、第975、第976、第977、第978、第979、第980、第981、第982、第983、第984、第985、第986、第987、第988、第989、第990、第991、第992、第993、第994、第995、第996、第997、第998、第999、第1000、第1001、第1002、第1003、第1004、第1005、第1006、第1007、第1008、第1009、第1010、第1011、第1012、第1013、第1014、第1015、第1016、第1017、第1018、第1019、第1020、第1021、第1022、第1023、第1024、第1025、第1026、第1027、第1028、第1029、第1030、第1031、第1032、第1033、第1034、第1035、第1036、第1037、第1038、第1039、第1040、第1041、第1042、第1043、第1044、第1045、第1046、第1047、第1048、第1049、第1050、第1051、第1052、第1053、第1054、第1055、第1056、第1057、第1058、第1059、第1060、第1061、第1062、第1063、第1064、第1065、第1066、第1067、第1068、第1069、第1070、第1071、第1072、第1073、第1074、第1075、第1076、第1077、第1078、第1079、第1080、第1081、第1082、第1083、第1084、第1085、第1086、第1087、第1088、第1089、第1090、第1091、第1092、第1093、第1094、第1095、第1096、第1097、第1098、第1099、第1100、第1101、第1102、第1103、第1104、第1105、第1106、第1107、第1108、第1109、第1110、第1111、第1112、第1113、第1114、第1115、第1116、第1117、第1118、第1119、第1120、第1121、第1122、第1123、第1124、第1125、第1126、第1127、第1128、第1129、第1130、第1131、第1132、第1133、第1134、第1135、第1136、第1137、第1138、第1139、第1140、第1141、第1142、第1143、第1144、第1145、第1146、第1147、第1148、第1149、第1150、第1151、第1152、第1153、第1154、第1155、第1156、第1157、第1158、第1159、第1160、第1161、第1162、第1163、第1164、第1165、第1166、第1167、第1168、第1169、第1170、第1171、第1172、第1173、第1174、第1175、第1176、第1177、第1178、第1179、第1180、第1181、第1182、第1183、第1184、第1185、第1186、第1187、第1188、第1189、第1190、第1191、第1192、第1193、第1194、第1195、第1196、第1197、第1198、第1199、第1200、第1201、第1202、第1203、第1204、第1205、第1206、第1207、第1208、第1209、第1210、第1211、第1212、第1213、第1214、第1215、第1216、第1217、第1218、第1219、第1220、第1221、第1222、第1223、第1224、第1225、第1226、第1227、第1228、第1229、第1230、第1231、第1232、第1233、第1234、第1235、第1236、第1237、第1238、第1239、第1240、第1241、第1242、第1243、第1244、第1245、第1246、第1247、第1248、第1249、第1250、第1251、第1252、第1253、第1254、第1255、第1256、第1257、第1258、第1259、第1260、第1261、第1262、第1263、第1264、第1265、第1266、第1267、第1268、第1269、第1270、第1271、第1272、第1273、第1274、第1275、第1276、第1277、第1278、第1279、第1280、第1281、第1282、第1283、第1284、第1285、第1286、第1287、第1288、第1289、第1290、第1291、第1292、第1293、第1294、第1295、第1296、第1297、第1298、第1299、第1300、第1301、第1302、第1303、第1304、第1305、第1306、第1307、第1308、第1309、第1310、第1311、第1312、第1313、第1314、第1315、第1316、第1317、第1318、第1319、第1320、第1321、第1322、第1323、第1324、第1325、第1326、第1327、第1328、第1329、第1330、第1331、第1332、第1333、第1334、第1335、第1336、第1337、第1338、第1339、第1340、第1341、第1342、第1343、第1344、第1345、第1346、第1347、第1348、第1349、第1350、第1351、第1352、第1353、第1354、第1355、第1356、第1357、第1358、第1359、第1360、第1361、第1362、第1363、第1364、第1365、第1366、第1367、第1368、第1369、第1370、第1371、第1372、第1373、第1374、第1375、第1376、第1377、第1378、第1379、第1380、第1381、第1382、第1383、第1384、第1385、第1386、第1387、第1388、第1389、第1390、第1391、第1392、第1393、第1394、第1395、第1396、第1397、第1398、第1399、第1400、第1401、第1402、第1403、第1404、第1405、第1406、第1407、第1408、第1409、第1410、第1411、第1412、第1413、第1414、第1415、第1416、第1417、第1418、第1419、第1420、第1421、第1422、第1423、第1424、第1425、第1426、第1427、第1428、第1429、第1430、第1431、第1432、第1433、第1434、第1435、第1436、第1437、第1438、第1439、第1440、第1441、第1442、第1443、第1444、第1445、第1446、第1447、第1448、第1449、第1450、第1451、第1452、第1453、第1454、第1455、第1456、第1457、第1458、第1459、第1460、第1461、第1462、第1463、第1464、第1465、第1466、第1467、第1468、第1469、第1470、第1471、第1472、第1473、第1474、第1475、第1476、第1477、第1478、第1479、第1480、第1481、第1482、第1483、第1484、第1485、第1486、第1487、第1488、第1489、第1490、第1491、第1492、第1493、第1494、第1495、第1496、第1497、第1498、第1499、第1500、第1501、第1502、第1503、第1504、第1505、第1506、第1507、第1508、第1509、第1510、第1511、第1512、第1513、第1514、第1515、第1516、第1517、第1518、第1519、第1520、第1521、第1522、第1523、第1524、第1525、第1526、第1527、第1528、第1529、第1530、第1531、第1532、第1533、第1534、第1535、第1536、第1537、第1538、第1539、第1540、第1541、第1542、第1543、第1544、第1545、第1546、第1547、第1548、第1549、第1550、第1551、第1552、第1553、第1554、第1555、第1556、第1557、第1558、第1559、第1560、第1561、第1562、第1563、第1564、第1565、第1566、第1567、第1568、第1569、第1570、第1571、第1572、第1573、第1574、第1575、第1576、第1577、第1578、第1579、第1580、第1581、第1582、第1583、第1584、第1585、第1586、第1587、第1588、第1589、第1590、第1591、第1592、第1593、第1594、第1595、第1596、第1597、第1598、第1599、第1600、第1601、第1602、第1603、第1604、第1605、第1606、第1607、第1608、第1609、第1610、第1611、第1612、第1613、第1614、第1615、第1616、第1617、第1618、第1619、第1620、第1621、第1622、第1623、第1624、第1625、第1626、第1627、第1628、第1629、第1630、第1631、第1632、第1633、第1634、第1635、第1636、第1637、第1638、第1639、第1640、第1641、第1642、第1643、第1644、第1645、第1646、第1647、第1648、第1649、第1650、第1651、第1652、第1653、第1654、第1655、第1656、第1657、第1658、第1659、第1660、第1661、第1662、第1663、第1664、第1665、第1666、第1667、第1668、第1669、第1670、第1671、第1672、第1673、第1674、第1675、第1676、第1677、第1678、第1679、第1680、第1681、第1682、第1683、第1684、第1685、第1686、第1687、第1688、第1689、第1690、第1691、第1692、第1693、第1694、第1695、第1696、第1697、第1698、第1699、第1700、第1701、第1702、第1703、第1704、第1705、第1706、第1707、第1708、第1709、第1710、第1711、第1712、第1713、第1714、第1715、第1716、第1717、第1718、第1719、第1720、第1721、第1722、第1723、第1724、第1725、第1726、第1727、第1728、第1729、第1730、第1731、第1732、第1733、第1734、第1735、第1736、第1737、第1738、第1739、第1740、第1741、第1742、第1743、第1744、第1745、第1746、第1747、第1748、第1749、第1750、第1751、第1752、第1753、第1754、第1755、第1756、第1757、第1758、第1759、第1760、第1761、第1762、第1763、第1764、第1765、第1766、第1767、第1768、第1769、第1770、第1771、第1772、第1773、第1774、第1775、第1776、第1777、第1778、第1779、第1780、第1781、第1782、第1783、第1784、第1785、第1786、第1787、第1788、第1789、第1790、第1791、第1792、第1793、第1794、第1795、第1796、第1797、第1798、第1799、第1800、第1801、第1802、第1803、第180

SCHEDULE

豊洲：江東区豊洲文化センター
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

頤：須賀監督指導・指揮 横：横田先生発声指導

○運営委員会は原則として第4日曜日11:00練習場にて開催

2014(平成26)年

3月 9日(日)	定例練習頤	13:00~17:00	豊洲	1 T
23日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	2 T
4月 6日(日)	臨時練習頤	13:00~16:00	豊洲	
	屋形船お花見 (練習後)			
13日(日)	定例練習頤	13:00~17:00	豊洲	1 B
27日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	2 B
5月11日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	1 T
25日(日)	定例練習	13:00~17:00	古石場	2 T
6月 8日(日)	定例練習頤	13:00~17:00	豊洲	1 B
22日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	2 B
29日(日)	臨時練習	13:00~17:00	豊洲	1 T
☞ 30日(月)	第五砂町小学校授業コンサート 頤 曲目/子どもの歌、チュウちゃん 13:30~14:15			

7月12日(土) 特別練習
13日(日) (祝) 東京都合唱祭頤
27日(日) 定例練習

曲目/岬のうたより

磯部先生生誕祭

8月10日(日) 定例練習頤

24日(日) 定例練習

9月14日(日) 定例練習頤

(9月 6日~7日) 須賀監督沖縄出張練習)

28日(日)

10月12日(日) 定例練習頤

26日(日) 江東区民合唱祭 頤

11月 9日(日) 定例練習頤

15日(土) 臨時練習頤

☞ 16日(日) 沖縄男声・いそべ男声合同演奏会 頤 会場/ティアラこうとう大ホール

編輯後記

▲好きな詩人が相次いで亡くなりました。お二人ともやさしい言葉で、人の優しさ、心の深さ、世界の広がりを与えてくれました▲吉野さんの「奈々子に」「愛そして風」「身も心も」「夕焼け」「祝婚歌」……いくつか愛誦・愛唱している詩があります▲「祝婚歌」を今度、甥っこの長女の披露宴に朗読しようと読み直して、あ、これは「戒老歌」でもあると思いました。いい詩の懐の深さを改めて知りました。自分への戒めも含めて読もうと思います▲まどさん。「いねかり」「にじ」「はるかな歌ーわが妻の生まれし日のうた」▲そして「うたを うたうとき」という詩の「からだをぬいで/こころひとつになります」の二行にハタと目が止まるとき、まだまだ心一つになりきれずに歌っているのだと、思っています▲多彩な感性を隠し持っていたまどさん。お会いするとふつうのおじさんでした。(河合)

いそべとし記念男声合唱団ニュース

2014年 4月 第388号

発行代表者:戸丸悟(総務)〒135-0053 東京都江東区辰巳 1-8-45-302 ☎03-3521-6898 FAX 同
E-mail isobechorus@hotmail.com URL http://www.geocities.jp/isodanchorus/
編集:河合隆一(広報)〒272-0031 千葉県市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同

“四度目の正直”

当団の花見は四度目にしつてやっと良き開花のタイミングと天候に恵まれ、花、歌、酒お揃いの屋形船となった。参加者も須賀監督をはじめ、大阪から加藤崇子先生、それに永井先生に横田さん、総勢25名が隅田川の満開の桜を楽しんだ。

※まず1時から臨時練習

大阪から加藤崇子先生に来ていただいた。「ふるさと」のピアノパートに続いて「岬のうた」にピアノパートを作ってください

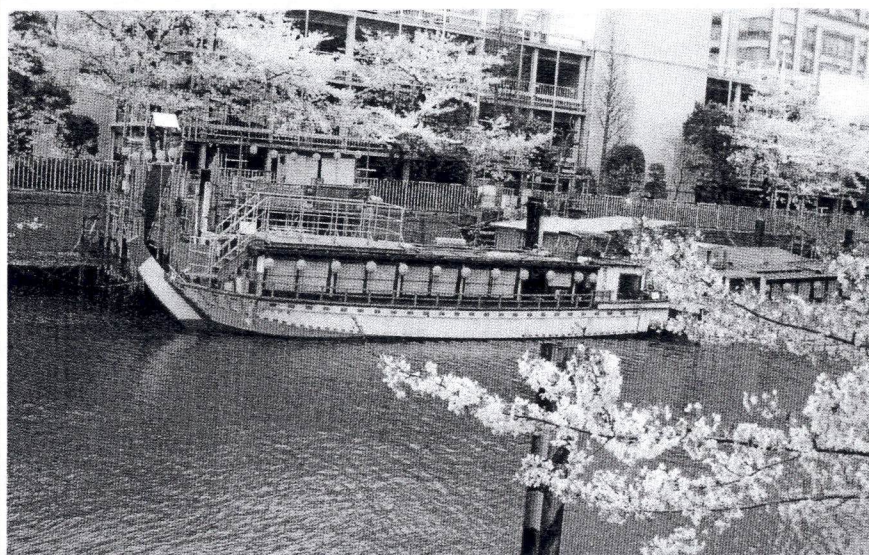
るための準備ということで、須賀監督の表現、指揮、そして我々の歌唱力などをじっくりと聴きながら、時折鋭い音やリズム感、巧みな導音などで、われわれを刺激してくださった。

各パートもピアノの「介護」に甘えていたと思われてはいけな

いと思いつつかなり頑張った。歌っていたようだった。

「岬のうた」全曲を「ドンクサイ!」語尾のワはチガウ!

などなどの叱正を繰り返しながら、みっちり2時間練習した後、月島の乗船所に向かった。



→ 第三十九号に乘船

※隅田川に船出

4時45分。それまでの暗雲、小雨、強風はどこへやら、絶好の船遊び日和となった。

まず、長田代表が「四度目でやっと花見の本番です」と実感こめた挨拶。皆も共感と笑いの拍手で船出、宴会は始まった。

つまり11年は震災で中止(有志のみ)、12年は桜が間に合わず、13年は悪天候のため出港できずという状態が続いたから、今年の満開と好天は嬉しい限りだった。波も弱く、春のうららの隅田川「の歌詞そのものの気分にあふれた船内だった。

須賀さんの乾杯音頭、ゲスト先生方のコメントのあと、つきつき出る料理を味わううちに吾妻橋をくぐると隅田公園、墨堤

通りと両岸の桜はまさに満開。長田さんが準備してくれた楽譜で「花(春の隅田川)」を合唱。

ピアノパートは口三味線。続いて「朧月夜(美花島に月夜)」を



← シュガーズの珍演奏に皆大笑い

小学校時代に教わった2部合唱で。皆さんよく覚えていました。

スカイツリーがよく見える桜橋手前で停船。デッキに上って桜とツリーをバックに写真をとる人あり、船内ではテンプラの配膳がはじまり食べる方も急がしい。シュガーズの演奏も加わって船内はますます盛り上がった。

軒の提灯に灯がともり船着き場に到着して見上げると、夜桜の間に皎々と月が冴えていた。おぼろではなかった。(河合)

磯部周平先生

母校湘南高校で熱演

3月30日(日)、磯部周平先生は、藤沢市民会館で開催された、母校・湘南高校の吹奏楽部定期演奏会にソリストとして出演されました。

当日はあいにくの荒天でしたが、地元伝統校の恒例行事というところもあって、二階席までほぼ満員。

周平先生は第一ステージでフイリップ・スパーク(一九五一年)作曲のクラリネット協奏曲にソリストとしてご登場。圧巻は第三楽章。スウィングジャズそのもので、先生もプログラムでは「気持ちになかなか付いて

行けず、少し戸惑いました」と書いておられたものの、本番ではベニー・グッドマンを思わせるような軽やか且つ輝かしいリノリの演奏で、終演後即「ブラボー!」の声が飛び交いました。

先生は、そのまま第二ステージ「OB・OG演奏」に一メンバーとして参加され、お馴染みのタイケ「旧友」と、スウェーリンジェン「管楽器と打楽器のためのセレブレーション」の二曲を楽しそうに演奏しておられました。

(岩本孝)

4月のCバーは大賑わい

4月13日のCバーは多くのお客様をお迎えした。

まず東京都合唱連盟の事務局広報委員の菱木明子さんと山口敦さん。

連盟の機関紙「東京合唱ニュース」の取材ということで練習の最初から出席、そしてCバー

で団員と乾杯。お二人とも須賀さんはじめ団員の間にも入って活発に会話をされていた

記事は連盟のニュースに書いて頂けるらしい。練習室に入った途端、不思議なオーラのようなものを感じたとおっしゃっていた。

←合唱連盟の菱木さん、山口さんたちと懇談



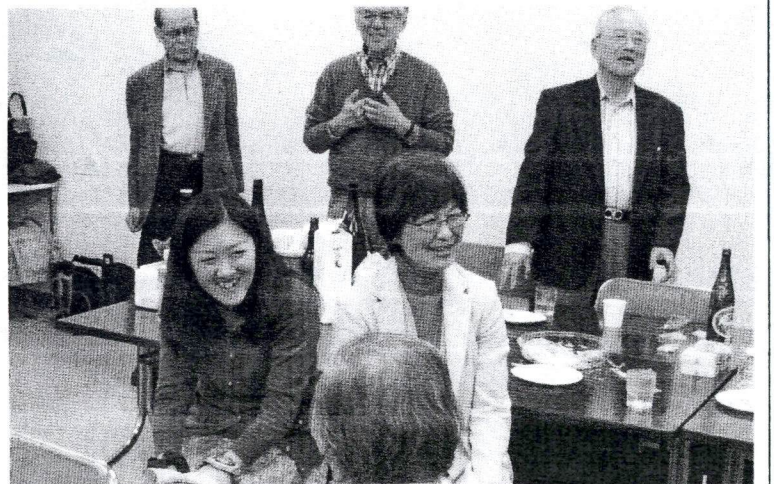
次いでのお客様は、早大グリーンの3年部員で指揮者の白石貴啓君。

児玉さん(も)が指揮の勉強にということで連れてきてくださった。

「岬のうた」「水のいのち」など須賀監督の練習指揮をじっと注目、バリトンパートでも一緒にハモった。

Cバーでは雑談に溶け込み、「遥かな友に」の指揮では、須賀監督が手を取っての直接指導を

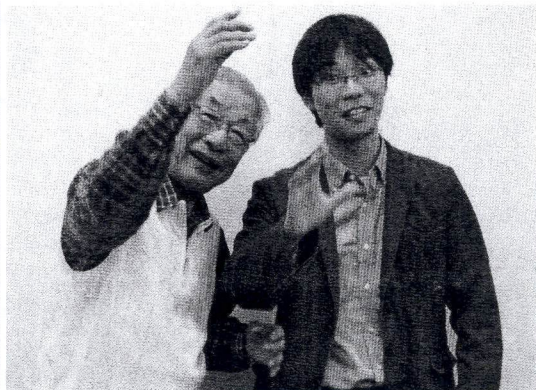
←セレナーデに包まれるピアノとお入



受けることができた。もちろん、われわれは笑いながら、うなずきながら「練習実験台」となっていたっぶり付き合った。

*

それにしても、お互いにほろ酔い加減ながら、いざ指揮、歌うとなるとみな集中して歌ってしまふ。合唱マニアの執念と云っていいのだろうか。



→「須賀指導教室」のレッスン

そして最後に名倉扶季さんがご来会。コール77「好齡者」メンバーを支えて下さるピアノスト。

Cバーの終盤で井出先生と名倉先生とお二人に会場の中心にお座りいただき、全員で文字通り女性に捧げるシュテンチェンをハモったというわけ。みんなロミオ気分かい♡

この日の銘酒は美丈夫、澤の井、屋守(おろき)、赤兎馬、多良川、奥の松、それに加藤宗子先生差し入れのおつまみと盛り沢山。皆さん、また来てください。

(RK)

コール77

知事賞受賞

25団体中第2位

コール77は3月5日に開催された第18回シニアコーラス・Tokyo・フェスティバルに出場して、25団体中の第2位となり、東京都知事賞を獲得しました。

指揮は澤登典夫、ピアノは名倉扶季。

演奏曲は「親娘(おやこ)だよ」(合島近作詞、原まもる作曲)と「ひびけうたごえ」(小林伸夫・コール77賢作詞、陣内大蔵作曲)

2曲とも合唱のための編曲は澤登さん、ピアノパートの作曲は名倉さん。

*

当日の審査員は小森昭宏、安田祥子、宇佐美瑠璃、岸信介の方々だったが、その講評を紹介する。

A もう少しfが出ると良い。でも最後は満足しました。

B 響きがまろやかになってきたが、さらにパワーフルに歌ってください。伴奏者の音量のとり方が絶妙でした。

C 低音が充実してきた。いつもながらハーモニーの響きは良い。親心がとてもよく伝わ

ってきた。言葉に力を入れ過ぎるとかえって分かりずらくなる。声量は申し分ない。

D 美しい心に伝わる音楽が素晴らしい。味のある男声合唱。いつまでも歌い続けてください。

*

出場団体の感想から

A 過去2、3回は心配しましたが、今回はしっかり持ち直して年齢でも頑張れば進歩できるのだと感心しました。益々精進されいつまでも美声を聞かせてください。

B

「親娘だよ」聴いていて目頭が熱くなってきました。

C とても平均年齢85歳とは思えません。姿勢の良さ、のびやかな若々しい声、堂々とした自信あふれる合唱、さすが歌い続けて17年。「静かに消え去るのみ」などとおっしゃらず、100歳まで響かせてください。

いそべ男声の一九八九年、石橋メモリアルホールでの演奏会のために作曲された組曲『岬のうた』の第四章。一曲めが「ひとり旅」、二曲めが「岬はいつも」、三曲めが「あの日のこだま」。岬に寄り添って、擬人化した岬への想いを綴った四編の詩の終曲。

当時のプログラムで、磯部さんはこう述べている。

「詩は、新・波の会の会員で、

いそべ男声メロディー・歌の博物誌50
叫ぶ灯台をいたわる岬よ
きみはいつもかなしいまでに
人の優しいぬくみをもつ

「叫ぶ灯台」西岡光秋作詞 磯部倅作曲

澤野 勉 (子)

ある西岡光秋氏に話をして新作をお願いしました。「岬」に寄せられる静と動。はげしさとやわらかさ、きびしさと温かさ。ーなどの思いが、いそべ男声の演奏で聴く人の胸に深く響きわたるといいなあと思っています」

*

「博物誌」の対象はモノ。四編の詩には岬をめぐるさまざまな言葉が出てくるが、唯一、具体的なモノといえるのが灯台。擬人化された岬の、灯台への思いが、この歌のテーマとなっている。

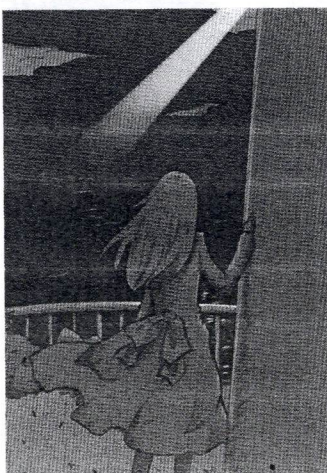
る。

航海する船の道しるべとなる灯台は、古くは紀元前、アレクサンドリア港入口のファロス島で、石積の灯台がつくられたとの記録もある。日本では七世紀末、対馬に「のろし」を設けて遣唐使の船の安全をはかったという。

日本で初めてつくられたのが一八六九(明治二)年、フランス人技師ルイ・フェリックス・

の時代、岬に思いを寄せるこの歌の詩心は大切にされなければならぬのではないだろうか。岬という無機的な地形を人になぞらえることは、まさしく日本人の古来の自然観のよってきたところだろう。

一章の「岬はひとり旅」といい、二章の「岬の友だちはいつも風」といい、三章の「あの日のこだまを乗せた白い船」を岬が待ち受けている表現といい、



フロランによってつくられた三浦岬の観音崎灯台。ついで南房総の野島崎灯台がつくられた。この時代、すでに30点先まで及ぶ「光の刃(やいば)」の能力を持った技術が開発されていた。

*

電子機器の技術の発達によって、身近なところで「ゆりかもめ」のような無人の交通手段が発達してきた現在、船舶運航のうえで灯台の役割も小さくなってきている。

けれど、それなればこそ、こ

ここには岬への全幅のいとしさが籠められている。「愛国心を鼓舞」しようという一部の風潮があるが、そんなおしきせではない、自然をめぐる素朴な心情が、ここに感じられる。

蛇足になるが、悪天候に耐えて灯台が頑張るという場面で連想されるのが、いそべメロディーの「北への回帰」の「憤怒の竜」。

「叫ぶ灯台」は、この台風に抗う灯台の逞しさを思い浮かべて歌いたい。

*イラストは鈴木はるかさん(澤野さんのお孫さん)

シエリト・リンド

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

シエリト・リンド (Cielito Lindo) はメキシコで古くから親しまれている歌。1882年にキリノ・メンドーサ・イ・コルテス (Quirino Mendoza y Cortés) により作られた^[1]。

この歌は、非公式ではあるもののメキシコを象徴する歌であるとされ、特に国外においてメキシコ人が集まるとこの歌を歌って同郷である事を確認することがよくある。FIFAワールドカップなどの国際的なスポーツイベントの際には、メキシコチームを応援する曲として歌われる。ただし、多くのメキシコ人はコーラスの部分と最初の2小節ないし4小節分しか歌詞を覚えていない。

この曲は、イギリスで1957年にヒットしたアルマ・コーギャン (Alma Cogan) による "You, me, and Us" にも使われている。(歌詞は異なっていた。) なお、この1957年はちょうどキリノ・メンドーサ・イ・コルテスが亡くなった年であった。

詞の解釈

キリノ・メンドーサ・イ・コルテスの伝記によると、彼は山に出かけたときに、ほくろのある女性を見てこの詩を着想したとされている。彼がこの曲と詩の作者である事は確かであるが、この詩はスペインの古い歌と似ており、それに何らかの影響を受けたのであろうことは間違いない^[2]。

その時代の女性達は、髪を三つ編みにしてピンと櫛でそれを頭の上に留めていた。歌詞の "sierra morena" (褐色の山) というのは、この髪のことを指しているのであり、女性の肌のことを指しているのではない。"morena" という言葉は頭や頭髮に対して使われる事が多いという事実が、この説を裏付けているであろう。

歌のタイトルである "Cielito Lindo" というのは、親愛の言葉であり、特定の場所を示す意味や、天国を示す意味は無い。(訳注: "cielito" は「空」「天国」などの意を持つ言葉であるが、ここでは単に「素敵なもの」の意で使われている。"lindo" は「美しい」の意。)

歌詞

スペイン語

De la sierra morena,
cielito lindo, vienen bajando
Un par de ojitos negros,
cielito lindo, de contrabando.
(以下コーラス)
¡Ay! ¡ay! ¡ay! ¡ay!, ¡canta y no
llores!
Porque cantando se alegran,
cielito lindo, los corazones.

Ese lunar que tienes,
cielito lindo, junto a la boca
No se lo des a nadie,
cielito lindo, que a mí me toca.

(コーラス)

日本語訳

その黒髪から
素敵だな、その下には
黒い瞳が2つ
素敵だな、秘密のもの
(以下コーラス)
アイ、アイ、アイ、アイ、歌って！泣かない
で！
歌えば元気になるよ
素敵だな、その真心

その髪留めも
素敵だな、その口も
誰にも渡しちゃだめだよ
素敵だな、僕に触れて

(コーラス)

総務だより

3月23日運営委員会

●40周年演奏会反省点―ステ
ジの並び方について

・前回検討したことの再確認。
パートの声をまとめることを目
的として、各P・L（パートリ
ーダー）が提案し、須賀監督の
指示を仰ぐ。整列の基本はステ
ージの状態に合わせて2列乃至
3列を基本として個人個人の配
置を考える。時に応じて練習の
際もこれを適用する。

↓4月6～13日頃までにP・L
が須賀監督に提案する。

●沖縄男声との合同演奏会

・須賀監督の沖縄訪問日程は

9月6～7日に決定。

・いそべ男声より同行者を募る。
（宿代補助あり）

・宮城敏先生の来訪は9月14日
に決定。

・演奏会後の合同ツアーは日光
に決定。ツアー担当は佐藤（ツ
アー関係）山川（沖縄関係）。

●第五砂町小学校授業コンサー
トについて

・期日／6月30日（月）13時45分
～14時30分

・須賀監督指揮

・曲目／「チュウちゃん…」（畠
山）

まだ十いそべ子どもの歌

・「チュウちゃん」のナレーシ
ョンと「ツル」「ライオン」のソロ
は川辺先生と子どもたちにお願
いする。

↓4月初めに楽譜・CD等を持
参して先生と打ち合わせをする。
↓（佐藤、戸丸）

↓出来れば6月8日に合わせの
練習をしたい。

↓6月29日（日）に臨時練習をす
る。（須賀監督欠席）

★下段、第五砂町小学校授業
コンの記事を見よ。

●東京都合唱祭日程

・7月13日（日）で。

・曲目はまど・みちおさんの詩
の曲はどうかの提案があり、須
賀監督に長田さんが相談しても
らう。

●特別臨時練習決定

・7月12日（土）合唱祭の前日に
臨時練習を実施する。

●合同演奏会のための強化練習

↓8月9日（土）

9月13日（土）

10月11日（土）

●磯部俣先生生誕祭準備

・7月27日（日）練習後

・5月頃にケータリング業者選
定開始

・案内状送付は5月中旬に、周平
先生、ダーメンコール、賛助会
員、休団員宛て。

●来年の新春ファミリーパー
ティー&コンの日程調整

・7月1日に抽選、6月20日よ
りコンピュータ予約。

↓須賀監督に1月の日程を確認
（5月中）

●浜松SPC演奏会

・3月30日に演奏会が開かれ長
田代表が出席する。お祝い贈呈。

●2015年以降の目標につい
て

2017年から2019年に
かけて、沖縄男声との合同演奏
会（沖縄にて）、磯部先生生誕
祭100年記念、45周年記念など
の企画が考えられるので余裕を
もった見通しを持ちつつ計画し
ていきたい。

★第五砂町小学校コンサート

川辺成美先生と打ち合わせの
結果左記の予定となる。

・タイムスケジュール

10時30分 集合 音楽室（体
育館1F）練習

12時00分 昼食（給食）

12時55分 ステージリハーサ
ル（約30分）

13時45分～14時30分 本番
曲目

「チュウちゃんが動物園へ
行ったお話」全曲

びわ、おさるのやきゅう、
やきいも、ハンカチ（まど
・みちお＋磯部俣）

・服装 プレザー

・聴衆

4年生、5年生、6年生合
計350名。父母も合わせ
ると400～500名。

・ナレーションは川辺先生＋○
先生

・ツルのソロは川辺先生

・ライオンのソロは男子生徒

・6月8日の当団の練習に先生
お二人が参加される予定。

来客

4月13日

○菱木明子さん（東京都豊島区）

○山口 敦さん（同）

東京都合唱連盟「東京合唱ニ
ュース」の取材のために来団。

練習とCバーまで取材。

○白石貴啓さん（東京都豊島区）

指揮の研究のため来団。

○名倉扶季さん（東京都豊島区）

Cバーに手土産を持参。

練習日記記録

3月23日

・発声（三上）

・曲目／「岬のうた」3あの日
のこだま、4叫ぶ灯台／三上、
「水のいのち」5海よ／大西、
カリンカ、シェリトリンド、
夜来香／安部 井出

・出席 1T-5、2T-8、1B-4、10

4月6日

・発声／横田

・曲目／岬のうた（全曲）／須賀
井出

・出席 1T-5、2T-5、1B-4、2B-4

4月13日

・発声／三上

・曲目／岬のうた（全曲）、水の
いのち／海よ／びわ、おさる
のやきゅう、やきいものうた、
ハンカチ／須賀 井出

・出席 1T-6、2T-8、1B-6、2B-9

SCHEDULE

豊洲：江東区豊洲文化センター
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

須賀監督指導・指揮 横田先生発声指導

○運営委員会は原則として第4日曜日11:00練習場にて開催

2014(平成26)年

4月27日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	2 B
5月11日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	1 T
25日(日)	定例練習	13:00~17:00	古石場	2 T
6月 8日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	1 B
○川辺成美先生ほか来団				
22日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	2 B
29日(日)	臨時練習	13:00~17:00	豊洲	1 T
30日(月)	第五砂町小学校授業コンサート			曲目/「チュウちゃん」、子どもの歌(まど+いそべ) 服装/
10:30 音楽室集合(体育館1 F) 練習				
12:00 昼食(給食)				
12:55 ステージ・リハーサル30分				
13:45~14:30 本番				
7月12日(土)	臨時練習	13:00~17:00	豊洲	曲目/ 服装/
13日(日)	定例練習	13:00~	豊洲	
東京都合唱祭				
27日(日)	定例練習	13:00~	豊洲	曲目/ 服装/
磯部先生生誕祭				
8月 9日(土)	強化練習			曲目/ 服装/
10日(日)	定例練習			
24日(日)	定例練習			曲目/ 服装/
9月 6日~7日	○須賀監督沖縄出張練習			
13日(土)	強化練習			曲目/ 服装/
14日(日)	定例練習			
○宮城敏先生来団(合同演奏曲練習)				
28日(日)	道志川合唱祭	10:30~		曲目/ 服装/
10月11日(土)	強化練習			曲目/ 服装/
12日(日)	定例練習			
26日(日)	江東区民合唱祭			曲目/ 服装/
11月 9日(日)	定例練習			
15日(土)	臨時練習			曲目/ 服装/
16日(日)	沖縄男声・いそべ男声合同演奏会			
会場/ティアラこうとう大ホール 曲目/当団単独「岬のうた」全曲 合同 「水のいのち」全曲、カリンカ、 シェリトリンド、夜来香				

編集後記

▲今年の隅田川は最高でした。「四度目の正直」でした。去年などは悪天候で大川への水門が閉鎖され、停泊屋形船での宴会。昨年早くに今年の予定がきまったら須賀さんが「おい、今度は天気はどうなんだ」というので幹事は返事に困っている始末でした▲今年は少し寒かったものの「春のうららの隅田川」を満喫しました▲この「花」の歌には兩岸の花の眺めは山ほどありますが、さてどんな船なのか描写がありません。「權のしずく」とあるだけです。あるいは船には乗っていないのか▲「野崎参りは屋形船で参ろ」と東海林太郎が歌います。大阪東部の大東市の野崎観音に詣でる屋形船が寝屋川を遡行する。船中の客と土手を歩く参詣人とが口論し合い、言い負かした方が観音さまの御利益にあずかれるのだそうです。でも今はそれも廃れたといえます。近くにお住まいの横田さん、これを復活させてください▲お前らは行いが悪いから3回もはずれたんだと言われたら、何と反論するか。(河合)

いそべとし記念男声合唱団ニュース

2014年 5月 第389号

発行代表者: 戸丸悟(総務) 〒135-0053 東京都江東区辰巳 1-8-45-302 ☎03-3521-6898 FAX 同
E-mail isobechorus@hotmail.com URL <http://www.geocities.jp/isodanchorus/>
編集: 河合隆一(広報) 〒272-0031 千葉県市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同

あと半年

10回目の沖縄男声との合同演奏会



第一回から35年

合同演奏会の歴史を振り返る

川野辺直雄 (1/3)

沖縄男声と当団の初めての合同演奏会は一九七九年十月26日那覇市民会館大ホールで開催された。当時沖縄に勤務していた筆者は幸運にも両団の橋渡し役を、東京の徳田さんとともに果たし、いそべ男声36名、(同伴家族約20名)を迎えて、私は沖縄男声27名の一員として舞台に立った。

平均年齢がほぼ10歳若い沖縄男声のほとんどのメンバーがびっくりにしたのは、いそべ男声のほぼ全員が楽譜をもたずに磯部さんの新作の組曲「なんなんななつの」を歌い切ったことだった。歯切れよくしかも重厚なハーモニーに圧倒されたのを覚えている。

合同曲では沖縄側も懸命に練習して「草の葉の祈り」など難曲にも磯部さんの棒についていた。宮城敏さん指揮の「兵士の合唱」「狩人の合唱」、アンコールの「だんじゅかりゆし」もきれいにハモって満場の拍手をもらえた。

磯部さんが、演奏会前に二回訪沖してみんなに強く求めたのは合同の演奏を重視して「ひとつの合唱団のようなハーモニーを」ということだった。それに応えられたことが、このあと約5年毎に繰り返されるようになった要因だったと私は思う。

磯部さん指揮の合同演奏会一九九五年第五回那覇での演奏会が最後になったが、その時の「北への回帰」からの三曲の演奏がもっとも心に残っている。

当団の指揮者が須賀さんになって曲目が磯部作品に加え、高田三郎作品も合同で取り上げられるようになった。今年は「水のいのち」全曲である。

本土との自然の違い(例えば沖縄には雪がない)を超えて難しい歌に挑む沖縄の皆さんに頭が下がる思いである。

沖縄を第二の故郷だと言い、自作のオペラ「夕立」にもその思いを託した磯部さんご夫妻。暖かい「おもてなし」と泡盛の「春雨」にすっかり沖縄ファンになった須賀さん。

今年の演奏会も成功するに違いない。そしてこの合同演奏会はいずれもずっと続くと私は信じている。

組曲《水のいのち》

高田三郎

あのころ私は既に、この組曲《水のいのち》の中の《海》を書き上げていた（これについては私は、随筆集『くいなは飛ばずに』の中の「ある出会い」に相当詳しく書いています）。

いそべ男声ニユースNo. 3 8 9

そんなある日、TBS放送局から中西さんが来られ、私に芸術祭番組の合唱組曲の作曲委嘱についての申し入れがあり、私は「この《海》を入れ、あとの楽章の詩についても私の考えどおりにしてよければ」と答えたのであった。中西さんはすぐ局に戻り、その日のうちに折り返して「その条件で」との電話があり、こうしてこの作曲は出発したのであった。

これに對抗しようと思ったのである。

人の肉体はよいものであり、もっとも大切になされなければならぬのであるが、人にはまた精神というものもあり、その精神が賛成しているものでなければ、どのような生き方をしても、人はそれに満足することができない。その「精神」に目と心に向けてもらうために、この《海》を含む合唱組曲を書こう、と私は決めたのであり、あの時TBSに了承を得たのもこのことを想定しての条件であったのだ。

まず、私は高野喜久雄さんに電話し、私の考えを話し、彼の詩集『存在』の中から、すでに狙いをつけていた《水たまり》と《川》を「読む詩」から「きいてわかる詩」になおしてもらいうことを頼んだのであった。

それらが送られて来、そして作曲を了えたのち、第一曲《雨》を、そしてそれも了えたのち、終曲のための長い詩《海よ》を書いてもらうという順序で運んでいったのである。

第一曲《雨》

第一曲《雨》は「降りしきれ雨よ」と始められる。そして「すべて立ちすくむものの上に」と。私たちはこの世で、いったい何度立ちすくむことだろう。今年もまた目指す学校の入試の発表に名前の出ていなかった娘。昨日から家に帰ってこない息子。旅行先で交通事故に遇った夫の重態の知らせ。私たちはその度に断崖の突端に立たされ、目の前が真っ暗になってしまいうのではないだろうか。

「また横たわるものの上に」と続く。それは何という安らかさ。全く安らかに眠っている人。そして、「すべて許し合うものの上に」と。許し合うことこそ平和の始まりであり「一日のうちに七回の七十倍許せ」と聖書にも書いてある。しかし、それでもなお且つ、人はどうしても許すことのできない相手を持つていたりもするのではないだろうか。詩は続いている。

「また 許しあえぬ者の上に」と。私たちが「降りしきれ雨よ」と歌うのは、歌っている私たちの上に、ではなく、「これらすべて立ちすくみ、許し合い、また許し合えぬ人びとの上に、恵

みの雨よ」との願いをこめながら歌い始めるのである。そして、涸れた井戸も、踏まれた芝生も、こときれた梢も、なお、ふみ耐える根も、すべてそのものの自体に返されることができるようにと。

第二曲《水たまり》

どこにでもある、そして、やがて消え失せてゆく水たまりが「わたしたちに肖っている」と気付いた時、私たちは胸を突かれる思いを持つ。水たまりに過ぎない私たちの深さ、それは泥の深さでしかないし、私たちのちぎり（約束）も、それを受け入れるうなずきも、そして、まどい（団欒）もみな泥と泥の間のことでしかないのだ。

しかしまた、その水たまりが青い空を、その小さい水面に映しているのに気付き「私たちの小さな心もまた」と思うのである。

ついでながら、この詩に出てくる右記の「やまとことば」の『ちぎり』あるいは『まどい』などを私たちは大切にしたいものである。これらこそ、聞いてわかる、そして詩情に満ちた美しいことばだからである。

第三曲《川》

「何故 さかのぼれないのか？ 何故 低い方へ？」それは川に

であると同時に、私たち自身への詰問でもあるのだ。

そして、太い旋律線が生き生きと流れて行く。豊かな、そして透きとおった水をたたえた川のように。よどむ淵も、渦もいらだっているようだ。川がこがれているのは山であり、その切り立つ峰であり、その彼方の青い空なのだ。川底の石も水の流れに作用されて上流へと転がりのぼり、魚も力強く水中をさかのぼっていく。それら、川上へのもつていく。それら、川上へもつていく川が何であるかと尋ねることはもういらない。それは私自身なのだ、と繰り返しこの楽章は結ばれる。

第四曲《海》

ピアノの音とともに始まるハミングの大波小波は、終始私たちに「見なさい これを見なさい」といい続けているようである。「人でさえ行けなくなれば、そなたをさしてゆく。そなたの中のひとりの母を」と続く。

最後の波の音「見なさい」は、大海（おおぞら）が人類全体に詰問しているように歌うべきなのではないだろうか。

第五曲《海よ》

すべて受け容れる大きな海、うまず繰り返す無限の海、その海の中の光るものを求めて私た

ちは海の月(くまげ)、海の星(ほし)、真珠を抱くあこや貝、そして深い深海におけるプランクトンの死骸の堆積によってできた真白なマリンスノーの、上へ向かっての立ち昇りに出会うのである。たえない始まりである海は、空の高みへの始まりなのだ。「のぼれ のぼりゆけ」と私たちが歌う時、のぼりゆく「水のこがれ 水のいのち」が歌う人、きく人を包み込んでくれるであらうか。

この《水のいのち》を、これらの楽章の配列から、「水の一生」と考える人が多いようである。英訳すれば「The Life of Water」とある。しかし私は、この題のほんとうの訳は「The Soul of Water」と思っている。「Soul」すなわち「魂」とは「それがあれば生きているが、それを失えば死んでしまうもの」なのである。

そして、水の「魂」とは、低い方へ流れていく性質のことではなくて、反対に「水たまり」は「空を映そうとし」、「川」は「空にこがれるいのち」なのであって、それはまた、私たちの「いのち」でもあり、この組曲の主題でもあるのだ。

こう考える時私は、同じ詩人の『蠟燭』という詩の中の二行

「焰はなぜ天を指しつつ、焰はなぜ下へと燃えうつるのか」を思い出さずにはいられない。揺れる焰となって自らを燃やしなから刻一刻自らの影に近付き、やがて燃え尽きる蠟燭のその焰は、かつて横を指したことも、下を指したこともなく、遂に燃え尽きる最後の瞬間まで天を指し続けるのである。そしてそれは「水のいのち」であり、私たちの心のすがたでもあるのではないだろうか。

この作品は、一九六四年十一月十日、合唱・日本合唱協会、指揮・山田和男(一雄)により、TBSから放送初演されたが、その二日後、作曲家の清水脩さんから手紙をもらった。彼はそのころカワイ楽譜の社長でもあり、その中には「この作品は是非カワイで出版したい」という強い要請が書かれてあった。そしてまたその二、三日のうちに、同じ社の遠藤治さんが来られるという速い事の運びが続いていった。楽譜はこのようにして出版されたが、宣伝らしいことは、どこでも、誰にも全くし

てもらわないうまま数年を出でずして北海道から沖縄までひろく歌われるようになっていった。それはただ、この曲を歌いたいと望んだたくさんのコーラス・

メンバーと、ききたいと望んだたくさんの聴衆によってであった。楽譜はカワイ出版に受け継がれ、混声、女声、男声を合わせるのと、重版数は一九九六年十一月現在、通算百七十七刷となる。カワイの上野部長によれば「日本における楽譜の安易なコピーの習慣を加算すれば、実数はこの十倍」とのことであった。

日本では、事を決めるのに自分ではなく、他者に決めてもらうことが多い。音楽などは、作曲も演奏もほとんど欧米における評判によって決まっているようだ。しかしこの《水のいのち》の評価については、はっきり日本人自身が決めてくれた。これは私にとっても、日本人全体にとってもうれしいことと思

うのである。この曲を書く決心をした時は笑ひ者にされるのは覚悟していたことだった。「時代錯誤」「清潔」「堅物」などと。しかし何を忍んでもやろうと決心してとりかかっただけに、その後の成りゆきは私にとって驚きの連続であった。

ともあれ、このような内容の曲は、世界中に今も昔もない。解りやすい詩とは全くいえないし、楽しい音楽では決してない。「あの人たちは、私と同じこと

を望んでいてくれるのだ」と自分にはいいかせてはいるのだがやはり私は今も驚いたままでいる。

をご了承ください。
CDがビクターから、混声(VDR五〇七一)と女声(VDR五一九五)が、キング(KICG三〇一五)からも出されている。

高田三郎著『ひたすらないのち』(カワイ版2000年)より

ひとつひとつの言葉に

鋭い反応を

高田三郎

外国語の歌はともかく、日本語の歌では、我々ははっきりすべてを理解し、ひとつひとつのことばに鋭く反応して歌ってほしいというのが私の願いである。

また、詩人も作曲家もいづれがけて作品を作っている。演奏者だけがただ綺麗な声や音程やリズムやハーモニーの発音体になっ

ていて、たとえ結果がよかったとしても、それでパーフォ

ムが完成したといえるであらうか。

演奏者も音楽技術上の修練と平行して、その作品の成り立ちにも踏み込んでほしい。

そして本番では、心も体もその作品の存在理由と一致して、その全体像を会場に具現してほしい。

これが私の希望である。

(「ある手紙の返事」と「いま」の章より抄録)

*高田三郎先生の文章の著書からの転載については高田留奈子夫人のご快諾を頂戴しました。有り難うございました。(編集部)

*著書『随想集』くいなは飛ばずに 音楽友社1988年

『典礼聖歌を作曲して』オリエンス楽研究所1992年

『来し方ー回想の記』音楽友社1996年

『ひたすらないのち』カワイ出版2001年

イエライシャン

イエライシャン *Telosma cordata* は中国南部原産のつる植物で、アサガオのような心形の葉をつける。種小名のコルダタは、葉の基部がハート形という意味である。花は淡い緑をおびた黄色で、直径約1㍎、葉腋から出る花序にたくさん咲き、花冠は筒状で、先が大きく5裂し、裂片は平開する。8～10月ごろに咲く。

イエライシャンの属するテロスマ属には約10種があり、旧世界の熱帯に分布する。属名はギリシャ語の「遠い」「香り」に由来し、花の香りが強くて遠くまで達するという意味である。

タイでは、テロスマ・ミノル *T. minor* が、イエライシャン同様に食用花とされる。

〈近田文弘〉



いそべ男声メロディー・歌の博物誌51

『那夜鶯啼声悽愴』

ナイエン インティ ション チ ヨアン

「夜来香」黎 錦輝作曲 林 福裕編曲

澤野 勉(子)

今秋の沖縄男声との合同演奏会の曲目のひとつ「夜来香」の一節——夜鶯啼声。鶯の字があるので、日本語の訳詞ではウグイスで通ってきた。李香蘭(後の山口淑子)の歌で知られた歌では、冒頭の歌詞の二行はこうなっている(佐伯孝夫訳)。

「あわれ春風に
嘆くうぐいすよ

藤浦洸訳では「風はそよそよと／そよぐ南風」とある。二／

い)鳥の声ということ、なんとなくウグイスで通ってしまったが「梅に鶯」のあのウグイスではない別の鳥だ。

＊

ナイチンゲールは、中国では古くからその啼き声の美しさが賞賛されていた。アンデルセン童話の『ナイチンゲール』の舞台は中国。荒俣宏訳(文藝春秋)では「夜なきうぐいす」となっている。

夜なきうぐいすの皇帝にとて及び申しませぬ。」
いつでも皇帝の側で美しい調べを歌う人工のナイチンゲールは、やがて故障してしまう。皇帝が重病に倒れて、死神に取りつかれるまでになった時、いったん城から姿を消したナイチンゲールが再び窓辺に現れて、美しい声で歌う。皇帝はその声に元気づけられて、死の床から甦る——というストーリー。

節目は「鶯の夜を渡る声はるか」という訳もある。

「南風吹来軽涼」。つまり南風が軽やかに吹くというのはよいのだが、それに次ぐ言葉、「夜鶯啼声」は、じつは夜に鶯が啼くのではない。楽譜に添えられた沖縄男声の新城安哲さんの解説にもあるように、これはナイチンゲール(中国語で夜鶯)というウグイスとは異なるヒタキ科ツグミ亜科の鳥——ツグミに近い(ウグイスはヒタキ科ウグイス亜科)。美しい(あるいは悲し

物語は宮殿の皇帝と森に住むナイチンゲールとの出会いから始まる。その美しい声に心を打たれた皇帝が、いつもナイチンゲールを呼んで楽しむのだが、その皇帝のもとに、ある日、ダイヤルビーをちりばめた小鳥の模型が贈られてくる。ネジをまくと、ほんもののナイチンゲールのように美しい声で歌う。精巧な人工のナイチンゲールの、首にかかったリボンにはこう書いてある——「日本の夜なきうぐいすの天子は、中国の

アンデルセン(1805～1875)

はデンマークの作家。彼が活躍した時代、日本では江戸時代末期で、ヨーロッパの美術界ではジャポニズムの風潮がもてはやされた時代で、江戸のからくり人形などの工芸品も知られていたのだらう。21世紀のアシモ(多関節人形)に連なる日本の技術の一端が、アンデルセン童話の中に垣間見られる。いや、そんな思惑とは関係なく、「夜来香」は楽しく歌いましょう。



＊イラストは鈴木はるかさん(澤野さんのお孫さん)

総務だより

4月27日運営委員会

●沖繩男声との合同演奏会

・チラシ、プログラム案を早めに作成する。進行案、役割分担などをきめる。

↓チラシ、プログラムのアイデアを広く団員から募集する。

★締め切り5月24日

↓チケット料金、学割等を採用するかを今後検討する。

●第五砂町小学校授業コンサート

・期日／6月30日(月)

・曲目／①「チュウちゃん」

②まど・みちお+磯部倅作品集↓びわ、たなをつくりまし

よう、やきいものうた、ハンカチ、おさるのやきゅう

③遙かな友に、ふるさと

・ステージ構成案(佐藤案)

①ふるさと②「チュウちゃん」

③まど・みちお+遙かな友に

・6月8日(定例練習)に川辺先生たち来団、合わせ練習。

※時間未定。

・本番前日の6月29日(日)に臨臨練習。(須賀監督は欠席)

★本番時間割

10時30分 団員集合 音楽室

(体育館1F) 練習

12時 昼食(給食)

村岡昭一郎さん(子)お孫さん結婚

練習後、Cバーの開始から暫くして、村岡さんが立ち上がり

「乾杯をお願いしたいのです」と言って「私の孫娘がこの5月に結婚しました。孫は宝塚を卒業しました。退団のことを宝塚では卒業と言います。私も塚ガールとともに『すみれの花』を歌

いました。入学式とともに参列した亡き妻を思ってこみ上げるものがありました。私はいそべ男声のタキシードでバッチリの

祖父の姿になれました。(拍手)それから話は酒へ進み「今日は乾杯のお礼に、美丈夫」を提

12時55分 ステージリハール

13時30分～14時15分 本番

会場は体育館の平場に台を設置する。ピアノは下手。マイクを2、3本。

・来場者数は生徒は4年生から6年生まで350名、保護者と合計約400～500名。

・ナレーションは川辺先生と他先生の二人。「ツル」のソロは川辺先生、「ライオン」のソロは男子生徒?

★学校の案内図は下段参照

●東京都合唱祭

・期日／7月13日(日)16時30分～18時00分希望

・曲目／びわ、おさるのやきゅう、ハンカチ

●磯部倅先生生誕祭

・期日／7月27日(日)定例練習後18時より

・準備は5月頃にケータリング業者選定開始。

・案内送付は5月中旬。周平先生、ダーメンコール、賛助会員、休団員などへ送付する。

●2015年新春ファミリーコンサート&パーティー

・6月下旬に日程を調整して7月1日の抽選にのぞむ。6月20日からコンピュータ受付開始。

↓須賀監督1月の日程を確認。

●忘年会会場選定

・日程／12月28日(日)練習後

・会場／アルテリベ(港区新橋2丁目。都営三田線内幸町駅より2分、JR新橋駅より4分)に予約。

●総会日程

・8月24日(日)に実施する。

●じゃむか関西(第22回日本男声合唱協会演奏会)には不参加

期日／2015年1月25日

会場／伊丹市立文化会館

・右の案内に対して当団は不参加を決定。

練習目録記録

4月27日

・発声／(三上)

・曲目／ゴキブリの歌、思い出のリュウデスハイム(安部)、シエリト・リンド、カリンカ、夜来

香(三上)、水のいのち(全曲)(大西) 団井出

・出席／1、5、2、8、1、6、2、11

5月11日

・発声／(横田)

・曲目／ゴキブリの唄、思い出のリュウデスハイム、シエリト

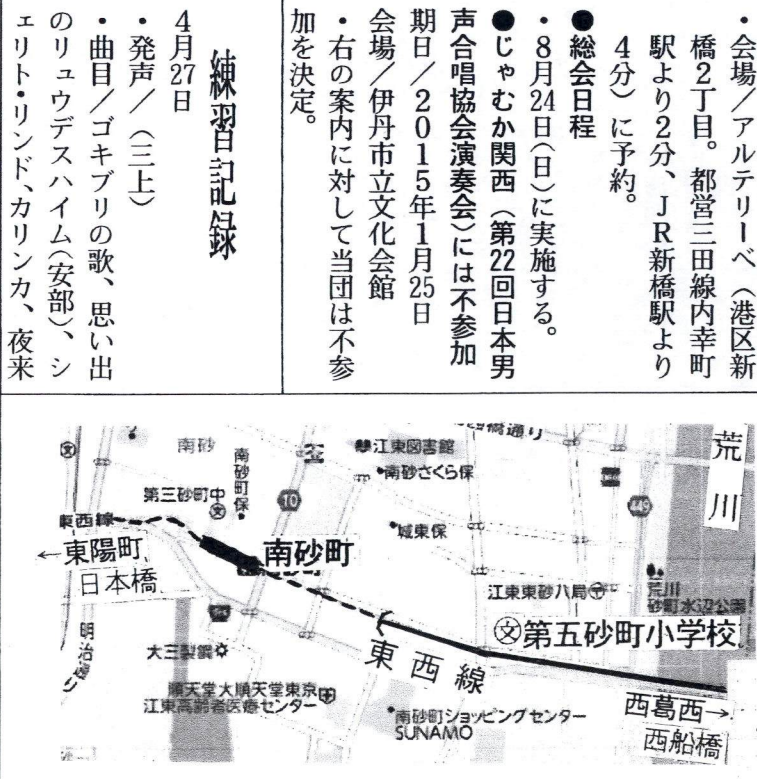
・リンド、夜来香、カリンカ(三上)「チュウちゃん」全曲(豊み)

びわ、おさるのやきゅう、岬のうた(豊み)(安部) 団井出

・出席／1、8、2、1、9、1、5、2、1、9

第五砂町小学校案内図

メトロ東西線南砂町から西葛西方向に徒歩約10分



→お孫さんの結婚を語る村岡さん(「ぼーちり」は左隣の地酒)

SCHEDULE

豊洲：江東区豊洲文化センター
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

顔：須賀監督指導・指揮 横：横田先生発声指導

○運営委員会は原則として第4日曜日11:00練習場にて開催

2014(平成26)年

5月25日(日)	定例練習	13:00~17:00	古石場	2 T
6月 8日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	1 B
○川辺成美先生ほか来団、「チュウちゃん…」合わせ練習				
22日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	2 B
29日(日)	臨時練習	13:00~17:00	豊洲	1 T
30日(月)	<u>第五砂町小学校授業コンサート</u> 顔 曲目／①ふるさと			
②「チュウちゃん…」全曲				
③びわ、たなをつくりましょう、やきいものうた、ハンカチ、おさるのやきゅう				
④遥かな友に				
服装／				
10:30 音楽室集合(体育館1 F) 練習(第五砂町小学校案内図は5 頁下段参照)				
12:00 昼食(給食)				
12:55 ステージ・リハーサル30分				
☞ 13:30~14:15 本番				
7月12日(土)	臨時練習	13:00~17:00	豊洲	
13日(日)	定例練習	13:00~	豊洲	
☞	<u>東京都合唱祭</u> 顔 会場／新宿文化センター			
Hグループ 16:30~18:30 ☞ 曲目／びわ、おさるのやきゅう、ハンカチ				
27日(日)	定例練習	13:00~	豊洲	
<u>磯部先生生誕祭</u> 18:00~				
8月 9日(土)	強化練習	13:00~17:00	豊洲	
10日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	
24日(日)	総会	13:00~	豊洲	
定例練習 15:00~17:00				
9月 6日~7日	○須賀監督沖縄出張合同演奏曲練習			
13日(土)	強化練習			
14日(日)	定例練習			
○宮城敏先生来団合同演奏曲練習				
☞ 28日(日)	<u>道志川合唱祭</u> 10:30~			曲目／
10月11日(土)	強化練習			
12日(日)	定例練習			
26日(日)	<u>江東区民合唱祭</u> 顔			曲目／
11月 9日(日)	定例練習			
15日(土)	臨時練習			
☞ 16日(日)	<u>沖縄男声・いそべ男声合同演奏会</u> 顔 会場／ティアラこうとう大ホール			
曲目／当団単独「岬のうた」全曲				
合同「水のいのち」全曲、カリンカ、シェリト・リンド、夜来香、思い出のリュウデスハイム、ゴキブリの歌				

短編集後記

▲5月11日のCバーは村岡さんのお孫さんの結婚を祝しての乾杯のあと、ややあって突然戸丸さんが「宮田さんが80歳になりました」と爆弾発言。宮田さんは仰天して白頭を下げて逃げようとしたが、それは皆が許さない。携帯を奥様にかけて「いざ起て戦人よ」をハモリ乾杯▲当団では男声合唱曲の定番中の定番のこの曲をこんな風にも使うのです▲このあと、80歳以上の人、手を上げてと言われて、出席者23~4名中、上げた仲間約半数。いまやこの国の4人に一人が高齢者といわれている現状をはるかに超えている合唱団▲真剣に合唱に取り組む姿勢と盃を交わし互いに刺激し合うこと、これが我々が高齢に抗して合唱を継続できている要因でしょうか▲誕生月の該当者には、いつの間にか「飲み物の奉納」が半ば不文律となっているようですが、これからもうできない無理なく、押し付けられない雰囲気乾杯が続けられますように。(河合)

いそべとし記念男声合唱団ニュース

2014年 6月

第390号

発行代表者:戸丸悟(総務)〒135-0053 東京都江東区辰巳 1-8-45-302 ☎03-3521-6898 FAX 同
E-mail isobechorus@hotmail.com URL <http://www.geocities.jp/isodanchorus/>
編集:河合隆一(広報)〒272-0031 千葉県市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同

いそべ男声の「ふるさと」ピアノ伴奏付

室生犀星 詩 磯部 俣 曲

YouTube に Up して半年で、アクセス回数

1000回を突破！

5月に1000回突破、6月中旬には
1150回に到達している

この5月、YouTubeでいそべ男声の『ふるさと』のアクセス数が1000回を突破した。2011年に「ふるさと」「遙かな友に」の還暦を記念して、もう3年。この2曲のいのちはまだまだ続くのだという実感に満たされる。「ふるさと」は1951年にコンクールの課題曲として作曲されたが、それはならず（課題曲は「山の朝」中村仁策曲。この曲の方がやさしかった）、早大グリークラブの自由曲として演奏した。結果は2位。今もこの無念の思いを抱きつつ歌うメンバーもまだまだだ。室生犀星の故郷金沢への苦い想いと、いとしさがにみえなくなった詩。甘さと厳しさといっぱいの磯部俣先生の曲。新鮮な響きと刺激で支えてくださる加藤崇子先生のピアノパート。60年を超えて歌えることへの感謝をこめて歌い続けたい。そんな時、YouTubeで伴奏付きの「ふるさと」を捜し当て、5月の演奏会で歌ってくれた団体があった。室蘭工業大学グリークラブのOBの方々だ。

○伴奏付「ふるさと」探しから
へみんなもう若くないのにそんなに簡単に合わせられるのかな……そこでふと思いついたのは「ふるさと」のピアノ伴奏バージョンがあればいいかもしれない。

ダメもとでYouTubeで検索。

「ふるさと」「男声合唱」……
はずれ。
「ふるさと」「室生犀星」……
はずれ。
「ふるさと」「磯部俣」……
Bingo!!!!

失礼ながら初めていそべとし記念男声合唱団の存在を知りました。早速戸丸さんに楽譜頒布

のお願いをしました

以上が室工大グリーOBの江川裕之さんのメッセージです。

このあと長田さんから楽譜の送付があつて、5月31日に演奏会開催、めでたく「ふるさと」が歌われました。

○OB会の立ち上げ

室工大グリーの活動が下火になってから、2011年にOB会を立ち上げ、年に一度東京に集まって飲み&歌う会を開き、そのなかから室蘭で歌いたいとの掛け声がおきて活動開始。現役の学生や先生が参加している合唱団に賛助出演してもらうことで態勢を整えたと江川さんは書きます。

福井弘美さん死去

大阪メールクワイアー、豊中混声などの団内指揮者で活躍されていた福井弘美さんが死去されました。

- ・5月24日(土) 10:30 献花
- ・11:20 出棺
- ・尼崎市武庫之荘「コミュニティホール武庫之荘」
- ・喪主「福井迪子様(ご母堂)」

福井さんは合唱指揮活動の幅の広さに加えて作曲家、詩人との交流もあって合唱関係者からの信頼が厚く、当団とは大阪メールクワイアー合同演奏会での共演、昨年40周年記念演奏会にはご来聴いただいたなど、これからの交流が期待されているところでした。ご冥福をお祈りします。

江東区民合唱祭

有志による「歌おうかい」案内

10月26日に開催予定の江東区民合唱祭で、1部〜3部の各部の最後に各団からの有志による合唱を演奏してもらうという企画です。

- ・曲目／里の秋、遙かな友、心に太陽を、赤とんぼ他(混声)
- ・指揮／斎藤恵子
- ・ピアノ／北原淳子
- ・参加費用／楽譜代100円
- ・練習日程
- ①昼間の練習

- 7月9日(水)
- 8月6日(水)、27日(水)
- 9月3日(水)、17日(水)
- 10月15日(水)

時間／各13時〜14時
会場／江東区文化センター
会議室

②夜間の練習(仕事などで昼間練習に参加できない方のために)

- 7月16日(水)
- 8月20日(水)
- 9月10日(水)
- 10月1日(水)

時間／各18時30分〜21時
会場／江東区立第一大島小学校多目的室
申込／6月30日締切り

★申込、詳細については宮田まで

「ほぼ当日ぶっつけて本番合わせることを考慮すると、歌えるのは学歌+愛唱歌+αに自ずと限定。当初案では「ふるさと」を敢えて外していました。第1回のOB会で歌ったときにも、音程がばらついて歌い切るのに大変苦労した思い出があったからです。(中略)そこへ上の上の先輩から「ふるさとを歌いたい」との強いリクエストが舞い込んできました。(中略)そこでふと思いついた「ふるさと」のピアノ伴奏バージョンがあればいいけるかもしれない」との江川さんの判断がみごと成功。YouTube検索の結果が得られたというわけでした。

活動として開いている蘭岳コンサートは第27回。関西、関東から参加者が合同OB会31名、室工大合唱団、シルバーH.G、プリーモなどにより、いざ起て、ジェリコ、遙かな友などの男声定番が歌われ、最後にOB会と工大合唱団とで希望の島、ふるさと、巴里の若者の歌を演奏したということです。

に投稿したと実証したのだ。この研究を読んで疑問は氷解した。犀星をして、たとい「乞食(かた)」となるとも帰るところにあるまじや」とまで言われた故郷金沢。剣道師範の女中の子として生まれ、一週間で或る女のもとに渡され、私生児として届けられ、後、女と内縁関係にあった住職の養子となった。高等小学校は中退して裁判所の給仕になる。俳句が北国新聞に載り文芸への志を深め、犀星の筆名を構えたのが十八歳。地方新聞に入社するがすぐ退社。二十二歳の時に上京、以後上京、帰郷、放浪を繰り返して大正二年二十五歳の帰郷の時に作ったのが「ふるさと」を含む「小景異情」だった。すぐ白秋主催の詩誌『朱楽(シュラク)』に掲載されたという。

「遠きみやこにかえらばや」

「ふるさととは遠きにありて思ふもの／そして悲しく歌ふもの」この二行は知らない人はないだろう。更に、「ひとり都のゆふぐれに／ふるさとおもひ涙ぐむ」ときたら、詩人は都会に在って、ふるさとーこの室生犀星の場合は金沢ーを想いながらこの詩を書いた、と思うのが順当なのだろう。私も最初はそのように思っていた。しかし最後の「そのころもて／遠きみやこにかえらばや」とは何か。詩人はどこにいたのか、解せないまま過ごしていた。

犀星の盟友萩原朝太郎もこれは犀星が、放浪の果て東京に在って、苦い思い出の鬱積する故郷金沢への思いを吐露した作だと言っていた。他の多くの評論家も同調していた。

しかし別の評論家が調べた結果、この詩を書いたとき、犀星は金沢にいた、金沢にいて詩誌

らAさん、Fさん2度の転調を経て犀星の決意を力強く表現して下さっているのだ。(RK)

総務だより

5月25日運営委員会

●沖繩男声との合同演奏会

・チラシ、プログラム案を早め
に作成(団員からの案を募集、
締切5月24日)、進行案、役割分
担、打ち上げなども立案する。
※アンコール曲は、須賀監督の
意向を受けて安部さん相談。
※入場料の学割料金を採用する
か否かを夏までに決定する。

*

チラシ、プログラム安部案

1、タイトルは「第10回記念
合同演奏会」

2、掲載写真は①第1回ス
テージ写真②初期の合同練
習写真(磯部先生が写って
いればベスト)③打ち上げ、
旅行の写真等

3、合同演奏会のきっかけ、
合同演奏で重視したこと。
(毎回のプロに掲載されて
いるが、別枠でポイントを
明示する)

●第五砂町小授業コンサート

・6月30日(月)

・45分でおさまるように曲目調
整が必要か。↓まどさんの曲数
で調整する。(6月8日に決定)
・曲目/「チュウちゃん」全
曲(30分)まど+磯部作品、
ふるさと、遙かな友に
・ステージ構成検討(佐藤案)

①ふるさと②チュウちゃん③
まど+磯部④遙かな友に

・登場はレイルロードを歌いな
から出るか(河合案)

・6月8日に川辺先生たちと合
わせ練習。

・6月29日(日)臨時練習。

・本番スケジュール

(スケジュール頁参照)

聴衆/4年生から6年生まで

350名、保護者を加えて

合計400/500名

●東京都合唱祭

・期日/7月13日(日)

・会場/新宿文化センター

・曲目/びわ、おさるのやきゅ
う、ハンカチ

・15時15分 宮田さん会場へ

15時20分頃 更衣(会場での
リハーサルは辞退)

17時24分頃 本番

※当日の豊洲での定例練習を
少しでも長くしたいので、
16時00分到着が可能かどう
か宮田さんに交渉依頼。

●合唱団「柴刈」演奏会にお祝い

・7月20日(日)

・田主丸そよ風ホール

・客演指揮/須賀敬一

・曲目/犀川、富士山、ふるさと、
心の四季よりなど

第10回記念

合唱団「柴刈」演奏会

※プログラム

- 1 愛 唱 歌 わたりどり、おかあさんのぼか、他
- 2 磯 部 混声合唱とピアノのための抒情曲集「犀川」
- 3 ゲ ス ト 柴刈小学校、福岡合唱協会
- 4 合同演奏 男声合唱 混声合唱組曲「富士山」「ふるさと」
混声合唱 混声合唱組曲「心の四季」から

賛助出演 コールたのしまる

客演指揮/須賀敬一

2014年 7月20日(日)

- ・開 場 13:30
- ・開 演 14:00
- ・会 場 そよ風ホール(田主丸)

主 催 合唱団「柴刈」
後 援 久留米市・久留米市教育委員会・西日本新聞社
問合せ 合唱団「柴刈」 事務局 下田 洋 TEL.0943-73-1971
入場料 700円

合唱団「柴刈」演奏会 第10回記念

・7月20日(日)14時開演

そよ風ホール(田主丸)

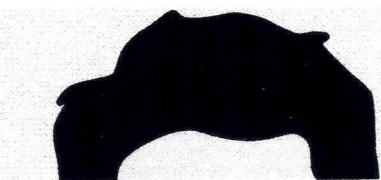
・抒情曲集「犀川」磯部敬

男声組曲「富士山」「ふるさと」

混声組曲「心の四季」より

・客演指揮/須賀敬一

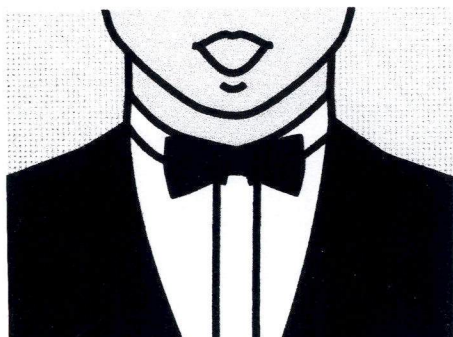
・700円



合唱団お江戸コリアーズ

2014年8月3日(日) 13:00開場 14:00開演 文京シビックホール 大ホール

第13回演奏会



合唱団お江戸コリアーズ第13回演奏会

・8月3日(日)14時開演

・文京シビックホール大ホール

・時代/ニューミュージックと

呼ばれた歌たち 信長貴富編

・組曲「静かな夜の夜に」松下耕曲
・2500円、2000円(全指定)

来客

6月8日

・川辺成美先生(第五砂町小)

・若松理沙実先生(同)

第五砂町小授業コンのナレ

ーション合わせのために来

団

・金子剛史さん(お江戸コリアーズ)

・浜沖肯志郎さん(同)

第13回演奏会開催のキャン

ペーンのためCバー参加

練習日記記録

5月25日

・発声/(三上)

・曲目/シェリト・リンド、カリ

ンカ、夜来香、ゴキブリの唄、

思い出のリュウデスハイム、

(三上)、「チュウちゃん」

全曲、「岬のうた」全曲(安部)

・出席/1、4、7、16、26、9

6月8日

・発声/(三上)

・曲目/「岬のうた」あの日のこ

だま(須賀)、「チュウちゃん」

全曲(須賀) (ナレーション

川辺、若松)「水のいのち」海

(大西) 田井出

・出席/1、7、21、6、16、26、11

SCHEDULE

豊洲：江東区豊洲文化センター
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

顔：須賀監督指導・指揮 横：横田先生発声指導

○運営委員会は原則として第4日曜日11:00練習場にて開催

2014(平成26)年

6月29日(日)	臨時練習	13:00~17:00	豊洲	1 T
30日(月)	第五砂町小学校授業コンサート 顔	☞ 曲目／①ふるさと ②「チュウちゃん…」全曲 ナレーション／川辺成美先生、若松理沙実先生 ③びわ、おさるのやきゅう ④遙かな友に ☞ 服装／ボロシャツ、チノパン		
		10:30 音楽室集合(体育館1F)練習 12:00 昼食(給食) 12:40 ステージ・リハーサル30分 ☞ 13:30~14:15 本番		2 T
7月12日(土)	臨時練習	13:00~17:00	豊洲	
13日(日)	定例練習 顔	13:00~	豊洲(練習を切り上げて合唱祭会場へ。会場リハーサルなし)	
	東京都合唱祭 顔		会場／新宿文化センター	
	Hグループ	16:30~18:30	☞ 曲目／びわ、おさるのやきゅう、ハンカチ	
27日(日)	定例練習 顔	13:00~	豊洲	
	磯部先生生誕祭	18:00~		
☞ 8月 9日(土)	強化練習	13:00~17:00	豊洲	
10日(日)	定例練習 顔	13:00~17:00	豊洲	1 B
☞ 24日(日)	総会	13:00~	豊洲	
	定例練習	15:00~17:00		
9月 6日~7日	○須賀監督沖縄出張 合同演奏曲練習			
☞ 13日(土)	強化練習	13:00~17:00	豊洲	
14日(日)	定例練習 顔	13:00~17:00	豊洲	
	○宮城敏先生来団 合同演奏曲練習			
28日(日)	道志川合唱祭	10:30~	☞ 曲目／	
☞ 10月11日(土)	強化練習			
12日(日)	定例練習 顔			
26日(日)	江東区民合唱祭 顔		会場／江東区文化センター ☞ 曲目／	
11月 9日(日)	定例練習 顔			
15日(土)	臨時練習 顔 (江東区文化センター展示室)			
16日(日)	沖縄男声・いそべ男声合同演奏会 顔		会場／ティアラこうとう大ホール ☞ 曲目／当団単独「岬のうた」全曲 合同「水のいのち」全曲、カリнка、シェリト ・リンド、夜来香、思い出のリュウデスハイム、ゴキブリの歌	
12月28日(日)	定例練習 忘年会		会場／アルテリーベ	

短編集後記

▲小学校、中学校、高校、大学。そのなかの同好会も含めると「寄り合い」は十指に近くなります。さらに元勤務先、仕事仲間、地域の稲門会、町会、工芸仲間の会まで加えるとなきに十指に余ります。後期高齢者となってしまう結果ですが、有り難いと思うべきか、煩わしいと思うべきか、自慢というべきか、分かりますが▲小学校……小生が卒業したのは昭和20年「国民学校」でした……この仲間が、かたやクラス会、かたや同窓有志の会を毎年もっています。20人足らずの会ですが、在学時は男女別クラスだったのが、そこは目端の利く男はいるもので、半分近くは女性が常連となっていて▲傘寿過ぎの男と女が往時の思いを語り合い元気を交歓する。これを「傘活」とも言いますか▲さすれば我々いそべ男声は「唱活」と「盃活」でしようか。

(河合)

いそべとし記念男声合唱団ニュース

2014年 7月 第391号

発行代表者:戸丸悟(総務)〒135-0053 東京都江東区辰巳 1-8-45-302 ☎03-3521-6898 FAX 同
E-mail isobechorus@hotmail.com URL <http://www.geocities.jp/isodanchorus/>
編集:河合隆一(広報)〒272-0031 千葉県市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同



→若松先生のチュウちゃん、川辺先生がお姉さん役でナレーションが続く

第五砂町小学校授業コンサート

梅雨の晴れ間がのぞく6月30日(月)、江東区南砂7丁目の第五砂町小学校体育館で、4年、5年、6年の児童350名、それに先生方と保護者約30名の方々に、音楽授業として我々の合唱を聞いていただいた。これは同校音楽専任の川辺成美先生のご紹介によるもので、今回のメインは川辺先生と若松理沙実先生のナレーションが入った「チュウちゃん」が動物園へ行ったお話」全曲演奏だった。指揮は須賀敬一監督、ピアノは井出久美子先生。

○音楽室集合

10時30分音楽室に集合。まず会場となる体育館に行き、山台やピアノの位置設定を協力して行ったあと、音楽室にもどって横田清文先生の発声練習だ。前日臨時練習での、腰掛けて後部腰部に息を入れる訓練が、効果大であるとの感触をつかんでいた仲間たちは、つらいながらも真剣に取り組んでいた。

発声に留意しながらの曲目練習を続けているところへ須賀監督来校。曲目練習を継続。最後の「遙かな友に」になって監督から井出先生に「2番3番は自由によって」と檄が飛ぶ。井出先生の「楽譜には書いてないはる友ピアノパート」が聞けることだろう。

○給食

12時になって会議室へ案内されそこで給食を頂く。本日のメ

ニューはカレライスに牛乳、サラダ、それに大きな西瓜がついて、これで腹ごしらえ十分の様子だ。

○子供たちと挨拶を交わして
食休み後、ステージーハーサルをしているうちに、自分の椅子をかかえた子供たちが列をなして入場してきた。リハは打ち切って会場入り口で、子供たちを迎える。みんな「こんにちは」とはっきりした声で挨拶してくれる。よし、この子たちに聞いてもらうのだと期待感がふくらんできた。

着席した子供たちに校長先生が、合唱団の紹介と磯部徹先生の紹介をしてくださって、いよいよ出番。350人の生徒たちの私語は全く聞かれない。

井出先生のピアノ前奏が響き「ふるさと」のハーモニーが流れ出す。犀星の詩は子供たちに

第五砂町小学校の生徒たちの感想

板垣唯来(4年)

チュウちゃんが動物園に行く話の歌がおもしろかったです。とくに「さる」の歌です。いろいろな歌を聞かせてくれてありがとうございました。

猪俣久美(4年)

私は歌が大好きです。男の人の合唱を楽しみにして、でもきくと歌がうまくてはくりよくもあるかなと思いました。最初に「ふるさと」という歌を歌って私は男の人たちなのに感じがよがこもっているなと思いました。力強いのが分かりました。私もしょうらいの夢が歌手なのであの人たちみたいにうまくなりたいです！

大竹たくみ(4年)

だんせいがかっしょうだんなんてめったにないので すばしかったです。

尾崎陽介(4年)

「チュウちゃん…」がとてもきれいです。いいなと思いました。ひびきがとてもよかったです。口のひらきがすごかったです。

かすがいいいな(4年)

はくりよくがあつて、きれいな声でした。「チュウちゃん」のうたがいちばんおもしろかったです。

加藤和奏(4年)

いろいろな動物の場面に合わせて曲調がどれもちがったのですごく楽しかったです！ 一番いいと思った曲は『つる』です。ほかの曲よりも音がひくく、ハーモニがすごく、つるというゆうがな感じが表現されていました。『ライオンの子』のところや他の動物に合わせた表現がすごく伝わりました。強そうな感じ、かわいい感じなどのハーモニがきれいだったです。

熊山楓恋(4年)

「ピョンピョン」という歌詞が出てくる歌が心にのこっていました。「おやすみ安らかに」のはるかな友にも心にのこっています。男せいがかっしょうだんでもきれいな声で合しようできるのはすごいと思いました。

斎藤大志(4年)

きれいな歌声でした。男性ならではの低い声ですてきにはも

ったりしていましたね。ぼくは少し音ちなのであなたたちのようにきれいな声で歌えるようがんばります。もしかしたら男性合唱団、入団するかもしれません。

白山夏輝(4年)

「チュウちゃん」がおもしろかったです。歌声がきれいでおどろきました。声がひくいのいいんだなと思いました。

島津侑希(4年)

男の人だけのうたを聞いてとても感動しました。聞くまえばどんな声なのか疑問に思うことがありました。でも女性にも負けないきれいな歌声で心にのこりました。音楽の先生が後で、いそべ男声の皆さんは趣味で歌をうたうことをやっていると言っていたので、素晴らしいと思いました。

鈴木陽菜(4年)

「子ジカ」と「赤ちゃんライオン」が心にのこりました。小6の5人がやっておどろきました。男の人がきれいに歌えることも分かり、いろんな曲をきかせてくれました。

←讀下段から

は簡単には理解できないだろうが、男声の厚みのあるハーモニを感じてもらえればと、皆、力一杯歌った。

○「チュウちゃん…」は先生のナレーションで

長田代表がろぼの会の紹介をして、今日のメインプログラム「チュウちゃん…」の開始。

若松先生が子ネズミのチュウちゃん、川辺先生がそのお姉さん役だ。お二人のナレーションもあつて、我々も子供たちにして感じて取ってほしいという

気持ちが高まり、練習以上に表情豊かに歌っていた。

川辺先生はカバの口真似にドスをきかせたと思つたら、ツルのソロは美しいソプラノ。この落差の大きさに子供たちはさぞやびつくりしたことだろう。そして「赤ちゃんライオン」の曲は子供たち5人の斉唱。本番はちよつと音量が落ちたけれど一生懸命に歌ってくれた。曲の変わり目に動物名表示の紙をめくる役もこなして楽しそうだった。

大きな拍手のあとに「びわ」「おさるのやきゅう」、そして最後に「遙かな友に」を井出先生のピアノとともに歌って全曲終了。須賀監督に花束が贈られ体育館に可愛い拍手が続いた。

我々が退場する時、子供たちのすぐそばを通ると、それまで

第五砂町小コン出演団員

士／大西、河合、渋谷、長田、若月 横田

子／井上、河原、佐藤、三上、宮田 川

言／秋永、板垣、岩崎、大澤、坂巻 澤登、角、長島、渡邊

は静かにキチンと聞いてくれた子供たちの多くが、ハイタッチしてきた。小さな手とのハイタッチなど普通のコンサートでは考えられないことだろう。ちようど10年前、南砂小学校で川辺先生の紹介で授業コンサートを持ち、以後何回か中学校や幼稚園で歌ってきたが、子供向けのレパートリーを持ち、それをじかに子供たちに聞いてもらえることは、我々の誇つてい

い財産だと改めて確認できた。川辺先生ありがとうございました。

打ち上げはトピレックプラザの饗の屋で。川辺先生も途中参加され、夕焼けこやけのソロをお願いし、腱鞘炎でリハビリ中の永井博子先生も来聴参加され「いそべの皆さんの声は30台から40台、須賀先生の厳しい指導によく耐えたハーモニに感動しました」とのお言葉を頂戴しました。(河合)

出口真理子(4年)

変なみんな考えつかないような歌もあって笑ってしまいました。元氣な歌が大好きです。私も音楽の時間が一番好きです。今日聞いて学んだことを音楽の時間に生かしていきたいと思っています。これからもがんばってください。

長谷川陽大(4年)

女の人の高い声とはまたちがうきれいな歌声がきけてよかったです。

早川英里(4年)

歌声をきいてびっくりしました。なぜならばがっしりうだんの歌声がわたしの思っていた以上に美しかったからです。なのでまたききたいと思いました。がっしりうだんのように美しい歌声をだせるように音楽をがんばりたいと思います。

林あずさ(4年)

すばらしくて、声もすばらしいでした。おもしろいと思ったのは若松先生と川辺先生がしゅつえんした曲です。

平山力斗(4年)

男性の音楽団はあまり聞き慣れてありませんが、女性たちにも負けない歌声でした。

松田大聖(4年)

すごいひくい音ていがすごかったです。カバ、サル、ペンギンその他いっぱい歌ってくれてうれしかったです。キリンの歌がおもしろかったです。

八木橋勇仁(4年)

80才の人が半分以上と聞いてびっくりしました。それなのにものすごく声がきれいです。ぼくは歌よりもリコーダーが好きだけれど、きれいな歌声を聞いて歌が好きになりました。またきれいな歌声を聞かせてください。

安永純伶(4年)

私はとくに「ふるさと」と「くじゃく」の歌が好きです。女せいが歌うと高い声でなめらかに歌っているイメージですが、男せいが歌うと高い声もあり、低い声で歌うときでも声が出てくるイメージです。その男せいのイメージを男せいがつしようだんはみごとにたっせいできていて、しかも音のかさなりがすごいーくうまいですね。「ふるさと」がすごく私は好きです。「くじゃく」はすごくくじゃくのイメージがきました。

山下夏香(4年)

男の人でもきれいな声は出せる

るとは知っていましたが、その何倍もきれいな声でした。「チウちゃん」の中で1番気に入った曲は「さる」の曲です。理由ははずみがあつてとてもおもしろい曲だったからです。そのほかの曲もおもしろいすてきな曲でした。

吉川麻央(4年)

男の人の歌をあまり聞かないので、どんな声を出すのかきになりました。そしたらすごくきれいな声ですごかったです。おなかからすぐ大きな声を出していてわたしはおどろきました。声をひくく出すとこと、たかく出すところがあつて、そこがはつきりしていて、男の人はこんなにきれいに出来るとははじめて知りました。

安達きさら(5年)

男性の合唱団を聞いたのが初めてで、とてもきょうな体験に思えました。やさしくゆっくりとひびいていておどろきました。今も心に残っていて思い出すたびにきれいだっとなーと思います。これからたくさんの人に感動を与えてください。

井上直人(5年)

みなさんの歌のひびきがすごいと思います。ぼくもみなさん

んのようなすばらしい歌声を歌えるように努力してがんばっていききたいと思います。また五砂小に来てください。

大棟波哉斗(5年)

歌声を聞いてすごくびっくりしました。男の人がこんなにきれいに歌っているのを始めて聞いたしすごいいろんな音が重なっていて自分もこんなふうに歌ってみたいなーと思いました。

岡田花南(5年)

私はいそべとし合唱団の曲を聞くのは二回目でした。でも何回聞いてもすごくきれいな歌声で感動しました。男性だけのソプラノはなく高い声がなくとも、低い声、もっと低い声に分かれていて、音が重なっていて、きれいな歌声でした。「おさるの野球」がこころに残りました。歌詩がわくわくするような楽しい曲だったからです。この曲を聞くのも二回目でした。やっぱりこの曲はいいなーと思いました。

小蘭珠梨(5年)

私が一番印象に残った曲は最初の「ふるさと」です。二十五人で歌っているのに歌声は体育館じゅうひびいて、とてもきれいでした。最初、合唱団の方々

が登場した時、男性だけだと知り、ひくい声はあまりひびかないのじゃないかと思いましたが、その逆で真似したくても真似できない程でした。あと笑顔だったり、大きな口をあけていたりしたからひびいていたのだと思います。次、又、合唱団の歌を聞けるのなら目をつむって真剣に聞き、聞けなくても心の中に歌声をしまっておきたいです。

沢田優菜(5年)

男性コーラスを聞いてアルトのひびきがとても美しく聞こえました。体育館中にひびきわたるコーラスはすごかったです。何曲も歌ってつかれていたと思いますが力強いように感じました。ピアノの人や、しきの人も一生けん命さが伝わってきました。こうしてコーラスが聞けたのは光栄で、音楽の授業もコーラスのように美しい声で歌えればいいと思います。このようなきかいを忘れません。

高橋健斗(5年)

男の人だけなのに低い声だけであんなに素晴らしい歌を歌っていて、最初はびっくりして感動しました。ぼくも音楽で良い歌声を出せたらいいなと思います。また聞きたいです。

高原晃樹(5年)

「ぴよんぴよん」と歌っているところが、子ジカが生まれてからいつしょうけんめい立とうとして立った時、うれしくてぴよんぴよんはねているんだと思いました。合唱で動物がどういいう動きをしているか、ひょうげんできるなんてすごいと思いました。大人になっていくにつれ声がひくくなっていくのに、ぼくよりも大きな声で合唱ができるからすごいです。

竹谷宇広(5年)

おさるの野球は木のぼうでリングをうったりするのかと思っていたら、投げるたびにリングを食べるので、おさるは野球はできないので、おどろきました。さるにはのうがあるときいたのに、おどろきました。

田中杏実(5年)

ソプラノの声とはちがい、アルトの低い歌声はいつも聞いているような声とはちがいました。また、チュウちゃんの話を読みその気持ちや風景を表す、そのような歌い方のものを聞くのも初めてでした。歌が好きだ、という思いも伝わりました。聞いたあと、なんだか晴れ晴れとした気持ちになりました。歌を歌って人を感動させることはとても

すごいと思いました。

永井万羽衣(5年)

ふだんは女の人の声しか聞かないけど、「男の人が来る」と聞いたときはおどろきました。とてもきれいな声で、「男の人の声は、こんなに美しい」ことがわかりました。だからこんどは男女の声になるととてもきれいに重なると思いました。私はこれからいろいろな声の重なり方を聞きたいと思いました。またきてくれるといいです。

中村成菜(5年)

「チュウちゃん」の曲が一番心にのこりました。チュウちゃんが移動している時の音楽と、みなさんの歌がゆかいでとても楽しかったからです。

畑澤アイ子(5年)

指揮者入れて26人です。歌うのが25人だけなのに、もっと歌う人がいるんじゃないかとおもいました。あと、としよりなのに大きな声を出してて、とてもすごかったです。とてもきれいな歌だったので、また聞きたいです☆

平山ゆうや(5年)

ぼくは、このどうぶつ物語という曲がいいなと思いました。

なぜかという、いろいろなどうぶつとねずみのチュウちゃんがあつてともだちになったりするお話で、とちゅうとちゅうで歌が入ってとてもおもしろいはなしでした。またきいてみたいと思いました。

松川静流(5年)

私は「おさるの野球」が心に残りました。最初はおさるが楽しく野球をするだけなのかなと思ったら、リングを食べてしまふなんて、とてもおもしろい曲でした。「キリン」や「ペンギン」など印象深いものがたくさんありました。初めて男性合唱団の声を聞きました。男性が合唱する声と女性が合唱する声はそれぞれがうよきがあると思います。今度は女性と男性の声を合わせて聞きたいです。最初に聞いた「ふるさと」は知っている曲でした。これから音楽に関心をもち、いろいろな音楽とふれあいたいと思います。

水野瑚春(5年)

私は今まで学校で歌を歌う時アルトとソプラノに分かれて歌っているだけで、アルトの中にはいろいろな音があることは知りませんでした。しょうじき男性合唱団さんがきた時は、「アルトだけの低い声だけでしょ」

と思っていたのですが、聞いてみたら「アルトだけでもこんなにいろいろな声があるのだな」と思いました。音楽の授業ではソプラノの方が重うだと思っていたので、これからはアルトの方もきちんと歌おうと思いました。

和田直也(5年)

おさるの野球は楽しい歌で気に入りました。ストライクなどがおもしろかったです。チュウちゃんとお姉ちゃんが動物園に行きいろいろな動物を見ながら歌をうたうところがステキでした。男の人の声でこんなキレイな声がでるんだと思いました。声が重なるところがよかったです。

石澤琴羽(6年)

男の人のがっしょうは、はじめて聞きました。「チュウちゃん」を聞いてすごいなと思いました。それは声です。男の人の声ってあんなにきれいなんだと思います。80代以上の人もいて、よくきれいな声がでるなとおさると、最後のまど・みちつた歌を2曲聞かせてくれました。やっぱりすごいなと思いました。

板垣壮太(6年)

「チュウちゃん」の大冒険で、ゾウ、ヤマアラシ、ツルなどの歌を聞くと、その動物のイメージがわいてきました。また、男の人の低い声でも高い声にはない美しい歌声で感動しました。おさるの野球という歌は、おさるが可愛く野球をしているところが伝わりました。

井上 麗(6年)

私は男声楽唱団と言うのは初めてで、ものすごく楽しかったです。キレイな歌声で、私が聞いた事のない歌声や歌を、聞いてびっくりから、すごい、素晴らしいなと思いました。私にいきかいでした。心に残りました。がんばってください。

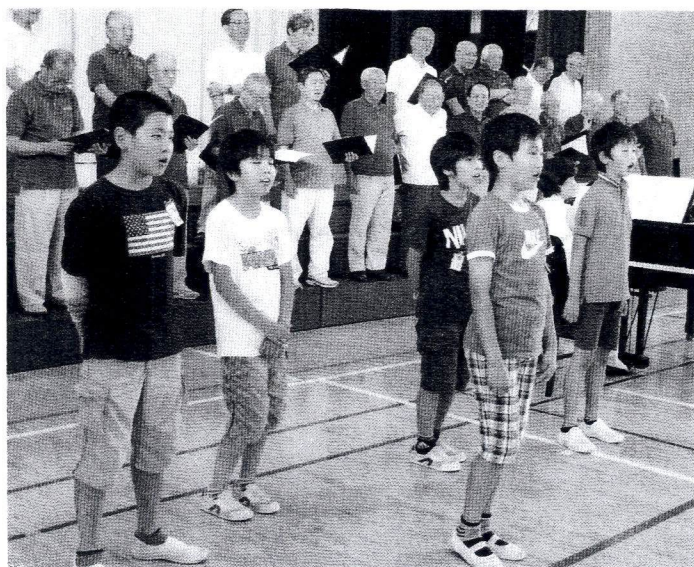
上原万実(6年)

男の人だけのコーラスは、はじめて聞きました。低くてきれいな声でいて、すごいなと思いました。チュウちゃんの歌は、動物たちによっていろいろなので、すごいです。難しそうなのにふつうに歌っていておどろきました。またききたいなと思いました。

杉山紘海(6年)

僕は「音楽合唱団」の皆さんに来てもらって、「男でもこん

→6年生で「赤ちゃんライオン」を歌う



→「ツル」のソロは川辺先生



なきれいな声が出せるんだ」と思いました。音楽の先生が女の先生ということもあり、「女が歌はうまい」と思いこんでいました。ですが、「音楽合唱団」の皆さんが来て自信とやる気が出ました。歌と物語と一緒にして音楽の楽しさがわかりました。合唱団の一人一人が楽しそうに歌っていて、見る側も楽しくなってきました。合唱団を見て学んだ事を生かしてこれから頑張っていきたいです。

高橋香奈(6年)

合唱団の歌声を聞いてとても感動しました。自分ではうたえ

ないなと思いました。私はうたうのは好きですが、みんなの前などでうたうのははかしくうたえません。合唱団のみなさんははかしくありませんか？皆さんのうたうのを見たりして歌をうたうのって、そんなにはずかしいのかなど、思いました。いそべ男声合唱団さんたちのまねをして、歌をうまく聞きたいなと、思いました。ありがとうございました！！

林 琢磨(6年)

私は今までオーケストラを聞いた中で、女の人と男の人が混ざった合唱を聞いたことはあり

ません。いそべとし合唱団がきくたさったおかげで男性合唱団の歌う音をはじめて聞くことができました。動物園の物語、とてもすばしかったです。もう一度聞いてみたいです。

間宮楓太(6年)

みなさんの声を聞いて男の人でもこんなに重なりのある美しい声が出るんだなと思い感動しました。僕は音楽の時間に自信をもって歌えませんでした。しかし合唱を聞いて、みなさんのような声が出るようにして、自信をもって歌えるようにしたいです。また五砂小に来てください。

吉ノ蘭百咲(6年)

私は男性が歌う声を初めて聞きました。男性が歌ってる所を実際に見て「力強く」最後まで歌い切っていたので、今度からはお腹の底から声を出す事をして、しっかりと意識したいと思いました。又、劇と歌が混ざってミュージカルのようになっていた所が私は好きでした。皆さん一人一人が心を合わせて一つの音楽が素敵に成り立っていたので私達も見習いたいです。歌によって変える事の出来る声、体育館全体にひびく事が出来る歌の上手さに感動しました。

佐藤夏帆(6年)

最初の歌い出しをきいたとき、オーケストラを思い出しました。オーケストラはたくさん楽器でいろいろな音をかなでていたけれど、これはいろいろな音程の声をかなでていて、オーケストラをきいたときのようにぞわっとしたのはがたちました。男性だけの合唱を生できくのははじめてで、きいてみたら、女性といっしょにうたうのとは、またちょっとちがう感じで、声だけなのにすごいなあと、とても強く印象にのこりました。これをきけば、元氣になれちゃいそうな合唱で、「もっとききた

い！」ときいていてワクワクドキドキしました。すごく感動しました。

山下弘太(6年)

男の人の声は低く、くらそうなイメージがあったけど、いそべとし記念男声合唱団の人の声はともきれいで、体育館中にひびいてすごいなーと思いました。それにぼくは男性合唱団の人と歌うという貴重な体験ができました。また男性合唱団の歌を聞きたいです。

(注・山下君は「赤ちゃんライオン」を歌ってくれた5人のうちの一人です)

美



○川辺成子先生よりこのように沢山の生徒達の感想文をご提供頂きました。心より御礼申し上げます。

なお生徒達の文は原則として原文尊重、文字遣いも原文通りとしました。ただ、最初の挨拶の言葉や最後に必ず添えてあるお礼の言葉はかなり割愛しましたことをお許しください。

(編集部)

東京都合唱祭に出場

7月13日(日)第69回東京都合唱祭(於・新宿文化センター)に出場した。(Hブロック12団体中)指揮は須賀敬一監督、ピアノは名倉扶季先生。曲目は「びわ」「おさるのやきゅう」「ハンカチ」の3曲。2月に死去された、まど・みちお先生を追悼しての選曲であった。

出演団員

- 1T/石原、大西、河合、澁谷、長田、横田、若月
- 2T/井上、岩本、河原、澤野、坪井、佐藤、三上、宮田
- 1B/安部、川野辺、児玉、田邊、戸丸
- 2B/秋永、板垣、岩崎、大澤、坂巻、澤登、角、渡邊

講評者より

川妻千邦

久しぶりに「いそべ」サウンドを聞かせて頂き、ウルウル状態です。暖かいハーモニーは健在ですね。特に1、2曲は在団中、何度も歌った曲ですので、とてもなつかしく思いました。3曲目もとてもソフトで良い曲ですね。先生の指導のもとますますのご活躍を!!(ごめんなさい、講評になっていませんでした)

蓮沼喜文

とても上品で美しい男声合唱団です。ていねいでやさしいサウンド、とても好感を持ちました。シンブルながらとても美しい曲あり、とてもウキウキする楽しい曲あり、心に残る作品、そしてみなさんの美しいサウンドです。音楽が、そしてサウンドが若々しいです。心地よい音楽をありがとうございます。

藤原規生

ことば一つ一つに愛情を持って歌われています。大切に大切に音の時間が流れていきます。このホールは広いので、その発語をどこに届けるか、という意識が一人一人に必要です。「やきゅう」の時、皆様の表情がよく

り明るくなったのが印象的です。味わいのあるあたたか男声合唱。ことばの伝達力をより高め合って下さいね。

宮崎誠二

洪い声ですね。みなさん見事によりお年を重ねていらっしゃる。男声合唱にありがちな力が入った声ではなく、優しい歌い方が沁みます。おさるのやきゅうでは一転してフリまで入って楽しそうに快活な音楽。その変わり方が見事です。磯部先生の音楽の対する精神が団員の皆さんに今もずっと息づいているのでしょう。これからも元気に歌って下さい。

Hブロック出場団体より

Chor2 (男声45名)

○人生のそして合唱の大先輩として尊敬します。若々しい歌声に感動です!!
○丁寧にアンサンブルをつくっているなあというのが第一印象です。一方でまじめだけでなく

コミカルな曲では楽しい雰囲気があつて良かったです。曲を本当に自分たちのものにしていないかと感動しました。

○変化のある3曲がしっかりと歌い分けられて楽しく聴かせていただきました。歌っている皆さんの曲に対する思い入れに満ちた演奏でした。2曲目のコミカルさから3曲目のしっとりとした世界への変化が一番引き込まれました。

○男声合唱の豊かさと優しさがあふれた素晴らしい合唱でした。まど・みちおさんへの思いも伝わってきました。2曲目は少し粗さも目立ちましたが楽しんで歌っている様子がよくわかりました。全体にもう少し日本語が伝わってくると思えます。

○おさるのやきゅう、楽しかったです。ストライク! いいですね。言葉を大切に歌おうとしているのが伝わってきます。全体に頭声をもっと意識して歌うことにより声量豊かなハーモニーになると思います。

アンサンブル桃花(女声23名)
○コーラスを心から楽しんでいらっしゃる様子がよくわかる演奏でした。言葉や曲の持つ雰囲気はしっかりと伝わってきました。特に2曲目はすてきな楽しい曲!

○楽曲への愛情たっぷりであたたかい演奏でした。特におさるのやきゅうは男声ならではの表現がステキでした。ハンカチはハーモニーも美しく、もっと聞いてみたいの:~と思いました。
○深い重みのある声で、とても素敵な音楽をかなでていること素晴らしいと思いました。

○まど・みちおさんの素敵な詩と磯部先生の曲、優しく楽しくしなやかに歌われていらつしました。皆様がこの3曲を愛してやまない気持ち伝わってきました。沖繩男声との合同演奏会、楽しみですね! 私も17日に沖繩旅行してきます!
○「びわ」では高音、低音ともに響きが豊かでした。「おさるのやきゅう」は元気良く、「ハンカチ」では又、静かな歌を上手に、歌の雰囲気表現してい

鈴木和江

自分達が愛する3人の先生方の曲を歌えることはうらやましい限りです。男声合唱の妙味を充分心得ている皆様が好きな先生の曲を楽しく、朗朗と歌っているその姿、ステージに感動いたします。合唱の基本はどういうなんて書く必要もないくらい経験なされた重みをひしひしと感じます。
内藤裕史
ご年配の方々が元気でたく

らっしやり、素晴らしいと感じました。

KSアンサンブル（混声25名）

○自分達の曲を大切に、曲をそれぞれ歌い分けている、素晴らしいです。やさしい言葉が心に届きました。子音の歌い方私達も見習いたいものです。

○まだ・みちおさんの詩は優しいことばですね。歌になってみなさんの柔らかい響きで聞くと、余計に優しいことばに聞こえてきます。3曲とも初めて耳にしましたが、ずっと歌い継いでいきたい曲ですね。

○まださんは100才をこえてたくさん詩を書いて下さったこと、感謝ですね。いそべさんの曲にいろいろな顔が見えてきました。男声で「こどもの心」を持った歌声で楽しい気持ちになりました。力強さのコーラスもいいですが、皆さんのようなハートがこもっていて素敵です。

○御年配のやわらかな誠実な歌声と、まださんの詩、心を打ちます。楽しく歌うベテランぞろい。男声コーラスのお手本です。皆で歌って打ち上げて美味しい酒を飲み笑う！貴団の歴史を感じます。良いですねえ！

東京楠声会合唱団（男声17名）
○まさに円熟のハーモニー、柔

らかい音色！ブラボー！同輩の歌声、感動しました。表情も素敵でしたよ。ハンカチ良かったですね！

○各曲ともよく曲想を把握、うまく歌い上げていました。男声合唱のGENTLEさがよく表現されていました。

○磯部先生とは50年位前に長崎雲仙での合唱講習会のご指導を受けた時の感動は今も残っており、2月に亡くなられたまださんの暖かいやさしい詩に磯部先生のきれいな心にしみること。磯部先生の顔は忘れることはありません。

○やわらかいハーモニー、いいですね。言葉を大切に歌っている。やさしいハーモニーの中にも男声合唱の力強さが、特にP、Bになった時、感じられます。

しずく（混声15名）

○男声らしいやわらかな合唱でした。2曲目、ストライクの振りは、前で大胆にやるか、みなさんでやったらどうでしょう。

○シンブル・イズ・ベストという言葉はまださんの詩にぴったりとあてはまりますね。味があってとてもよいコーラスでした。

○大部分の方が暗譜。とても丁寧に歌ってらっしゃいましたね。誠実な演奏に好感をもちました。○おさるのやきゅうは特にエネ

ルギーを感じました。楽しそうに活き活きしてらっしゃいました。合唱が元気の源なんだなあと思いました。

青山学院高等部聖歌隊（響15名）

○楽しそうに演奏されていて私も楽しい気持ちになりました。雰囲気異なる曲を歌い分けられていたのも、どの曲の世界観にも引き込まれました。弱音のときに子音がもっと飛んでくると言葉より楽しめそうだと思います。フリ付きの演奏は私達にはあまりやらないので新鮮でした。

○私もまださんが大好きです。いなくなってしまうのは、本当にクリアで素敵なお声です。皆さんお若いんですね！負けてられないです！

○のびのびとした深みのある歌声で、年を感じさせない力強さと若々しさがありました。表情も豊かで、きいているこちらにも笑顔になれました。

○一つ一つの歌詞がよく聞こえて、びわのように笑って優しく心に入ってくるなと思いました。2曲目は優しくも残しながらも元気で、聴いていて楽しくなりました。全部の曲がしっかり音の始めも終わりもそろっていて、私達も頑張らないとなあと気合をいれていただきました。

○どの曲もしっかり曲に合わせ

た歌い方をされてメリハリがあつて楽しかったです。それっ！のかけ声に合わせて思わず体が動いてしまった方が沢山いらして本当に心の底から合唱が大好きなんだと伝わりました。

Ko-Yo Chorus（混声10名）

○まださんの詩をとて楽しそうに歌っていらしてこちら側もノリノリでした。3曲目は切ないような静かな歌もまたステキでした。

○歳を重ねても歌う方が沢山いらして、私もいつまでも歌っていききたいと思いました。

東京ミネゼンガー（女声14名）

○歌を愛する男性方の心優しさが伝わってくる演奏。若々しい声、言葉の扱いがうまいな！と思います。どの大きさでもしっかりと言葉が届き、聞いていて心地よい。

○深みのあるやさしい歌声。言葉も大切にしているのが良くわかります。ポロシヤツの色がもう少しきれいな色が多かったらいいなあと思いました。

○まださんとの思い出を大切に歌われている様子素敵でした。力強く若い歌声に感動。指揮者の丁寧な指導にバンザイ！

○皆様丁寧に歌われ同年代としてお聴きして「ホッ」とい

ます。唱うのが何より楽しい、そのまま表わされていていいですね。ハーモニー最高です。

Chor. Priests（混声15名）

○やさしいハーモニーがいいですね。3曲目とてもよかったです！

○おさるのやきゅうは元気がよくて楽しかったです。色とりどりの服も明るくてよかったです。

○まださんの世界にたっぷりひたることができました。2曲目はのびやかでおどろかされました。色々な曲が歌えそうな可能性と若々しさを感じました。

○とても丁寧にまとまって歌われていて、パートバランスもよく、楽しく聞くことができました。

○曲のいたるところにまださんへの感謝があふれていました。歌詞を大事に歌われていてよかったです。

男声合唱団 東海（8名）

○男声合唱らしい、やさしさのあるハーモニーでした。男声合唱が数団体出ていましたが、それぞれに特色があり、すてきでした。我々も何か身につけ努力していきたいと思っています。

○私も先輩方に負けぬよう、少しでも長く歌い続けたいと思いました。

○まどさんのやさしさがよく伝わってきました。やわらかく安らいだハーモニーがすばらしく心にひびきました。日本語の美しさも、しみじみと聴き味わうことができました。心と歌声をありがとうございました。

○楽しい歌を楽しそうに歌われていて何よりです。ほとんどの方が暗譜されているのもすごいと思いました。

○「ふるさと」「はる友」を歌っています。よくあちこちでお会いしますね。気持的に自分達と同じものを感じて、講師はしません。多分、私達より少し兄貴だと思っています。これから私達の先輩でいて下さい。

女声合唱団メル (8名)

○若々しいお声に元気をもらいました。言葉がはっきりして聞きやすかったです。まどさんの歌詞と皆様のお優しいお顔がピツタリあっていました。

○まどさんの曲にこだわる団とのことでした。なる程、とっても温かくて懐の深いハーモニーですね。「おさるのやきゅう」はふりも入って、すごく楽しいですね。皆さん本当にお好きなんだなあと、思い、見えてこちらにも幸せな気持ちになりました。これからも歌で周りに幸せのおすそ分けをお願いします！

○まどさんの詩、情感があっているですね。男声ならではの深みのあるハーモニーは耳に心地よく、動きもあり力強く感動しました。歌を愛する皆さんの表情がとっても素敵でキュンとしました♥ 指揮者、ピアノストブラボーです！

○穏やかで優しい歌声ですね。合唱を心から楽しんでおられる様子がほほえましいです。これからも若々しいお声でがんばってください。

*

プログラムから拾う

◇日程

7月12日、13日、19日、20日、21日

◇出場団体数

総数	297
男声	30
女声	122
混声	141
童声	4

◇演奏された主な男声合唱曲の作曲家は多田武彦が6団体と最も多く、次いで上田真樹が

アトリエさんの コンサートに臨んで

ー 福井弘美さんを悼んでー

佐藤 元昭 (2T)

福井弘美さんから女声アンサンブルアトリエさんの第7回リサイタルのお話をうかがったのはだいぶ以前になります。カレンダーを見るといそべの練習と同じ。お許しを請うていそべのお祝いも持参して行こうと心に決めていました。福井さんは闘病生活を繰り返しながらも、機会あるごとに東京にまで駆けつけてくださり、変わらぬ笑顔で私たちに接してくださっていました。個人的にはなかなか演

奏をお聞きする機会がなかったので、今回は是非にと思っておりました。

まさか福井さんの訃報を受け取るとは予想だにせず、衝撃でした。リサイタル前日の送る会。式場にあふれる参列の人々。受付にあった福井さんの美しいスマイル。それでも現実とは思えませんでした。

平成26年5月25日。35周年記念リサイタル当日。上天気の大阪、風がやや強いものの、暑さをやわらげてくれていました。大阪城公園駅は多くの人々であふれていました。会場のいずみホールへも人波が続いていました。

コンサートは不思議な世界でした。満員の大阪いずみホールステージ袖よりあでやかな衣装に身を包んだアトリエのみなさん。そして須賀先生と木島先生が登場。第1ステージ「心の四

季」が始まる。始まりの音が出た瞬間、胸が熱くなり、ステージがぼんやりと見えるばかりでした。

季節を追いながらの演奏。そして「花のかず」、「ひたすらな道」とステージが進む。どれもみなさん、曲にしっかりと向き合っている印象をうけました。全力を出し切って振られた須賀先生。背中に汗がにじんでいらしたように見えました。

わずか三日前に失った仲間への想いをステージのみならず、ホール全体で表していたように思います。

ゲスト出演の大阪メルクワイアー。ステージ中央にぽっかり浮かぶ人影のない指揮台。あふれる涙を抑えながらも、みなさんしっかり歌い上げていました。

その場に福井さんはきつというらしめたでしょう。熱い熱いころをメンバーの福井さんとみなさんが一緒に歌っていらしたのだと思いました。

とうとう最後まで涙腺がゆるみ通して、心に残る、忘れられないリサイタルでした。

福井さん、ご冥福をお祈りします。どうぞいつまでもわたしたちの演奏や練習にいらしてください。

総務だより

6月22日運営委員会

■役員改選について
・任期満了につき団員から広く募集する。

■沖縄男声との合同演奏会
・チラシ、プログラム案を早め作成。
・進行、役割分担、打ち上げ等の案作成推進。

・アンコール曲は須賀監督と相談する。
・チケット料金、学割チケットについて、学割1000円を今回から実施する。

・チケット発売日の決定
↓9月上旬位に設定し、チラシは8月中旬位に完成させる。
・ティアラと発売日の日程の調整が必要。

■第五砂町小授業コンサート

・6月30日(月)本番
・6月29日(日)臨時練習
・当日スケジュール
10時30分集合

・曲目／ふるさと、チュウちゃん全曲。びわ、おさるのやきゅう、遙かな友に

・服装／ポロシャツ、チノパン
※当日は学校への道案内に5、

6人、南砂駅出口、途中、交差点、学校入口などに配置。担当は南砂町駅10時に集合する。
・打ち上げ／15時～18時、饗の屋トビレック南砂店、飲み放題3500円

■東京都合唱祭

・7月13日(日)Hブロックの7番目 16時30分～18時30分
(本番は17時24分頃)
・曲目／びわ、おさるのやきゅう、ハンカチ

・豊洲で15時前後まで練習して新宿へ移動、16時10分頃会場入り、リハーサルなし。

・服装／ポロシャツ、チノパン
・ピアノ／名倉扶季先生
・打ち上げ会場は搜索中

■磯部先生生誕祭

・7月27日(日)練習後18時より
・案内は周平先生、ダーメンコール、賛助会員、休団員へ送付。
6月22日現在出席予定合計は39名。

■来年の新春ファミリーの日程調整

・第1希望1月25日、第2希望

1月18日でコンピュータ抽選予約中。7月1日抽選。(外れ)

■道志川合唱祭

・9月28日(日)
・曲目／未定

①びわ、おさるのやきゅう、いねかり(安部さん提案)
②シェリトリンド(川野辺さん提案)

③岬のうたー11月の本番に向けてー(戸丸さん提案)↓賛同多し。↓ピアノ伴奏の必要性について意見あり。

※江東区民合唱祭の曲目についても岬のうたをどうかの意見が出た。
↓7月27日の委員会で曲目最終決定する。

■強化練習(8月9日、9月13日)のCバーは開催する。

■須賀監督臨時練習

・10月19日(日)に臨時練習を実施する。

安積黎明高等学校合唱団&安積フィメールコール東京第2回ジョイントコンサート

2014年8月16日(土) 開演14時(13時30分開場)
杉並公会堂 大ホール
全席自由 一般2,500円 高校生以下1,000円

三木寛 編曲
山田耕柞による五つの歌
鈴木明子 作曲
松中明子とピアノのための組曲
女に 第2集
Osma Macha 作曲
Lašské hejčáčky
Carl Bernd Agnewitz 作曲
MISSA IN DISCANU
山田耕柞 作曲
夜明けから月昇れまで
松中明子とピアノのための
初心のうた
山田耕柞とピアノのための
くちびるに歌をよ

指揮／菅野正美 大戸真市
8月16日(土) 14時開演
杉並公会堂大ホール
一般2500円 高校生以下1000円
山田耕柞による五つの歌(三善晃)
MISSA (C.B. Agnewitz)
初心のうた、くちびるに歌をよ(信長貴富)
(混声合唱とピアノのための)

安積黎明高等学校合唱団&安積フィメールコール東京
第2回ジョイントコンサート
(友情出演／お江戸コラリアーズ)
指揮／菅野正美 大戸真市
8月16日(土) 14時開演
杉並公会堂大ホール
一般2500円 高校生以下1000円
山田耕柞による五つの歌(三善晃)
MISSA (C.B. Agnewitz)
初心のうた、くちびるに歌をよ(信長貴富)
(混声合唱とピアノのための)

Song Letters
つながる、つたわる、つたえる
ふるさと福島のために

Asaka Reimei High School
Asaka Female Choir Tokyo

指揮 菅野正美 大戸真市
ピアノ 星美一 庄司紀子
友情出演
お江戸コラリアーズ

主催：安積黎明高等学校合唱団 共催：福島県立安積黎明高等学校
後援：福島県教育委員会／福島県合唱連盟／東京都合唱連盟／安積黎明高等学校
お問い合わせ：asakafemalechoir@gmail.com http://www.geocities.jp/Musical5963/

来客

7月13日

・名倉扶季先生

13日東京都合唱祭のピアノスト依頼、練習参加

練習日記記録

6月22日

・発声／(三上)

・曲目／岬のうたーひとり旅、岬はいつも、あの日のこだま(三上)。水のいのちー海、海よ(大西)。雨、水たまり、川(三上)、**開井出**

6月29日

・発声／(横田)

・曲目／チュウちゃん全曲(三上)、水のいのちー川(大西)、**開井出**

6月30日

・発声／(横田)

・曲目／チュウちゃん全曲(三上)、水のいのちー川(大西)、**開井出**

6月30日

・発声／(横田)

・曲目／チュウちゃん全曲(三上)、水のいのちー川(大西)、**開井出**

第五砂町小授業コンサート(1～5頁に詳述)

7月13日

・発声／(横田)

・曲目／びわ、おさるのやきゅう、ハンカチ、岬のうたーひとり旅、岬はいつも

(須賀) **開井出**

・出席／1117217、1115、2118

・東京都合唱祭出場(6～8頁に詳述)

SCHEDULE

豊洲：江東区豊洲文化センター
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

顔：須賀監督指導・指揮 欄：横田先生発声指導

○運営委員会は原則として第4日曜日11:00練習場にて開催

2014(平成26)年

7月27日(日)	定例練習顔	13:00～	豊洲	
	磯部先生生誕祭	18:00～		
8月 9日(土)	強化練習	13:00～17:00	豊洲(合同曲練習)	・Cバー 1 B
10日(日)	定例練習顔欄	13:00～17:00	豊洲	・Cバー 2 B
24日(日)	定例練習	13:00～	豊洲(合同曲練習)	
	総会	16:00～	豊洲	・Cバー (ゼロバー) 1 T
9月 6日～7日	○須賀監督沖縄出張 合同演奏曲練習			
13日(土)	強化練習	13:00～17:00	豊洲	・Cバー 2 T
14日(日)	定例練習顔欄	13:00～17:00	豊洲	・Cバー 1 B
	○宮城敏先生来団 合同演奏曲練習			
28日(日)	道志川合唱祭	10:30～	曲目／	
10月12日(日)	定例練習		豊洲	・Cバー 2 B
13日(月)	強化練習		☞古石場	・なし
19日(日)	臨時練習顔		豊洲	・Cバー 1 T
26日(日)	定例練習顔		☞古石場	
	江東区民合唱祭 顔		会場／江東区文化センター	
			☞曲目／「岬のうた」ーひとり旅、岬はいつも	
11月 9日(日)	定例練習顔			
15日(土)	臨時練習顔 (江東区文化センター展示室)			
16日(日)	沖縄男声・いそべ男声第10回合同演奏会 顔		会場／ティアラこうとう大ホール	
			曲目／当団単独「岬のうた」全曲	
			合同「水のいのち」全曲、カリнка、シェリト	
			・リンド、夜来香、思い出のリュウデスハイム、ゴキブリの歌	
12月28日(日)	定例練習 忘年会		会場／アルテリーベ	

恒編佳木後記

▲「ハンカチ」で「おでかけさん」～「きよならさん」～「おかえりさん」～「まどさん」はこうして「さん」をつけて、いっぺんに親近感を深めてくれます。そうだと、出勤の時は…と思いが、歌ってしまいます▲まどさんは普通は付けないような単語に「さん」をつけて親しみあるものにふくらませ、その知らなかった内面までの想像を豊かにさせてくれます▲「つりかわさん」～「じめんさん」～「そらさん」～「かせさん」～「のこぎりさん」～「とんかちさん」～「だいこんさん」～「にんじさん」～「へびさん」～「やどかりさん」～「かまきりさん」～「ななど」▲みな、子どもの感性と大人の感性とをつなぐ、まど言葉マジックの一つなのでしょう▲我々も場面に応じて「さん」をつけてもいいのでしょうか、多用や濫用には気をつけないと。おビールさん、お見限りさんなどは絶対に慎しむべし。(河合)

いそべとし記念男声合唱団ニュース

2014年 9月 第392号

発行代表者:戸丸悟(総務)〒135-0053 東京都江東区辰巳 1-8-45-302 ☎03-3521-6898 FAX 同
E-mail isobechorus@hotmail.com URL http://www.geocities.jp/isodanchorus/
編集:河合隆一(広報)〒272-0031 千葉県市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同

磯部先生生誕祭

猛暑の中の7月27日(日)、磯部倅先生の生誕祭が開かれた。出席は磯部周平先生、みほご夫妻、須賀監督、名倉扶季先生。旧ダーメン・コール有志は飯村貞江、石野由希子、岩崎加代子、植木桂子、坪井賀子、檜木美保子、宮田幸子、吉岡久恵の各氏。いそべ旧団員の鈴木賢一、三雲孝夫の二人。これに当団員を加えて40名の偲ぶ会となった。

長田茂

「暑いと藤沢、江ノ島での生誕祭を思い出します。以前はダーメンさん主催でしたが、解散されていそべ男声が主催となって4回目になりました。」

磯部周平

「合唱祭の時、ある先生から、」(倅先生に)全然似てない!「と言われました。(大笑い) 母系のいとこに母の女学校時代の写真を見せてもらったら私にそっくりでした。やっぱりどこかでつながっているんだという実感をもちました」

須賀敬一

「磯部先生には酒を教わりました。昭和

20年代合成酒があった。これをラムネで割る。シロシロといていた。これがどんな料理にも合う。刺し身、肉。我々は酒との縁は切ってもきれない。みんなで飲みましょう。乾杯!」

*

歌の時間はまず、歌の仲間から。野ばら。夕焼けこやけは石野さんのソロいり。須賀さんの学生時代のアレレンジだった母の歌は長田さん指揮、ウボイは坪井さん、Starchenは澤登さんの指揮で。ややあつてシュガーが朧月夜と、上を向いて歩こうを熱演。

*

磯部みほさんが立って「娘の大関が11月に出産予定となりました。どうぞよろしくお願います」とのお話にみな大拍手。周平先生もついにおじちゃんですね。

*

やおら周平先生が立って、新しく作った曲を皆に手渡ししました。『ハハハハハハ行発音練習のために』詞・曲磯部周平とある。5月16日付の最新作だ。4声のカノンだ。とうちゃん笑うよハハハハハ、母ちゃんホ、兄ちゃんホ、妹と順に歌ってコーダのじじはははヒヒと笑ってffで終わる。早速4声部に別れてのカノン。ハハ

ハはもっと思いついて笑ってと周平先生のハッパがかかり、みな高々と笑って初演完了。

*

終盤のコーラスは、時無草を周平先生(はじめ先生は遠慮されたが須賀監督から相続権の放棄かと冗談まじりに言われて指揮)、ふるさとを須賀監督、最後に遙かな友にを周平先生の指揮で歌って生誕祭の演奏は終了となった。ピアノは名倉先生。

*

長田茂(ききいそべたいうこと)「磯部倅先生は81歳で亡くなりました。我々も81歳、82歳になってやっとな先生に迫いつき追い越せました。生誕100年まであと少しです。みんながんばりましょう」

田邊喜三郎

「CDの磯部倅歌曲集に先生はこう書いておられます。旧制中学4、5年のころ歌に夢中でした。シャリアピンの実声を聞いていたうちに歌に魅せられてきた。歌は声を聞かせるだけではないことを教えられた。(中略)私の歌がもっとも愛唱されるなら本当に嬉しい」と書いておられます。先生亡きあと須賀さんの指導で先生の歌を歌い続けてきました。これからも頑張ってください」(河合)

年度総会実施

8月24日午後4時より

開会宣言 戸丸総務

成立要件確認 団則第7条第4項により3分の2の出席をもって成立する。団員数36名。3分の2は24名。当日の出席は26名。委任状提出は10名（石原、大澤、児玉、澁谷、田島、田邊、辻、徳田、長島、村岡）。よって総会は成立した。

議長指名 団則第7条第3項により長田代表が議長に選任された。

議事

①1年の活動報告 戸丸総務

・2013年7月1日（2014年6月30日）の活動報告

2013年

7・14 東京都合唱祭（おやすみなさい、松の花）

7・28 磯部徹先生生誕祭（坪井さん米寿祝贈呈）

8・25 年度総会

9・29 道志川合唱祭（おやすみなさい、松の花）

10・27 江東区民合唱祭（おやすみなさい、松の花）

11・25 磯部先生墓参

12・1 40周年演奏会

12・22 忘年会 サンミ高松

2014年

1・18 ふるさと、遙かな友に YouTubeアップ（閲覧回数1800回、700回）↓8月24日現在では1900回を越えた）

1・19 ピアハウスコンサート出演

2・9 新春ファミリーコン

サート&パーティー（江東区文化センター）

4・6 屋形船お花見（出航花満開）

6・30 第五砂町小学校授業コンサート出演（「チュウちゃん動物園へ行ったお話」全曲、ふるさと、まどろみ 磯部3曲

②決算報告 井上会計（略）

③監査報告 秋永監事

④在籍団員数（2014.7.1現在）36名

内訳 1T 8名 2T 9名 1B 7名 2B 12名

・団員の動向

下山さん1Bの出席が長期間みられないため休団扱いとする。

・団員練習参加状況（2013.7〜2014.6）

定例練習（強化練習を含む）26回

平均出席人数 28.08人

（昨年28.17人、一昨年28.73人3年前27.16人、4年前29.0人）

・先生方練習回数

須賀監督12回（昨年12回）

永井先生11回（昨年20回）

横田先生5回（昨年11回）

加藤先生1回

入交めぐみさん 2回

石野先生4回

井出先生11回

・来客（敬称略）

入交めぐみ 菊池靖 古家大貴 白石貴啓 井澤常和

山内純治 坪井賀子 田中時光 田中恵子 長田聡子

水島加寿代 村上直美 名倉扶季 東大コールアカデミー（2名） 東京都合唱連盟（菱木明子 山口敦） 合唱（ユース） 川辺成美

若松理沙美 金子剛史 浜中肯史郎 忠末恵佑

⑤2014年度活動計画 戸丸総務

2014年

7・13 東京都合唱祭（びわ、おさるのやきゅう、ハンカチ）

7・27 磯部徹先生生誕祭

8・24 年度総会

9・6〜7 須賀監督訪沖

9・14 宮城先生来団

9・28 道志川合唱祭

10・26 江東区民合唱祭

11・16 沖縄男声合同演奏会

11・17〜18 沖縄男声との懇親旅行

11・磯部先生墓参

12・28 忘年会（アルテリベ）

2015年

（新春ファミリーコンサート & パーティーは会場取得困難のため実施せず）

4・5 屋形船お花見

○今後の活動について

・次の沖縄男声との合同演奏会は沖縄での開催となるので、その時期について。

・2017年には磯部先生生誕100年を迎えるための記念行事。

・2019年いそべ男声45周年を迎えるための準備。

⑥2014年度予算案 井上会計（略）承認された。

⑦2014年度体制と運営委員

音楽監督 須賀敬一

指揮者 横田清文（程）

アンサンブルトレーナー 三上正秋（程）

ピアノリスト 永井博子

代表 長田 茂

副代表 田邊喜三郎

相談役 坪井俊策

同 若月 稔

演奏・練習部門総括 安部建雄

指揮者グループ 安部建雄

大西紹夫

佐藤元昭（程）

予佐藤元昭（程）



沖縄男声との合同演奏会 記念旅行 予定表(案)

一日光・鬼怒川温泉2日間一

〈沖縄ツーリスト(株)〉

日程 11月17日（月）～18日（火）（合同演奏会の翌日より2日間）
 集合場所 （未定）
 集合時間 （未定）

日程	行程内容
17日	8:00～8:15 都内出発 ― 首都高速 ― 東北道 ― 日光宇都宮道路 ― 日光 I C 11:15～12:45 日光東照宮見学（徳川家ゆかりの世界遺産をガイドによって案内） 12:45～13:45 昼食 14:15～15:15 いろは坂 ― 華厳滝 ― 清滝 I C ― 日光宇都宮道路 ― 今市 I C ― 16:15～ 鬼怒川温泉 あさやホテル宿泊
18日	9:30 ホテル 9:40～10:10 日光ろばた漬けなどの名産のお買い物 10:20～11:50 東武ワールドスクエア（世界のミニチュアを展示）見物 今市 I C ― 日光宇都宮道路 ― 宇都宮 I C 12:30～13:30 宇都宮名物「餃子」の昼食 ― 宇都宮 I C ― 東北道 ― 首都高速 16:15 都内
費用	一人当たり 32,610円（バス代等、宿泊代、昼食代、入場料等含む）

2014. 7. 31 日付 40面

交遊抄

自然に口ずさむ「びわ」の歌。小学校3年生の時、フレーベル少年合唱団に入り、童謡「びわ」などの作曲で知られる磯部俤先生

磯部先生に
叩き
込まれて

の指導を受けた。
4年間、歌だけでなく和声についても徹底的に鍛えて頂いた。

時を経て、早大
高等学院時代、吹奏楽部でチューバを演奏していたが、もつと目立ちたいという動機で、吹奏楽部仲間と当時流行っていた「シカゴ」のコピーバンドを結成した。シカゴ（4か5）には遠く及ばないので「2か3」と名付けた。

あずさ監査法人副理事
長の天野秀樹君がサク

ス、日産自動車で活躍した清水裕行君がトロンボーン。シカゴにチューバ奏者はいないため、僕は始めたばかりのギターを担当した。磯部先生に叩き込まれた和声の知識を活かし、レコードを聴いて譜面を起こすのは僕の役割。この点では皆の役に立ったと思うのだが、ギターは下手で随分仲間間に迷惑をかけてしまった。

（以下略）

篠原 弘 道

（しのはら・ひろみち）
NTT副社長）

東海メールクワイアー演奏会盛会

6月22日に愛知県芸術劇場ホールで開催された演奏会は、アグネス・グロスマン先生を迎えて、シュールベルト、J・シュトラウスⅡの曲目を本場直伝の演奏で披露し盛会裡に終了しました。
DVDの贈呈を受けています。鑑賞希望は宮田さんまで。

同(副)	川野辺直雄	同(副)	澤野 勉
同(副)	長田 茂	同(副)	大澤寛之
同(副)	河合隆一	同(副)	井上 斉
同(副)	岩本裕之	同(副)	秋永 基
同(副)	井上 斉	同(副)	坂巻信幸(稔)
同(副)	渡邊 清(稔)	同(副)	
同(副)	宮田 茂	同(副)	
同(副)	渉外担当	同(副)	
同(副)	會計	同(副)	
同(副)	広報	同(副)	
同(副)	総務	同(副)	
同(副)	臼田邊喜三郎	同(副)	
同(副)	三秋永 基	同(副)	
同(副)	戸丸 悟	同(副)	
同(副)	楽譜	同(副)	
同(副)	⑧その他	同(副)	
同(副)	沖縄男声との合同演奏会の際 に「岬のうた」(新しいピアノ伴 奏版)などの楽譜を販売をする。	同(副)	

猛暑の八月五日、新橋の汐留ホールで、五月に亡くなられた井出美佐子さんの記念会がしめやかに、そして和やかに開かれました。

浜松の、井出さんのご実家のご両親も信者という、遠州栄光教会の森田恭一郎牧師による礼拝が、井出久美子さんの前奏で始められました。詩編の招詞、讃美歌の詠唱、聖書の朗読と続き、牧師の説教になると、森田牧師は、中学生の頃の教材だったというリコーダーをポケットから取り出しました。三つの部品をこうして組み立てただけでは、ただの長い棒ですが、（こうして）息を吹き込んで音が出ると、笛になります。（音階を吹いて）これで初めて、楽器になります。と、聖書の中の、九十九匹の羊を放っておいても、一匹の見失った羊、悔い改める一人の罪人）を見つけ出す喜びが天にはある、という譬えを交えながら、演奏家として教育者としての井出美佐子さんの業績を、讃えました。

休憩をはさんで、第二部が落合真悟君のチェロ・井出久

美子さんのピアノのモーツァルト「レクイエム」よりラクリモサの演奏で始まりました。美佐子さんの勤め先・越谷保育専門学校理事長の山崎さん、桐朋学園の同期生の高橋さん・中島さんのお礼の言葉、想い出話のあとは、桐朋学園の同期生の方々による演奏会です。第二部の司会を務めたYAMAH A音楽振興会理事の杉山さんも桐朋同期生でした。桐朋関係とおぼしき年配の方々ほかに、大勢見かけた若い人たちは、保育士の卵の生徒さんたちでしょう。百人ちよつとの会場と思われた汐留ホールは、美佐子さんを慕う人々が百五十人も集まり、補助椅子でも間に合わないで、ホールの外まであふれていました。美佐子さんがピアノ伴奏を担当したことのあるダーメンコールの方たちの顔も見られました。

礼拝の中での讃美歌、最後の全員合唱の讃美歌では、会場後列に座りたいそべ男声のテナー六人、バス四人が男声パートを歌ったので、普通ならメロディーだけしか聞えてこない讃美歌も、混声合唱になりました。

井出美佐子さん、安らかに眠りください。（長田）

『チュウちゃん動物園に行つたお話』の一曲。小さなネズミのチュウちゃんは、キリンに出会つて、その背の高さ、首の長さにびっくりする。地面から上を見あげてゝくびがいたくなる。といつてゐるけれど、ネズミの首はどうなつてゐるのだらう、などといった詮索はともかくとして……。チュウちゃんは、キリンは遠くまで見えるので、天気予報ができるだらうと頼む。

っているとのことだ。低いところの餌は食べない習性があるので、動物園では木の高いところに籠をつけて餌を与えているという。

もと・みちおにも「キリン」という詩がある。386号で紹介した美智子皇后の英訳の詩集『にじ』と同時に出了た詩集『けしゴム』(文藝春秋)にあるのが次の詩。

想像する——まどさん流の新鮮な詩心がここに描かれている。もともと、巨人が座ったその椅子は、突然、背もたれが倒れるかもしれない。キリンは水を飲むときは、前脚を広げて首を地面に近づける。チュウちゃんがりクエストした「ここまでおりてきて」の姿勢をとるのは、キリンにとっては大きな動作となるということだ。

いそべ男声メロディー・歌の博物誌52

キリンとおはなびがいたくいけど
とつてもおはなびがいたくいけど

「キリン」清水たみ子作詞 中田一次作曲

というストーリー。

キリンは哺乳類ではもっとも首の長い生物だ。5メートル以上の背丈がある。並はずれた長い首だが、頸骨は人間の頸椎と同じ、哺乳類共通で7本。

その長い首と同じように、もうひとつキリンの特徴となるのが長い舌で、45センチもあるという。その長い舌で木の葉をまるめ込むようにして口にいれる。唾液に水飴のような粘りがあるのも、食物を取り込むのに役立

澤野勉 (21)

いすは まっています
とおい ほしからの
きよじんの おきやくを
もう なんまんねんも…

英訳は――

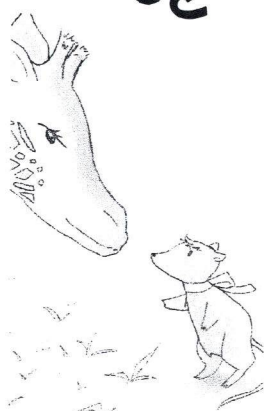
This grand chair
 For millions of years
 Waiting for a giant guest
 From far off star

キリンの長い首には誰も目をとめるが、その姿態を椅子に見立てて、そこに座る巨人の姿を

現在、世界各地の動物園では野生動物の確保が難しくなっている。日本でも人気者のゾウ、キリン、ライオンなどの購入は厳しい状況という。

日本に初めてキリンがやってきたのが1907(明治40)年3月。横浜に入港したドイツ船パスポルグ号から上野動物園に運ぶのに、途中のトンネルやガードが首の長いキリンは通れないというので、日本橋浜町河岸まで解で運んだと。(小森厚「もう二つの上野動物園史」丸善ライブラリー)

*イラストは鈴木はるかさん（澤野さんのお孫さん）



総務だより

7月27日運営委員会

●総会、役員改選について

・8月24日の総会には「2014役員案」をもとに決定する。

・欠席者は委任状を提出する。

(メールによる提出もOK)

●沖縄男声との合同演奏会

・11月16日(日)

・チラシ、プログラム案を早め

に作成する。

・進行案、役割分担案、打ち上

げ案など作成する。

・アンコール曲案

①だんじゅかりゆし ②ふる

さと ③遙かな友に

(須賀監督と相談↓決定)

・チケット料金

一般2000円

学生1000円

・チケット発売日 9月10日

・従ってチラシは8月なかごろ

までに完成させる。

●磯部先生生誕祭

・7月27日(日)練習後18時開始

・参加人数40名

・参加費3500円

↓終了

●2015新春ファミリコン

サート&パーティー日程調整

2015年2月1日(日)、15

日(日)、22日(日)で抽選予約中

(1月の抽選はすべて外れ)

●道志川合唱祭曲目

・9月28日(日)

①思い出のリュウデスハイム

②岬はいつも(安部さん提案)

↓決定

●江東区民合唱祭曲目

・10月26日(日)

①ひとり旅 ②岬はいつも

(須賀監督の指示あり)

↓決定

●強化練習のCバーは実施する

・8月9日(土)、9月13日(土)

の練習後のCバーは実施。

・10月13日(月、祝)は実施なし。

●忘年会会場確定

・12月28日(日)練習後

・アルテリーベ(港区新橋2丁

目。都営地下鉄三田線内幸町

駅より2分、JR新橋駅より

4分)(澁谷さん紹介)

●会計監査

繰り上げで坂巻さん(2B)に監

査を依頼した。

●沖縄男声との合同演奏会以後

の目標について

佐藤さん(2C)の提案により以

下の日程を調整する。

①2017年磯部先生生誕1

00年

②沖縄男声との次の合同の日

程

③2019年45周年

●臨時練習

・10月19日(日)臨時練習をいれ

る。須賀監督指導。

●練習計画案(安部さん提案)

・原則として須賀監督の練習日

は「水のいのち」と「岬のうた」

・自主練習日は宮城敏さん指揮

の合同曲を練習する。

7月27日須賀：「水のいのち」

「岬のうた」

8月9日：宮城指揮合同曲

8月10日須賀：「水のいのち」

「岬のうた」

8月24日：宮城指揮合同曲

9月13日：自主強化練習、懸

念のある曲、箇所。

9月14日宮城来訪：合同曲

8月24日運営委員会

●総会予定

活動報告、決算報告、監事報告

次期運営委員、来年度活動計

画、予算案、その他

●沖縄男声との合同演奏会

・プログラム案を早めに作成。

・準備中の長田さんからプログラ

ムの順を早めに決めてほしいと

の意向があり検討。

・当日進行案

・役割分担

チケット担当↓佐藤

受付↓

舞台↓

舞台監督↓

楽屋↓

打ち上げ↓

●2015新春ファミリコン

2月の抽選はすべて外れ、3

月22日の須賀監督上京可能日に

抽選応募するか否かが検討され

3月末では新春ではなくとなると

のことで、来年の新春ファミリ

ーは実施しないこととなった。今

後の会場確保の方法に課題が残

された。

●道志川合唱祭

・9月28日

・曲目/思い出のリュウデスハ

イム、岬はいつも [名倉先生

・衣装/ポロシャツ、チノパン

●江東区民合唱祭

・10月26日

・ひとり旅、岬はいつも

[永井先生

・衣装/ブレザー、黒ズボン

●11月沖縄男声との合同演奏会

後の目標

①2017年磯部先生生誕1

00年

②次回の沖縄男声との合同演奏

会の時期

③2019年45周年記念演奏会

・今後この3つのスケジュール

を調整していく。

来客

・8月10日

忠末恵佑(たすけいすけ)さん

同志社大学コールフリュー

ゲル所属。2B。22歳。練

習とCバー参加のため来団

練習日記記録

7月27日

・発声/(三上)

・曲目/岬のうた(全曲) 水の

いのちー雨、水たまり(須賀)

[名倉

・出席/1-17、2-17、1B-6、2B-9

8月9日

・発声/(三上)

・曲目/岬のうた(全曲)(安部)

[永井 合同曲目(宮城先生

指揮曲目)(大西) [名倉

・出席/1-16、2-16、1B-5、2B-10

8月10日

・発声/(横田)

・曲目/岬の歌(全曲)(須賀)

水のいのち(全曲、特に雨、川

に重点) (須賀) [名倉

・出席/1-15、2-18、1B-6、2B-6

8月24日

・発声/(三上)

・曲目/岬のうた(全曲)

水のいのち(第4曲、5曲)

(須賀) [永井

・出席/1-15、2-19、1B-4、2B-8

SCHEDULE

豊洲：江東区豊洲文化センター
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

須賀監督指導・指揮 横田先生発声指導

○運営委員会は原則として第4日曜日11:00練習場にて開催

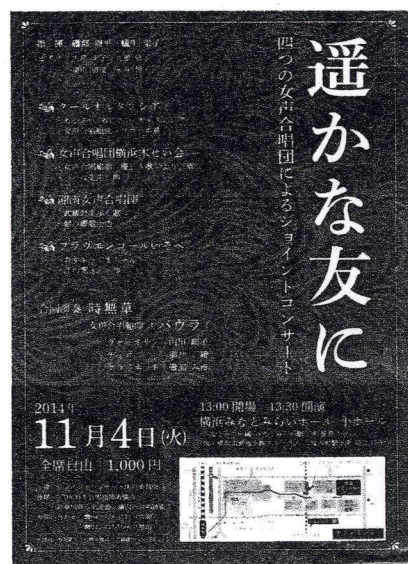
2014(平成26)年

- 9月 6日～7日 ○須賀監督沖縄出張 合同演奏曲練習（団員8名同行）
13日(土) 強化練習 13:00～17:00 豊洲 ・Cバー2T
14日(日) 定例練習須賀 13:00～17:00 豊洲 ・Cバー1B
○宮城敏先生来団 合同演奏曲練習
28日(日) **道志川合唱祭** 10:30～ ☞ 曲目／「思い出のリュウデスハイム」「岬はいつも」
服装／ポロシャツ、チノパン
10月12日(日) 定例練習 13:00～17:00 豊洲 ・Cバー2B
13日(月) 強化練習 13:00～17:00 ☞ 古石場 ・なし
19日(日) 臨時練習須賀 13:00～17:00 豊洲 ・Cバー1T
26日(日) 定例練習須賀 13:00～ ☞ 古石場
江東区民合唱祭 須賀
会場／江東区文化センター
☞ 曲目／「岬のうた」ーひとり旅、岬はいつも
服装／ブレザー、黒ズボン
11月 9日(日) 定例練習須賀 13:00～17:00 豊洲 ・Cバー2T
15日(土) 臨時練習須賀・宮城（江東区文化センター展示室）
18:00～
16日(日) **沖縄男声・いそべ男声第10回合同演奏会** 須賀
14:00 開演 会場／ティアラこうとう大ホール
曲目／当団単独「岬のうた」全曲
合同「水のいのち」全曲、カリンカ、シェリト・リンド
夜来香、思い出のリュウデスハイム、ゴキブリ
の歌
アンコール／だんじゅかりゆし、ふるさと、遙かな友に
服装／
17～18日 日光懇親旅行（3頁参照）
23日(日) 定例練習 13:00～17:00 豊洲
12月28日(日) 定例練習
忘年会 会場／アルテリーベ

2015(平成27)年

（新春ファミリーコンサート＆
パーティーは会場取得困難の
ため実施せず）

遥かな友に
ー四つの女声合唱団による
ジョイントコンサート
11月4日(火)13時30分開演
会場・横濱みなとみらいホール
指揮・磯部周平 蟻生栄子
クールオルタンシア
女声合唱団横浜木せい会
湘南女声合唱団
フラウエンコールいそべ
曲目・組曲「パウラ」ほか



短編集後記

▲ある板前さんと話したときのことです。包丁さばきに感心したことから始めて、天ぷらで揚げるのに一番むずかしいものは何かとか、無限にひろがる隠し調味料とか、きわどい話題がいろいろ飛び交いました▲味の話になって、パーティーでまずいものに出会ったことを話しました。あまりにもまずいのでテーブルに並んだソースやドレッシングをかけたりにして食べたこと、隣の方も同じようにして食べていたこと▲このことを板さんに話したところ言下に「大阪だったらその場ではつきりまずいと言いますね」と言いました。彼は大阪で修行して東京に来た人でした▲大阪人と東京人の違いですが、私は何も言わず、隣の方とボソボソとばやきを交わしたただけでした▲どんなことでも褒めること、批判すること、そのタイミングのむずかしさを痛感しました▲もちろん、その板さんの料理は褒めるほかはない味でした。本当です。
(河合)

いそべとし記念男声合唱団ニュース

2014年 10月 第393号

発行代表者:戸丸悟(総務)〒135-0053 東京都江東区辰巳 1-8-45-302 ☎03-3521-6898 FAX 同
E-mail isobechorus@hotmail.com URL <http://www.geocities.jp/isodanchorus/>
編集:河合隆一(広報)〒272-0031 千葉県市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同



→ 那覇での須賀監督の練習

合同演奏 指揮者 相互出張指導

沖縄男声との合同演奏曲の練習に、双方の指揮者の出張練習が行われた。9月6日～7日に須賀監督が那覇へ飛んで、「水のいのち」「ふるさと」を指導し、9月14日に宮城敏先生が来京され、「思い出のリュウデスハイム」「カリンカ」「夜来香」などの曲を指導された。同時に団員も相互に5～8名が同行して練習参加と相互の懇親を深めた。



→ 東京での宮城敏先生の練習

「一つの合唱団のように…」

須賀監督 那覇での「水のいのち」練習

須賀監督による「水のいのち」の練習は9月6日、7時から那覇市内のMOA青少年研修センターで始められた。沖縄男声は45名以上、いそべ側は8名（河合、佐藤、澤野、川野辺、秋永、大澤、辻、渡邊）参加という陣容だ。沖縄の皆さんはのびのびと声を出している。須賀監督の微妙な要求にも敏感に応じて練習はどんどん進められた。「水たまり」「海」「海よ」と歌う途中で須賀さんの厳しい声も聞かれたが、沖縄の皆さんは積極的に応じて、曲の表現を深めていくのが爽快でさえあった。

翌7日は午後1時から浦添市の、てだこホールのリハーサル室で（たゞと陽子意）。「雨」と「川」の6/8と12/8のリズム表現もかなり効果があがってきたようだった。そして須賀さんは合同人数の多さを見越して「海」でI部コーラスとII部コーラスに分け、両端に1T、2T、中央に低音部という配列を指示、ちょっと戸惑う人もいたようだったが、これは広いステージとホールでのステレオ効果を期待していいのだろう。「ふるさと」がピアノつきになった経緯の説明があつて練習に

入ったが、われわれいそべ男声にももう一度注意してもらいたいと思われる厳しい指摘がいくつもあつた。

練習を終えて、この日は沖縄男声さんは月1回の懇親の会というこで、浦添市の高台にある沢神（そと）会館で、皆さん揃っての打ち上げをかねて集合、いそべ団員7名も参加し、合同演奏会の成功を期して澤野さんの音頭で乾杯を交わした。

須賀監督の「打てば響く練習でした。新鮮な気持ちで『水のいのち』を練習させてもらいました」との挨拶があり、大きな拍手があつた。合同演奏会の火付け役でもあつた川野辺さんは「磯部先生は合同演奏は軽く付き合つて演奏するのではなく、まとまった曲を一つの合唱団のように歌ってほしいと言つておられました。今回その精神でお互い頑張りたいです」と挨拶しこれも共感の拍手があつた。

いそべの仲間は、練習のない時間、国際通りを散歩する者、沖縄博物館を見学する者などがあり、練習が終了した8日は好天に恵まれ、6名が、沖縄男声

の亀川、塩浜、新城、平良の皆さんの案内・ドライブで南部の平和祈念資料館、平和の礎への見学、祈りを捧げた。亀川さんは資料館の設立準備から館長も務められたとのこと、淡々とした南部戦跡の説明は胸にしみるものがあつた。また世界遺産になっている霊地斎場御嶽にもお参りでき、遥か東の海上に琉球国造りの神がいるという久高島をのぞむことができた。

沖縄男声の皆様ありがとうございました。

「暖かい仲間関係を続けたい…」

9月14日、沖縄から宮城敏先生が来団されて、合同曲の練習が行われた。同行来団の方々は新城（きよ）、大澤、宮城（きよ）、新城（きよ）、照屋の諸氏。もちろん練習に参加された。

須賀監督も同席する中、思い出のリュウデスハイムのやわらかな音楽づくり、対照的なゴキブリの唄のドギツキの表現、納得させてもらえる指揮で練習は進んだ。カリンカ、夜来香は新城（きよ）さんの懇切なロシア語、中国語の発音指導があつた。原語らしさに少しは近づいただろう。

先週、沖縄へ行った団員が、個人的だが沖縄男声の人数、積極的な歌唱の様子を伝えていたからか、いそべ男声もかなり力一杯歌っていたようだった。同時にポピュラリティーのある曲を歌う楽しさも味わっていた。

練習が終わればCバー。

宮城敏先生からは「沖縄男声はやる気だけは十分ありますが各パートの統一感が足りず、まだまだまとまりがない。いそべの方々に振り向かれないようにしたいです。暖かい仲間としてお付き合いを続けて下さい」とのスピーチがあつた。

新城（きよ）さんは「今日の練習は心地よいものでした。ハーモニに浸っていると幸せになります。私が叱られるのは敏さんと須賀先生と家内ですが（大笑い）、先日沖縄では須賀先生の爆発が何度かあつて、みんなは

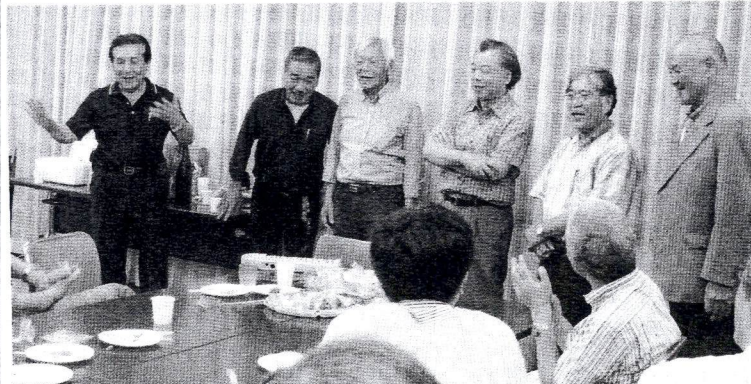
かなり緊張していました」とのスピーチに皆大拍手。

*

この日は来客が沖縄の方々ほかに乃村一郎さん、小林昌司さんの二人がきて、乃村さんは練習から参加の結果、入団を表明してくださったので、Cバーはますます盛り上がりつてきた。後半は沖縄の方々なども持ち歌を聞かせてくださり、定番の曲をハモリ、最後はふるさと、遥かな友にを歌って、合同曲の練習打ち上げとなった。

11月の合同演奏を大いに期待して。

（河合）



→ 沖縄の方々は「海のチンボラ」を歌ってくれた

紺碧の空に歌う

第23回磯部倅記念「遙かな友に」合唱祭



ずばり「晴れ男・磯部倅」を
実感した道志川でした。
まだまだ緑濃い道志の山々に
囲まれて出場者は力一杯歌って
いました。

18団体、延べ290人(覆出
し)のコーラスが響き、磯部周
平先生の指揮、ゲストにボニー
ジャックス演奏があつて、青根
の里は終日にぎわいました。

*

開会は10時30分、実行委員長
の関戸正文さんが「雲一つない
空、山と緑に囲まれて声はどこ
までも通るでしょう。皆さん力
強く歌ってください」と挨拶。
来賓の山口和夫相模原市副市
長は「国内では実に珍しい山中
野外での合唱祭。それも23回を
数えます。皆さんのご協力の賜
物です。ご盛会を祈ります」と
の激励の挨拶がありました。
続いて磯部周平先生の指揮で
「道志川合唱祭の歌」を全員で
合唱、各団の演奏に…。

●いそべ男声出場者

指揮/横田 田名倉

十/大西、河合、長田、若月

三/井上、岩本、佐藤、澤野、坪井、

宮田

五/安部、川野辺、児玉、田邊、戸

丸、山川

七/秋水、板垣、大澤、坂巻、澤登、

角、長島、渡邊

トップは、やまびこ合唱団(混
声12名)「明日があるさ」「風」
を自然体で豊かに歌唱。

COSMOS(女声10名)は
ヴィヴァルディの「グローリア」
と「瑠璃色の地球」と意欲的な
曲を好演。

3番目の、つくいムジーク・
フェラインは混声10名のアカペ
ラで「さびしいカシの木」「う
るわし春の使い」を豊かな表現
で演奏。車椅子の女性の参加が
印象的でした。

コーラス喜楽楽(女声9名)
の歌う「三つのわらべうた」と
「忘れな草をあなたに」は小人
数でも親しみをこめた演奏でし
た。

和歌山からの堤敦子先生率い
るコールダイヒとアシンメトリ
IⅡの合同演奏(7名)はいつ
もながらの大熱演。事前に堤先
生は「明日へと」の楽譜をいそ
べ男声の仲間へ渡して、後半部
分の伴唱を誘ってくれたので、
客席からも声があがり、カラオ
ケ伴奏の演奏と相俟って会場は
盛り上がりました。もう1曲は
「Let It Go」ありのまま
で。

かりん(女声15名)は初参加。
「不思議」「コスモス」「空が
凝視てゐる」の新曲3曲、堅実
に演奏を果たしていました。
フラウエンコールいそべ(女

声20名)。周平先生の指揮。過
日、磯部倅先生生誕祭のうちに
披露された自作の「カノン」「ハ
ハハハ」を面白く演奏、続け
て、指揮者が車掌に早変わりし
てこれも自作の「江ノ電さん」
を「次は七里ヶ浜…」とアナウ
ンスをいれた演奏にみんな大喜
び。これは合唱祭の定番になり
そうです。

横浜木せい会(女声11名)は
磯部先生の曲「パパは先生」「春
の紙風船」を懐かしさをこめて
歌っていました。

午前の部ラストは、菜の花コ
ーラス(混声38名)で今回、単
独で最大人数。「野に咲く花の
ように」「おすもうくまちゃん」
「つりかわさん」「夕焼け小焼
け」の4曲をゆったりと歌って
午前の部終了。



昼食は注文した弁当の人、舞台のうどんや、焼き鳥などに出す人いろいろだが、今年も抹茶のお手前があるのは嬉しいこと。こんなサービスのある合唱祭は外にはないでしょう。

休憩中に抽選発表があったがいそべ関係は入湯券一人のみ。

*

午後の部は市立青根小学校。全校7名、全員出場です。141年の歴史ある小学校。今年は合唱ではなく打楽器などでテレビ「あまちゃん」のオープニングテーマをビートをきかせて演



→ 青根小学校は「あまちゃん」のオープニングテーマで大受け

奏。ところどころに台詞もいれ、最後はなんと「ごきげんよう」とやって会場はどよめきと大拍手でした。

続く市立青根中学校も生徒は1年生5名、2年生3名。やまなみ19名と合同で「あすという日」「時の旅人」の2曲を歌いましたが、去年よりぐっとうまくなっているという声が近くから聞こえてきました。

次の、つくい合唱連盟は16団体からの有志と、つくい少年少女合唱団も加わって混声30名。「落葉松」と「緑のしま馬」を熱唱しました。

続いての、つくい少年少女合唱団(15名)は、単独で「少年時代」「焼き氷有りマスの唄」「青い空に絵をかこう」の3曲をのびのびと歌い上げてくれました。

初参加の混声合唱団ソレイユ(9名)はアカペラでの演奏に挑戦していきなると、「さびしいカシの木」「メドレー 青い山脈、東京ラブソディ、高校三年生」「川の流れるように」を手堅く演奏。

クールオルタンシア(女声16名)は「いねかり」と「春の動物園」の磯部メロディーを蟻生先生の指揮で演出も交えて生き生きと演奏されました。

次の登場は、周平先生の指揮

← 磯部周平先生指揮、磯部まほさんのクラリネット、女4団体の合同演奏



で湘南女声、木せい会、フラウエンいそべ、オルタンシアの4団体合同の演奏が実現しました。総勢38名。そして3曲目は磯部まほ夫人のクラリネット伴奏もつくという豪華版です。「時無草」「びわ」「思い出のリュウデスハイム」の3曲。周平先生の指揮でたっぷり磯部メロディーが響きわたりました。

湘南女声合唱団(15名)はお得意の「朝の讃歌」を楽しく歌ってくれました。

午後の部の最後はいそべ男声の出番。(24名)。指揮は道志川初出場の横田清文先生、ピアノは同じく初参加の名倉扶季先生。曲は「思い出のリュウデスハイム」。

ム。二つ前で周平先生の4団体の演奏があったばかり。うまく違う良さが出せたでしょう。2曲目は「岬はいつも」で、どちらも11月の沖縄男声との合同演奏会で歌う予定の曲です。皆、谷底までとどけと歌っていたようです。

*

今年もボニージャックスが掉尾を飾ってくれました。交替で打ち明け話を交えて聴衆を笑わせ「Dry Bones」などから「喜びも悲しみも幾歳月」が歌われ、さらには昨年歌われて好評だった、西脇さん作曲の「そして葉桜のとき」と「あなたの笑顔」も再演されて、ボニーさんのレパートリーの奥行きが一段と深まったのを実感したステージとなりました。

実行委員の首藤年秀さんから「今年は今まで経験したこともないような好天に恵まれ、初参加の団体もあって素晴らしい1日でした。来年もよろしくお願います」との御礼の挨拶があり、最後に周平先生の指揮で「道志川旅情」と「遥かな友に」を全員で合唱して合唱祭閉会となりました。

*

(河合)



→ ボニーさんのハーモニ健在

道士心川

落穂松扣い

橋本?バー

道志川合唱祭の帰りのバスの中で:「橋本に着いたらチクツとやるぞ」と澤登さん。「はい」と良い返事多数。到着するや安部は会場確保に走りだす。

すると可愛い子がサンドイッチマン風にスペシャルセットを街頭アッピール中に出会い、その熱意(と美貌)に感動。その店に落ち着く。時あたかも17時Cバータイム。

横田指揮者、名倉ピアニストに、団員8の10名で開催。しっかりアインプロジェクトで開始。

その日の出来は横田指揮者からお褒めがあり、まずは安堵。PAの効果がない中でのピアニストに敬意。他合唱団の感想などに話題沸騰。

さすがに値段はCバーなみというわけにはいきませんでした。飲み放題に豪華料理セットにも大満足で、盛会。もちろん皆さん行儀よく解散いたしました。(安部)

●総務だよりは休載(9月の運営委員会開催無し)

今回の沖縄男声との第10回記念演奏会での合同演奏の一曲。

唄の主役のゴキブリについては330号です。に書いたもので、ここではゴキブリが逃げて潜んだタンスー漢字では「筆筒」を話題に。

タンスの語源は、この漢字からわかる。筆は竹で編んだ古代の丸い形の容器、筒(し)は四角い容器のこと。元は小さな容器を表したこの文字を重ねたこゝ

いそべ男声メロディー・歌の博物誌53

逃げてはひと息
タンスのかげで

「ゴキブリの唄」狩野敏也作詞 磯部 倅作曲

とで、衣装を入れるタンスになったとされている。

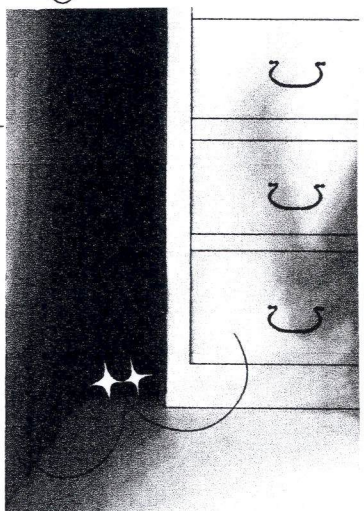
タンスは引き出しを備え、衣類などを収納する箱状の家具。本来は引き出しが中心だった。

江戸時代から明治時代にかけて、裕福な階層では、特注品を職人に作らせた豪華な筆筒もあった。寄せ木細工の収集家で知られる金子皓彦氏の金子コレクションには、江戸時代の超豪華なタンスがある。展示会の図録の解説「背面にまで精緻な寄木、扉を開けると内引きだし

も寄木で飾っている。天井部には大きな松皮菱と小寄木文様を配しているほかに、引きだしに富士山を象嵌した扇面や巻紙などの寄木文様、内面は松鶴の高蒔絵で豪華である」と。

タンスの語源は、この漢字からわかる。筆は竹で編んだ古代の丸い形の容器、筒(し)は四角い容器のこと。元は小さな容器を表したこの文字を重ねたこゝ

澤野 勉 (2F)



ではいるが、現代ではタンスは様変わり。洋服を収納する洋服タンスができて久しい。最近ではクローゼットという用語が普及している。タンス消滅の時代である。

ただ、日本の着物文化を支えてきたタンス。消えてしまっは忍びない響きをもっている。東京の新宿区には筆筒町という町名が残っている。ここに昔は筆筒職人がいたのだらう。

タンスが日本の暮らしに深く根づいていたことは、よく話題

にされる。その数え方からも知ることが出来る。『数え方の辞典』(飯田朝子・小学館)によると、タンスの数え方は棹、台、点、組とある。古くから使われていたのが「棹」で、これは筆筒や長持などを運ぶのに紐をかけそこに棹をさしてかついだことに由来するという。棹を数えて「本」で数えることも。現代では「台」で数えることが多く、家具店では「点」「組」で数える

こともあると。

*

さて、「ゴキブリの唄」の歌詞の中のタンスー。一番の歌詞で、医者にも嫌われたゴキブリが、逃げた先が、タンスのかげ「なのだが、ゴキブリのホームグラウンドは、どちらかというと湿気の多い台所周辺がもっぱらだ。餌はもちろん台所の方が潤沢だ。

「タンスのかげ」に逃げたゴキブリー。そのスタンスに同情する?ことは:ないか!

来 賓

- 宮城敏さん(沖縄男声)
- 宮城敏さん(團長・2F)
- 新城(しんじろ)哲夫さん(同・1F)
- 大湾宗定さん(同・1F)
- 新城(あき)安哲さん(同・2F)
- 照屋寛八さん(同・2F)
- 乃村 一郎さん
- 練習に参加、入団。
- 小林昌司さん
- 早大グリー2年。学生指揮者。会津高校卒。

練習日記記録

9月13日

- ・発声/(三上)
- ・曲目/①ゴキブリの唄②夜来香③シェリトリンド④カリンカ⑤リュウデスハイム⑥だんじゅかりゆし(三上)、⑦水のいのち4、5(大西)⑧岬のうた全曲(安部) 町名倉
- ・出席/1、5、2、9、1、6、2、10
- 9月14日
- ・発声/(横田)
- ・曲目/(13日と同じ合同演奏曲目①⑤⑥)(宮城敏) 町名倉
- リュウデスハイム、岬はいつも(横田) 町名倉
- ・露語、中国語の発音指導/新城安哲
- ・出席/1、8、2、9、1、7、2、10
- 沖縄男声5名(斎藤)

SCHEDULE

豊洲：江東区豊洲文化センター
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

☞：須賀監督指導・指揮 ☞：横田先生発声指導

○運営委員会は原則として第4日曜日11:00練習場にて開催

2014(平成26)年

10月12日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	・Cバー2B
13日(月)	強化練習	13:00~17:00☞	古石場	・なし
19日(日)	臨時練習☞	13:00~17:00	豊洲	・Cバー1T
26日(日)	定例練習☞	13:00~	☞古石場	
	<u>江東区民合唱祭</u> ☞		会場/江東区文化センター	
			☞曲目/「岬のうた」-ひとり旅、岬はいつも	
			服装/ブレザー、黒ズボン	
11月9日(日)	定例練習☞	13:00~17:00	豊洲	・Cバー2T
15日(土)	臨時練習☞	・宮城(江東区文化センター展示室)		
		18:00~		
16日(日)	<u>沖縄男声・いそべ男声第10回合同演奏会</u> ☞・宮城		会場/ティアラこうとう大ホール	
		14:00 開演	曲目/当団単独「岬のうた」全曲	
			合同「水のいのち」全曲、思い出のリユデスハイム、	
			ゴキブリの唄、カリンカ、夜来香、シェリト・リンド、	
			アンコール/だんじゅかりゆし、ふるさと、遥かな友に	
			服装/	
17~18日	日光懇親旅行(予定詳細は前号参照)			
23日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	・Cバー1B
12月14日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	・Cバー2B
28日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	
	<u>忘年会</u>		会場/アルテリーベ	

2015(平成27)年

(新春ファミリーコンサート&パーティーは
会場取得困難のため実施せず)

正誤

ニュース第392号1頁下
から2段目、右から19行目に
左記の誤りがありました。

誤「大関みよ」

正「大関みな」

訂正してお詫び申し上げます。

(河合)

編輯後記

▲ご多分に漏れず、小生、毎月いくつかの病院に通っています。予約になっていてもかなり待たされる場合が非常に多い。ある大きな病院の内科の広い待合室は受診者でいつも満席です。見るとほとんどの人は雑誌や本も見ずに、ひたすら呼ばれるのを待ち続けています。もちろんスマホなどはいじくっていません▲大分前からこの時間をただ待つのみ、の時間ではもったいないと思います、本を持っていくことにしました。文庫本です▲しかし、いつ自分が呼ばれるかという緊張感から集中不十分になります。逆に呼ばれたのに気が付かなかったという失敗もやらかしました。間を置いて再度の点呼で助かりましたが▲今、やっているのは暗譜です。大きな楽譜を広げるのは気がひけるので、単行本くらいに縮小しての譜読みです。時には低く歌ってもあります。縮小版常時携帯を続けています。完全暗譜なのか？ また呼ばれたのを聞き逃すか？

(河合)

いそべとし記念男声合唱団ニュース

2014年 12月 第394

発行代表者:戸丸悟(総務)〒135-0053 東京都江東区辰巳 1-8-45-302 ☎03-3521-6898 FAX 同
E-mail isobechorus@hotmail.com URL <http://www.geocities.jp/isodanchorus/>
編集:河合隆一(広報)〒272-0031 千葉県市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同

→ 沖縄男声、いそべ男声合唱80人のリハーサル



「1つの合唱団のようにな」

沖縄男声・いそべ男声 第10回合同演奏会

11月16日、沖縄から45名の仲間を迎えて第10回目の合同演奏会が開かれた。1979年の第1回から35年も続いている男たちの友好のステージだ。ティアラこうとうの大ホールは、8000人の聴衆を前に、80人の男たちの「水のいのち」全曲、磯部徹作品、世界の歌など、両団一つに溶け合っただけの歌声が響き渡った。(プログラムは次頁上段に)

前日15日夜、江東区文化セン

ター展示室で両団全員集合しておめえ練習があった。宮城、須賀両指揮者による合同演奏曲目の総ざらい練習である。休憩中には、既に顔見知りとなっていた両団のメンバー同士が旧交を温めあう姿もあちこちで見られ、だんだんと合同の気分が上昇しつつあるのが感じられた。

*

明けて16日、秋冷えの朝のなか、いそべ団員は8時50分ティアラこうとう集合。控室の確認、チラシへの投げ込み、受付、舞台、山台などの整備、確認などの作業をすすめる。

10時から沖縄さんのリハーサル。沖縄よりも気温が低く、湿度30%以下という馴れない環境で、マスク姿の諸兄も見られたが、ステージでは皆さん充分に

声を響かせておられた。

いそべのリハは11時から。歌い出しのいい加減さに須賀監督が爆発する。

11時30分から合同のリハ。

須賀監督の厳しさ、宮城先生の明快さ、全員の両先生の指揮への没入感とお互いの融合感が徐々に高まったところで、今回の課題のひとつ「水のいのち」第4曲「海」を原曲の指定どおり2団体形式に分ける作業に入った。戸丸さんの苦心作の配置図に従って舞台上を移動する人の中には端から端まで移動する人もいた。皆さん飲み込みは早く目標の20秒以内での移動終了。本番では客席でどう聞こえてくるだろうか。アンコール最後の「遙かな友に」では全員ステージの前まで出よとの須賀さんの指示。これも楽しみだ。

プログラム

○オープニング エール交換
海のチンボーラ(沖縄)
歌の仲間(いそ)

○沖縄男声合唱団

・磯部俊作品「ねずみ、おさるのやきゅう、大ずもう」
・沖縄の歌「汗水節、国頭さばくい」

指揮・宮城敏(沖宮城佳代子)

○いそべとし記念男声合唱団

・組曲「岬のうた」(磯部俊)
指揮・須賀敬一(沖加藤崇子)

○合同演奏

①組曲「水のいのち」(高田三郎)

指揮・須賀敬一(沖名倉扶季)

②磯部俊作品「思い出のリュウデスハイム、ゴキブリの唄」

世界の歌「カリンカ、夜来香、シェリト・リンド」

指揮・宮城敏(沖宮城佳代子)

○アンコール

だんじゅかりゆし(揮・翼)

ふるさと(揮・翼(沖名倉))

遥かな友に(揮・翼(沖名倉))

*

開場は13時30分。好天にも恵まれ、13時にはかなりの方々が列をつくり、開場前には長蛇の列であった。長田代表らが受付でお迎えする。

14時開演。

冒頭のエール交換は沖縄さんは「海のチンボーラ」を新城哲夫さんの指揮で、いそべは「歌の仲間」を安部建雄さんの指揮で歌う。お互いに拍手の交歓もして健唱を期し合った。

そしてそれぞれの単独演奏、合同の「水のいのち」「磯部俊の世界」「世界の歌」を歌い、アンコール2曲、最後に「遥かな友に」を、全員ステージの前へ出て、指揮の須賀監督とピアノの加藤先生を囲むようにして

いそべ男声出場者

1T 石原、大西、河合、澁谷、田島、長田、西川、横田、若月
2T 井上、岩本、河原、佐藤、澤野、坪井、三上、宮田、村岡
1B 安部、川野辺、児玉、田邊、徳田、戸丸、山川
2B 秋永、板垣、岩崎、大澤、坂巻、澤登、角、辻、長島、乃村、渡邊

歌い、歌い終えて両団員お互いに握手を交わして讃え合った。

場内の拍手はなかなか鳴り止まなかった。

なお本番でのステマネは下山利行さんにお努め頂いた。お世話様でした。

(プログラムは上記のとおり、演奏の内容、感想、アンケートなどは別掲の記事をご覧ください)

*

終演後、17時30分から地下大会議室で打ち上げの開宴。120名の大宴会となった。

司会は安部建雄。(敬称略)

長田 茂(いそ代表)

「記念すべき第10回は無事終わりました。無事というより大成功だったんじゃないでしょうか。(拍手) 35年よく続けました。お互い応援団や家族の協力があったのでですがここで御礼申し上げます。今回の那覇でまた歌いましょう。今日はいっぱい飲んで下さい」

黒澤幸男(元養老・皇太子御用)

「いそべ男声の応援団という紹介ですが、飲み友達というところ。(笑い) 沖縄さんとのジョイントは初めて聞きました。びっくりしました。沖縄さんは



声が若い、存在感がある。いい演奏です。いそべはいつも聞いているから余計なことはいませんが、(笑い) これからもこのいい関係を続けてください」

須賀敬一(いそ男指揮者)

「合同を2ステージもやって、一つの団体のようにまとめるのは磯部先生の考えでした。今日は立派にそれができたと思います。ありがとうございます」

乾杯をしましょう」

「アインプロジェクト」合唱

乾杯!!

宮城 稔(沖男団長)

「今日はいそべさんに完全にお



*

「練習では好き勝手なことを言ったのによくついてきて下さり、皆さん一生懸命、いい気持ちで歌っておられるのが伝わってきて嬉しかったです。合同で歌うときは合同の色合いで、単独のときはそれぞれの色合いで歌う、これがちゃんとできていて感激しました。今日はありがとうございました」



宮城 敏(沖男指揮者)

んぶしてしまいました。本当にいい演奏ができたと思います。(拍手) 35年間、10回も合同でした。ほかに例のないことだと思っています。すべて皆様の協力と声援のおかげです。ありがとうございます。実は今日は泡盛を忘れてしまいました。(ブービーの声) 両団歌い合い、飲み合おう、これが融合の源泉だと思います。次回沖縄では泡盛をたっぷり出します。頑張りましょう。ありがとうございます」

*

○沖縄男声演奏「海のチンボーラ」(新城氏が気分よさそうに

寄せられた感想

団あて、団員あてに寄せられた感想を到着順に

私が男性ならすぐと一緒に：

小山郁美

本日は素晴らしい演奏をありがとうございました。友人たちも良いひと時だったと申ししておりました。男声合唱の素晴らしい満喫致しました。私が男性であれば直ぐにでも一緒に歌いたいなあ：

一部はホールの真ん中付近で歌声のバランスのとれた響きを聞かせ頂きました。沖縄男声はややハードな歌声、いそべ男声はソフトな歌声ですね。それだけに良さを思う存分に発揮された素晴らしい演奏だったと存じます。私個人的にはソフト（押し出さない声）を好んでおります。

二部は2階席の舞台に近い席から指揮の先生の巧みな指揮さばきを出来る限り近くで見たいと思い移動しました。須賀先生はフレーズの始めに神経を集中して準備のために振り上げをさ

余分なものがなかった

山内純治

敬愛する須賀敬一御大が指揮する演奏会である。見事な演奏であった。一言で表現するなら

ば「余分なものがなかった」。これは、かなりすごいことである。

踊りだして場内は笑いと拍手）

*

川元啓司（カキ出編纂・早大リウ）

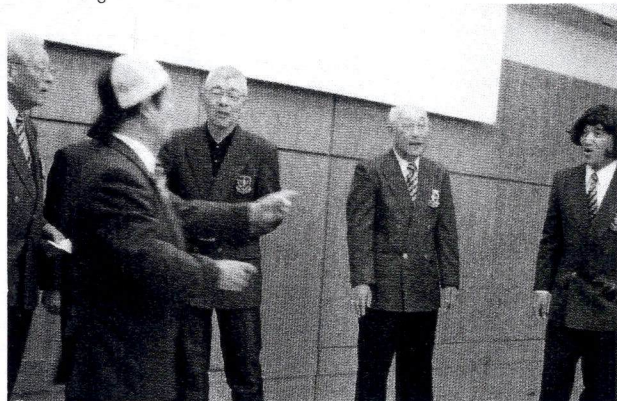
「沖縄男声もいそべ男声も初めて聞きました。耳からウロコ」でした。両団ともに個性はもっている、それが合同になると混然と一つの団体以上に声と表現が溶け合ってきた、一つの合唱団となって聞こえてきました。びっくりしました。それに沖縄の曲がとてよかったです。私の仕事で今、磯部先生の作品を残していきたいと考えています。どうぞよろしく」

竹村洋美（髪斎会編纂）

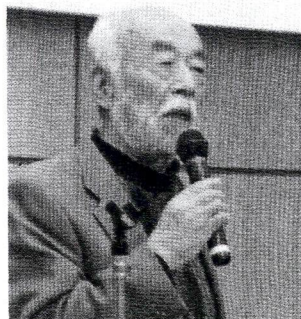
「娘が琉球大学で電子工学を専攻して、結婚して今バンコクにいます。私にとって沖縄は第二の故郷のような感じ。初めて沖縄男声さんを聞いてすばらしいですね。そしていそべ男声が須賀さんの指揮で言葉を熟成させた演奏という意欲が充分に伝わってきました。「水のいのち」がすばらしかったと思います。私達はまだまだ熟成がたりないと痛感しました。ありがとうございました」

*

○シュガーズ演奏「クラリネットをこわしちゃった」（ちよつと危なっかしいところがあつたが乗り切つて、戸丸氏の突然のカツラ装着で大拍手）



玉田元康（ボージャックス）



○G4（ジ・フォー）演奏「山寺和尚さん」（自称「じじいのG」の沖縄のクワルテット名演）
沖縄の皆さんも加わつて「聖者の行進」を合唱。



横田清文（いそべ男声指揮者・新在指揮者として）

「前回の那覇での合同から歌わせてもらっていました。金魚のウンコのように須賀先生のあとについてきました。今後、いそべ男声の指揮者ということでご指導、ご鞭撻よろしく願ひします」

加藤崇子（ピニスト）

「2001年に「ゴキブリの唄」のピアノパートを作らせてもらいました。そして「ふるさと」も。磯部先生の素晴らしい曲に

我々若輩は（自分はまだ若いつもりなので）ともすれば「表現すること」にこだわり、カッコつけて余分なことをしてしまう。中身がないから、ともすれば声に頼ってしまう。その結果浮足立った、前につんのめった演奏になることがしばしばある。しかし両団体のみなさんは違った。

ゆったりと構え、力みがなく、自らの「あるがまま」で歌っておられた。自然体の演奏とはこういうものかと思った。

いそべとし記念男声合唱団は須賀御大から伺った話によると半数以上が80歳以上のことだそう。

人に歴史あり、というが、それぞれの方々が経てきたものが、

人間としての自信となって、なんのてらいもない音楽になっているのだと思う。

ちなみに、須賀御大からは「手厳しい批評でなく、率直な感想などお願いです（筆者注・原文のまま）」というメッセージまでわざわざ頂戴したのだが「批評」などどうしてできようか。

本当に見習うべきところ多々であり、自分も人生の先輩方に倣って歌っていこうと思った次第である。

あ、そうそう。須賀御大には100歳で「水のいのち」を指揮していただくようお願いをしているのだが。きっと大丈夫だと思っている。

★村岡昭一郎（子）宛に届いた感想

○銀行同期（周年来場）（皆勤聴衆）（混声現役）

男声コーラスの素晴らしさを大いに楽しみました。私にとっでは大兄の演奏会は毎年楽しさが増してきました。こんな所で小生の月に5回のコーラスの練習が役に立っております。来年も是非拝聴したいと思っております。

○須賀とも中学の同期生（周年来場）

いやー みんな元気じゃわしもしつかりせにゃーとおもうた

○家内の無二の旧友（周年来場）（女声コーラス現役）

とても良かったわよ。男声合唱はほんとにいいわね。続けなさいよ。「水のいのち」

ピアノパートを作らせてもらえて、こんな光栄なことはありませんでした。ありがとうございました

宮城佳代子（沖縄デニスト）

「みなさんのパワーはすごいと思いました。すばらしいです。なつかしいお顔を沢山拝見できて嬉しい限りでした。また次回が楽しみに思います。どうぞよろしく願います」

○いそべ男声「夕やけこやけ」（ソロ横田清文）

○会場の有志演奏「ウ・ボー」（指揮・横田清文）

閉会の言葉

田邊喜三郎（いそべ男声代表）

「いそべ男声はステージ練習でまとまりが悪くて須賀さんから真剣に厳しく怒られました。あとで客席で聞いていた宮城敏先生が、良かったですよと言ってくれました。沖縄の人の優しさにふれました。今日はほんとうにみんなの気持が一つになって（涙声になる）泣くほどのヤジが飛ぶ」いい歌が歌えました。合同演奏はみんなが勝手に歌っているのが多い。でも今日は違いました。ここまで続けられたのは仲間、友人、家族など沢山の方々の協力と援助があったからです。皆様ありがとうございました。また次回をめざして頑張ります」

＊

○全員合唱「遙かな友に」（指揮・須賀敬一／ピアノ加藤崇子）

全員円陣を組み、肩をくみ手をつなぎあって合唱。友好と歌唱の喜びを確認しあった。

★パーティーでの三雲孝夫さん鈴木賢一さんのご助力、感謝申し上げます。（河合）

→ピアノ：左から加藤、宮城、名倉、永井の各先生（名倉先生の感想は6頁下段と5頁4段目に）



歌ったことあるけど、男声もあるのね。どうやって練習したの。ひとつの合唱団のようだったわよ。「はる友」涙が出たわ。奥さんだわね。演出もよかった。

○従姉（周年来場）&その仲間（Tei）

若い頃、早グリ追っかけの人が言っていたわよ。「いろいろのコーラスを聴いてきたけど、このところどれもなんとなく印象がぼやけていた。今日は素晴らしかった。聞きごたえがあった

★河合隆一（一）宛に届いた感想

赤石知子（合唱歴60余年）（はがき）

合同演奏会を楽しませていただき有難うございました。いつもながら味の良い歌い方に感心しています。とかく男声合唱団に有りがちな力で押していく歌い方でなく、クレセント、デクレセントの心地良さで、詩の意味がよく聞き手に分かるようにとの心が伝わってきました。

テノールも大変良かったです。語尾の歌い方が上手ですね。また男声の合同になるとあの迫力を堪能致しました。沖縄男声も良かったです。

わね」と。プログラムが進むにつれてよくなったわね。「世界の歌」は馴染みがあって原語もよかった。沖縄は情緒があった。「岬のうた」「水のいのち」の歌詞がいい。プログラムに歌詞があるといいと思った。

○韓国&中国のアラサー（女性）からTei

夜来香たくさん練習した？中国語とても上手。

これからもお元気で唱って下さい。私も貴方同様老骨に鞭打って？唱っています。

松本茂子（合唱経験、朗読活動）（電話）

「岬のうた」を聞きながら琵琶湖の風景を思い出していました。歌から思い出せるなんてすごい。

沖縄男声のイメージが「海」なら、いそべ男声は「山」だわね。とくにいそべ男声の歌い出しがきちんとしていてとてもきれいでした。

沖縄タイムス

1989年（平成元年）11月17日 金曜日

ざっくばらん

インタビュー

音楽は生で交流を

五年ごと往来続く

大切にしたい自然環境

コーラスをやっているのはどうか、楽しいよって呼ばれたのが始まり。

に楽しいですよ。沖縄男声合唱団とは十年來の交流。先月二十

Kに勤める山野辺直雄さんが沖縄に転勤された。五年じゃ持ちきれない。この二、三年に今度はドイツに行ってみようという話も、半分夢です。手紙で相談をうけたのがきっかけです。

想を。今回の合同公演の感

思いがなかったことですが、ぜひ行ってみたいと思ひまして。大歓迎され催しは盛況でした。

磯辺 倅さん

日本合唱連盟理事



話題

磯辺 戦後すぐの一九四六年から、早稲田大学グリーククラブの常任指揮をしていたのですが、当時の教え子たちOBが中心メンバーになっています。

当初、月一回の集まりでしたが、次第と増え始めると楽しくなってきた。二回、三回と増え、秋の合唱、泊まりがけで行くときさ

九日には那覇市民会館でジョイントコンサートも催された。磯辺 いそべと男声合唱団のメンバーでNH

沖縄と本土ではいろいろなことがあるが、すべてを乗り越えてまた会おうということになって。以来五年ごとに東京と沖

もあります。沖縄は他県と離れているので、異なる他の団体のものを聞くチャンスが少ない。レベルは決して低くはない。

チャンスに恵まれればもっともつと伸びると思います。南の人は明るく強い声をもっている。

いようですが。磯辺 中央で学んだ指揮者たちが戻って年々レベルアップしているよう

あるものになるのでは。磯辺 沖縄は地味な所。日本の中でも特殊な所。自然もきれいで、せかせかしてないのがとてもいい。例えば沖縄タイムと

持っている。せかせかする生活、必死で競争する中でいい芸術が生まれるとは限らない。のんびりしている中

と。何より恵まれた海や空気、自然の中に人間の本来的な姿があると思う。追いつくことはいくらでも、誇りと自信をもってほしいですね。これから

で聞かないためです。生を大事にして地方も中央も互いに交流すべきでしょう。

沖縄はハンディが多

は必要。これからが実り

それは非難に恵まれたこ

（聞き手 山下敏一記者）

おじちゃんの真剣な、ときおり楽しげな

田場尚子(縄舞・上摩拓輝・ウイオリスト)

昨日は思っていた以上に素敵すぎるコンサートで、正直驚きました。あんなに感動するとは思っていません。(笑) 演奏を聞いていろいろなことを考えました。楽しいことも悲しいことも切ないことも。技術面は私にはよくわからないけれど、音楽がかなり上回っていたのではないかと♥ 本日に終始幸せな気持ちでした。ありがとうございます。なんたっておじちゃんの真剣な、ときおり楽し

そうなのところが私にはよかったです。音楽って、やっぱり素晴らしいな。今も思い出して泣きそう! 笑笑笑
あとは、沖繩の曲がなんとも心に沁みて……やっぱり沖繩が好きなんだなーと。いずれは絶対に帰るんだろうなと昨日のコンサートで確信したほどでした。WW
これからも頑張ってください。次回が楽しみです。♪♪
わたしも頑張ります。

心地よいハーモニーにひたれた

奥邨隆生(笙響富)

いそべ男声、沖繩男声のエル交換から始まり、流れる様な演出・構成で二時間余の時間が心地よいハーモニーの中で過ぎて行きました。

静かなせせらぎの様なピアノ

ッシモ、大音響のフォルティッシモまでのダイナミックレンジの差は、さすがに大合唱団迫力だと感激しました。

コミカルな軽い曲。沖繩の独特の節廻しの曲。過ぎ去った昔の記憶を思い起こさせる様な曲等、心に響きました。

本日はすてきなコンサート有りがとうございました。今後のご発展をお祈り致します。

沖繩・いそべ 42名で

日光・鬼怒川へ懇親旅行

川野辺直雄(一)

第8回合同演奏会のあとで行った箱根への一泊懇親旅行が大変好評だったので、今回も「いそべツーリスト」企画の日光方面への一泊旅行が、演奏会翌日の17、18日に実施された。

今回も前回同様沖繩ツーリストの添乗員とガイド付きのバス旅行で、1日目はティアラこうとう前を午前八時半に出発して早速カンピールでのどをうるおしながら東北自動車道を日光へと向かった。

今年は秋の訪れが早くて心配だった紅葉も、大谷川にかかる神橋付近には深紅と黄の見事な色づきの木々も残っており、東照宮の有名な陽明門が工事中で全容が見られなかったのは残念だったが、地元ガイドの丁寧な説明などで、眠り猫や鳴き竜などをじっくりと見物できたのはよかった。

温泉でゆったりと疲れをいやしたあとの宴会のハイライトは何と言っても沖繩、いそべ双方の夫人達による演奏内容のご講評だった。それぞれの夫の立ち姿をハラハラしながら見つめていたこと、感動で夫を見直して改めてほれ直した(笑、拍手)こと、異なる持ち味の二団体が一緒に歌ってどうなるか、期待と心配があっただけれど、全く一つになったのでビックリーとか。

辛口の批評としては「水のいのち」の4曲目の位置変えが、そろそろと時間がかかり、どうなるのか何とかならなかったかという合唱経験豊かな夫人の講評があり、長田代表が弁明に汗をかく一幕もあった。

しかし、大半は身びいきもあって可。「ハーモニーの流れがよかった」「35年の経験が生きた、おどろきの響きだった」「友人たちからも80歳以上の人が多勢いるとは思えない、最後のピアノッシモに泣いたと言われた」

昼食に栃木特産の湯葉料理と栗ごはんを舌つづみをうったあと、いろは坂を上がって、日本三大名瀑のトップ華厳滝を時間をかけて見物し、一日目の泊地鬼怒川温泉の「ホテル三日月」



などの嬉しい言葉を聞くことができた。

前日の打ち上げでは言葉に出せなかったという名倉ピアニストは「曲が終わっていくのがもったいない。曲が進む毎に終わりがたくな、終わりのキーをたくさんのが惜しいという感じ、友達もいい反応を聞かせてくれて幸せなステージでした」と感動の面持ちで話してくれた。

部屋々々に多数の人が集まっていた二次会は、山川理學博士の「ゴキブリ」の真面目な説明をキッカケに、ゴキブリの本土と沖繩の生態の違いからくる珍談奇談が相次ぎ、図らずもゴキブリ談義が30分以上続いた。

いそべの「岬」がよかった

長崎香代子(俳人・76歳・山野素人)

趣きの違う二つの合唱団が、それぞれに持つ味を十分に出し切っていて、しかも合同ではひとつの合唱団に成り切っていて楽しかったよ。二〇年以上も前だったか、いそべの「岬」を聞いたことがあるので、それと比べていたわよ。(談)

回想のみならずエネルギーも

永山 誠(義経・68歳・山野素人)

自分を忘れがちな時代に、心の中で途切れていた静かで暖かい思いが、ふと浮き上がってきたような気分が合唱を聞きまして。そのあたたかい思いが、た

★長田 茂(十)宛に届いた感想

蓬萊泰三

NHKのテレビドラマ『中学生日記』の作者・蓬萊泰三さんが、先日の合同演奏会を聴きに来て下さいました。家の息子、娘たち一家と一緒に、2階で聴いて下さいました。

「感動と若々しい意欲をいただいた」というメールまで頂きました。「同年代の我々が歌っているのを見て、聴いて、うらやましいというより嫉妬まで感じた」と言っておられたようです。児童合唱組曲『チコタン』『オ

浜松SPC M・N

いそべとし記念男声合唱団の皆様的心里に沁みる歌声、そして美しい日本語に、今年もとても感動しました。(浜松

こんな集まりが、両団の親密さを更に深めていくのを感じたのは筆者だけではなかったと思う。

二日目は、ホテルを九時に出発。地元の良い物をすませて、大谷石の採掘場跡の広大な地下宮殿「大谷資料館」を訪れ、三〇メートル地下の石の舞台――実は石をトラックで積み出す足場の石積み全員が上って「だんじゅかりゆし」と「はる友」をハモった。案内してくれたガイド平野多美子さんは地元の女声合唱団「コールしのい」のメンバーとのことで、神殿のような広い空間の響くハーモニーに「涙が出そう」と話していた。宇都宮での昼食は、地元で有

一つのカラーになって……

糸数秀子(沖縄県・家族)

意表をつくオーブニングのエネルギー交換。

それぞれの合唱団のカラーを生かした単独の演奏も味わい深いものでした。

庄巻はカラーの違う合唱団が合同演奏になるとひとつのカラーになり、ピアノ・シモの美しさ、フォルティシモの重厚さ、エネ

名になった「ギョーザ」をビールつきで食べて、予定の行程を終わり、羽田空港には、順調に午後3時前に到着して、二日間の旅を終えた。

山川1B、佐藤2Tの幹事兩名もユーモアを交えての的確な案内ぶりで、全員が感謝。ご苦労様でした。



です」と言っていました。

両団の35年の交流の歴史には磯部先生の歌があり、心をひとつにする「遥かな友に」があることを感じました。

プログラムの表紙も沖縄の紅型をデザインしたもので、いろんな場面で、いそべとし記念合唱団の沖縄男声合唱団に対する気配り、おもてなしが感じられました。合唱による両団の絆の深さを感じました。

合唱っていいですね。

の田中先生から銘酒と村上さんからお菓子を頂戴し、Cバーで賞味させて頂きました。ありがとうございました／編集部

○懇親旅行の宴会の席で沖縄のある奥様の感想

「エール交換を聴いて、この全く違う二つの合唱団が合同演奏をして、うまくいくのかしらと

アンケートから（ティアアラこうとうまとめ）

○高田三郎さまの「水のいのち」は初めて拝聴し、深く重厚でポリシー豊かな無限の天と地の神秘を感じるメロディーとハーモニーの合唱に感激いっぱいです。

2つの合唱団ともにとてもユニークで楽しく心に沁みる曲でした。戦争や基地のご苦労の中で沖縄にこんな素晴らしい豊かで力強いお声の合唱の文化が実っていらっしやることに感動しました。早稲田グリーは昔から有名であこがれ尊敬しています。上品でソフトでデリカシー溢れるお声と磨かれた声量に感激しました。感謝です。

○心に響くハーモニーに酔いました。

○男声合唱を聴くのは初めてで

心配でしたが、見事に一つの合唱団になっていました。

○関連して、山川稔さん（い）の耳に入った別の人の感想

「この合同演奏会は、二つでなく、三つの合唱団の合同演奏会だった。いそべ男声と、沖縄男声と、合同合唱団という全く別の合唱団の…」

すがとても重厚なハーモニーがよかったです。

○出演者が生き生きしている。

○毎日新聞の抽選に当たりました。「水のいのち」にひかれて申し込みました。期待以上のすばらしさです。良い機会を感謝です。男声合唱のみの演奏会は初めてですが、1曲目から素晴らしくひきつけられました。指揮の方はもちろん、歌い手の皆さんも共に作り上げる心意気が伝わりました。

○旧いそべ混声合唱団の一員でした。昔を思い出しました。いい思い出にひたりました。いつまでも楽しいコーラスを聞

かせて下さい。

○「水のいのち」には心を動かされました。80人／90人の声の層の素晴らしさに心ふるえました。やさしく胸にしみわたる、表現する力に涙が出ました。

○男性だけの合唱がこんなに素晴らしいとは初めて知りまして大感激です。とてもいやされる声は、練習だけのものではなく、心からのものなのでしょうね。

○ピアノリッショモがきいていても美しいハーモニーでした。重厚でかつ繊細、男声合唱のお手本のような素晴らしい演奏に感動しました。最後の「遙かな友に」は圧巻でした。

○次回も「遙かな友に」を入れていただけると幸せです。浦和一女の合唱部と皆様と今の二重唱で愛唱し、名曲を懐かしんでおります。

○ビートルズの曲をクラシックやジャズなど様々なアレンジで聞いてみたい。

○会場みんなで、磯部先生の曲を歌いたいです。

三十五年の交流の響き

亀川美智子（沖縄喜望峯）

感動的で素晴らしい演奏会でした。エールの交換から始まり、二つの合唱団の個性の違いがはっきり出た各々の演奏を楽しみ、そして、その後の素晴らしい合同演奏……。

生意気ですが、声を合わせ、心を合わせるといふ合唱の神髄がここにあるという気持ちで聴き入りました。これも三十五年の交流が生み出した「響き」なのでしょうね。

いつもは、私にはあまり多くを語らない主人が、「水のいのち」は気持ちよく歌えた。このような演奏の機会はなかなかいだろうなー、と話していました。

きつとステージで歌っている皆さんもその様に感じていらっしやったのではないのでしょうか。鬼怒川温泉の食事会の席でピアニストの名倉扶季さんが「素晴らしい合唱の演奏を終わらせたくない……」と思いつきながら最後の音を弾きましたとおっしゃっていたのが印象的でした。

さて、ベテランのガイドさんの個性的で楽しいトークで出発した日光と鬼怒川温泉への一泊旅行も又、感動的な場面があり

ました。大谷石採掘後の坑内資料館のステージで、参加者全員で「遙かな友に」を歌いました。いつもの演奏会場とは違い、心地よい響きの残る廃坑内での演奏はとても感動的で思い出に残る体験でした。

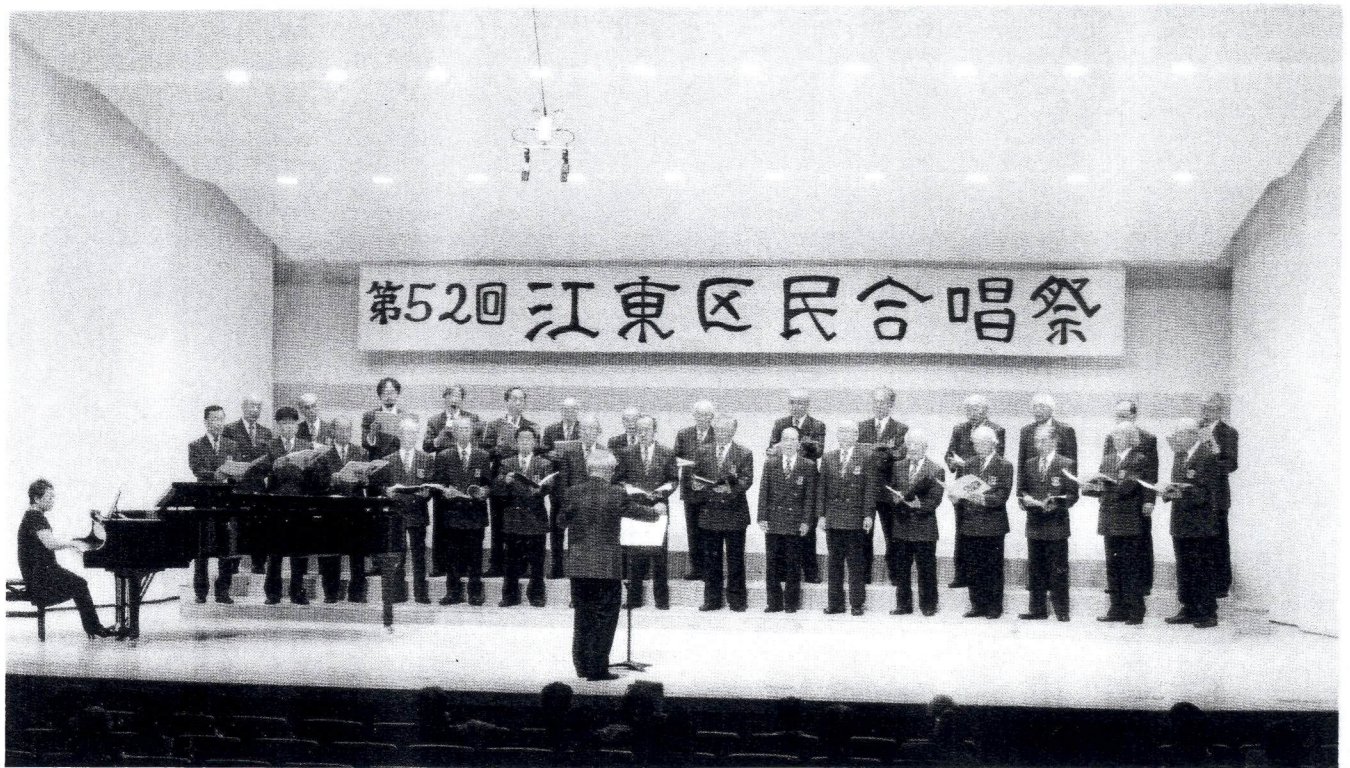
二次会では「ゴキブリ」談義。次は「ネズミ」談義をやるうか等々ということも聞きました。この話を聞いた旅行社の方が、ゴキブリが出たんですかと、真剣な顔で聞いていました。

また「いそべツーリスト」（いそべ喜望峯）では、次回の旅行は伊豆がいいなどやる気満々……。毎回、東京での演奏会では、二人の身内等が聴きにきてくれます。数年に一度の全員集合です。今回は長野の姉をはじめ十

一名が集まりました。このような機会を与えてくれる合同演奏会が、今後も続いて欲しいと願っています。

最後になりましたが、いそべ男声のメンバー、そしてご家族の皆様には本当にお世話になりました。ありがとうございました。

次回の沖縄公演で皆様にお会いできることを楽しみにしています。



江東区民合唱祭に出場

10月26日、第52回江東区民合唱祭に出場。いそべ男声は第3部全11団体の9番目にオンステージして『岬のうた』の中の「ひとり旅」と「岬はいつも」の2曲を歌った。指揮は須賀監督。ピアノはこの曲のピアノ部をつくってくださった加藤崇子先生。沖縄男声との合同演奏会の当団単独演奏にも先生に弾いていただく予定だ。

この日は門前仲町の古石場で
の練習。早速、大阪からおいで
下さった加藤崇子先生のピアノ
で『岬のうた』の練習。ピアノ
パート譜がすべてできてから2
回目の合わせだ。マイナーの加
筆はあったようだが、ピアノつ
きの『岬のうた』初演の準備は
順調だった。

続いて「ふるさと」を名倉先
生のピアノで練習し、最後に横
田先生の指揮で『水のいのち』
の「水たまり」の注意ポイント
練習をして合唱祭会場に向かっ
た。

この日の練習で須賀監督は厳
しい注意をした。

「その気になって歌っても聞く
人には伝わらない」

我々の歌う根幹をゆさぶる注
意だった。この言葉を再度噛み
締め、課題としてゆかなければ
ならない。練習のなかで指摘さ

れている数々の具体的な注意点
を、お互い改めて反省したい。
永遠の課題として。

合唱祭会場の江東区文化セン
ターには16時30分ごろ到着。第
2部の最終団体の「歌おう会」
が40名近くのメンバーで「遙か
な友に」と「大地讃頌」を歌っ
ていた。

今年は第1、2、3部合わせ
て49団体、特別参加の小学校が
2校あって、計51団体出場の合
唱祭となった。

いそべ男声は第3部11団体の
9番目。10名内外の女声団体が
3団体続いたあとの出場で、
ちょっと得をしたといったところ
か。「ひとり旅」と「岬はいつ
も」の2曲を歌った。沖縄さん
との合同演奏会への演奏固めと
もなった。

全団体の演奏が終了し、全員

出山場者

指揮／須賀敬一

ピアノ／加藤崇子

1T／石原、大西、河合、長田、
西川、横田、若月

2T／井上、岩本、河原、佐藤、
澤野、坪井、三上、宮田、村岡

1B／安部、児玉、田邊、戸丸、
山川

2B／秋永、板垣、岩崎、大澤、
坂巻、澤登、角、長島、渡邊

合唱の「里の秋」を歌い終えて
7時半、近くの打ち上げ会場の
はな舞に移動。横田、加藤両先
生が直ぐに帰阪されたのは残念
だったが永井博子、名倉扶季両
先生が演奏を聞き、打ち上げに
参加してくださったのは嬉しい
ことだった。

われわれの演奏については、
永井先生は「言葉が真っすぐに
伝わってきて、私のこころに響
いてきた演奏でした」

名倉先生は「ピカ一の演奏でし
た。清涼剤をもらえた気分がホ
っとした思いでした」

お二人の激励に感謝申し上げ
ます。そして名倉先生には今回
はカメラまでお願いしてしま
いました。併せてお礼申し上げます。
ありがとうございます。

(河合)

合同演奏会への御祝儀

ありがとうございますました

(敬略)

稲門グリークラブ・シニア会

永井博子

早瀬多恵子

桜友女声合唱団

横浜木せい会

女声合唱団「虹」

石野裕一

コロこせやま

フラウエンコールいそべ

吉岡久恵

中野芳昌(芝刈)

合唱団芝刈

湘南女声合唱団 阿久津篤美

男声合唱団コール77

蟻生栄子

鈴木由紀子(知立女声コーラス)

植田和男

宮代コールフロー女声合唱団

女声アンサンブルアトリエ

古森 英

野原 操

榎木美保子

お祝い電報

演奏会おめでとうございます。
男声合唱の魅力会場いっぱい
響かせてください。

合唱の家 おおば

雨の墓参

11月25日、磯部先生の今年のご命日は雨になった。晴れ男の磯部先生、お墓参りが雨だったことは記憶にないので、多分、初めてだと思う。傘を差したまま、お墓に向かって「初めて、雨の中での墓参りです」と、うらみがましく呼び掛けた後、「合同演奏会、大成功でしたよ」と報告し、持参したお酒を頂き紅葉の墓苑を辞した。その後は湘南台へ出て恒例のお清め。といっても昼食タイムで、飲み屋のメニューも食事。ビールの後めいめい「××定食」「××セット」でおなかを満たして解散。参加者は秋永、安部、大澤、田邊、長田、若月、ほか鈴木(賢)三雲の計9人。(長田)



総務部だより

10月26日運営委員会

●合同演奏会後の練習曲目等

意見交換、討議はできなかったが、出来るだけ早く話し合いたい。(ピアノストは名倉先生に依頼)

●沖縄男声との合同演奏会諸事項

①プログラム作成(長田)

1000部作成

②当日進行案作成(安部)

③役割分担

・チケット担当(佐藤)

・受付(宮田)

・レセプション係他(三雲、鈴木)

・舞台監督(下山、田岡)

※ティアラの舞台スタッフ

を一名、照明等操作依頼

・CD、MD録音(井上)

・楽屋(佐藤、山川、渡邊)

※弁当、飲み物準備(コー

ヒー、紙コップ、ごみ袋な

ども)→弁当はB1楽屋前

に置き、パート毎に取りに

行く。先生方には届ける)

※終演後、手の空いている

人は楽屋の手伝いをする。

楽屋片付けはレセプション

係に依頼(終了後、沖縄、

いそべ両楽屋チェック)

・舞台団員整列案作成(戸丸)

④楽屋割案

第1楽屋(定員5)宮城先生

夫妻

第2楽屋(定員5)加藤先生

名倉先生

第3楽屋(定員14)沖縄男声

2B13名

第4楽屋(定員7)十第5楽

屋(定員7)沖縄男声1B

14名

第6楽屋(定員20)沖縄男声

1T、2T19名

中会議室(定員72)須賀先生

横田先生、いそべ38名

小会議室(定員12)レセプシ

ョン係、楽屋担当、他

・楽屋張り紙作成(戸丸)

・弁当手配(107)110

個)(佐藤、戸丸)

・打ち上げ(戸丸)120名

で予約。@3500円

17時30分開始。

※パーティー券作成(戸丸)

※会費徴収 沖縄は事前振

り込み、いそべ団員と家族

は前日までに徴収

⑤ステージ衣装

・団ブレザー、白ワイシャツ

・団ネクタイ、エンブレム、

黒靴(沖縄男声は黒タキ)

⑥招待(10月21日現在)

・ティアラパー110組20名

・区報 59組118名

・毎日新聞

10組20名

⑦ティアラ舞台打ち合わせ

10月23日18時実施

・合唱台は広げる(戸丸)

・ピアノ調律は8時半から

・受付は開場前の並んでいる

人の案内に2、3人必要

・CD、MDはいそべで。

・舞台スタッフをティアラに

一名依頼する。照明など。

・車椅子席は6席確保。

・子供室は客室奥ガラスばり

の部屋。今年から広く。

・駐車場は大ホール搬入口に

数台OK。17時まで。

・楽譜販売は手数料10%

・アンケート用紙は当日朝、

手のすきの者は折り込み。

・打ち上げ会場は設営はティ

アラとレストランで。

⑧花束等の扱いは、いそべ男声

は中会議室、沖縄男声は大会

議室へ。

⑨ホール、楽屋(中会議室も)

は17時までにすべて撤収し、

大会議室(打ち上げ会場)に

移動すること。

●沖縄合同後の目標

・2017年磯部先生生誕1

00年

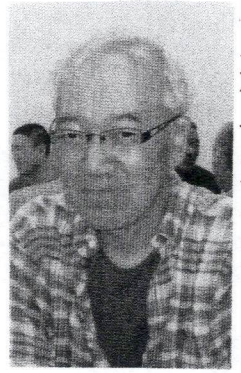
・次回の沖縄合同の時期

・2019年45周年

(目標を上げるに留まった)

新人紹介

乃村一郎さん (2B)



9月から練習に参加させていただいています。1957年高松市生まれ、高松商高卒、名古屋大工学部原子核工学科卒。原子力関連会社に就職し2月まで堺市で暮らしていました。家族は妻に3人の息子。今年の2月から福島原発の廃炉関連の会社に出向を命ぜられ現在、蒲田で単身赴任生活中です。出向期間は1年ないし2年ということ。短時間かもしれませんが、よろしく願います。合唱は名大男声合唱団に入ってから始めました。卒業後は豊中混声で2年ほど歌っていました。結婚後は大阪南部へ引っ越したので20年ほどは合唱からは離れていました。仕事の関係で時間に余裕ができたため、10年ほど前から地元の混声合唱団に参加するようになりまし。今回東京に単身赴任し、男声合唱を歌いたいと思い、いそべ男声に入らせてもらいました。須賀先生の指揮で「水のいのち」が歌えることが魅力でした。

総務だより

11月23日運営委員会

●忘年会参加者募集

・期日/12月28日(日) 練習終了後、17時45分開会
・会場/内幸町アルテリーベ

・横田、加藤両先生出席
・会費/6000円(男女とも)

●磯部作品楽譜販売促進CD作成
↓継続審議

●今後の練習曲
↓継続審議

●次回沖縄との合同演奏会、磯部先生メモリアル、45周年演奏会
・沖縄合同は2016年か?
↓継続審議

●磯部先生墓参
・11月25日(火)実施

三上正秋さん退職

三上さんが目出度く退職されました。指揮者グループの一人として、また2Tのパートリーダーとして尽力されました。年末には関西の自宅に戻られますが当団のアンサンブルトレーナーとして指導は継続します。

●大阪メロクワイアー演奏会
に出演する
・期日/2015年5月17日(日)

・会場/大阪市東成区民ホール
・曲目/「パウラ」「岬のうた」
この2曲をいそべ男声と合同で演奏する。今回は当団の単独演奏はない。

●磯部作品の楽譜出版(出版社からの出版)について(大澤)
・出版社からの提示の最低出版数の負担があり、当団で在庫を抱えたり、多額の負担をしないのが望ましい。今後の詳細な点を確認してから委員会でも可否を決定する。

●第10回沖縄男声との合同演奏会を終えての報告など
・入場者数/771名
・御祝儀19万円、打ち上げ2万円弱の赤字で終了。
・当日のアンケート/ティアラ
こうとうに確認する。(受領済み。ニュース掲載)

来客

10月19日

黒澤幸男さん

稲門OB、元音楽之友社役員。
練習とCバー参加。

忠末恵佑さん

同志社大コールフリーユルOB、大阪メロクワイアー。
練習とCバー参加。

萬田義治さん

門司出身、岡山大学コロロータス男声合唱団1T、夢織(マテック書塾・小倉店、富田店)。

北九州混声合唱団団長。田主丸の合唱団柴刈との交流も長く、須賀監督との面識もあり。

練習後半とCバーに参加。
11月9日

忠末恵佑さん

練習とCバー出席。

勝 芳仙さん

沖縄男声2T。練習とCバー出席。

古家大貴さん

元早大グリー、東京エージェンシー勤務。Cバー参加。

練習日記記録

10月12日

・発声/(三上)
・曲目/「水のいのち」全曲(大

西)「岬のうた」1、2、3(安部)

部)沖縄男声との合同曲(三上) 団名倉

10月13日

・出席/1、7、2、9、1、6、2、11

・発声/(三上)

・曲目/「水のいのち」2、3、4、5(大西)「岬のうた」全曲(安部) 沖縄男声との合同曲(三上) 団名倉

・出席/1、7、2、9、1、6、2、10

10月19日

・発声/(三上)

・曲目/「水のいのち」全曲(須賀) 団名倉

・出席/1、7、2、9、1、6、2、7 澤勇(2B)栗原(2B)

11月9日

・発声/横田

・曲目/「岬のうた」全曲、「水のいのち」全曲(須賀)、カリンカ等合同演奏曲(三上) 団名倉

・出席/1、8、2、7、1、6、2、11 加藤崇子、名倉扶季

・出席/1、8、2、7、1、6、2、11 栗原(2B)栗原(2B)

11月15日

・合同練習(合同曲全曲)/須賀、宮城、団名倉、加藤、名倉

・出席/1、8、2、9、1、7、2、11

11月23日

・発声/(三上)

・曲目/「パウラ」全曲(安部) 団名倉

・出席/1、5、2、6、1、5、2、9

SCHEDULE

豊洲：江東区豊洲文化センター
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

顔：須賀監督指導・指揮 横：横田先生発声指導

○運営委員会は原則として第4日曜日11:00練習場にて開催

2014(平成26)年

12月14日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	・Cバー 2B
28日(日)	定例練習 忘年会	13:00~17:00	豊洲 会場／アルテリーベ	

2015(平成27)年

☞ (新春ファミリーコンサート&パーティーは
会場取得困難のため開催せず)

1月11日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	・Cバー 1T
25日(日)	定例練習	13:00~17:00	古石場	・Cバー 2T (新年会)
2月 8日(日)	定例練習	13:00~17:00	古石場	・Cバー 1B
22日(日)	定例練習	13:00~17:00	古石場	・Cバー 2B
3月 8日(日)	定例練習	13:00~17:00	☞ 江東区文化センター展示室	
22日(日)	定例練習	13:00~17:00	豊洲	

4月

5月17日(日) 大阪メールクワイアー演奏会に参加

会場／大阪市東成区民ホール
曲目／「パウラ」「岬のうた」
(この2曲を大阪メールとともに演奏する)



Christmas Concert 2014
シュガーず

12月21日(日) 19:00 開演 (18:30 開場)

ティアラこうとう小ホール
(都立新富線・平蔵門駅「住吉」駅A4出口徒歩4分)

シュガーず
クリスマス・コンサート 2014

12月21日(日) 19時開演

ティアラこうとう小ホール

ピアノ／井出久美子

曲目／上を向いて歩こう、朧月夜

組曲「雨」より

クリスマスソング

黒人霊歌

1000円



入場料 1000円
(全自由席)

ご予約/お問い合わせ (担当：戸丸)

電話/FAX 03-5521-6898

tmouraster@hotmail.com

当日のお問い合わせは
ティアラこうとう 03-3636-5500

恒編集後記

▲たくさんさんの感想。まさに嬉しい悲鳴でした。頂いた感想は到着順に組み込むべしと方針をたてたものの、じわじわと増えてくるページ数を見ながら、さて何ページになるのか予測ができず、不安をかかえた2週間でした▲いつも紙面作りに心掛けていたことは、いくつもありませんが、最初、最中、最後まで言えることは「読みたくなる紙面作り」と「読みやすい紙面作り」につきまします。原文尊重、事実の確認を基本に、キャッチフレーズ作り、写真の配置等々、よくまあ飽きずにやっているものだと思います▲この号は、合同演奏会の感想特集ですが、外部の方々の感想は上半分に、身内(沖縄さんも身内)の文章は下半分に、分けてみました。それで気がついたのは上と下とが響き合っていることでした。ホールの中で歌う者と聴く人の一体化が起きていたのでしょうか▲頁の都合で積み残しのご感想が出てしまいました。申し訳ありません、次号に載せます。ご了解を。(河合)